社会貢献年報2008の発刊にあたって

学長　三宮信夫

本学は開学から既に 16 年が経過し、これまでに多くの有為な人材を地域社会に送り出してきましたが、この間社会経済情勢には大きな変化がありました。これに対して本学は、平成19年4月より地方独立行政法人制度を導入して、これを契機に、時代の変化と社会の多様なニーズを敏感に受け止め、それを教育・研究活動に反映しかつその成果で地域貢献に寄与する体制を整えています。

地域貢献活動を全学横断的に取組む組織として、平成17年10月に地域共同研究機構を設置し、その内部に、産学官連携推進センター、保健福祉推進センターおよびメディアコミュニケーション推進センターを設けました。各センターはそれぞれ所掌分野に応じて学外に向けた窓口を形成し、主体的に活動しながら相互に連携をとり、全学の活動としての統合が図られています。

特に産学官連携推進センターでは、これまでの企業等との共同研究や受託研究に加えて、新たな展開として、いくつかの指定した研究分野単位で計画的に研究活動を推進する時限的組織「領域」を設置し、本学の研究シーズを分かりやすく学外に示すとともに、学部を越えた横断的な研究活動を地域社会の方々と一体となって推進する体制を整えております。

また、本学の研究成果や構想を展示紹介する企画として、「OPU フォーラム 2008」が平成20年5月29日（開学記念日）に開催されました。OPU フォーラムは今回で4回目となり、開催日及び開催場所を定着した結果次第に認知されるようになり、今回も盛況でした。これにより社会貢献に益々力を入れる本学の姿勢を広く地域社会の方々に知っていただけたのではないかと思います。

社会貢献活動としては、上に述べた活動の他に、語学センター、健康スポーツ推進センター及び附属図書館による諸活動、高大連携や国際交流活動の拡大もめざしています。

これからも地域に貢献する大学として、社会貢献活動を強化していきたいと考えますので、皆様のご支援・ご協力をお願いする次第です。

2009年3月

１　本学における社会貢献活動の体制

１．１　概要

「人間尊重と福祉の増進」を基本理念にすえ平成５年に開学した本学は、「実証的な立場から社会への貢献をめざす学問」すなわち、「実学」を教育研究活動の目標に掲げている。こうしたなか、平成１９年４月、地方独立行政法人に移行したのを機に、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」との目標をあらためて設定し、従来に増して教育研究成果を社会に還元していくという姿勢を明確に示した。

いわば「目に見える社会貢献」を実現していくための本学における社会貢献体制は、大学院設置が一段落した平成１２年度以降、いっそう整備充実されることになった。その概要を教育研究体制の整備とあわせて別表に示したのでごらんいただきたい。

本学の社会貢献体制を見ると、地域産業の課題解決に向けた研究を推進する組織として＜産学官連携推進センター＞を平成１２年に、看護や介護、食育や子育てなど地域の現場を学術的立場から支援する＜保健福祉推進センター＞と地域公共団体のメディア活動を支援する＜メディアコミュニケーション推進センター＞を平成１４年に発足させた。さらに３学部の研究成果を情報発信するための出先機関である＜サテライトキャンパス＞を平成１５年度に設置した。同キャンパスは３年間の期間限定事業として一定の成果を達成し、平成１８年７月末に廃止したが、その後は県下の各組織・施設に出向いていく移動型の情報発信基地＜アクティブ・キャンパス＞として今も活動を続けている。

しかしながら大学など高等教育機関の社会貢献に関する国の施策は近年大きく変貌してきた。たとえば国立大学の独立行政法人化、あるいは大学ＴＬＯ制度の発足がその例である。こうした環境変化に対応し本学においても社会貢献の体制を変革していく必要があった。

平成１７年度には＜地域共同研究機構＞を新設し、その下部に＜産学官連携推進センター＞、＜保健福祉推進センター＞、＜メディアコミュニケーション推進センター＞の３センターを統合配置し、「研究活動における社会貢献」が有機的、連携的に展開できるようにした。

３センターの有機的連携的活動は「言うは易く行い難し」だが、たとえば今年度は、＜産学官連携推進センター＞が進める金融機関などのビジネス相談会、あるいは新商品開発におけるデザイン分野などに、＜メディアコミュニケーション推進センター＞が参加するなど、有機的連携的活動の端緒がみえている。

また、学部横断的教員スタッフによる有機的連携的活動では、＜産学官連携推進セ

ンター>内に平成１８年度に設置した「領域・研究プロジェクト」が数々の成果を上げてきたが、今年度はあらたに「新商品の企画・開発」プロジェクトを設け、地域企業との提案型共同研究に乗り出した。

３センターや学部での取り組みのほか、今年度特筆されるのは、地域社会との連携において２つの包括協定が本格的に稼動開始したことだ。

ひとつは、総社市との包括協定の締結である。これは総社市の各委員会などに学識経験者として教員を派遣するなど人的支援のほか、市の部課と組織的に連携して一定の課題研究を進めるもので、すでに共同研究４件、受託研究２件などがスタートした。また、総社市の広報誌『そうじゃ』の毎号で本学が紹介されアピールされているのは包括協定の小さな成果である。

もうひとつは、地域金融機関３行（中国銀行・トマト銀行・おかやま信用金庫）との包括協定である。これは各金融機関が抱える顧客企業のマネジメントや商品開発の面で幅の広い企業支援を展開しようというもので、すでにビジネス相談会などが始まっており、これが将来、受託研究などに結びついていけば幸いである。

以上はいずれも、「研究活動における社会貢献」であるが、一方において社会貢献は教育活動の分野でも重視されていて、本学では<附属図書館>、<語学センター>などを開学以来、地域住民へ開放してきた。今年度は<健康・スポーツ推進センター>を設置し、本学スポーツ施設を有効利用して地域住民の健康増進に役立てることにしている。

本学はこうした「教育活動による社会貢献」と「研究活動における社会貢献」の二本立てで常に地域から期待される力強い社会貢献活動を実施すべく努力を重ねていく所存である。

１．２　社会貢献体制および教育研究体制の整備に関する経緯

本学の開学以来の社会貢献体制および教育研究体制の整備の経過をまとめると下記の表のとおりである。

社会貢献体制及び教育研究体制の整備に関する経緯

年度	社会貢献体制・施設の整備	教育研究体制の整備
平成 5 年度		開学
平成 9 年度		大学院保健福祉学研究科、情報系工学研究科設置
平成 10 年度		大学院デザイン学研究科設置
平成 11 年度		大学院情報系工学研究科博士後期課程設置
平成 12 年度	共同研究機構設置	
平成 14 年度	保健福祉支援センターおよびメディアコミュニケーション支援センター設置	
平成 15 年度	サテライトキャンパス設置	大学院保健福祉学研究科博士後期課程設置
平成 17 年度	地域共同研究機構設置 内部に産学官連携推進センター、保健福祉推進センターおよびメディアコミュニケーション推進センター設置	全学教育研究機構設置 内部に語学センターおよび情報教育センター設置
平成 18 年度	サテライトキャンパス廃止 産学官連携推進センター内に領域・研究プロジェクトの設置	情報工学部スポーツシステム工学科新設、デザイン学部学科再編、短期大学部募集停止
平成 19 年度	総社市との包括協定	保健福祉学科再編 地方独立行政法人化
平成 20 年	金融機関との包括協定	

１．３　産学官連携推進センターにおける領域・研究プロジェクトの設置

社会貢献活動をより活性化するためには、産学官連携推進センターを中心に、学部横断的な研究活動を推進し、地域や社会のニーズに応えることが必要となっている。このため、産学官連携推進センターでは、他学部や学外の研究者との連携による研究活動を推進する「領域」を設置し、「領域」ごとに研究プロジェクトを立ち上げた。以下に平成 20 年度に実施した領域研究プロジェクトを示す。

領域	プロジェクト名	代表者
バイオ テクノロジー	ポリフェノールの機能性に関する研究	辻　英明
	「酢」の機能性に関する研究	山下広美
地域政策評価	地域少子化対策評価研究	中嶋和夫
ミクロ ものづくり	CAE による高付加価値ものづくり	尾崎公一
	次世代超 LSI 用の高性能半導体基板の開発に関する研究	末岡浩治
健康・スポーツ技術開発	映像を用いたリラクゼーションシステム開発	嘉数彰彦
生活情報技術	人を引き込む身体的コミュニケーション技術	渡辺富夫
新商品の 企画・開発	OEM 主体の中小企業のためのデザインを通した新商品開発に関する研究	村木克爾
	天然素材によるロハスキッズ商品の開発に関する研究	難波久美子
実践的人材養成	保健福祉系学生のキャリア形成支援プロジェクト	坂野純子

１．４　社会貢献の内容

本学における現在の社会貢献の内容は以下のとおりである。

組　　織	社会貢献の内容
地域共同研究機構 　産学官連携推進センター 　保健福祉推進センター 　メディアコミュニケーション推進センター	 産学官連携 専門家への指導、教育、行政への協力 メディア活動の支援、メディア技能の指導、教育
附属図書館	データベース講習会、岡山県立図書館情報ネットワークへの参加、施設の開放
全学教育研究機構 　語学センター 　健康・スポーツ推進センター	 公開講座、教材の開放 スポーツ大会の実施
その他 　大学全体・学部・教員個人	 公開講座・全学講義、アクティブキャンパス、国際交流、高大連携、行政への協力

２　地域共同研究機構

２．０－１　概要

地域共同研究機構は、平成 17 年 10 月、本学の研究・教育活動を活性化し、地域社会や行政機関との連携を深め、地域産業の振興及び福祉の充実を図るため、学内の社会貢献体制を見直し、統合化された組織として発足した。傘下の産学官連携推進センター、保健福祉推進センター、メディアコミュニケーション推進センターの各組織は従来のセンター活動に加え、連携して全学的社会貢献活動が行えるようになった。

法人化 2 年目の本年度における各センター活動のポイントは、各センターの有する本来の活動を、この統合化された組織の利点を生かし、いかに発展・深化させてゆくかであった。全学的な取組みの中で盛り上がりをみせた「OPU フォーラム 2008」の開催、地域から期待されるイベントに定着した「第 7 回晴れの国鬼ノ城シンポジウム」、3 センターからの情報を統合化し各センターの活動に繋げる取組みなど、この協調連携活動が活かされたことをまず明記したい。以下、各センターにおける本年度の活動概要を紹介する。

産学官連携推進センターでは、「共同研究・受託研究の推進」と「学域融合研究の創出・育成支援」を 2 本柱に掲げて活動を行った。

共同研究・受託研究の推進の分野では、日々のコーディネート活動をベースに、アクティブ・ラボ（出前研究室）、100 社訪問キャラバン隊、OPU フォーラム 2008 などで、積極的な研究シーズ発信を実施した。特に、今年度の 100 社訪問キャラバン隊は記念すべき 100 回目を達成した。その中で、この活動をベースに着実に地域企業との共同研究に結びつけた本学の取組みが高く評価された。また、OPU フォーラムは、地域から期待される本学の姿勢を示すフォーラムと位置づけて全学一丸で取組み、779 名の多数の参加を得て盛大に開催した。

学域融合研究の創出・育成支援の分野では、「領域・研究プロジェクト」活動を本格的にスタートさせ、7 領域・10 プロジェクトを推進した。なかでも「酢の機能性に関する研究プロジェクト」において昨年度から取組んでいる「酢の機能性活用コンソーシアム」においては 2 社の新製品開発に結びついた。また、本年度から設定した新領域「新製品の企画・開発」におけるプロジェクトでは、地元企業と開発の問題点を共有しテーマそのもののレベルから共に掘り起こして行こうという「提案型共同研究」を目指したものもあり、本学独自の産学官連携の在り方を試行する挑戦的なプロジェクトとして評価したい。

保健福祉推進センターは、設置後 7 年を経て、充実と共に変化の時期を迎えていると見る事ができる。すなわち、当初強く指向した専門職支援から現状の実践的・臨床的ニーズ、研究的ニーズといった時期を得た課題への対応や研究成果の報告等が増加

している。第７回目になる『鬼ノ城シンポジウム』は、「食卓を守る　―食の安全と安心―」をテーマに開催された。折しも食品の偽装、毒物混入等の問題が相次いで起こり、時機に合ったテーマ設定となった。例年の８つの研究会活動と保育ステップアップ講座は、今年も県内の保健福祉現場の第一線で活躍している専門職の方々の学術的支援を行った。また、健康スポーツ支援として鬼ノ城グラウンド・ゴルフ大会等を主催し、多数の参加者を得た。一日保健福祉推進センターは、久米郡美咲町および苫田郡鏡野町において、地域との共催により開催された。

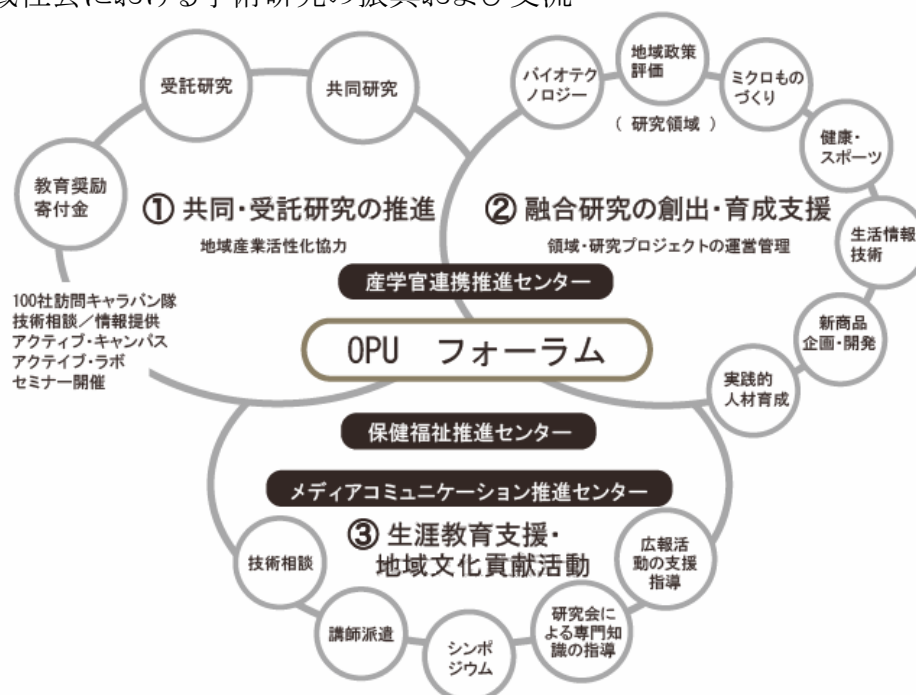
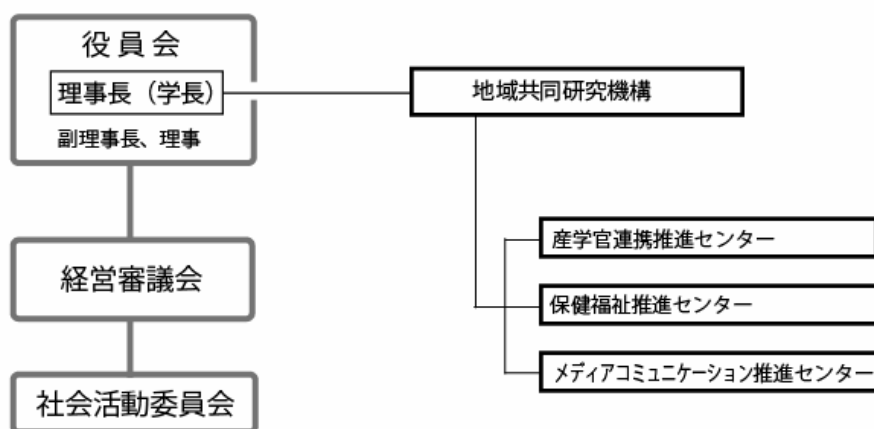
メデイアコミュニケーション推進センターは、本年度も地域社会からメディア支援の要請が数多く寄せられた。特筆されるのは、映像制作分野で岡山県安全安心まちづくり推進室の要請を受け、激増する県下の＜振込め詐欺＞被害を未然防止するためのテレビCMを制作したことである。これは同室の啓発事業に深く関わる形で進められたもので、メデイアコミュニケーション推進センターの地域貢献活動を象徴するにふさわしいものとなった。本活動では学生の教育的動員が計画的に行われたが、社会人プロと同じステージで制作過程を共にしたことは学生にとって大きな財産になったと共に、実地教育による実学の推進が地域の社会貢献と共存することを示す事例となった。

２．０－２　主な業務内容

地域共同研究機構の主要な業務は次のとおりである。

① 民間機関および行政機関との共同研究、受託研究および連携事業

② 民間機関および行政機関の技術者および専門家に対する専門技術の指導、教育、協力および援助

③ 地域社会における学術研究の振興および交流

地域共同研究機構の組織図は次のとおりである。同機構の組織および管理運営に関する重要事項は理事長が委員長である「社会活動委員会」で審議される。

２．０－３　共同研究の手順

民間企業及び行政機関などの研究者（以下共同研究者という）が本学教員との共同研究を申し込む場合、今年度までは、まず本学の所定の様式の申請書を地域共同研究機構長（以下機構長という）に提出し、機構長は共同研究を行う学内の教員等に研究実施計画書を提出させてきた。その後、機構長が、教員の所属する学部長の意見を集約して提出した意見書を元に、学長は社会活動員会に諮問し、共同研究の実施を承認するという手続を行っていた。

しかし、来年度以降、企業のニーズに柔軟に対応するため、手続の迅速化を図ることとし、共同研究の手続きを変更することとした。来年度以降は、本学の所定の様式の申請書及び計画書を機構長に提出し、機構長は教員の所属する学部長から意見書を提出させることとした。さらに、機構長から関係書類の提出を受けた学長が共同研究の適否を判断することとなる。

２．１　産学官連携推進センター

２．１－１　概要

産学官連携推進センターは、「共同研究・受託研究の推進」と「学域融合研究の創出・支援」を２本柱に掲げて活動を行っている。

「共同研究・受託研究」の推進では、学外のニーズを把握し学内のシーズを情報発信するために、100 社訪問キャラバン隊、岡山リサーチパーク研究・展示発表会や各種研究会など地域の産学官連携組織の主催する事業に積極的に参加し、金融機関主催のビジネス相談会やベンチャープラザ岡山（デザイン診療所）、また、来学による技術相談などから得た情報を基にマッチング機会を得て、アクティブラボ（出前研究室）などの企業訪問でニーズの実態（期待）を探り、受託研究 37 件、共同研究 31 件に結びつけた。

「学域融合研究の創出・支援」では、平成１８年度に始めた「領域・研究プロジェクト」も 3 年目となり、今年度は 7 領域で 10 課題の研究プロジェクトに取り組んだ。特に、今年度から新領域として「新商品の企画・開発」を設けて、地域企業との提案型共同研究のモデル事例構築を目指した。本学の複数の教員と企業技術者で構成するチームをつくり、期待された課題を解決するだけでなく、その企業の未来創造につながるような潜在的なニーズを掘り起こして長期的な視点から課題解決を目指すものである。このことにより第８回中国地域産学官コラボレーション会議（7 月 18 日下関市）における「産学官連携功労者表彰」を受賞した。

「ＯＰＵフォーラム」は本学の開学記念日である５月２９日に毎年実施することとして昨年度に本学講堂を主会場として開催したのを皮切りに、今年度も「ＯＰＵフォーラム２００８」として本学内で開催し、多くの参加者を得て定着したものとなった。

昨年度後半に総社市との包括協定を締結したが、それに基づく共同研究・受託研究、アクティブキャンパスなどで活発な交流があり実質化が進んだ。また、今年度は新たに地域金融機関３行と包括協定を締結し、金融機関主催のビジネス交流会や来訪による技術相談など産学連携の推進につながる事例も出てきた。

また、独立行政法人としては対外的サービスの有償化を進める必要があるが、そのモデル事例として独自の企画によるアクティブキャンパスの有償化を試みた。地域共同研究機構客員教授を含む３人の講師による３日間の「商品力強化実践塾」を有料で開催したところ、定員を越える参加があった。地域共同研究機構では９名の客員教授を配置しており、それぞれの特長を生かして産学連携に貢献していただいているが、今後のモデルになりうる成果であった。

２．１－２　領域・研究プロジェクト活動

本学の教育研究の基本理念は「人間・社会・自然の関係性を重視する実学の創造」であり、産学官連携推進もこの理念に基づいて進められなければならない。開学 15 年を経過して本学の各学部の特徴・個性は相当程度に認知されたものとなっており、今後はこれらを融合した全体としての特徴･個性を打ち出すことが必要とされている。そのため、学部・学域横断的な学域融合研究により新たな研究活動を推進し、社会貢献に結びつけるとともに競争的研究資金の獲得にも結びつけることを狙いとして「領域・研究プロジェクト制度」を、平成１８年度からを開始した。3 年目となった今年度は、前年度より 2 領域・４課題を追加し、別表に示す７領域・１０プロジェクトを実施した。

この領域･研究プロジェクトは、３月から学内公募して教員からの提案に基づいて、産学官連携推進センターのセンター長が学長に提案し、４月に学長が認定する。このときの条件は、①複数の学部・学科の教員が参画する「学域融合研究」であること②共同研究や公募型プロジェクト提案を目指すなど明確な目標を有することである。認定された課題に対しては域貢献特別研究費等の学内研究費が優先的に配分される。

これまでにも共同研究・受託研究に結びついたものや外部競争的資金獲得などの成果がすでに現れている。特に本年度から設定した新領域「新商品の企画・開発」の研究プロジェクトである「OEM 主体の中小企業のためのデザインを通した新商品開発に関する研究」では、地域企業との提案型共同研究のモデル事例構築を目指したものであり、本学における今後の産学官連携のあり方を試行する挑戦的なプロジェクトである。学部を越えた複数の教員と企業の技術者で構成するチームをつくり、期待された課題を解決するだけでなく、その企業の未来創造につながるような潜在的なニーズを掘り起こして長期的な視点から課題解決を目指している。１件目の共同研究はほぼ順調に展開しており、年度後半で２件目の共同研究にも着手したところである。これらのチームの今後の展開に期対すると共に、新たな分野におけるに同様の試みの創出を目指したい。

このほかの研究プロジェクトに置いても、その多くが企業や自治体などとの共同研究・受託研究を並行的に実施しており、また、競争的外部資金を獲得している。また、「酢の機能性に関する研究」では、岡山県や岡山県中小企業団体中央会が支援している「おかやま食料産業クラスター協議会」と共同で、多くの地域企業が参加する「酢の機能性活用コンソーシアム」を結成して商品開発に取り組み、２社の新商品開発に結びついた。

平成２０年度　領域・研究プロジェクト

領域	プロジェクト名	代表者
バイオ テクノロジー	ポリフェノールの機能性に関する研究	辻　英明
	「酢」の機能性に関する研究	山下広美
地域政策評価	地域少子化対策評価研究	中嶋和夫
ミクロ ものづくり	CAE による高付加価値ものづくり	尾崎公一
	次世代超LSI用の高性能半導体基板の開発に関する研究	末岡浩治
健康・スポーツ 技術開発	映像を用いたリラクゼーションシステム開発	嘉数彰彦
生活情報技術	人を引き込む身体的コミュニケーション技術	渡辺富夫
新商品の 企画・開発	OEM 主体の中小企業のためのデザインを通した新商品開発に関する研究	村木克爾
	天然素材によるロハスキッズ商品の開発に関する研究	難波久美子
実践的人材養成	保健福祉系学生のキャリア形成支援プロジェクト	坂野純子

２．１－３　企業と連携した研究活動

企業と連携した研究活動を推進することは産学官連携推進センターの最も重要な業務である。地域企業や団体、自治体等との共同研究・受託研究をコーディネートし、また、コンソーシアムを結成するなどにより外部競争的資金の獲得に向けてチャレンジしていかなければならない。社会活動委員会において、毎回共同研究、受託研究及び奨励寄付金の申請の承認を議題としているが、その結果各学部からの申請状況が明らかとなり、それが刺激になって申請件数、金額ともに前年度を上回った（予定)。今年度で実施した共同研究・受託研究、教育研究奨励寄付金の概要は以下のとおりであった。それぞれの実施状況は章末の関連資料に一覧表として示した。

(1) 共同研究

共同研究は 32 件であった。総社市との包括協定の効果で、総社市および総社商工会議所との共同研究 5 件があったが、その他 27 件はいずれも企業との共同研究であった。企業との共同研究の場合の 1 件あたりの金額は 10～100 万円（平均で約 45 万円）であった。学部別件数で見ると、保健福祉学部 13 件、デザイン学部 11 件、情報工学部 8 件であった。

（2） 受託研究

受託研究は公的機関からの依頼や競争的資金獲得による委託契約によるものが大半であり、件数は前年度に比べ大幅に増加　し、過去最高の35件であった。

学部別件数はデザイン学部関連が 18 件と圧倒的に多く、情報工学部９件、保健福祉学部８件であった。金額では独立行政法人科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業（ＣＲＥＳＴ）による「身体的引き込みメディア技術の研究開発」（情報工学部　渡辺教授）が大きい。

総社商工会議所レディースの会とレシピ考案会議

産学官連携「健康増進レシピ完成披露会」

（3） 教育研究奨励寄附金

教育研究奨励寄附金は、本学の教育・研究を奨励するために外部から寄付されるもので、日頃からの社会貢献の成果である。今年度の受け入れ実績は３０件でほぼ昨年と同様であった。学部別件数では情報工学部が１７件と半数以上を占めており、デザイン学部7件、保健福祉学部6件であった。

２．１－４アクティブ・ラボ、アクティブキャンパス

（１）アクティブ・ラボ

アクティブ・ラボ（吉備プラザ）

アクティブ・ラボ（出前研究室）は、平成 17 年度から始まり今年度は４年目となった。この活動は教員が単独またはコーディネータと共に企業等に出向き、研究内容紹介や技術相談・情報交換等を行う活動で、共同研究・受託研究に結びつく可能性の高い重要な活動である。

企業等のニーズを100社訪問キャラバン隊による訪問や日常的な技術相談、あるいは包括協定による金融機関からの情報などから推測し、適切な教員シーズとマッチングを図り、現場に出向いて課題を確認するもので、多くの場合はコーディネータと教員で一緒に訪問した。あるいは、教員の研究

課題からの要望に応える形で行うこともあった。訪問先企業との情報交換や現場確認の中で新たな発見をすることもあった。

今年度の実施件数は３２件、訪問企業数は２７社であった。実施した教員数は正味１５名であり、一部の特定教員に偏った傾向もあったが、新規教員の参加もあり、着実に定着しつつある。活動概要を一覧表で章末の関連資料に示す。学部別件数ではデザイン学部が２１件と圧倒的で保健福祉学部６件、情報工学部５件であった。

（２）アクティブキャンパス

「商品力強化実践塾②」の演習風景

アクティブキャンパスは本学の主体的な取り組みを学外で行うものであり、平成 19 年度から実施されているが、産学官連携推進センターの初めての試みとして、企業技術者を対象として有料で行う３回シリーズのゼミ「商品力強化実践塾　～コンセプト・デザイン・商品開発で付加価値を付ける～」を開催した。地域共同研究機構客員教授とデザイン学部教員との共同企画によるもので、受講者数も定員の２０名を越す応募があり盛況であった。各回とも個別技術相談やワークショップ形式の時間を設けたところ、熱心な質疑・討論があり好評であった。今後のアクティブキャンパスのモデル事例となりうるものと思われた。

２．１－５　OPU フォーラム 2008

「ＯＰＵフォーラム」は本学が学部横断的な産学官連携事業を推進し社会貢献していくにあたっての原点とも言えるもので、前回同様に開学記念日である５月２９日に開催した。

前回フォーラムが「法人化の旗揚げとなる記念のフォーラム」として、新法人の理念「実学を創造し、地域に貢献する」をアピールすることに重点がおかれたのに対し、法人化２年目となる今回は、より具体的に学部横断的に、「地域の企業・団体と密着して交流を深め、産学官連携事業を推進することで社会貢献を果たす本学の姿勢を広く内外へ示すことであった。このため、フォーラムでは「人間力～ともに歩む出会いのなかに～」をテーマに掲げ、地域社会と密着交流を深め、社会貢献を展開していくための原点である人間力に焦点をあてた。そこで特別講演に人事コンサルタント中野裕弓氏を招き「ホスピタリティーマインド～おもてなしの心がビジネスを輝かす～」と題して講演いただいた。中野氏は“もてなしの心こそ人生愉悦の力となり、ビジネスの力ともなる”と訴えて聴衆の多くに感動を与えた。(講演内容を章末の関連資料に掲

載した。）

教員の研究成果などを紹介する展示発表では企業・団体の展示があわせて７７件になり、前回７１件と比べわずか増えた。情報工学部と保健福祉学部が減った分、今回あらたに「地域貢献特別研究」（学生会館展示）が１７件加わり、領域・研究プロジェクトも３件増えた。課題としては、特別講演の聴講者が多かったにしては展示発表への参加が少なかったことがある。展示発表について工夫・改善が必要である。

なお、昨年同様に展示内容をまとめた要旨集を作製した。これはフォーラムの当日に配布するのみでなく、本学の研究シーズの分かり易い要約版として、その後の企業訪問や各種会合でも積極的に活用した。

(1) 概　要

日　時：平成２０年５月２９日（火）11:00～17:00

会　場：岡山県立大学　講堂及び学生会館

テーマ：「人 間 力　ーともに歩む出会いのなかにー」

参加者：７７９名（うち企業・団体・個人等の学外者５５５名）

(2) プログラム

13:00~13:20　学長挨拶、来賓挨拶(総社市長)

13:20~14:50　特別講演（人事コンサルタント 中野裕弓 氏）

「ホスピタリティーマインドーおもてなしの心がビジネスを輝かすー」

11:00~17:00　展示会

（特別コーナーとして「健康測定体験コーナー」、「お茶席」を設けた）

OPU フォーラム 2008 特別講演風景

(3) 展示会

パネル、実物、パソコン等を用いて以下のとおり７７件が展示された。

（本学の展示）６５件

- 地域共同研究機構（３センター）：６件
- 領域・研究プロジェクト：８件
- 地域貢献特別研究：18 件
- 保健福祉学部：１０件
- 情報工学部　：８件
- デザイン学部：１５件

（企業・団体の展示）１２件

OPU フォーラム 2008 展示会風景

２．１－６　学外組織との連携・協働活動

岡山県の産学官連携活動の中心的な組織である「岡山・産学官連携推進会議」や、その他の産学官連携支援団体が実施する諸活動に、本学も積極的に参加した。これらの諸活動は、情報入手・発信や、人的交流を通じて、共同研究等の拡大に大きく寄与している。

（１）　包括協定に関連する産学官連携の取組

昨年度末に総社市と包括協定を締結したのに続き、今年度は県内金融機関三行（中国銀行、トマト銀行、おかやま信用金庫）とそれぞれに包括協定を締結した。これら包括協定を締結した機関との産学官連携の取組は以下のとおりであった。

①　総社市との連携活動

新入生のための総社市
ガイドマップ作成プレゼン

包括協定を受けての実質的な初年度であるが、共同研究４件と受託研究３件を実施した。外に総社商工会議所とも共同研究１件を実施した。初年度の実績として、件数は多いが、内容としては試行的なレベルであり、今後共に互いの立場を尊重しながら内容の充実を図る必要がある。

②　県内金融機関との連携活動

しんきん合同ビジネス交流会での相談

金融機関三行とそれぞれに包括協定を同時に締結した。中国銀行とはその関連会社である岡山経済研究所と従来から適宜情報交換している。また、トマト銀行、おかやま信用金庫ともそれぞれに従来から連携しているが、その密度が高まった。トマト銀行とは、８月に取引先企業数社を招いて産学金ビジネス相談会を実施し、主にデザイン分野で対応した。このほかにも、来訪や電話で取引先企業の相談案件などの取り次ぎが数件あった。おかやま信用金庫とは、9 月の「しんきん合同ビジネス交流会」、2 月の「おかやましんきんビジネス交流会」が従来から定例化しているが、担当者間の連携がより密になり、交流会における相談も件数、内容ともに充実したものとなった。ビジネス交流会における「デザイン診療所」は、ユニークな取組として県外からの相談参加もあった。

（２）岡山県内の産学官連携組織との協働

①　「岡山・産学官連携推進会議」と「100 社訪問キャラバン隊」

岡山県の経済団体や大学、行政、産業支援機関など県内主要機関で産学官連携を強力に進めていくための組織として平成 15 年 3 月に設立された「岡山・産学官連携推進会議」は、関係者間の協議を通じて共通認識を持ち、役割分担を行いながら、県内産業の振興につなげていくための諸活動に取り組んでいる。その推進機構として岡山産学官連携推進センター（センター長：大﨑紘一 岡山商科大学副学長、事務局：(財) 岡山県産業振興財団内）が設けられている。主な活動として、「100 社訪問キャラバン隊」、「100 研究室訪問」、「次世代交流会」などを開催している。このうち、「100 社訪問キャラバン隊」では本学が学側のとりまとめ機関として積極的にその役割を果たしている。

ア「第 6 回おかやま夢づくり産学官連携推進フォーラム」

岡山・産学官連携推進会議本会議が 11 月 26 日に岡山市内で開催され、併せてフォーラムが開催された。本フォーラムは県内および周辺地域の産学官連携関係者が一同に会するイベントであり、表彰・事例発表・特別講演など情報交換の場である。

イ「１００社訪問キャラバン隊」

第 100 回カーツ㈱の様子

企業と大学等の垣根を越えて、大学等の教員が企業現場に出向き、現場見学とともに、企業の経営者・技術者との情報交換・意見交換を行うこの活動は、平成 16 年度から行っており、今年度で遂に 100 回目を達成した。記念すべき第 100 回はカーツ㈱であり、本学は学長をはじめ数名の教職員が参加した。

本学からは、今年度も毎回参加し、現場見学や企業の方々との情報交換を通じて企業の抱える課題などを把握するとともに、訪問後のアクティブ・ラボなどで本学が協力できることを提案するなど、地域産業活性化に向けた共同研究等に結びつける活動を積極的に進めている。全体を通して共同研究等に結びついた案件は 13 件（11 企業）であった。

今年度実施された 16 回の参加実績を関連資料に示す。併せてこれまでの１００社を一覧で示す。

ウ「１００研究室訪問」

「１００研究室訪問」は、「１００社訪問キャラバン隊」と同様、岡山・産学官連携推進会議の産学官連携事業の一環として、岡山県中小企業団体中央会が事務局となり実施されている。企業関係者が大学等の研究室を訪問して、研究者と意見交換・情報交換を行い、お互いのシーズ・ニーズ等を知り合うことにより、新技術・新製品開発に向けた共同研究等のきっかけとなっている。今年度の本学の受け入れはなかったが､岡山商科大学で初めて実施された第38回に、企業数社を斡旋すると共にコーディネータが参加し、意見交換を行った。

エ「次世代交流会」

この次世代交流会は、文字とおり、企業や大学のトップ層だけでなく次世代を担う若手の企業関係者と大学等の若手教員が出会う場を設け、産学官交流の裾野を広げるための活動であり、原則として夕方からの時間に開催される。岡山県産業振興財団が事務局、岡山理科大学が世話役となり、企業関係者や大学の教員らによる業務・研究紹介と、その後の懇親会により、多角的に交流を深めている。今年度は３回開催され、本学からはそのうち２回に参加した。

②　「おかやまコーディネータ連絡協議会」

県内の大学、産業支援組織、各種の産学官連携組織に配置されているコーディネータ及びそれに準ずる業務の方々の自主的な連携組織で、コーディネータ等相互の交流及び情報の共有化を進めるとともに、コーディネート能力の向上に資するような事業を展開することを目的としている。設立は平成17年11月で本学も幹事大学である。情報交換会やセミナーを定期的に開催しており、今年度は本学から「領域・研究プロジェクト」や研究会の取り組みなどを紹介した。

③　「水島ソシエ」

「水島ソシエ」は水島工業地帯産学官懇談会の事業の一つである。これは、水島立地企業中心に産学官の交流を深め、新たな協力関係や共同研究に発展することを目指して自由な雰囲気で意見・情報交換会等を行う活動である。今年度はその活動の一環として本学でデザインをテーマとして開催された。

第65回水島ソシエ

④　**「岡山リサーチパーク研究・展示発表会」**

第 13 回岡山リサーチパーク研究展示発表会

県内の試験研究機関や企業研究者が一堂に会して、最近の研究成果をポスター形式で発表するもので､今年度で第 13 回となり平成２１年２月６日にテクノサポート岡山で開催された。”精密加工・機械材料”，”情報通信・エレクトロニクス”，”健康・医用・福祉”，”バイオ・食品”，”環境・化学・デザイン”，”ＭＯＴ・知的財産等”の６分野、合計 61 件の研究・展示発表が行われ、本学関係では６件の発表があった。

⑤　**「ベンチャープラザ岡山 2008」**

ベンチャープラザ岡山は、主に県内のベンチャー企業等による新しいビジネスプラン発表や新製品等の展示を通じて、ベンチャー企業等と資金的支援者・新たなビジネスパートナーとの出会いの場を提供する趣旨で毎年開催されている。このビジネスプランコンテストに本学から始めてデザイン学部の若手教員が応募し、審査員特別賞を受賞した。

⑥　**その他**

上記のほか、井原市産業支援連絡協議会、おかやまＩＴパートナーシップ推進委員会などに参画するとともに、岡山大学知恵の見本市 2008、岡山理科大学“ＯＵＳフォーラム 2008”にも参加するなど情報収集・情報交換に努めた。

（３）岡山県内の分野別産学官連携組織・研究会などとの協働

①　**「おかやま食料産業クラスター協議会」**

機能性食品を中心に地域資源を活用した食品の開発と販路開拓をめざす組織で、岡山県と農林水産省の助成を受けて平成 17 年に設立された｡岡山県中小企業団体中央会が事務局となり、開発と販路開拓のそれぞれのコーディネータを擁して活発に活動している｡本学はこの協議会の役員であり､また産学連携の実際面でも、サブクラスターとして「酢の機能性活用コンソーシアム」（代表：山下准教授)」や「玄徳茶研究会（助言者：有田助手)」を構成して地域企業と連携した活動を行っている。

② 「おかやまバイオアクティブ研究会」

岡山県下の大学や公的研究機関の研究者と企業・団体が会員として参加し、生理活性物質に関する研鑽や情報交換などを行い、地域の食品・医薬品関連技術及び産業の発展に寄与することを目的として平成19年に、従来の「岡山県生理活性物質研究会」から改編し設立された。代表は本学の辻教授（栄養学科）が務めており、役員についても複数の本学教員が努めている。事務局は岡山県産業振興財団内にある。今年度は2回のシンポジウムを開催したが、そのうちの第32回は本学で開催した。

③ 「半導体ネットおかやま」

半導体に関わる県内の大学・高専・公設試等の研究者間の交流、および企業との産学官連携を通じて、半導体関連の研究と産業の活性化を図ることを目的に、平成17年12月に設立された組織である。

今年度、その産学官連携活動が評価されて、11月の岡山・産学官連携推進フォーラムで、おかやま産学官連携大賞を受賞した。

本学は幹事校として運営に協力しており、末岡准教授（情報通信工学科）が今年度の副代表を務めている。

今年度は、幹事校として5月の例会の企画・運営を行った他、企業向けの半導体人材育成講座の講師を末岡准教授が務めた。

④ 「解析支援ネット」

大学等の研究者が保有している解析技術を普及、活用し、製品の高性能化、短納期化、低コスト化など、地域企業のものづくり技術の高度化を支援することを目的に、平成18年に設立された組織である。

本学は、情報工学部の複数の教員が会員となり、10月の解析技術普及セミナーや日常の技術相談対応などの運営に協力している。

⑤ その他

上記のほか、岡山県食品新技術応用研究会（食技研）、ミクロものづくり岡山推進協議会、ハートフルビジネスおかやま、メディカルテクノおかやま、岡山バイオマスプラスチック研究会などの組織があり、企業ニーズの収集や人的ネットワーク拡大に活用した。

（４）県外との産学官連携活動

本学の教員・コーディネータ等が参加した県外組織主催の産学官連携活動の主なものを以下に示す。

・「第７回産学官連携推進会議」（京都市、主催：内閣府ほか）

・「地域イノベーション創出 2008in やまぐち　～産学官連携・産業クラスター推進シンポジウム～」（下関市、主催：中国地域産学官コラボレーション会議ほか）

・「鳥取産業デザインフォーラム」（鳥取市、主催：鳥取県）

・「中国地域バイオ産業推進委員会」（広島市、主催：ちゅうごく産業創造センター）

・「中国地域コーディネーター合同会議」（広島市、主催：ちゅうごく産業創造センター）

中国地域産学官功労者表彰式

２．１－７ 学内外に向けた広報活動

社会貢献活動の展開においては、本学の研究シーズ等の外部への発信と、学内の教員等の外部情報入手・共有が極めて重要となる。このような観点から、学内外に向けた広報活動を一層充実させるために、今年度は以下の取り組みを行った。

(1) 本学の研究シーズ等の外部発信

研究シーズ等の外部発信においては、各種展示発表会等のイベントでの発信と、日常的に機会を見付けて行う発信とがある。以下に、それぞれについての今年度の主な情報発信例を示す。前項までの諸活動と重複する内容もあるが、情報発信という切り口でまとめた。

① **研究会・発表会等のイベントでの情報発信例**（学協会等の発表を除く。）

・第 13 回岡山リサーチパーク研究・展示発表会（6 件）

・平成 20 年度特別電源所在県科学技術振興事業「ものづくり高度化・機能性食品関連研究」研究成果発表会（4 件）

・おかやまバイオアクティブ研究会第 32 回シンポジウム（1 件）

・おかやま食料産業クラスター協議会講演会（1 件）

・平成 20 年度第 1 回機能性食品研究交流会（1 件）

・ＯＲＩＣ IT 研究会（2 件）

・おかやまコーディネータ連絡協議会（2 件）

・山陽技術振興会（1 件）

・半導体ネットおかやま（４件）
・吉備の国クラスター（２件）
・ＯＲＩＣ交流会・セミナー（１件）
・富士通オープンカレッジ（１件）　など

②日常的に実施した情報発信例

新聞掲載、ラジオ・テレビ、情報誌、配布資料などでの事例を章末の関連資料へ掲載した。また、ホームページを全面的に改定し内容の充実を図った。

⑵　学内の教員等への情報発信

産学官連携推進センターから全教員・関係職員に対して、競争的資金公募情報、産学官連携に関する行事案内等についてメールマガジンを発行した。

２．１－８　現状および今後の課題

岡山県の行う「岡山県行財政構造改革大綱 2008」による運営費交付金の削減措置に伴い、平成 21 年度以降の本学の運営は大きな影響を受けることになるが、このことにより産学官連携推進センターの活動がますますクローズアップされてくる。

経営の安定には、徹底した歳出の削減はもとより県の財政事情に左右されない研究体制が保証されるべきで、その為には積極的な外部資金の獲得が不可欠である。

まさに産学官連携推進センター活動の実績が問われる段階に入ったといえる。
具体的には「共同・受託研究の推進」における設定目標のレベルアップと、昨年度から着手した「提案型の共同研究」の定着化である。現在この取組みは、企業からの要請も多く充分な対応が出来ていない状況にあるが、待受け型・キャッチアップ型から共創型という本学独自の共同研究を実現させる重要なコンセプトを有している。地元企業にとって実感の伴った地域貢献の推進と実学研究への教員の意識高揚に果たす役割も期待され重点課題として継続して取組む必要がある。

また、学内における新たな研究パワーの創出を目指す「領域・研究プロジェクト」においては、次年度新たに設けられる「最先端研究支援助成費」と共に本学教員の複合力で COE レベルの研究を目指すものとしてその活動意義・目標がより明確なものとなった。今後は、各プロジェクト毎に成果の見極めと今後の展望に基づく見直しを図り、重点的に研究プロジェクトの育成支援に取組む必要がある。

２．１－９　関連資料

(1)　領域・研究プロジェクト　２．１－２関連資料

領域	プロジェクト名、メンバー	内　容（設定年度）
バイオテクノロジー	■ポリフェノールの機能性に関する研究 ◎辻　英明 山本耕一郎、高橋吉孝、中島伸佳、田内雅規、川上貴代、比江森美樹、方定志（四川大学）、Ki-Hong-Yoon、下村宏之	クロロゲン酸誘導体、およびグァバ葉に含まれるポリフェノール化合物の健康機能性の仕組みを解明し、生活習慣病の予防に役立つ食品へ応用する研究。
	■「酢」の機能性に関する研究 ◎山下広美 木本眞順美、高橋吉孝、菊永繁司（ノートルダム清心女子大）、亀井千晃（岡山大学）	基礎研究としては、内臓脂肪細胞および筋肉細胞への酢酸の影響を分子メカニズムの面から解析を行う。 さらに、酢の摂食形態を研究し、食品企業等産業界とも連携して実用化を推進する。
地域政策評価	■地域少子化対策評価の研究 ◎中嶋和夫 近藤理恵、桐野匡史、二宮一枝、加藤　隆、早瀬道芳、国島丈生、目木信太郎 高橋重郷（人口問題研）、佐々木　司（同研）、柴田勝任（㈱グロップ）、内田章治（同社）	国の少子化対策基本方針を受けた自治体の施策の有効性を検討・評価し、少子化対策に寄与する研究。 具体的には、大容量のデータ解析システムの開発と、政策評価および調査分析手法の研究。
ミクロものづくり	■CAE による高付加価値ものづくり ◎尾崎公一 奥野忠秀、福田忠生	環境調和型材料 Mg 合金の半溶融成型技術を確立する研究。 CAE シュミレーションと射出成型機による成型技術の確立とデザイン検討により、高付加価値 Mg 合金の実用化を目指す。
	■次世代超LSI用の高性能半導体基板の開発に関する研究 ◎末岡浩治 福嶋丈浩、白井光雲、松川和人	不純物ゲッタリング効果を第一原理計算法で評価することにより、Si ウェーハの高品位化を図る。さらに、半導体への歪み付加や Si フォトニクスによる次世代半導体基盤の開発を目指す。

健康・スポーツ技術開発	■映像を用いたリラクゼーションシステム開発 ◎嘉数彰彦 齋藤美絵子、中嶋和夫、中村　光、平田敏彦、後藤清志	映像の持つリラクゼーション効果に着目し、その実証調査をベースに健康・福祉等の分野への応用提案により、ビジネスへの展開も視野に入れた研究。
生活情報技術	■人を引き込む身体的コミュニケーション技術 ◎渡辺富夫 高橋泰嗣、神代　充、山本倫也、 村上生美、益岡　了、 西田麻希子	うなずき・身振り・手振り・呼吸などの生体情報を活用し、飛躍的に一体感が得られる身体的コミュニケーションシステムを開発する。さらに、教育・看護・遊びなどの現場で本システムの有効性を実証し実用化を図る。
新商品企画・開発	■OEM 主体の中小企業のためのデザインを通した新商品開発に関する研究 ◎村木克爾 市川正美、神代　充、筒井澄栄、上田篤嗣	社内のプロジェクトチームと大学チームでそれぞれの多様性と異質の潜在能力を生かしたブレンストーミングを重ね、企画からサービスまでの全プロセスについてシナリオを描き、目標を共有する。 新たな提案型共同研究のモデルを確立する。
	■天然素材商品の企画・開発に関する研究 ◎難波久美子 山下明美、中島伸佳、上田　香 前田進悟（岡山県工業技術センター）、 國藤勝士（同センター）	天然素材によるロハスキッズ商品の開発に関する研究。
実践的人材育成	保健福祉系学生のキャリア形成支援 ◎坂野純子 二宮一枝、筒井澄栄	看護系・福祉系専門職養成課程の教育効果の測定指標を開発する研究。 今年度は、日本と中国の看護系学生や福祉実習生に質問調査を行い、統計的な因子分析を行う。

(2)　共同研究　２．１－３（１）関連資料　　平成 20 年度受け入れ実績

題目	相手方	研究代表者
発酵食品の機能解析と製造開発に関する基礎研究	食品関連企業	保健福祉学部 中島伸佳　准教授
若年女性の肌状態と体組織、自律神経活動の関連性調査	化粧品関連企業	保健福祉学部 永井成美　准教授
スープの気分に及ぼす効果に関する研究	食品関連企業	保健福祉学部 永井成美　准教授
紫落花生・もち麦の機能性の解明	農業関連企業	保健福祉学部 辻　英明　教授
これまでの小地域ケア会議の評価と今後あるべき姿の研究及び総社市における高齢者虐待の実態	総社市	保健福祉学部 筒井澄栄　准教授
きびみどり葉の機能性の解明	食品関連企業	保健福祉学部 辻　英明　教授
総社市の農産物を食材としてレシピ作成	総社市	保健福祉学部 渕上倫子　教授
医薬品(二酸化塩素溶存液)の代表的食中毒菌に対する抗菌作用	医薬品関連企業	保健福祉学部 有田美知子　助手
障害者向けカスタマイズ衣料におけるボトムの快適性向上と上着の機能開発	衣料品関連企業	保健福祉学部 香川幸次郎　教授
発芽ブドウ種子の抗アレルギー効果の解明	食品関連企業	保健福祉学部 比江森美樹　助教
食生活からみた経営者の健康増進に関する研究	総社商工会議所	保健福祉学部 川上貴代　講師
紫落花生を使った紫ピーナッツ豆腐の開発と機能性評価	食品関連企業	保健福祉学部 辻　英明　教授
冷凍倉庫におけるガイドレス無人フォークリフトに関する研究	機械関連企業	情報工学部 神代　充　准教授
特殊靴の足形作成と靴底の機能に最適なアッパーモデルの設計	雑貨品関連企業	情報工学部 辻　博明　教授
3 世代間における子どもの運動（スポーツ）遊びの変容	総社市	情報工学部 越川茂樹　准教授
スポーツ活動とコンディショニングに関する研究－「抱き枕」が選手に及ぼす影響とその特性	雑貨品関連企業	情報工学部 後藤清志　准教授
移動体通信端末の待機状態を利用したプッシュ配信型 PDCA 管理システムに関する基礎研究	通信器関連企業	情報工学部 芝　世弐　助教
最先端技術とプロダクトデザインの融合による新商品の企画・開発に関する研究	機械関連企業	情報工学部 市川正美　准教授
自動車部品（ブレーキディスク）検査機の改良	機械関連企業	情報工学部 福嶋丈浩　准教授

人のコミュニケーションリズムに注目したコミュニケーションメディア	ソフトウェア関連企業	情報工学部 渡辺富夫　教授
デザインを通した生活快適商品の研究開発	繊維関連企業	デザイン学部 村木克爾　准教授
新しい堀コタツのデザイン開発・研究	雑貨品関連企業	デザイン学部 三原鉄平　助教
デザインを通した生活快適商品の研究開発	機械関連企業	デザイン学部 村木克爾　准教授
戦略的経営におけるデザイン活用の可能性研究	電気関連企業	デザイン学部 奥野忠秀　教授
実演型店舗に向けた手打ち製麺機のデザイン開発研究	機械関連企業	デザイン学部 奥野忠秀　教授
新規商品開発力強化に向けたデザイン開発の研究	雑貨品関連企業	デザイン学部 三原鉄平　助教
竹炭を利用したキャンドルの共同基礎研究	雑貨品関連企業	デザイン学部 村木克爾　准教授
公共駐車場関連機器のユニバーサルデザイン研究	機械関連企業	デザイン学部 森下眞行　教授
冷間ロール成形機・造管機のデザイン及び標準化の研究	機械関連企業	デザイン学部 村木克爾　准教授
新入生向けガイドブックの作成	総社市	デザイン学部 奥野忠秀　教授
「竹水」化粧品の商品化と販路の確立及びブランド化の研究	雑貨品関連企業	デザイン学部 上田篤嗣　助手

(3)　受託研究　２．１－３　(2)関連資料　　　平成 20 年度受け入れ実績

題目	相手方	研究代表者
骨格筋および脂肪組織における酢酸の機能性と培養細胞を用いた酢酸の機能性評価	(財)岡山県産業振興財団	保健福祉学部 山下広美　准教授
きびみどりにおけるポリフェノール化合物の機能性の解明およびその製造法の開発	(財)岡山県産業振興財団	保健福祉学部 辻　英明　教授
新高梨果実酢ドレッシングの商品開発に関する研究	岡山食料産業クラスター協議会	保健福祉学部 山下広美　准教授
マスカットワインビネガー・ピオーネワインビネガーの商品開発に関する研究	岡山食料産業クラスター協議会	保健福祉学部 山下広美　准教授
血中 ADMA を標的とした心血管疾患治療のための抗体療法の開発	独立行政法人科学技術振興機構	保健福祉学部 木本眞順美　教授

第 3 次岡山いきいき子どもプラン(仮称)策定に係る県民意識調査の設計、データ解析、集計及び報告書作成への助言業務	岡山県	保健福祉学部 中嶋和夫　教授
次世代育成支援に関するニーズ調査研究	笠岡市	保健福祉学部 中嶋和夫　教授
倉敷市次世代育成支援後期行動計画ニーズ調査等業務委託	倉敷市	保健福祉学部 中嶋和夫　教授
身体的引き込みメディア技術の研究開発	独立行政法人科学技術振興機構	情報工学部 渡辺富夫　教授
足圧分布測定器「フットビュー」の保健・運動指導の判定機能の開発	工業資材関連企業	情報工学部 辻　博明　教授
スポーツ医・科学サポート（動作分析サポート）	(財)岡山県体育協会	情報工学部 平田敏彦　教授
スポーツ医・科学サポート（心理サポート）	(財)岡山県体育協会	情報工学部 後藤清志　准教授
高速・高精度スマートマシンビジョンシステムの開発	(財)岡山県産業振興財団	情報工学部 佐藤洋一郎准教授
環境調和型軽合金の金型鋳造における欠陥予測技術の開発	(財)岡山県産業振興財団	情報工学部 尾崎公一　准教授
医療用バルーン型エアポンプの実用化研究	機械関連企業	情報工学部 尾崎公一　准教授
レーザー光とナノハイブリッドシートによる高信頼接合技術の創成	(財)備後地域地場産業振興センター	情報工学部 尾崎公一　准教授
環境・コスト軽減に対応した、光輝性アルミニウム合金鋳物製造技術の開発	(財)岡山県産業振興財団	情報工学部 尾崎公一　准教授
岡山県立美術館「岡田新一展」の岡山中心市街地プロジェクトの建築・地域模型の制作	岡山県立美術館	デザイン学部 山田孝延　教授
「岡山フルーツ・ギャラリー」のタイトルのデザイン制作	岡山県	MCSC 野宮謙吾　講師
総社市常盤公園整備計画と住民参加プロセスのデザイン	総社市	デザイン学部 熊澤貴之　講師
振り込め詐欺防止啓発スポット CM 及び配布用 DVD 等作成業務	岡山県	MCSC 嘉数彰彦　教授
津山市観光協会ウェブサイトにおける効果的な情報提供に関する研究	津山市観光協会	デザイン学部 斉藤美絵子　講師
コンテンツネットワーク形成に関する効果的なウェブサイトの研究	(財)岡山県産業振興財団	デザイン学部 斉藤美絵子　講師
地域情報の発信に関する研究	(財)岡山県産業振興財団	デザイン学部 嘉数彰彦　教授
デジタルコンテンツ人材育成に関する研究	(財)岡山県産業振興財団	デザイン学部 嘉数彰彦　教授

地域と協働で創出する総社市常盤公園整備における建築設計手法の構築	総社市	デザイン学部 熊澤貴之　講師
自動車を取り巻く通信技術の応用	機械関連企業	デザイン学部 森下眞行　教授
表町木製ベンチのデザイン研究	建材関連企業	デザイン学部 三原鉄平　助教
平成20年度大山隠岐国立公園大山蒜山地域ウスイロヒョウモンモドキモニタリング調査	中国四国地方環境事務所	デザイン学部 伊藤國彦　教授
「おかやま黒まめ」シンボルマークの制作に係る支援・研究	岡山県	デザイン学部 山下明美　教授
西大寺南ふれあい公園体験学習施設プレゼンテーション模型作成	(財)岡山市公園協会	デザイン学部 山田孝延　教授
岡山県消防防災ヘリコプター機体塗装デザインの制作	岡山県	MCSC 奥野忠秀　教授
地域と協働で創出する総社市常盤公園整備における建築の工事監理	総社市	デザイン学部 熊澤貴之　講師
「真庭いきいきテレビ(略称ＭＩＴ)」のロゴタイプデザイン開発に関する研究	(財)久世エスパス振興財団	デザイン学部 野宮謙吾　講師
笠岡市赤ちゃんの駅シンボルマーク制作業務	笠岡市	デザイン学部 野宮謙吾　講師

※　MCSCはメディアコミュニケーション推進センター

(4)　**教育研究奨励寄附金２．１－３　(3)関連資料**　　　　**平成20年度受け入れ実績**

題目	相手方	研究代表者
新規卵白中微量タンパクと非ＩｇＥ機序食物アレルギーの関係について	研究会	保健福祉学部 鈴木麻希子　助教
グァバ茶ポリフェノールの抗炎症効果について	食品関連企業	保健福祉学部 高橋吉孝　教授
肺ガン細胞におけるプロスタグランジン合成酵素の新規創薬ターゲットとしての基礎的研究	学術振興財団	保健福祉学部 山本登志子准教授
抗炎症効果をねらった機能性食品の開発に関する研究	食品関連企業	保健福祉学部 高橋吉孝　教授
家族の感情表出(Expressed Em-otion)を用いた若年発症摂食障害患者の家族支援モデルの開発	財団	保健福祉学部 渡邊久美　准教授
井原鉄道にふさわしい地域の素材を使用したハンバーガーの研究・開発	井原鉄道㈱	保健福祉学部 渕上倫子　教授

発酵エキスの製造・開発に関する研究	食品関連企業	保健福祉学部 中島伸佳　准教授
鋳造における溶湯の流動現象に起因する鋳造欠陥指標の研究	情報関連企業	情報工学部 尾崎公一　准教授
人間心理を考慮した制御手法に関する研究	情報関連企業	情報工学部 神代　充　准教授
画像処理システムに関する研究	情報関連企業	情報工学部 神代　充　准教授
鋼を対象とした分子動力学ソースの開発	情報関連企業	情報工学部 福田忠生　助教
マグネシウム合金射出成形機における成型品の特性向上技術の開発／材料運搬シミュレーションの高精度化	機械関連企業	情報工学部 尾崎公一　准教授
Ｓｉ 単結晶ウエーハ表面における他材料との密着強度に関する研究	材料関連企業	情報工学部 末岡浩治　准教授
小型低消費電力マルチモーダル節電センサの開発研究	(財)岡山工学振興会	情報工学部 大西謙吾　准教授
シリコンウェーハ中の二次元析出モデルの構築	情報関連企業	情報工学部 末岡浩治　准教授
計算機を用いたシリコン物性に関する研究	情報関連企業	情報工学部 末岡浩治　准教授
計算機を用いた材料強度に関する研究	情報関連企業	情報工学部 福田忠生　助教
鉄棒運動の制御機構に関する計算論的研究	学術振興財団	情報工学部 山崎大河　助教
分子シミュレーションを用いた Fe-Cu 合金の析出強化機構の解明	学術振興財団	情報工学部 福田忠生　助教
人間との身体的インタラクションのための握手ロボットシステムの開発	学術振興財団	情報工学部 神代　充　准教授
四輪車のモデル化	計測器関連企業	情報工学部 西山修二　教授
筋電位信号と姿勢情報の組み合わせによる人口肢の多機能制御	情報通信基金	情報工学部 大西謙吾　准教授
鋳造における溶湯の流動現象に起因する鋳造欠陥指標の研究	情報関連企業	情報工学部 尾崎公一　准教授
インタフェースとしてのサウンドデザイン研究	芸術文化振興財団	デザイン学部 益岡　了　講師
「後楽園の駅弁」開発に伴う駅弁のネーミングとパッケージデザイン	食品関連企業	MCSC

後楽園お庭そだち弁当の開発にともなう弁当のネーミングとパッケージデザイン	食品関連企業	MCSC
後楽園のお弁当開発に伴う後楽園のおもてなし「お庭そだち」のネーミングとパッケージデザイン	食品関連企業	MCSC
大型街頭ビジョンにおける双方向情報伝達のしくみとその効果	環境科学振興財団	デザイン学部 斉藤美絵子　講師
後楽園の駅弁「岡山後楽園の弁当」開発にともなう駅弁のネーミングとパッケージデザイン	食品関連企業	MCSC
後楽園の弁当「お庭そだち」開発にともなう弁当のネーミングとパッケージデザイン	食品関連企業	MCSC

※　MCSC はメディアコミュニケーション推進センター

(5)　平成２０年度　アクティブ・ラボ（出前研究室）実績表　２．１－４関連資料

NO	実施日	担当教員	訪　　問　　先	実施内容
1	4月15日	村木克爾　准教授 (デザイン学部)	㈱カイタック	情報交換
2	4月16日	上田　香　助手 (デザイン学部)	吉河織物㈱	情報交換
3	4月16日	上田　香　助手	クロキ㈱	情報交換
4	4月16日	上田　香　助手	㈱カイタック	情報交換
5	4月21日	上田　香　助手	ショーワ㈱	情報交換
6	5月1日	上田　香　助手	高田織物㈱	情報交換
7	5月12日	上田　香　助手	クロキ㈱	情報交換
8	5月19日	辻　英明　教授 (保健福祉学部)	(有)アグリインダストリー	農場見学 情報交換
9	6月9日	上田　香 助手 (デザイン学部)	日本綿布㈱ クロキ㈱	情報交換
10	6月16日	辻　英明　教授 (保健福祉学部)	㈱梶原食品	情報交換 工場見学
11	6月19日	南川茂樹　准教授 (デザイン学部)	㈱佐田建美	情報交換
12	6月30日	村木克爾　准教授 (デザイン学部)	㈱アドテックプラズマテクノロジー	工場見学 情報交換
13	7月1日	奥野忠秀 教授 (デザイン学部)	㈱トータルデザインセンター	情報交換
14	7月7日	上田　香助手	クロキ㈱	情報交換

15	7 月 11 日	神代　充　准教授 (情報工学部)	三乗工業㈱	工場見学 情報交換
16	7 月 17 日	末岡浩治 准教授 (情報工学部)	フェニテックセミコンダクター㈱	情報交換
17	7 月 17 日	末岡浩治　准教授	㈱化繊ノズル製作所	情報交換
18	7 月 24 日	末岡浩治　准教授	㈱ダイヤメディア	情報交換
19	8 月 7 日	奥野忠秀　教授 (デザイン学部)	トマト銀行	産学金連携ビジネス相談会
20	8 月 20 日	奥野忠秀　教授 (デザイン学部)	吉備高原センター	相談
21	9 月 3 日	村木克爾　准教授 (デザイン学部)	コアテック㈱	相談
22	9 月 11 日	神代　充 准教授 (情報工学部)	ＯＲＩＣ　ＩＴ研究会	講演
23	9 月 12 日	村木克爾 准教授	鳥取産業デザインフォーラム	情報交換
24	9 月 18 日	奥野忠秀 教授	倉敷商工会議所	講演
25	9 月 20 日	村木克爾　准教授 上田篤嗣　助手 市川正美　准教授 筒井澄栄　准教授	㈱イマガワ	情報交換
26	9 月 25 日	山本登志子准教授 川上祐生　助教	㈱緑研	情報交換
27	9 月 26 日	上田　香　助手	岡山県工業技術センター	情報交換
28	10 月 9 日	児玉由美子准教授 (デザイン学部)	倉敷商工会議所	講演
29	10 月 16 日	上田　香　助手	山足織物合資会社 吉河織物	情報交換
30	11 月 6 日	岸本妙子 教授 (保健福祉学部)	キョクトウ賀陽	情報交換
31	11 月 11 日	奥野忠秀 教授	中島硝子工業㈱	情報交換
32	11 月 25 日	山本登志子准教授 川上祐生　助教	㈱緑研	情報交換
33	1 月 28 日	辻　博明　教授 (情報工学部)	山陽技術振興会	講演
34	1 月 30 日	奥野忠秀　教授 尾崎公一准教授	㈱日本製鋼所	情報交換
35	3 月 11 日	奥野忠秀　教授	ＯＲＩＣ交流会・セミナー	講演

(6)　アクティブ・キャンパス ２．１－４関連資料

「商品力強化実践塾~コンセプト・デザイン・商品開発で付加価値を付ける～」

開催日：10/22（水）, 11/5（水）, 11/19（水）　開催時間：14：00～17：00

場所：ピュアリティまきび（岡山市下石井２‐６‐41）

受講料：5000 円（３回通し）

■　第１回（10/22）

テーマ「コンセプトを作る」～アプリケーションを探求し付加価値を付ける～

講師　株式会社企業競争力研究所　代表取締役　高杉康成氏（地域共同研究機構客員教授）

◆ターゲット設定とコンセプト立案

◆アプリケーションによる付加価値付け・着眼点

・事例紹介

・ターゲット設定と訴求点の整理

・個別相談（希望者）

■　第２回（11/5）

テーマ「コンセプトを形にする」～機能的なデザインで付加価値を付ける～

講師　岡山県立大学デザイン学部　奥野忠秀　教授

◆デザインによる付加価値付け

・事例紹介

・アプリケーションと機能とデザイン

・デザインとブランド化

・演習（ポータブル CD プレイヤーを使用した新製品企画）

■　第３回（11/19）

テーマ「コンセプトを発展させる」～使いやすさを追求し付加価値を付ける～

講師　ユニチカ株式会社　新事業推進室長　岩崎孝明　氏

◆商品開発で付加価値を付ける

・事例紹介

・使いやすさと付加価値、リピート購買

・開発者の意識付け

・個別相談（希望者）

（7）OPU フォーラム 2008　展示テーマ一覧　2．1－5関連資料

学部等		テーマ名	代表教員
地域共同研究機構	産学官連携推進センター	産学官連携推進への取り組み	奥野忠秀
		共同研究の事例紹介	
	保健福祉推進センター	保健福祉推進センター活動概要	香川幸次郎
	メディアコミュニケーション推進センター	メディアセンターの活動概要	嘉数彰彦
		かぎ掛け運動の啓発用サインの考案とポスターの制作支援	桑野哲夫
		リブ 21 外壁への巨大アートデザインの制作支援	野宮謙吾
領域･研究プロジェクト		植物における血糖値調節に役立つポリフェノールの検索・同定およびその応用	辻　英明
		酢の機能性に関する研究	山下広美
		岡山県産ニ段発酵茶の機能性解析と製造に関わる微生物の研究	永井成美
		地域少子化対策に関する評価方法の開発	中嶋和夫
		行政政策データ構築支援センターの設立に関する基礎研究	加藤　隆
		マグネシウム合金製品の高意匠・高機能化に関する研究	尾崎公一
		人を引き込む身体的コミュニケーション技術の研究開発	渡辺富夫
		映像を用いた認知症のケアに関する研究	嘉数彰彦
全　学		岡山県立大学国際交流推進の全学的取り組み	高井研一
地域貢献特別研究		本学卒業看護者の医療事故当事者体験に関する実態調査	横手芳惠
		糖尿病の特定保健指導プログラム開発に関する研究	二宮一枝
		地域開業助産師の助産技術に関する研究－有効陣痛に至らない頻産婦の事例	重西桂子
		保育所に在籍する食物アレルギー児への対応に関する研究	久保田恵
		職業性ストレスと更年期障害	谷口敏代
		労働災害被災者のメンタル等の特性	藤井保人
		地域子育て支援従事者研修プログラムの試行的実施と検証	中野菜穂子

地域貢献特別研究	保育士養成における保育実習の抜本的検討　－養成校と実習施設との連携のあり方－	岡本和子
	ユニバーサルデザインを志向した屋内用点字ブロックの開発研究	中村孝文
	燃焼反応の数値解析と応用	芝　世弐
	健康寿命を延ばす運動システム　－高齢者の自主性・継続性を引き出す活動プログラム－	犬飼義秀
	地域の人々の創造的なかかわりとまちづくり	越川茂樹
	傾斜構造を有する発泡ゴムの製品化のための基礎研究	辻　博明
	観光資源の評価手法の研究（倉敷歴史的街並みを例として）	山田孝延
	地域文化の発信技術の研究	小野英志
	地域活性化実験「倉敷フォトミュラル」実施に関する研究	北山由紀雄
	ロケ誘致のためのプロモーションに関する研究	齋藤美絵子
保健福祉学部	施設入所のいわゆる「寝たきり」状態にある高齢者のストレスに関する研究	太湯好子
	中高齢者の入浴において生体が浸水した深さが循環動態におよぼす影響	肥後すみ子
	基礎看護学実習における学生の看護技術の到達状況	荻あや子
	家庭における性教育の実態	岡﨑愉加
	看護学科１年生に対するコミュニケーション演習の効果	奥山真由美
	NO 産生調節酵素、DDAH の動物細胞系における発現と機能解析	木本眞順美
	新規卵白中微量タンパクと非 IgE 機序卵アレルギー	鈴木麻希子
	生活習慣病を予防するグアバ葉由来食品の開発に向けた基礎的研究	高橋吉孝
	障害を持つ人々の QOL 向上　－衣服の改良を通して－	香川幸次郎
	「NPO 法人　あゆみの会」の現状と課題	坂野純子

情報工学部	動的再構成技術を用いた並列処理プロセッサの研究	森下賢幸
	無線ネットワーク技術と自律分散アクセス方式の研究	武次潤平
	２次元半導体レーザと光ファイバの光結合系に関する研究	福嶋丈浩
	めっき皮膜/基板界面の安定構造と密着性に関する第一原理解析	末岡浩治
	多自由度電動義手の研究開発プラットフォーム	大西謙吾
	ハードウェア／ソフトウェアシステムの高機能化・高信頼化	佐藤洋一郎
	脳幹部ペプチドの神経解剖学的研究	柳原　衛
	スポーツ競技における動作分析によるサポートシステムの試み	平田敏彦
デザイン学部	ユニバーサルデザイン学習支援システムに関する研究	森下眞行
	針葉樹を用いた家具システムの提案 -WAFFLE SYSTEM-	南川茂樹
	総社市常盤公園整備計画と住民参加プロセスのデザイン	熊澤貴之
	プロダクトデザインによる産学官連携活動　－グッドデザイン賞３年連続受賞－	村木克爾
	トイレ支援用パワーアシストウェアのデザイン開発	奥野忠秀
	日本画表現を目指した 3DCG インタラクションコンテンツ	益岡　了
	岡山県立大学 VI の研究	野宮謙吾
	日本の洋食器史(2)ノリタケと競った製陶所のモダンデザイン　前編	久保田厚子
	テキスタイルデザインコース学外研究発表会	草間喆雄
	テキスタイルアートによる舞台美術	島田清徳
	地域とテキスタイル　－小学校教育を通して－	難波久美子
	キャリア支援プログラム基礎調査研究	金丸敏彦
	積層による縞模様の陶磁器	作元朋子
	「絵本」を主軸にした異学科学生・教員の協働活動による実践教育について	山下明美

企業団体	あゆみの会共同作業所の活動紹介	NPO 法人あゆみの会
	社会福祉法人　浦安荘の活動紹介	社会福祉法人浦安荘
	酢の機能性活用コンソーシアムの活動紹介	酢の機能性活用コンソーシアム
	公共駐車場関連機器のユニバーサルデザインに関する研究	株式会社 英田エンジニアリング
	地域資源の有効活用を目的としたエコプロダクツの研究	企業組合 わらしべ工房
	待ち時間レスのマルチインフォメーションシステム	株式会社アリオンシステム
	竹の集成材を活用したテーブルウェア商品	株式会社テオリ
	家庭用岩盤浴温熱ベッドのユニバーサルデザイン化	株式会社 サンタモニカ
	地域資源を活用した世界で初めての“竹水化粧品”	株式会社エコライフマビ
	障害者向けカスタマイズ衣料	倉敷スクールタイガｰ縫製株式会社
	オリジナルコルセット・サポーターの紹介	ダイヤ工業株式会社

学長挨拶、総社市長挨拶、特別講演会

会場の様子

三宮学長の挨拶

片岡市長の挨拶

特別講演会中野裕弓氏

(8)　県内金融機関との連携活動 ２．１－６関連資料

組織・活動名等	開催期日、会場、活動内容	主催
トマト銀行主催産学金連携ビジネス相談会	8/7、トマト銀行岡山駅前支店 ・奥野教授、佐野推進員、苅田推進員が相談員として参加　相談４件	トマト銀行
しんきん合同ビジネス交流会	9/18（コンベックス岡山）技術相談８件	おかやま信用金庫
おかやましんきんビジネス交流会	2/18（コンベックス岡山）技術相談４件	

(9)　岡山県内の産学官連携組織との協働　２．１－６関連資料

組織・活動名等	開催期日、会場、活動内容	備考
おかやま夢づくり産学官連携推進フォーラム（第６回）	11/26　ママカリフォーラム（岡山市） ・平成 20 年度おかやま産学官連携大賞表彰式 ・記念講演：日本アイビーエム(株)北城恪太郎氏	年１回開催県内最大の産学官連携公式行事
岡山・産学官連携センター運営委員会	9/10、11/4、テクノサポート岡山（岡山市） ・産学官連携推進事業の企画運営方針など	センター長：大﨑紘一氏（岡山商科大学副学長）
100 社訪問キャラバン隊	今年度 16 回開催（詳細は別表のとおり） ※2/10　第 100 回、カーツ(株)	岡山県商工会議所連合会が世話役。大学側とりまとめは本学
100 研究室訪問	12/5　第 38 回、岡山商科大学	岡山県中小企業団体中央会主催
次世代交流会	7/22　第 30 回、岡山理科大学（岡山市） ・話題提供：岡山理科大学学長　波田善夫氏 1/30　第 32 回、花食お食事がーでん（岡山市） ・話題提供：本学機構客員教授　戸田雅良氏	岡山理科大学が世話役。今年度 3 回開催。うち 2 回に参加。
おかやまコーディネータ連絡協議会	6/23　テクノサポート岡山（岡山市） ・総会・セミナー， 8/5　テクノサポート岡山（岡山市） ・第１回シーズ・ニーズ情報交換会（ニーズ発表） 10/7　ピュアリティまきび（岡山市） ・ミニシンポジウム、交流会 1/14　テクノサポート岡山（岡山市） ・第２回シーズ・ニーズ情報交換会（シーズ発表） 3/9　岡山全日空ホテル（岡山市） ・講演会、パネルディスカッション、交流会 他、運営委員会（年間８回）	会長：藤原貴典氏（岡山大学准教授） ※本学からの話題提供は以下のとおり 10/7「岡山バイオアクティブ研究会について」 1/14「岡山県立大学『領域・研究プロジェクト』の紹介」
おかやまコーディネータ連絡協議会運営委員会	5/9、6/23、8/5、10/7、11/10、12/24、1/14、テクノサポート岡山（岡山市） ・おかやまコーディネータ連絡協議会の事業運営	
水島ソシエ	8/28　本学で開催（詳細は別記）	今年度は第 63 回以降、数回開催。
岡山リサーチパーク研究・展示発表会	2/6　テクノサポート岡山 ・展示発表（61 件）本学から６件発表 ・特別講演（独）産業技術総合研究所　近藤道雄氏「太陽光発電の現状と将来」	主催：岡山県ほか 年１回開催。県内最大の産学官連携研究発表会
岡山リサーチパーク研究・展示発表会実行委員会	5/7, 7/7, 10/6, 1/23, 3/4　テクノサポート岡山（岡山市） ・発表課題の募集、表彰規定、当日の運営等協議	委員長は岡山大学 本学が副委員長
ベンチャープラザ岡山 2008	11/27　コンベックス岡山（岡山市） ・新製品等企業展示 110 社、商談会等 ・ビジネスプランコンテスト表彰式 ・本学はデザイン診療所を設置　相談　５件 ・デザイン学部上田香助手が審査員特別賞受賞	主催：岡山県、(財)岡山県産業振興財団など

井原市産業支援連絡協議会	会場：井笠地域地場産業振興センター 10/23　大学等支援機関と地域企業との意見交換 11/14　関満弘氏（一橋大学教授）講演、意見交換	主催：井原市

(10) 平成２０年度１００社訪問キャラバン隊の実績　２．１－６関連資料

回	訪問日	訪　問　先	本学参加者数
第８５回	４月８日	コンテンツ株式会社	３人
第８６回	５月１３日	有限会社田中鉄工所	４人
第８７回	５月２２日	有限会社金光シェル工業	３人
第８８回	６月１３日	株式会社ラピート	２人
第８９回	６月１９日	株式会社アサムラサキ	３人
第９０回	７月９日	株式会社キョードー	２人
第９１回	７月２３日	ゼノー工具株式会社	２人
第９２回	８月２７日	西部技術コンサルタント株式会社	３人
第９３回	９月１７日	トクラテック株式会社	３人
第９４回	９月２６日	株式会社イノテック	３人
第９５回	１０月８日	株式会社ウッディワールドのざき	２人
第９６回	１０月３０日	株式会社エヌエスシイ	３人
第９７回	１１月６日	株式会社ミスモ加工	３人
第９８回	１１月１７日	株式会社明治機械製作所	３人
第９９回	１２月９日	三乗工業株式会社	３人
第１００回	２月１０日	カーツ株式会社	５人

【１００社訪問キャラバン隊の実施風景】

第 88 回(株)ラピート

第 89 回(株)アサムラサキ

第 90 回　㈱キョードー

第 93 回　トクラテック㈱

第94回　㈱イノテック

第 95 回㈱ウッディワールドのざき

第 98 回㈱エヌエスシイ

第 99 回三乗工業㈱

１００社訪問キャラバン隊全訪問先

1	山陽電子工業㈱	35	内山工業㈱	69	㈱タイガーマシン製作所
2	㈱フジワラテクノアート	36	山陽電研㈱	70	オーエヌ工業㈱
3	萩原工業㈱	37	テイカ㈱岡山工場	71	スミクラ㈱
4	㈱滝澤鉄工所	38	明大㈱	72	岡山指月㈱
5	日本植生㈱	39	栄進金属工業㈱真備工場	73	㈱テオリ
6	コアテック㈱	40	㈱メイト	74	㈱脇木工
7	松本工具研	41	日進ゴム㈱	75	㈱精密スプリング製作所
8	㈱徳山電機製作所	42	㈱源吉兆庵	76	倉敷ボーリング機工㈱
9	㈱中国技研	43	三千鶴酒造㈱	77	㈱大和製作所
10	三陽機器㈱	44	宇野工業㈱	78	安田工業㈱
11	㈱宮原製作所	45	㈱リプロ	79	㈱晃立
12	冨士ベークライト㈱	46	丸五ゴム工業㈱	80	池田精工㈱布原工場
13	㈱林原生物化学研究所	47	西尾総合印刷㈱	81	梶原乳業㈱
14	ナカシマプロペラ㈱	48	ダイヤ工業㈱	82	倉敷スクールタイガー縫製㈱
15	日本工機㈱	49	晃立工業㈱	83	㈱カイタックｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ
16	キリンビール㈱岡山工場	50	㈱廣榮堂	84	カバヤ食品㈱
17	㈱タケヤリ	51	カツマル醤油醸造㈱	85	コンテンツ㈱
18	立花容器㈱	52	光軽金属工業㈱	86	(有)田中鉄工所
19	㈱アス　コンテンツ本部	53	㈱半鐘屋　川崎工場	87	(有)金光シェル工業
20	オージー技研㈱	54	㈱アイスライン	88	㈱ラピート
21	岡山県共同石灰㈱	55	橋本義肢製作㈱	89	㈱アサムラサキ
22	品川白煉瓦㈱岡山工場	56	㈱岡三食品	90	㈱キョードー
23	㈱ビー・シー・オー	57	ペガサスキャンドル㈱	91	ゼノー工具㈱
24	㈱オクノ	58	㈱フジックス	92	西部技術コンサルタント㈱
25	中国ゴム工業㈱	59	オーティス㈱久世工場	93	トクラテック㈱
26	カモ井加工紙㈱矢掛工場	60	森下化学工業㈱	94	㈱イノテック
27	ユアサ工機㈱	61	山陽レジン工業㈱	95	㈱ウッディワールドのざき
28	㈱英田エンジニアング	62	ソレックス㈱	96	㈱エヌエスシイ
29	ゼノー・テック㈱	63	㈱クレスコ	97	㈱ミスモ加工
30	片山工業㈱本社工場	64	㈱ベティスミス	98	明治機械製作所㈱
31	セリオ㈱	65	㈱戸田レーシング	99	三乗工業㈱
32	天野実業㈱里庄第二工場	66	みのる産業㈱	100	カーツ㈱
33	㈱勝和技研	67	(有)まるみ麹本店		
34	平林金属㈱	68	倉敷レーザー㈱		

(11)　第６５回　水島ソシエ　２．１－６関連資料

日　時　：　平成２０年８月２８日（木）13:50～　　参加人数　３０人

場　所　：　岡山県立大学　デザイン学部棟　3309・3310 号室

内　容　：１　挨拶、オリエンテーション

２　自己紹介（１社３０秒程度）

３　カレッジセミナー

・岡山県立大学の概要と産学官連携の取り組み(14:10～)
デザイン学部デザイン工学科　奥野忠秀　教授（地域共同研究機構長）

・デザイン工学科情報デザインコースの学生作品の紹介
デザイン学部デザイン工学科　尾崎　洋　講師

４　デザイン学部施設見学（15:00～）

５　名刺交換　等(16:00～)

【第６５回　水島ソシエの風景】

(12)　岡山県内の分野別産学官連携組織・研究会などとの協働　２．１－６関連資料

組織・活動名等	活動内容	備考
岡山県地酒サポート会議（純米酒研究会、リキュール研究会）	4/16（テクノサポート岡山)、5/28、6/25（メルパルク岡山)、9/17（三光荘）	
岡山県食品新技術応用研究会	4/23 総会，8/8 公開シンポジウム，9/11 講演会，10/8 講演会，11/12 後援会,1/29 公開セミナー、3/13 講演会	
おかやま食料産業クラスター協議会	2/16 役員会、総会、講演会 （酢のコンソーシアム：6/5、11/28、2/16） （玄徳茶研究会：12/17、1/29）	辻英明教授が役員
津山食料産業クラスター推進会議	5/14 総会	
テンペコーディネート協議会	5/16, 6/13,7/23, 9/10,1/15（商品開発に関する検討会、講演会）	

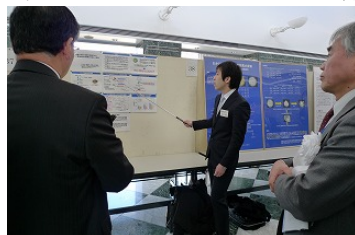
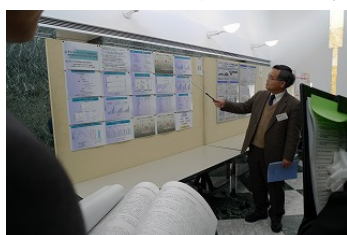
半導体ネットおかやま	5/22 第１回(本学 末岡准教授と学生２名が発表) 8/8 第２回,10/31 第３回,12/17 第４回 2/24 第５回(本学 佐々木教授と学生１名が発表) 11/5,11/14,11/19,11/28 人材育成講座 (11/28 は、末岡准教授が講師)	末岡准教授が副代表
おかやまロボット技術研究会	6/2 第７回、11/14 第８回、2/26 第９回	
おかやまバイオアクティブ研究会	6/6 総会第 31 回シンポジウム 10/31 第 32 シンポジウム 1/13 第 33 回シンポジウム	辻英明教授が会長
ORIC　IT 研究会	9/12 第 16 回(本学 神代准教授が講師) 3/16 第 18 回(本学 佐藤准教授が講師)	
新・エコメッセおかやま	9/30　（全日空ホテル）	
解析支援ネット OKAYAMA	10/15 解析技術普及セミナー	
ミクロものづくり岡山推進協議会	8/25,1/23,1/28,2/16,2/17,2/26 ミクロものづくり大学、　1/29 総会	

(13) 県外との産学官連携活動　２．１－６関連資料

組織・活動名等	開催日、場所、参加内容など	主催者
第７回産学官連携推進会議	6/14～15　国立京都国際会館（京都市） 基調講演、特別講演、分科会Ⅰ（科学技術による地域イノベーション)、産学官連携功労者表彰、全体会合、展示など	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、日本経済団体連合会、日本学術会議
地域イノベーション創出 2008in やまぐち～産学官連携・産業クラスター推進シンポジウム～	7/17～18　海峡メッセ下関（下関市） 基調講演（松野浩二氏)、中国地域産学官連携功労者表彰、第８回中国地域産学官コラボレーション会議、中国地域クラスター合同成果発表会（パネル展示)	中国地域産学官コラボレーション会議、中国地域産業クラスターフォーラム
鳥取産業デザインフォーラム	9/12　ウェルシティ鳥取（鳥取市） 基調講演（青木護氏)、事例発表（(株)テオリ中山社長など)、座談会、交流会	鳥取県
中国地域バイオ産業推進委員会	1/23　ちゅうごく産業創造センター（広島市)、中国５県の産・学・官関係者（16 名）による機能性食品開発に係る意見交換	(財) ちゅうごく産業創造センター
中国地域コーディネーター合同会議	2/18　ホテルセンチュリー21（広島市） 平成 21 年度産学官連携施策などに関する説明と意見交換	(財) ちゅうごく産業創造センター

(14)　研究会・発表会等のイベントでの情報発信例　２．１－７関連資料

開催日、場所	イベント名	テーマ（発表者）
平成21年 ２月６日(金) テクノサポート岡山	岡山リサーチパーク研究･展示発表会	次世代LSI用基板の開発に関する基礎研究　(末岡浩治)
		第一原理計算を用いためっき皮膜/金属基板の密着性予測技術の開発　(末岡浩治)
		炎症予防・改善を可能にするグァバ葉抽出物の開発を目指した研究　(川上祐生)
		食品におけるクロロゲン酸誘導体の機能性およびその応用に関する研究　(辻　英明)
		岡山県立大学における提案型共同研究への取り組みと推進（神代　充）
平成21年 ３月４日(水) テクノサポート岡山	「ものづくり高度化･機能性食品関連研究」研究成果発表会	高速・高精度スマートマシンビジョンシステムの開発（佐藤洋一郎）
		環境調和型軽合金の金型鋳造における欠陥予測技術(尾崎公一)
		骨格筋および脂肪組織における酢酸の機能性と培養細胞を用いた酢酸の機能性評価（山下広美）
		きびみどりにおけるポリフェノール化合物の機能性の解明およびその製造法の開発（辻　英明）

リサーチパーク研究・展示発表会　プレゼンテーションの様子

その他のイベントでの情報発信例

開催日・場所	イベント名	テーマ（発表者）
平成20年10月31日(金) 岡山県立大学	おかやまバイオアクティブ研究会第32回シンポジウム	酢酸の代謝と生活習慣病予防（山下広美）
平成20年10月31日(金) 岡山大学	おかやまバイオアクティブ研究会第32回シンポジウム	グァバ葉抽出物の機能性との関連（細川朋子／高橋吉孝）
平成21年2月16日(月) アークホテル岡山	おかやま食料産業クラスター協議会総会講演会	「酢の肥満抑制を介した生活習慣病の予防　～ピオーネ・マスカットワインビネガーの開発について～」(山下広美)
平成21年2月10日(火) アークホテル岡山	(財)ちゅうごく産業創造センター平成20年度第1回機能性食品研究交流会	岡山県立大学産学官連携の取組み『酢の機能性活用コンソーシアム』の活動（山下広美）
平成20年9月12日(金) ORIC	第16回ＯＲＩＣ　ＩＴ研究会	「身体的インタラクション技術（人間とロボットとのコミュニケーション)」「モデルを併用した画像認識システム」(神代　充)

平成 21 年 3 月 16 日(月) ORIC	第 18 回ＯＲＩＣ　ＩＴ研究会	「ＦＰＧＡを用いた画像処理技術」（佐藤洋一郎）
平成 21 年 1 月 28 日(水)	山陽技術振興会技術交流会	「モノづくりにおける私の視点 - 靴の話題を中心に」(辻博明)
平成 20 年 5 月 22 日(木)	半導体ネットおかやま 第１回例会	「第一原理計算による半導体 Si 単結晶の高品位化への提言」（末岡浩治）
		「次世代 LSI 用の HOT 基板開発に関する基礎研究」（青木竜彦　大学院 D2）
		「HOT 基板開発に関する諸問題解決を目的とした分子シュミレーション」(仮屋崎弘昭　大学院 M2)
平成 21 年 2 月 24 日(火)	半導体ネットおかやま 第５回例会	「ガラスやプラスチック基板上での LCD や有機 EL 応用のための CW レーザを用いた低温ポリシリコン結晶化技術」(佐々木伸夫)
		「Ｓｉウェーハ表面の酸化過程に関する分子シミュレーション」(長澤崇裕　大学院 M1)
平成 20 年 9 月 18 日(木)	吉備の国クラスター 医療・福祉グループ例会	「産学官連携によるプロダクトデザインについて」(奥野忠秀)
平成 20 年 10 月 9 日(木)	吉備の国クラスター エコ・環境グループ例会	「LED や可視光通信等の先端科学技術とデザインの福祉分野への応用」（児玉由美子）
平成 21 年 3 月 13 日(金)	富士通オープンカレッジ	「健康と食の安全（仮)」（岸本妙子）
平成 21 年 3 月 3 日 (火)	中国・四国繊維資材工業組合	中国・四国繊維資材工業組合加入の繊維会社数社へ新商品開発のアドバイス（奥野忠秀）

おかやま食料産業クラスター講演会

半導体ネットおかやま人材育成研修

(15)　日常的に実施した情報発信　２．１－７関連資料

①　新聞に掲載された内容の見出し

・総社の魅力 PR 観光ポスター展（山陽新聞 4/17）

・総社市広報誌地域に県大 PR　学生がコーナー担当（山陽新聞 5/3）

・もてなしの心大切に　県立大フォーラム中野裕弓さん講演（山陽新聞 5/30）

・総社市役所に展示コーナー　県立大への関心深めて（山陽新聞 6/3）
・先端産業を支えるめっき技術 Mg めっき産学官連携で実用化（日刊工業新聞 6/17）
・県庁舎華やかに県大生ら「アート回廊」始まる　織物や布地で飾り付け（山陽新聞 6/18）
・共同研究など連携確認　総社市長と県立大学長意見交換会始まる（山陽新聞 6/27）
・法人化１周年　１３日に記念催し　県立大、講演や演奏（山陽新聞 7/3）
・演劇で食育訴え　県立大保健福祉学部 3 学科が連携（山陽新聞 7/7）
・研究者 11 人に助成　岡山工学振興会が贈呈式（山陽新聞 7/9　大西准教授）
・小型酸素濃縮器を開発　重さ従来品の半分以下（山陽新聞 7/9　奥野教授）
・県立大生と総社の精神障害者らカフェで相互理解ダンスやゲーム楽しむ（山陽新聞 7/12）
・県立大法人化１周年「遺伝子は可能性広げる」（山陽新聞 7/15）
・３金融機関と協定　岡山県立大　産学官連携を推進（山陽新聞 7/25）
・県立大が包括協定　中国銀・トマト銀・おかやま信金　独自色活用に初（岡山日日 7/29）
・県立大教授らがビジネス相談　トマト銀行で（毎日新聞 8/8）
・聞き上手の「ペコッぱ」岡山県立大・渡辺教授ら玩具開発（山陽新聞 8/24）
・振り込め詐欺 CM で防止！県と共同　ケーブル TV など放映（山陽新聞 9/7）
・岡山県立大児玉准教授　北京五輪併催アート展出品（山陽新聞 9/25）
・佐々木教授　電子情報学会の賞受賞　LSI 安定化など評価（山陽新聞 10/9）
・井原線ごんぼうバーガー発車　５駅で１月から（山陽新聞 11/9）
・岡山市文化奨励賞　芸術南川さん（山陽新聞 11/18）
・「うなずき理論」研究３０年　千人の顔つぶさに観察　渡辺富夫さん（朝日新聞 11/24）
・総社観光ポスター私が提案　県立大生の８点審査（山陽新聞 1/30）
・１００社訪問達成　１２件共同研究実現　参加者拡充して継続へ（山陽新聞 2/11）
・ 地元企業訪問キャラバン　100 社達成意欲新た「これからも交流深める」（日日新聞 2/12）
・地域貢献など県立大生表彰　総社市奨励賞（山陽新聞 2/19）

② ラジオ・テレビで発信した内容等

・RSK ラジオ「朝丸ステーション 1494」、FM くらしき「ホットイブニング」、KCT で「OPU フォーラム 2008」の紹介（5 月）・KCT でフォーラム講演会「ホスピタリティーマインド」
・RSK ラジオ「朝丸ステーション 1494　体にいい話」へ電話出演（山下広美准教授 7/10）
・OHK「温時間」で「酢を使ったメタボ対策レシピ」の紹介（山下広美准教授、7～12 月）
・NHK「ためしてガッテン」で「低カロリーダイエット　失敗と成功の分岐点」（1/21）
・各社ニュース番組にて「１００社訪問キャラバン隊」の様子インタビュー等（2/10）
・KCT「産学官連携健康増進レシピの開発」

③ 情報誌に掲載された内容等

・ビジネス相談会 10 社が来訪　トマト銀と県立大（岡山財界 9 月号）
・「特集　疲労回復・食欲増進　夏を乗り切る、酢の健康レシピ」（山陽新聞ﾘﾋﾞﾝｸﾞｶﾞｲﾄﾞ 8 月号）
・総社市広報誌へ本学の学科紹介、イベント紹介等毎月掲載
・総社商工会議所会報へ高島客員教授執筆「吉備の国・再発見」が毎号掲載
・中国地域産学官連携功労者表彰事例集へプレゼン資料「アクティブ・ラボによるソリューション提案型共同研究の推進」が掲載
・１００社訪問キャラバン隊１００社達成（岡山財界３月号、岡山商工会議所会報）

④　資料の作成・配布

・OPU フォーラム 2008 のリーフレット、ポスター、要旨集、看板、パネル等（5 月）
・OPU フォーラム 2008 の特別講演会 DVD を希望者へ配布
・中国地域産学官連携功労者表彰式プレゼン用パワーポイント資料作成（7 月佐野推進員）
・第 65 回水島ソシエ（8 月）、おかやまコーディネータ連絡協議会（1 月）、岡山県中小企業支援制度説明会（2 月）で行った説明会資料「本学の概要と産学官連携の取り組み」のパワーポイント資料作成（奥野忠秀教授）
・教員の専門分野・研究内容紹介パンフレット（平成 20 年度版）
・アクティブ･キャンパス「商品力強化実践塾」の案内チラシ（10 月）
・産学官連携推進センターのホームページをリニューアル（2 月）

⑤　その他の情報発信

・アクティブ･ラボ（講演）によるシーズ発信
・おかやま産学官ネットのホームページ、OPTIC　NEWS などで幅広く随時情報提供
・100 社訪問キャラバン隊等企業へ出向き PR
・中国地域産学官コラボレーション会議（下関市）でのパネル展示、資料配布（7/17,18）
・岡山リサーチパーク夏休みおもしろ体験デーにて展示体験コーナー出展（7/25,26）
・鳥取県産業デザインフォーラムの講師仲介（7/11,8/21）
・デザイン学部の見学へ鳥取県産業技術センターより４名来学（9/29）
・ベンチャープラザ岡山 2008（コンベックス岡山）デザイン診療所で相談対応（11/28）
・ベンチャープラザ岡山 2008 にて本学教員（上田香助手）が審査員特別賞受賞（11/28）
・総社商工会議所レディースの会会員参加の「産学官連携健康増進レシピ」検討会議での講演（栄養学科　山下広美准教授）
・総社商工会議所レディースの会と岡山県立大学栄養学科教員による「産学官連携健康増進レシピ」の完成披露会（栄養学科　川上貴代講師、比江森美樹助教）
・天満屋リブ総社店でヤマザキパン・紀文・カルピスと岡山県立大学の共同企画「パンのある朝」の CM とレシピを PR（3/20~22）

【日常的に実施した情報発信例】

岡山県庁の「アート回廊」（6 月 17 日～29 日）

トマト銀行産学金ビジネス相談会

「デザイン診療所」

「ビジネスプランコンテスト表彰式」

【ベンチャープラザ岡山 2008】

産学官連携健康増進レシピ開発会議

(16)　日常的に実施した情報発信　２．１－７（１）②関連資料

産学官連携推進センターでは本年度ホームページのリニューアルを行った。大学側の研究者一覧（地域共同研究機構パンフレット　教員の専門と研究内容一覧と同じ内容）でシーズを提供すること、また、企業側への支援メニューをわかりやすく発信することを目的とした。

共同研究・受託研究に至るまでの流れを紹介し、各種規定や申請書をダウンロードできるしくみを取り入れた。また、参考のため過去の産学官連携による実績を公開した。

【主な内容】
・支援内容
・主な事業
・お知らせ
・支援の流れ
・過去の実績
・共同研究・受託研究の申し込み
・所属研究者一覧
・関連行事
・領域・研究プロジェクト
・スタッフ紹介
・コーディネータの活動記録
・高島客員教授コラム
・リンク集

産学官連携推進センターＨＰのトップページ

（２）平成２０年度に学内に発信した「産学官連携推進メールマガジン」の内容

号（発信日）	内　　　容
22 号（4/1）	(1)OPU フォーラム 2008 (2)岡山工学振興会の研究助成 (3)100 社訪問キャラバン隊（コンテンツ㈱）
23 号（5/8）	(1) OPU フォーラム 2008 (2) JST「産学共同イノベーション化事業」 (3)100 社訪問キャラバン隊（(有)田中鉄工所、(有)金光シェル工業）
24 号（5/25）	OPU フォーラム 2008 特集号
25 号（7/3）	(1)OPU フォーラム 2008(報告) (2)中国地域産学官連携功労者表彰 (3)ロボットテクノロジー講演会 (4)100 社訪問キャラバン隊（キョードー㈱、ゼノー工具㈱）
26 号（8/11）	(1)民間研究資金(２件) (2)中国地域産総研セミナー (3)100 社訪問キャラバン隊（西部技術コンサルタント㈱） (4)おかやま産学官ネット
27 号（10/8）	(1)科学研究費補助金 (2)岡山リサーチパーク研究・展示発表会テーマ募集 (3)アクティブキャンパス「商品力強化実践塾」

28 号（10/21）	(1)競争的研究資金情報（３件） (2)半導体ネットおかやま (3)岡山大学知恵の見本市 (4)おかやまロボット研究会 (5)OUS フォーラム (6)100 社訪問キャラバン隊（エヌエスシイ㈱）
29 号（12/8）	(1)競争的研究資金情報（２件） (2)半導体ネットおかやま (3)岡山リサーチパーク研究・展示発表会
30 号（1/5）	シーズ発掘試験(JST)（予告）
31 号（1/19）	(1)シーズ発掘試験 (2)特別電源所在県科学技術振興事業 (3) OPU フォーラム 2009 テーマ募集 (4)平成２１年度アクティブキャンパス
32 号（1/26）	(1)シーズ発掘試験(詳細) (2)特別電源所在県科学技術振興事業(詳細) (3)100 社訪問キャラバン隊（カーツ㈱）
33 号（2/26）	「領域・研究プロジェクト」の学内募集
34 号（3/11）	(1) 競争的研究資金情報（4 件） (2) 学内特別研究費 (3) 新年度からの共同研究等の申請について

(注)同一内容での再掲分は省く。

２．２　保健福祉推進センター

２．２－１　概要
２．２－２　 第７回晴れの国鬼ノ城シンポジウム
２．２－３　各種研究会活動
２．２－４　保育ステップアップ講座
２．２－５　健康スポーツ支援
２．２－６　一日保健福祉推進センター
２．２－７　講師派遣
２．２－８　現状と今後の課題
２．２－９　資料

２．２－１　概要

設置後７年を経て、保健福祉推進センターは充実と共に変化の時期を迎えていると見る事ができる。すなわち、当初強く指向した専門職支援から、現状の機能はより参加者のニーズ（①実践的・臨床的ニーズ、②研究的ニーズ）に対応した運営がなされ、時期を得た課題への対応や研究成果の報告等がなされてきている。平成 20 年度の主な活動内容は次のとおりである。

今年度の『鬼ノ城シンポジウム』は、「食卓を守る　―食の安全と安心―」をテーマに、10 月 4 日に本学で開催された。折しも食品の偽装、毒物混入等の問題が相次いで起こり、時機に合ったテーマ設定となっている。８つの研究会活動と保育ステップアップ講座は、今年もそれぞれ独自の活発な取り組みを行い、県内の保健福祉現場の第一線で活躍している専門職の方々の学術的支援を行った。また例年どおり、健康スポーツ支援として鬼ノ城グラウンド・ゴルフ大会等を主催し、多数の参加者を得た。一日保健福祉推進センターは、久米郡美咲町および苫田郡鏡野町において、地域との共催により開催された。

２．２－２　第７回晴れの国鬼ノ城シンポジウム

（１）今年度の目標

本シンポジウムは、地域貢献の一環として県民の健康づくり・福祉増進に資することを目的として、保健福祉推進センターが毎年実施している主事業の一つである。年に一度ということもあり、そのときの社会のニーズに合わせて課題を設定し、関連分野の専門家による基調講演と本学教員・一般住民も加わったパネルディスカッションの構成で進めている。

今年度は『食卓を守る　―食の安全と安心―』をテーマとしたシンポジウムを実施した。現在、日本は、食品の偽装、毒物混入、BSE 及び鳥インフルエンザウイルスなど“食品の安全性の確保”の問題で大きく揺れている。その根底には低い食糧の国内自給率(40 %)に要因があると言われているが、これに付随した数々の問題が複雑に交錯していることも大きな原因になっている。本シンポジウムにおいては、基調講演から「食糧の生産・流通において、どのようにリスク管理がされ、我々消費者に供給されているか」の実際を学ぶことができるようにした。また、本シンポジウムに聴講者全員が参加できるようパネルディスカッションのテーマは聴講者からの質問を受けてから選定するなどの工夫を凝らした。このように、本シンポジウムでは、これからの食生活の中で私たちが食卓を守るためにどうすべきかを皆で考えて、それぞれの立場で少しでも実行に移せる(行動変容できる)ように意識改革することを目標として企画した。

（２）実績

日　時　平成 20 年 10 月 4 日(土) 13:00~16:10

場　所　岡山県立大学講堂

参加者　250 名

内　容　資料編参照

① 基調講演１　食品安全と消費者のリスク知覚

京都大学大学院農学研究科教授　新山　陽子氏

要旨：大規模な食品事故は日本だけでなく世界的に頻発し、先進国では食品安全確保が国家的な課題となっている。そのような事態に対処するために、1990 年代以降、食品安全に対する考え方は大きく変わった。

食品安全対策の新しい考え方は、科学者や行政の専門家により科学的なデータにもとづき健康保護措置を立案し、すべての関係者の間の充分な情報の共有と意見交換にもとづいて採用する措置を決定するというものである。

かつては食品にふくまれる危害因子をゼロにできると考えて対策がとられていたが、大規模な食品事故の経験から、危害因子は完全に排除できないと認識されるようになった。たとえば、微生物は人間や家畜の体表や口腔、腸内に、また、環境中に常在している。病原性の微生物であれ完全な排除は難しい。また、突然変異など予測できない危害因子の発生、微量の化学物質の長期的蓄積の影響など科学的な知見が不足することもある。人間がミスを犯すことも避けられない(ヒューマンエラー)。

さらに、微生物であれ化学物質であれ、危害をおよぼすかどうかは程度による(摂取する量とその作用の関係に依存する)と認識されるようになった。また、農薬や食品保存料のように、一定量であれば便益をもたらすが、一定量をこえると危害が発生するものも多い(便益と危害のトレードオフ)。

このように考えたとき、危害因子や物質は「あり」「なし」ではなく、その量的度合いと健康へ与える悪影響の程度が問題になる。しかも将来の発生可能性に備えることが必要である。そこで「リスク」という確率の考え方を使い、健康に悪影響が起こる可能性の度合いを予測し、それを社会的に許容できる範囲内に抑えることをめざすようになった。このようなリスクの管理の枠組みを「リスクアナリシス」と呼ぶ。

ただし、専門家と市民のリスクの知覚には大きな差がある。専門家の知覚は科学的に推定されたリスクに近く、市民の知覚は複雑な要因の影響を受ける。調査結果をもとに市民のリスクの知覚の特徴が紹介する。食品安全確保をスムーズに

進めるには、このようなリスクの知覚の差を埋めるコミュニケーションが重要である。

② 基調講演２　　　生鮮ブランド“フードプラン”と食の安全

生活協同組合コープこうべ　商品開発室フードプラン統括　広田　大介氏

要旨：Ⅰ．　食を取り巻く状況、生活者の暮らしと意識の変化

食の安全性が揺らいでいる一つの要因には、食を取り巻く環境が急激に変化していることが挙げられる。例えば、昔は少なくとも朝食、夕食には家族全員が揃って食卓を囲んでいた風景が常であったが、今はそのことが珍しいことになってきている。これは子どもも含めた生活者の暮らしが忙しくなっていることに起因する。それと同時に家族構成も変化し、１世帯あたりの人数はどんどん下がってきており、地域によって異なるが、平均で３を切っている。これは商品政策、供給政策に多大な影響を及ぼす。生活者が忙しく、核家族が増えてくると、おのずと家庭での調理時間も少なく、親から子への調理技術の伝播や食文化の継承が希薄にならざるをえない状態である。こうした状況は、さらに加工食品や冷凍食品の普及を加速し、食品素材と同時に調理加工工程ならびに保存技術上の安全管理が必要となる。一方では、生鮮食品に関しては、国内農産物への期待が大きく、生産現場がその期待に応えるべく努力している。このように、生活者の心理の変化に対応する商品作りと「安心づくり」の工夫の必要性が謳われ、各流通の「生鮮ブランド」の磨き上げ競争が始まっている。

Ⅱ．　農業の捉え方

農業はお気楽な「自然志向」では割り切れず、厳しい生産現場の現実がある。生産者と生活者間の相互理解の水位を上げ、気持ちをこめた「買い支え」のムーブメントづくりが必要である。現場は植生、土壌、労働環境、病害虫制御から見ても、厳しい管理が求められる「食品工場」といえるのでは？その期待に応えられる「説明責任」を果たす力が求められる。

Ⅲ．　生鮮ブランド構築の基準

こうした厳しい農業の世界にも確かなものづくりの規範が必要になり、HACCPやISOの規範を下敷きとするフードプランの管理規範ができている。

従来のフードプランは、入口管理(計画審査)、出口管理(製品サンプリング)という検査中心の管理手法を主にしていたが、事故はなくならず、事故は現場で起きていることがよく分かる。そこで、「マネジメントシステム」という管理の手法で、農場の現場も管理していきたいというのが現在のフードプランである。

具体的には、全工程の危害分析をもとに、事故を減らすための「管理計画」を

作成し、産地団体が自らその執行・問題点発見ができるよう、内部監査を実施し、次年度への是正措置を決定する。これがPDCAサイクル(Plan-Do-Check-Action)である。

コープこうべでは、健全なPDCAサイクルが回っている産地と戦略的な協働関係をつくり、組合員と一緒になって、「購買行動＝買い支え」を通してブランド育成を図っている。

③パネルディスカッション

パネリスト　新山陽子氏
広田大介氏
佐藤久子氏(岡山県消費生活問題研究協議会会長)
司　　会　岸本妙子(岡山県立大学教授)

会場の参加者に二題の基調講演に関しての質問を募り、各講師からの返答を皮切りにディスカッションを開始した。内容は資料編参照。

（3）評価と来年度の課題

時機にあったテーマの設定により多数の参加者が見込まれたが、予想に反して参加者は250名と少なかった。そのうち、75％が学生(多くは本学の)であり、近隣住民の参加者が少なかった点は反省すべきことである。シンポジウムの開催にあたっては、選定するテーマとともに開催日の設定が参加者数に大きく影響することを肝に銘じて、これを来年度の課題とすべきである。

アンケート結果によれば、本シンポジウムの基調講演の人気は特に高く、全ての参加者に満足感を与えていることが明らかになった。さらに、将来「食の専門家」を目指す本学栄養学科の学生にとっては、有意義な教育講演になった。

２．２－３　各種研究会活動

（1）地域看護学研究会

①　今年度の目標

地域看護学研究会は、本学看護学科卒業生のみでなく、県内で活躍する保健師等のために研究や実践活動への示唆を得る場を提供している。これまで地域看護活動の理論と実際、研究論文の論読、研究計画書の作成等について学習してきた。今年度は、昨年度に引き続き、効果的な特定保健指導のすすめ方について、保健指導のスキルアップのための研修、統計を活用した実践の検証等、地域看護活動の実践と研究に取り組んだ。

② 実績

ア　第1回研究会

日　時：平成20年6月14日(土)　10:00〜12:00

参加者：28人(岡山県立大学アクティブキャンパスと共催)

テーマ：話題提供　特定保健指導の効果と課題〜早島町ヘルスアップ事業から〜

講　　話　特定保健指導の効果判定に必要な統計学的視点

講　師：話題提供　福原弘子（早島町町民生活課係長)、富田早苗

講　　話　矢嶋裕樹　(保健福祉学部非常勤講師)

内　容：今年度からスタートする特定保健指導について、昨年のモデル地域で実施した効果と課題について話題提供した。どの市町村も保健指導の企画段階であり、事業評価は重要であると認識されているため、モデル地域での効果と課題には関心が高かった。モデル地域では、積極的支援での体重減少等の効果はみられたが、個人面接のみの動機づけ支援では効果を確認できず、保健指導のスキルアッの必要性等も示唆された。

イ　第2回研究会

日　時：平成20年7月19日(土)

10:00〜12:00

参加者：11人

テーマ：現場の研究に活かそう〜問題意識・関心から研究へ〜

講　師：岡山県立大学保健福祉学部看護学科教授　二宮一枝

内　容：現場で研究を進めていくための第一歩として、文献検討の仕方、研究計画の立案等について意見交換を行った。修士学生の参考文献を元に、論文の読み方、クリティークについても考察を深めた。

ウ　第3回研究会

日　時：平成20年8月23日(土)　13:00〜16:30

参加者：43人(岡山県立大学アクティブキャンパスと共催)

テーマ：コーチング研修「特定保健指導でのコミュニケーションスキルアップ」

講　師：日本コーチ協会岡山チャプター　小野友之、三谷良子、須貝紘子

内　容：特定保健指導を実施していく上で、対象者の行動変容を促すスキルとしてコーチングが注目されている。第1回の課題を踏まえて、保健指導のスキルアップのためコーチング研修を実施した。コーチングとは、対話をとおして、相手にとって望ましい行動の絵(映像)を描き、具体的な行動を引き出していく技術で

あり、答えは相手の中にあることを、実際に演習を通して実感することができた。

エ　第4回研究会

日　時：平成21年2月14日(土)　10:00～12:00

参加者：11人(岡山県立大学アクティブキャンパスと共催)

テーマ：論文紹介　「Employee empowerment,innovative behavior and job productivity of public health nurses:A cross-sectional questionnaire survey」

提供者・講師　山野井尚美　(岡山県立大学大学院)・英文解説　沼本健二

③　評価と来年度の課題

昨年度から継続実施している「効果的な特定保健指導のすすめ方」について、モデル地域の実例をもとに、保健指導評価の基礎のスキルアップに貢献できたと考える。今後は、保健師等が現場の課題を研究に活かせるよう、研究会としての役割を担いたい。

（２）ホスピスケア研究会

①　今年度の目標

研究会の発足の趣旨として、１）ホスピスケアの理念に基づいたケアのあり方を学習する。２）対象者（患者・家族）に対して質の高い終末期ケアが提供できるようケアの改善を図ることができる。３）他職種との情報交換を通して対象の持つニーズについて理解を深める事ができると共に、チームアプローチを図っていく上で役立つことができる。を掲げている。その趣旨にのっとり会員の主体的参加のもとに研究会活動を行う。会員は、臨床や教育機関で働く看護師や医療ソーシャルワーカなどで構成され、今年度は事例検討や研究発表など全６回の研究会を実施する。

② 実績

第１回研究会

日時　平成 20 年６月 21 日（土）　14:00～16:00

場所　保健福祉学部棟　6413 号室

参加者　５名

内容　１）メンバーの自己紹介

２）今年度の活動予定

３）ホスピスケアについて　講師　掛橋　千賀子（本学）

メンバーの自己紹介、今年度の活動予定について検討後、ホスピス、緩和ケアの基本的な考え方、近代ホスピス運動のはじまり、ホスピスケア病棟の実際などについて講義があった。その後、ホスピスへ転院するギアチェンジのタイミングの難しさや最期まで治療を臨んだ事例の紹介などの話題提供があり、がん患者さんの闘病意欲の強さや最期をどこで迎えたいのかなどの意向を入院時から聞いておくことが大事であるということなどが話し合われた。また各自が健康なときより死について考えることができるような啓蒙活動や死の準備教育の必要性など、時間をオーバーする程のディスカッションとなった。

第２回研究会

日時　平成 20 年８月 23 日（土）　14:00～16:00

場所　保健福祉学部棟　6413 号室

参加者　12 名

内容　話題提供「脊椎転移により易骨折性であった患者の安静についての一考察」　話題提供者　岡山大学病院　看護師

肺がんが原発で、胃・肝・多発性骨転移、余命わずかな 40 歳代の男性の事例を基に、骨転移患者に対する安静度の考え方やケア方法、より良い死を迎えてもらうにはどういう看護介入が必要であったのかを検討した。活発なディスカッションから、看護ケアのあり方や他職種との連携、デスカンファレンスの必要性など多くの振り返りができた。

第３回研究会

日時　平成 20 年 10 月 18 日（土）　14:00～17:00

場所　岡山大学医学部保健学科３階　301 講義室

参加者　希望者

内容　「がん化学療法における看護師の役割」　講演者　癌研有明病院　外来

治療センター副看護師長　がん看護専門看護師　川地　加奈子氏

今回は、岡山大学で行われた特別講演をホスピスケア研究会と兼ねた。講演内容は１．わが国の外来化学療法における看護実践の現状、２．有明病院の概要（外来治療センター：ATC：ambulatory therapy Center)、３．副作用のアセスメントとケア、４．セルフケア支援の患者教育についてであった。また外来化学療法における課題として、限られた時間・資源の中での効率よいケアシステムの整備・強化の必要性、急性症状や副作用に対するアセスメントとケアの重要性、またパートナーシップに基づく患者・家族の主体的な治療への参加促進といったセルフケア支援の必要性などが講演された。外来がん化学療法に急激にシフトし多くの課題がある中での実践的なケア紹介から多くの学びがあった。

第４回研究会

日時　平成 20 年 12 月 20 日（土）　14:00～17:00

場所　保健福祉学部棟　6413 号室

参加者　７名

内容　「治療過程に在る初発乳がん患者の心理的状況と QOL　－患者への面接と質問紙調査から－」　話題提供者　若崎　淳子（会員）

乳がん患者の QOL 向上に向け、治療過程に在る初発乳がん患者の心理状況に基づいた看護援助の手がかりを得ることを目的に実施された一連の研究紹介があった。研究成果から乳がんの患者のレジリエンスの特性や他のがん患者の前向きさなどについてディスカッションが深まっていった。さらにアウシュビッツの収容所で生き延びた人々の例や岸本英夫の「生と死」の手記などの幅広い観点から肯定的未来志向に関する有意義なディスカッションを行うことができた。また前向きさを支援していくための看護援助についても話し合うことが出来た。

第５回研究会予定

日時　平成 21 年２月 21 日（土）　14：00～17：00

内容　「緩和ケアの現場から」話題提供者　緩和ケア病棟看護師

第６回研究会予定

日時　平成 21 年４月 18 日（土）　14：00～17：00

内容　「外来がん化学療法に対する患者・家族・看護師の思い」　話題提供者

若崎淳子（会員）、掛橋千賀子（本学）

③　評価と来年度の課題

今年度は予定どおり隔月に 6 回研究会を開催することが出来た。参加者は 10 名程度で、メンバーが大体固定してきているが、職種や勤務する施設が違うことにより情報や意見交換が活発に行いやすく少人数の研究会ならではのメリットがあるので継続していきたい。また、より系統的な学びに繋がるよう統一した年間のテーマを定め、事例検討や講演などを企画したい。

（3）看護技術研究会

①　今年度の目標

根拠ある看護実践の確立を目指して平成16年6月に発足した本研究会も今年で 5 年目を迎えた。岡山県下の病院や介護施設などの看護実践現場と教育研究機関の有機的な連携が図れるよう毎月 1 回の定例会による活動を行っている。目標は以下に示すとおりである。

ア　看護技術に関して個々の技術の問題点を探る。

イ　個々の看護技術に関する Evidence について文献等を検討する。

ウ　Evidence の検証や新しい Evidence の確立を目指し研究、公開する。

②　活動実績

研究会活動は毎月第２土曜日の午前に行っている。平成 20 年度は以下に示す活動を行った。

ア　平成 20 年 4 月 12 日（土）　参加人数 23 名

教育講演会を開催した。会場は、岡山県総合福祉・ボランティア・NPO 会館「きらめきプラザ」２階、岡山県ボランティア・NPO センター「ゆうあいセンター」であり、午前 10 時から 12 時までであった。

教育講演テーマ：「看護療法としての気功－その可能性を模索する－」

講師：定方美恵子先生（新潟大学医学部保健学科准教授）

内容:補完代替療法の看護実践への活用に関する Evidence の現状と研究としての取り組み、気功とは何か、看護療法としての気功、看護技術研究の方向性についての講演ならびに気功の実演を通して、気功の看護療法への活用の可能性について討論を行った。全国的に先駆けて行われている新潟大学での看護療法に関する教育についての具体的な取り組みの実際や西洋医学と東洋医学の考え方を看護にどのように取り入れたらよいかについて話題となった。最近では、

患者が代替療法を主体的に取り入れている現状があり、看護職は西洋・東洋の両方の考え方について常に情報収集し、患者にとっての健康に対する良きアドバイザーになれるようにしたい。また看護療法としての可能性については、Evidence を明確にしていくための研究とその蓄積による看護技術の構築の必要性を中心に討論を行った。

イ　平成 20 年 5 月 10 日（土）10:00～12:00　参加人数 18 名
テーマ：１．緩和ケアについて
２．岡山済生会病院　緩和ケア病棟の紹介
３．研究発表「がん患者のオピオイドに対する思い」
発表者：畠尚子（岡山済生会総合病院）
内容：最初に、ホスピス・緩和ケアの歴史や緩和ケアの定義などについての説明があり、次に岡山済生会病院の緩和ケア病棟の概要やケアの実際について紹介された。研究発表では、疼痛緩和を図るために使用しているオピオイドに対する患者の思いを明らかにする目的で行ったインタビューの結果が紹介された。患者は、オピオイドの使用に対し、葛藤や不安、悪いイメージを持ちつつも、使用することを覚悟したり、苦痛があるから仕方ないと言い聞かせたりしながら自己決定していた。看護師は、オピオイドに対する正しい知識を深め、患者に情報提供すること、不安を持ち葛藤している患者を支え、精神的サポートをしながら意思決定のプロセスを共に歩んでいくことが重要である。発表後の質疑応答で、オピオイドの使用基準や薬剤以外のケアの実際、看護師のストレスなどが話題となった。

ウ　平成 20 年 6 月 14 日（土）10:00～12:00　参加人数 18 名
テーマ：整形外科術後患者の疼痛軽減に視点をおいた睡眠援助
発表者：山崎由美、船橋鮎美、山本小百合、氏平陽平（岡山赤十字病院）
内容：昨年からの継続研究である。前回の研究で、術後の疼痛と体動制限が睡眠障害に関連した因子として明らかになったため、今回の研究では、術後の疼痛軽減を図ることが良質な睡眠に繋がるかを検討した。疼痛に関するチェック表や OSA 睡眠調査票を用いて調査した結果、術後の痛みと睡眠の質との関連が明確化するには至らなかった。しかし、結果から、人工関節の手術をした人は痛みが強いことや体位変換など体動との関連、年齢による傾向、痛みの緩和のためのケア（例えば、冷罨法やマッサージなど）よりも鎮痛剤の投与による影響が大きいことなどがわかった。意見交換では、対象の疾患をある程度限定し

て調査してはどうかという意見や、鎮痛剤の投与に関する医師と看護師の認識、痛みの評価のし方、日常生活リズムやイベントとの関連などに関する質問や意見があった。今後、計画書を見直し、プレテストを実施後に本調査を行うことになった。

エ　平成 20 年 7 月 12 日（土）10:00～12:00　参加人数 19 名
テーマ：胃ろう増設術を受けた患者の家族の心理的変化
発表者：松村優子、菅沼敦子（赤磐医師会病院）
内容：医療技術の進歩や高齢化により、胃ろう増設術（PEG）を受ける患者が増加している。対象者は高齢者が多く、PEG 実施の最終的な判断は家族に委ねられる場合が多い。ここでは、実施に関する家族の心情を明らかにすることを目的に６名の家族にインタビューを行い、その結果が発表された。研究の結果、PEG 実施に際して家族は、患者に代わって決定することの重責感を持ち、かつ実施するかどうかを悩みながら決定に至っていた。実施後は、安堵感が出現する反面、患者にとって本当に良かったかを悩み、葛藤を抱いていた。また、PEG 実施による患者と家族の今後の生活への不安が出現することが明確になった。意見交換では、患者の背景による家族の心情の違いや医師の認識、看護ケアの実際に関する質問などがあった。本研究は、学会発表の予定があったため、パワーポイントの内容や発表の仕方なども検討をした。

オ　平成 20 年 9 月 27 日（土）13:00～16:20　参加人数 26 名
テーマ：ハンドマッサージを科学する
発表者：村上生美（岡山県立大学保健福祉学部看護学科）
内容：平成 20 年度岡山県立大学公開講座（テーマ：健康で楽しく長生き）と振り替えて実施した。ハンドマッサージの概略について 30 分間の講義の後、基礎看護学実習室に移動し、受講生２人１組のペアになり、ハンドマッサージの演習を２時間行った。効果を測定するために、測定してもらった側の人の脈拍の変化と主観的評価のデータを収集した。また、受講者のうち１名の手掌の表面温度の変化をサーモグラフィーで測定した。演習後は、脈拍、主観的評価の集計結果をグラフで示し、サーモグラフィーによる温度変化を画像で提示した。その結果、ハンドマッサージの効果として快の感情が得られることや末梢循環の促進に関する効果が示唆された。その後の意見交換では、「気持ちよかった」「実際に家族や病人にしてあげたい」など、実体験をもとに日常生活で活用できるケアとして認識され、講座参加への満足感も高かった。

カ　平成 20 年 10 月 11 日（土）10：00～12：00　参加人数 19 名
テーマ：術後の下肢挙上が静脈還流に及ぼす影響
発表者：徳永敦子（岡山市立市民病院）
内容：下肢骨折時や膝・股関節などの手術後、牽引時に下肢の腫脹や深部静脈血栓の予防などを目的に患肢挙上を行っている。挙上には、毛布を三つ折にして使用しているが、その効果は明確ではない。そこで、ケアを検証するための基礎的データを得る目的で、健常者における下肢挙上と下腿静脈径の関連および下肢挙上との関連を明確化する目的で研究計画書を作成し、その内容を検討した。討議では、臨床での実際のケアを検証する際の条件設定の方法や測定器具、プロトコールの詳細などについて議論した。プレテスト後に日勤終了後の看護師を対象とした実験を行い、次年度に患者を対象とした実験を行うことになった。

キ　平成 21 年 1 月 10 日（土）10：00～12：00　参加人数 14 名
テーマ：基礎看護学実習における受け持ち患者の言語障害・認知症の有無によるコミュニケーションの到達度
発表者：奥山真由美（岡山県立大学保健福祉学部看護学科）
内容:平成 20 年 12 月 13,14 日に福岡市で開催された第 28 回日本看護科学学会学術集会で発表した内容を再度検討し､研究論文の作成に向けた検討を行った。研究目的は、基礎看護学実習において受け持ち患者の言語障害と認知症の有無による学生のコミュニケーションの到達状況を明らかにすることである。平成 16～19 年度の本学看護学科 1 年次生のうち 99 名を分析対象とした。言語障害・認知症のある患者を受け持った学生は 27 名、受け持たなかった学生は 72 名であった。言語障害の患者を受け持った学生の到達度は、傾聴・情報収集の多くの項目で到達度が低く、認知症を受け持った学生は､「病気に対する考えや理解を聴く」で到達度が低かった。しかし両者とも「体をさするなどの非言語的コミュニケーションの活用」の到達度が高く、言語以外の方法を活用して対象に接近しようとする姿勢がうかがえた。意見交換では、難聴の患者を受け持った場合について検討した方がよかったのではないかという意見や、模擬患者を活用した演習のあり方、考察の仕方、今後の研究の進め方について議論した。

ク　平成 21 年 2 月 14 日（土）10：00～12：00　参加人数 15 名
テーマ：中・高齢者にある高血圧患者の入浴が循環動態に及ぼす影響
発表者：肥後すみ子（岡山県立大学保健福祉学部看護学科）

内容：中・高齢者にある高血圧患者の入浴による循環動態を検討する目的で 50 代以上の地域在住の高血圧と診断されているか正常高値血圧の人 13 名と健常者 19 名を対象に、入浴実験による循環動態の変化を検討した。測定は、心電図、SP0２、血圧、脈拍、体温、自律神経活動の評価を行った。その結果、収縮期血圧と拡張期血圧の変動率、体温は高血圧群の方が健常群に比べて有意に高く、特に第１回目の入湯時に高かった。また、LF/HF 成分の推移と期外収縮の発生回数からも１回目の入湯時に循環動態への影響が大きいことが示された。また、高血圧群では、洗体後と入浴終了後に血圧の変動が大きかった。これらのことから、高血圧のある人の入浴による循環動態への影響が示唆され、今後より安全な入浴方法を検討していく必要性が示された。発表後の質疑応答では、高血圧の人の内服や湯温の違いによる影響や 24 時間のなかでのバイオリズムとの関連性などが話題となった。今後の研究の方向性として、患者の好みの湯温で入浴した場合と 40℃の湯温で入浴した場合の影響を検討してはどうかという意見があった。先行研究では、高血圧患者の安全な入浴方法については十分に明確化されていないことからも、研究を続けていくことは意義深いという結論に至った。

③　評価と来年度の課題

教育講演会の開催をはじめ、臨床現場で活躍している看護師の院内研究に関する計画立案、実施、結果の発表、論文作成に向けての支援、あるいは本学教員によって行われている研究の公開などを行うことができ、今年度における目標は概ね達成できたと思われる。次年度の課題は、本研究会は発足から５年目を迎えたので、会の運営などについて総合的な評価を行う時期がきたといえる。

（４）リスクマネジメント研究会

①　今年度の目標

リスクマネジメント研究会は、医療施設の専任リスクマネジャーと看護管理者及び実践家、看護教育機関の教育者及び研究者で構成されている。

今年度は、A 県内 B 病院の協力を得、平成 20 年に報告された６ヶ月分のイン

シデントレポートを分析対象とし、事故が重大事故に至らなかった背景要因を分析し、事故防止の原理を探索することを目標として活動を行っている。研究会は、医療現場で起こっているリスクマネジメントに関する諸問題を、事故当事者となった看護師へのサポートに視点を据えて、平成 11 年度から研究活動を行っている。平成 １９年度は、医療事故当事者（看護師）サポートの可能性を追求した基礎的研究の結果を医療システムの 3 つの視点から分析し、第 38 回日本看護学会（看護管理）にて発表した。今年度はその成果をもとに、事故発生防止構造の解明と、レポートを分析対象とする方法論の開発をもめざしている。

② 実績

ア 参加者：リスクマネジャー、病棟師長、看護師、看護教育者、大学院生等

イ 活動場所：出石コミュニティ（岡山市幸町）

ウ 活動頻度： 定例研究会；毎月 1 回 18：00～21：00、
集中・臨時検討会；今年度 8 回（不定期）

定例研究会の日程と活動内容

日程	参加人数	活動内容
4/14(月)	8 人	活動計画の検討。インシデントレポートの分析方法と分析結果の活用方法について。
5/12(月)	6 人	インシデントモデルケース 3 事例について研究者間討議。データ入力（処理）ソフトの検討
6/9(月)	7 人	インシデントモデルケース 3 事例について研究者間討議。データ入力（処理）ソフトの改良と試行
7/14(月)	6 人	A 県内 B 病院の協力を得るための倫理審査準備
8/25(月)	7 人	倫理審査の結果報告。研究方法とスケジュールの検討
9/29(月)	8 人	B 病院インシデントレポート 35 事例(1 ヶ月分)の分析
10/20(月)	9 人	
11/10(月)	8 人	B 病院インシデントレポート 34 事例(1 ヶ月分)の分析
12/8(月)	8 人	B 病院インシデントレポート 44 事例(1 ヶ月分)の分析、第 3 回医療の質・安全学会での参加・発表報告
1/26(月)	6 人	12 月に検討した B 病院インシデントレポート 44 事例(1 ヶ月分)の分析の継続

2/23(月）		B 病院インシデントレポート(1 ヶ月分)の分析
3/16(月）		

＜討議風景＞

③　評価と来年度の課題

今年度、インシデントレポートの分析が、目標としている 6 ヶ月分のうち、約 2/3 にとどまった。一例ごとの丹念な分析に時間を要し、研究会の時間が十分持てないため、研究者間でデータ解析を分担しながら方法論の検討を重ねてきた。来年度は残り 1/3 の分析を行い、B 病院の安全管理における防止システムの開発（当事者サポート含む）を検討し、改善に向けた提案を導く予定である。また、多くの病院でインシデントレポートの有効な活用がなされていない現状をふまえて、レポートからリスク防止を導く方法論を開発することを課題としている。

（５）栄養学研究会

①　今年度の目標

当研究会(登録会員 41 名)では、栄養教育や健康支援に携わる専門職の知識・技術の向上や研究活動支援を目的として、①栄養士・管理栄養士活動に役立つ実践的研修、②会員相互の交流による実践や経験の共有、③大学と地域との連携や研究支援、などの活動を今年度も進める。①②は、5 回の研究会を開催し、③については、報告書や論文などの成果を出すことを目標とする。また、来年度以降の会員数の維持あるいは増加を目指し、会員外の専門職や本学の学生・院生の参加も積極的に促す。

②　実績

今年度は 5 回の研究会を開催し 223 名の参加を得た。各回の内容については資料編に掲載した。また、専門職の研究支援では、論文投稿 2 編(うち掲載 1 編、査

読中１編)、報告書１編を指導、作成した。

ア．栄養士・管理栄養士活動に役立つ実践的研修(研究会活動)

a．専門的知識を高めることを目的とした研修

日　時　平成 20 年 6 月 21 日(土) 13:30~16:00

場　所　保健福祉学部棟 6101　　参加者 20 名

テーマ　男の脳、女の脳の決定とストレスに関与するステロイドホルモン

講　師　保健福祉学部栄養学科准教授　山本 登志子

b．栄養教育(授業)スキルの向上をめざす研修

日　時　平成 20 年 9 月 6 日(土) 13:00~16:30

場　所　保健福祉学部棟 6101　　参加者　36 名

テーマ　栄養教諭･学校栄養職員のための教材･教育方法論Ⅳ　子どもたちの瞳を輝かせる食育・栄養教材づくりの『４つの形式』～問題、お話、教具、活動形態～

講　師　大分大学教育福祉科学部教授　住田　実　氏

c．仕事に使える統計を学ぶ研修(同日２回開催)

日　時　平成 20 年 11 月 29 日(土) 午前の部:10:00~12:00　午後:13:00~16:00

場　所　保健福祉学部棟 6101　　参加者　午前 47 名、午後 47 名

テーマ　専門職・研究職のための－明日から使える統計を学ぼう１・２－

講　師　総合地球環境学研究所研究員　林　直樹　氏(農学博士、統計士)

d．タイムリーで必要性の高いテーマを取り上げる研修「食育研修会」

日　時　平成 21 年 1 月 31 日(土) 13:30~16:30

場　所　学部共通棟北 8104　　参加者　75 名

テーマ　食育研修会「子どもの心に届ける食育」

・食育実践報告「体も心も元気！真庭の『食育』」

真庭市健康福祉部子育て健康推進課総括参事･管理栄養士　辻本 美由喜氏

・食育研究報告「小学校での食育実践から投稿論文作成まで 」

保健福祉学部栄養学科４年次生　池田 雅子、准教授　永井 成美

・食育に使える新製品紹介「ご存じですか？『お口の万歩計』」

保健福祉学部栄養学科准教授 永井 成美

・特別ゲストによる食育のお話「親子で楽しむ食のはぐくみ」

㈱食のはぐくみ研究所代表取締役　管理栄養士

元神戸女子大学教授　渡邊 正雄　氏

イ．専門職が行う研究活動への支援

ａ．研究指導

・論文公表：武田安子，脇坂しおり，永井成美．児童・生徒の食行動変容に着目した食育の効果－3 年後の肥満度，血清脂質，動脈硬化指数による評価－．肥満研究(日本肥満学会誌)平成 20 年 12 月号に掲載

・論文投稿：池田雅子，住田 実，中務紗代子，難波有美子，亀甲　薫，永井成美ほか．視覚と味覚から学ぶ 食教育プログラムの展開－野菜摂取をテーマとした「食べる授業」の実践と児童への効果－(栄養学雑誌投稿)

・報告書：小田郡矢掛町養護教諭部会．地域と学校が笑顔でつながる 児童の健康生活をめざした食育の取り組み(報告書及び発表パワーポイント作成)

ｂ．研修会講師、教材提供等

本学教員による食育研修会講師(8 回)、食育推進校アドバイザー(1 校)、栄養教育に関する資料や教材の提供(随時)

③　評価

・5 回の研究会では、会員、会員外の専門職、学生・院生を含め 223 名と多くの参加があり，専門職間や専門職と学生間の交流も盛んに行われた。

・研究活動の支援では、論文 2 編、報告書 1 編の成果を得た。また、研修会講師や栄養教育の教材提供を通じ、地域の保健福祉活動の推進に寄与することができた。なお、栄養学研究会の詳細については資料編参照。

（６）社会福祉研究会

①　今年度の目標

平成 20 年度の社会福祉研究会では、会員と協議の結果決定した研究テーマに従って会員がそれぞれの立場から報告する新しい方法を採用した。今年度の研究テーマは「権利擁護」である。そして研究会では、その視点からの会員による事例検討(業務の紹介を含む)を中心に行なった。

今日、社会福祉専門職（ソーシャルワーカー）への期待が高まる一方で、その機能の問い直しが切実に求められている。今年度は特に、本研究会の位置づけを確認したうえで、会員と共に上記の課題を踏まえて討議を重ね研究テーマの設定に至った。

研究会では、「事例検討その 1」と「事例検討その 2」の 2 つの報告を軸に開催し

た。「事例検討」については、会員の事例報告に対して、各種専門職からの総合的な検討を行った。

② 実績

今年度の研究会は、8 月 2 日（土）から 1 月 31 日（土）まで、計 5 回実施した。時間は、14 時-16 時 30 分の 2 時間 30 分である。会場は本学保健福祉学部棟で実施した。

研究会の対象者は、原則として社会福祉に関連する専門職である。参加者は、行政機関の福祉関連職員、福祉事務所の職員、保健師、社会福祉施設の指導員、医療ソーシャルワーカー等から構成されている。今年度の会員は 11 名である。また、研究会には会員以外の多数の聴講があった。

第 1 回　社会福祉研究会

日時：平成 20 年 8 月 2 日（土）15:00-16:30。

場所：岡山県立大学　保健福祉学部棟 6 階（6614 教室)。

出席者：8 名（会員 7 名、県大教員 1 名)。

内容：①開会挨拶、②会員・委員自己紹介（平成 20 年度会員は 11 名）、③議題：「今年度の活動方針」。テーマは「社会福祉実践における権利擁護」である。会員の報告と本学教員による補足説明を中心に行う。「研究会の内容」。研究会の進め方としては、以下の内容が確認された。

基本的には、報告＋質疑応答、報告＋質疑応答の 2 本立てで実施する（各 1 時間程度)。開催日時は土曜日：14 時-16 時 30 分とする。場所は県立大学保健福祉学部棟 6 階の 6614 教室を使用する。「報告者の選出」。報告者として、全会員の協力を得る。④その他：今後、連絡等はＥメールにて行う。事例提供者で印刷を希望する会員は、1 週間前までに事務局にＥメール等で送付する。当日持参の場合は資料を 10 部用意する。

第 2 回　社会福祉研究会

日時：平成 20 年 10 月 18 日（土）14:00-16:30

場所：岡山県立大学　保健福祉学部棟 6 階（6614 教室）

出席者：5 名（会員 4 名、県大教員 1 名）

内容：報告 1:「ソーシャルワーク実践における権利擁護の問題」（報告者：村社卓（本学教員)）

村社会員からは、ソーシャルワーク実践における権利擁護の問題について、配布資料をもとに、日本国憲法にみる権利、人権と権利、ソーシャルワークと権利擁

護、権利擁護とエンパワメント、エンパワメントとストレングス視点、の順で説明があった。なお本報告は、今年度の研究会テーマである「権利擁護」に関する基本的知識について、会員の共有化を目的に行なわれたものである。
報告 2:「T市の高齢者虐待に対する取り組みについて－地域包括支援センター保健師としてできること」（報告者：大橋慶子会員）
大橋会員からは、T市の保健福祉行政の概要及び地域包括支援センターの業務を説明したうえで、T市の高齢者虐待の現状と取り組み、現状から見えてくる地域包括支援センターの保健師としての役割について実践に基づく報告があった。また、参加者はそれぞれの立場から報告内容に対してコメントを行った。

第3回　社会福祉研究会
日時：平成20年11月15日（土）14:00-16:30
場所：岡山県立大学　保健福祉学部棟6階（6614教室）
出席者：6名（会員5名、県大教員1名）
内容：報告1:「介護保険施設の相談員からみた権利擁護：老人保健施設の現状を踏まえて」（報告者：中田雅章会員）
中田会員からは、「職場紹介」「老人保健施設の理念と役割」「支援相談員の業務」「介護保険施設における権利擁護に関する代表テーマ（高齢者虐待、身体拘束）」「施設相談員（社会福祉士:権利擁護の立役者）として」について説明があった。参加者はそれぞれの立場から報告内容に対してコメントを行った。
報告2:「高齢者の権利擁護」（報告者：森山美恵子会員）
森山会員からは、「K町紹介」「総合相談支援事業（相談内容、権利擁護）」「事例紹介」について説明があった。特に「事例紹介」では、自身が関わっている虐待事例について、「経済的虐待」「介護放棄虐待」「身体的虐待」の視点から詳しい解説があり、参加者はそれぞれの立場から報告内容について質問及びコメントを行った。

第4回　社会福祉研究会
日時：平成20年12月13日（土）14:00-16:30
場所：岡山県立大学　保健福祉学部棟6階（6614教室）。
出席者：6名（会員3名、聴講2名、県大教員1名）。
内容：報告1:「地域の力と権利擁護」（報告者：高尾　肇会員）
高尾会員からは、20頁のボリュームのある論文形式を資料として提出していただいた。報告では「地域の力について」「権利擁護」「地域の力と権利擁護」「課題は

何か、どうすればいいか」について、豊富な先行研究、具体的なデータ、各種の「提言」等を踏まえた説明があった。参加者は地域包括支援センター等、それぞれの立場から「地域の力と権利擁護」に対してコメントを行った。
報告２:「虐待・いじめ・ＤＶ等の実務者ネットワーク会議を稼動して：複数の障害者がいる家族への支援」（報告者：山成栄会員）
山成会員からは、「Ｋ市の概要」「障害者福祉」「Ｋ市健康福祉課障害グループの業務」「虐待・いじめ・ＤＶ等の実務者ネットワーク会議」「事例」「調整連絡会議」「まとめ」について説明があった。特に「事例」では、「虐待ネット会議」「担当者会議」「支援者会議」「ケア会議」の連携について詳しい解説があり、参加者はそれぞれの立場から家族支援に対して質問及びコメントを行った。

第５回　社会福祉研究会
日時：平成 21 年１月 31 日（土）14:00-16:30
場所：岡山県立大学　保健福祉学部棟６階（6614 教室）
出席者：４名（会員３名、県大教員１名）
内容：報告１:「高齢者の権利擁護と市の役割－法令整理、Ｓ市における取り組みと課題」（報告者：西槇昌志会員）
西槇会員からは、「Ｓ市の状況」「各法令に見られる市の果たすべき権利擁護の役割」「対応手順と対応事例」「事例：認知症の母親を部屋に閉じ込め、世話をしない事例」「対応の課題」「まとめ」についての説明があった。報告では、現場からみた関連法令の位置づけ、養護者による高齢者虐待への具体的な対応手順が分かりやすく説明された。参加した、地域福祉及び障害者福祉の専門職からも、それぞれの立場からのコメントがあった。今回の事例報告とその検討は、こんにちの高齢者福祉の実際を理解する上で大変有意義なものであった。

③　評価と来年度の課題

今年も、研究会では多くの会員から、「事例報告を行うことでもう一度自分の活動を見直す機会となった」という感想が指摘された。また、研究会への要望として、「制度改正に伴う変更点等を教えてほしい」「会員の提供する事例検討を継続してほしい」などが出された。

このように会員の希望に基づいた、社会福祉関連領域の専門職者を主な対象とした「教育・学習の機会」として、今年度も本研究会はその任務を果たすことができたように思われる。

また来年度は、今年度の研究テーマ「権利擁護」を基盤として、さらに研究会と

しての性格を強めていくことを考えている。そして、研究成果は年度末に、学会発表、論文作成等で公表する予定である。そのため、社会福祉研究会も、例年よりも早く開始する。それまでに、事務局が今年度の報告内容を整理したうえで、研究テーマの提案及び来年度の方針等を送る予定である。

社会福祉研究会では、社会福祉施設の指導員、医療ソーシャルワーカー、行政機関職員、福祉事務所職員、保健師など、社会福祉関連領域で働く専門職の入会と積極的な参加を期待する。

（7）介護福祉研究会

① 今年度の目標

介護現場では利用者のニーズの多様化・複雑化のため、より質の高い多様な介護が求められている。本研究会では会員である介護に関わる様々な職種の方の介護の質を高めるため、今年度は会員から要望のあったテーマの中から、近年の話題のテーマで介護実践に役立つものを選定し、テーマに従って本学教員や学外からの専門家による講義を開催した。

（目標）

・会員の方に介護に関わる多方面の知識に関心を持って頂く

・ 研究会と介護実践とをリンクすることによって会員の方が介護実践において直面している問題の解決を促進する

② 実績

第1回介護福祉研究会

日　時：平成 20 年 7 月 19 日（土）10:00～12:00

会　場：共通棟（西）１階　5112 演習室

参加者：9 名

内　容：趣旨・活動計画説明

会員・世話役の紹介

今年度の研究会の方向性に関する討議

第2回介護福祉研究会

日　時：平成 20 年 9 月 13 日（土）10:00～12:00

会　場：共通棟（西）１階　5112 演習室

参加者：8 名

内　容：「高齢者におけるアクティビティ」　講師：青柳 暁子講師

講義後意見交換

第３回介護福祉研究会
日　時：平成 20 年 12 月 6 日（土）10:00～12:00
会　場：共通棟（西）１階　5112 演習室
参加者：9 名
内　容：「認知症者の言動の理解」　講師：香川 幸次郎教授
事例検討会及び香川教授のコメント

第４回介護福祉研究会（予定）
日　時：平成 21 年 3 月 14 日（土）10:00～12:00
会　場：共通棟（西）１階　5112 演習室
内　容：「ICF の理解　アセスメントのヒント」
講　師：特別養護老人ホームあおさぎ　川上 善久施設長

なお、一昨年の研究会の成果として平成 21 年 1 月に開催された第 15 回岡山県保健福祉学会に発表し、社会福祉協議会長賞を受賞した。

② 評価と来年度の課題

ア　評価

a 介護に関わる知識に関心を持つという目標に対して

会員から世話役にメールや電話、研究会での介護技術や知識に関する問い合わせや質問が増えている。また今年度、より介護を学びたいとの希望から会員 4 名が大学院に進学を希望している。

b 研究会と介護実践とをリンクすることによって会員の方が介護実践において直面している問題の解決を促進するという目標に対して

第２回介護福祉研究会では近年話題になっている「高齢者のアクティビティ」について事例を具体的に DVD で見ることでアクティビティを理解し、介護実践に活用できるよう工夫を行った。また、第 3 回介護福祉研究会では事例検討会の形式で、認知症の利用者さんに関して現場で困っている事例を各自挙げていただき、会員相互の意見交換と講師からのアドバイスによって解決方法を模索した。

会員の方からは「研究会で学んだことに関する介護現場での活用について職場で話し合いなどが行われた」「講師や会員から解決への有意義なアドバイスを頂けた」などのご意見があった。

イ　今後の課題

研究会会員は少数ではあるが、講義や検討会では内容の厚い検討ができると好評である。また、会員相互や世話役と会員の連携も緊密になり、研究会開催日以外でもメールなどを活用し検討会や指導を行っている。しかし、県下の介護関係者の介護の質を上げるために、介護関係者の新規会員の増員も検討する必要もある。21 年 3 月の介護福祉研究会では会員のみならず、社会福祉協議会や各福祉施設へのパンフレットの配布や呼びかけによって広く介護関係者の出席を促し、新規会員獲得への足掛かりとなるよう努力する予定である。

来年度も現在行われている内容の厚い研究会を継続するとともに、引き続き会員増員のための活動を行いたい。

（８）子どもと保育研究会

①　今年度の目標

子どもと保育研究会は、それまでの地域子育て支援活動研究会の 6 年間の成果を元に、名称を変更して新たに発足した。子どもの育ちをめぐる諸問題や保育の動向・方法・技術など、幅広く多彩な切り口から保育・子育て支援のあり方を探求する研究会となることを目指し、保育士をはじめとした保育および子どもと家庭の支援にかかわる諸専門職の広範な参加を期待すると共に、本学教員と現場実践者による研究の機会となることをねらった。

具体的には、保育ステップアップ講座と一部共催することで、保育現場で求められている今日的なテーマや課題を幅広く取りあげた。また、特別な支援が必要な子どもにかかわるテーマを集中して企画することにより、保育現場での課題や関心の高まりにこたえようとした。

②　活動の実績

第１回研究会：「実践交流」

日時：平成 20 年 8 月 2 日（土）14:00～16:00

場所：岡山県立大学　学部共通棟西会議室

コーディネーター：岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科　中野菜穂子

参加者数：8 名

内容：参加者は、現職の保育士のほか、元公立保育園園長、障害児施設児童指導員であった。それぞれの取り組みの内容やそこでの成果や課題などについて報告し交流した。保育所においては、地域の子育て家庭への支援が積極的に取り組まれている。保健師との連携により支援の場に出てこない家庭への訪問活動による

要支援ニーズの把握と支援センターへの紹介事例が報告された。また、発達障害児への効果的な保育支援として、子どもに寄り添い子どもの思いを言語化し代弁することで、子どもの行動自制につなげる保育技術が紹介された。保育現場最前線で行われている実践の交流により、互いに学びあうことができた。

第２回研究会：「発達障害の理解と支援」（保育ステップアップ講座と共催）

日時：平成 20 年 9 月 6 日（土）10:30～12:30
場所：岡山国際交流センター７階多目的ホール
講師：就実大学人文科学部初等教育学科　河合冨美子先生
参加者数：20 名
内容：障害児保育について現場経験豊富な講師に、発達障害をもつ子どもをどう理解し、適切な支援を行うかというテーマについてご講演いただいた。近年、保育現場では、発達障害をもつ子どもへの対応が課題となっている。講演では、講師が経験された様々な事例をご紹介いただき、子どもに寄り添い、子どもの育ちを支援する環境づくりやコミュニケーションの工夫を学ばせていただいた。フロアからの質問も多く、活発な意見交換を行うことができた。

第３回研究会：「発達障害幼児の保育支援の実際」

日時：平成 20 年 11 月 15 日(土)　 14:00～16:00
場所：岡山県立大学　学部共通棟西会議室
講師：岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科　京林由希子
参加者数：４名
内容：発達障害幼児の保育支援の実際を紹介しながら、発達障害幼児の特性の理解とその支援について検討した。具体的検討事例は、年長の発達障害幼児への保育支援であり、様々なアセスメントによる対象幼児の特性の把握、集団保育の場で実行可能な支援、園内の体制作り、就学に向けての対象幼児と保護者への個への対応、就学先の小学校との連携のあり方について検討した。特別な支援についてコーディネーターとなるキーパーソンの存在の重要性と、担当の職員だけに対応がまかせられることのないような園内の連携体制の重要性について確認できた。

第 4 回研究会：「レッジョ・エミリアの保育実践」（保育ステップアップ講座と共催）

日時：平成 20 年 12 月 20 日（土）14:00～16:00
場所：岡山国際交流センター５階会議室
講師：岡山大学教育学部幼児教育講座　高橋敏之先生

参加者数：40 名
内容：芸術教育について造詣が深い講師に、北イタリアのレッジョ・エミリア市の保育実践について、ご講演いただいた。レッジョ・エミリアの実践は、子どもの創造性をはぐくむ表現教育、学びの共同といった独自の方法論で、世界の教育家・芸術家から熱い注目を浴びている。講演では、レッジョ・エミリアの幼児学校の貴重なスライドをもとに、保育の実際をわかりやすくご説明いただいた。イタリアの公教育の実践から、日本の保育にも活かしうる点について多くの示唆を得ることができた。

第５回研究会：「親の思い・願いに学ぶ」
日時：平成 21 年 1 月 24 日(土）13:30～15:00
場所：岡山県立大学　学部共通棟西会議室
講師：就実大学人文科学部表現文化学科　岡本悦子先生　（社）日本自閉症協会岡山県支部会員、チューリップの会（支援の必要な子どもの社会参加を支える会 in 京山）副会長
参加者数：22 名
内容：自閉症の子どもを育てながら、様々な支援活動を行っている講師より、子どもの障害を告知されたときの衝撃、保育園・療育機関・小学校での様々な体験や社会的活動、家庭でのきょうだいとの関係などの体験談が語られた。あわせてその体験から「支援を要する子どもに寄り添うことで授かる力」として、①想像する力、②交渉する力、③価値観をぶれさせずたくましく生きる力があると述べられた。自己の体験とそれを客観視してまとめられた「授かる力」の内容はリアリティに富み、参加者に深く感銘を与えるとともに、当事者に寄り添うこと、当事者から学ぶことの価値をあらためて問い直させるものであった。

③　評価と来年度の課題
保育ステップアップ講座との一部共催により､多彩なテーマを盛りこむことと、研究会外の保育士らの参加が可能となった。これにより研究会の充実につなげることができた。また、支援を必要とする子どもをテーマにした研究会はいずれも具体的な事例に基づく内容であり、研究会メンバーの日常の保育実践に即しての理解や討議のために有効であった。
一方で参加者数には大きなばらつきがあった。これは通常の保育に加え、行事の開催など土曜日の業務、会議や研修会の実施などによる保育現場の多忙化のためと考えられる。

来年度も引き続き、保育現場のニーズにこたえての魅力的な研究会を企画すると共に、参加しやすい研究会の開催方法を柔軟に検討することが課題である。

２．２－４　保育ステップアップ講座

（１）今年度の目標

保健福祉学部保健福祉学科が中心となって行う「保育ステップアップ講座」は、今年度で７回目の開催となった。毎年、保育士、幼稚園教諭、その他子どもにかかわる多くの方々の参加を得て、既に地域の学びの機会として定着している。今年度は「子どもとかかわる力、さらに磨く」をキャッチフレーズに、より現職保育者の専門性向上を支援する内容の充実に力を入れた。具体的には、現場で求められている今日的なテーマや課題に対処するため、本学教員に加えて、他大学の先生にもご参画いただいた。また、アクティブキャンパス認定により予算面の助成を受け、利便性の良い「岡山国際交流センター」での開催、ちらし印刷（子どものイラストで保育関係の方の目を引くように意図）による地域への広報拡大などを試み、より多くの方に講座に参加していただけることを目指した。

（２）実績

平成20年度は、以下のような実行委員会を組織し、4回の講座を企画・運営した。

【平成20年度「保育ステップアップ講座」実行委員会】

企画・運営担当　新山順子

講座担当　岡本和子　岡崎順子

実行委員　岡本和子　岡崎順子　中野菜穂子　京林由希子　金潔　新山順子

各回の詳細は以下のとおりである。

ア　第１回「子どものうた、再発見♪Ⅱ」

日時　平成20年８月22日（金）18時30分～20時

場所　岡山国際交流センター７階多目的ホール

講師　岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科岡崎順子教授

参加者数　39名

内容　保育の現場では、日々子どもたちの元気な歌声が溢れている。一方、

第１回「子どものうた、再発見♪Ⅱ」の様子

どんな歌を選択したら良いか、またピアノによる伴奏法についての悩みなども聞こえてくる。第１回の講座では、子どもたちの生き生きとした歌唱表現を支えるために、保育者自身の音楽分析・理解力を高め、子どもの歌を《再発見》することを目指した。今回は「手のひらを太陽に」他６曲の子どもの歌について、詩の内容やイメージと、リズムやメロディーなどの音楽的特徴、およびピアノ・パートの表現から、その歌が持つ個性と魅力を再発見し、伴奏の役割を理解しながら全員で歌い、楽しく実践することができた。

イ　第２回「発達障害の理解と支援」

日時　平成 20 年９月６日（土）10 時 30 分～12 時 30 分
場所　岡山国際交流センター７階多目的ホール
講師　就実大学人文科学部初等教育学科　河合冨美子教授
参加者数　20 名
内容　障害児保育について現場経験豊富な講師に、発達障害をもつ子どもをどう理解し、適切な支援を行うかというテーマについてご講演いただいた。近年、保育現場では、発達障害をもつ子どもへの対応が課題となっている。講演では、講師が経験された様々な事例をご紹介いただき、子どもに寄り添い、子どもの育ちを支援する環境づくりやコミュニケーションの工夫を学ばせていただいた。フロアからの質問も多く、活発な意見交換を行うことができた。

ウ　第３回「保育所保育指針・幼稚園教育要領改訂のポイント」

日時　平成 20 年 10 月 31 日（金）18 時 30 分～20 時
場所　岡山国際交流センター３階研修室
講師　岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科　岡本和子教授
参加者数　42 名
内容　乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要な時期である。したがって、保育者は保育観、子ども観、子どもの発達等に関して、熟知することが大切である。そのための基本的かつ重要な視点を学ぶものとして、保育所保育指針・幼稚園教育要領がある。本講座では、今回の改訂（平成 21 年４月施行）の主要なポイントについて解説した。予想以上に多くの保育現場の方々のご参加を得た。改訂の主旨が生かされ、保育実践の質の向上が目指されるように期待したい。

エ　第４回「レッジョ・エミリアの保育実践」

日時　平成 20 年 12 月 20 日（土）14 時～16 時
場所　岡山国際交流センター５階会議室
講師　岡山大学教育学部幼児教育講座　高橋敏之教授
参加者数　40 名
内容　芸術教育について造詣が深い講師に、北イタリアのレッジョ・エミリア市の保育実践について、ご講演いただいた。レッジョ・エミリアの実践は、子どもの創造性をはぐくむ表現教育、学びの共同といった独自の方法論で、世界の教育家・芸術家から熱い注目を浴びている。講演では、レッジョ・エミリアの幼児学校の貴重なスライドをもとに、保育の実際をわかりやすくご説明いただいた。イタリアの公教育の実践から、日本の保育にも活かしうる点について多くの示唆を得ることができた。

（３）評価と来年度の課題

今年度は、前述したように、講座内容の充実（現代的なテーマ設定・他大学の講師参画）、ちらし四千部印刷（デザインに工夫）による広報拡大、開催地を岡山駅近くに、などが功を奏して、例年以上に多数のご参加をいただいた。もっとも問い合わせが多く、たくさんの保育関係の方にご参加をいただいたのは、第３回の「保育所保育指針・幼稚園教育要領改訂のポイント」の講座である。40 名の収容教室に対して 60 名近い受講申し込みをいただいた。収容できないため、園で複数名お申し込みの場合は、１園につき２～３名の参加でご容赦いただいた。保育所保育指針・幼稚園教育要領がちょうど改訂されたところで、保育現場もそれをどのように活用して日々の保育を進めていくのか情報を求めていたようである。講座の運営には、現場の要望を汲み取り、時代に即したテーマを掲げ、講座を組み立てていく「企画力」が求められる。また、素晴らしい講座を企画しても、情報が手に届かなくては参加につながらない。教員によるちらしの配布には限界があり、「広報・宣伝力」をいかに拡大するかも今後の課題であろう

２．２－５　健康スポーツ支援

（１）今年度の目標

県民の健康づくりおよび体力の維持増進に資するため、全県的に参加できる企画とする。

（２）実績

①　第 16 回岡山県グラウンドゴルフ　フォアサム総社大会

目的：岡山県立大学保健福祉推進センターと総社市グラウンドゴルフ協会が連

携し、岡山県内のグラウンドゴルフ愛好家の交流により親睦と健康・体力の向上を図り、大学による地域貢献に寄与する。

日時：平成 20 年 4 月 19 日(土)

会場：岡山県立大学グランド(陸上競技場・サッカー場・野球場)

主催：岡山県グラウンドゴルフ協会、岡山県立大学保健福祉推進センター

共催：総社市グラウンドゴルフ協会　総社市教育委員会、

参加者：1578 名(岡山県内、福山市、姫路市)

②　第 7 回鬼ノ城グラウンド・ゴルフ　交歓大会

目的：岡山県立大学保健福祉推進センターと高梁川流域の各グラウンドゴルフ愛好団体が連携して日頃の練習成果を競い、お互いの交流によって親睦と技術の向上を図り、グラウンドゴルフの普及、大学・地域の発展を願い本大会を開催する。

日時：平成 20 年 9 月 16 日(火)

会場：岡山県立大学グラウンド(陸上競技場・サッカー場・野球場)

主催：岡山県立大学保健福祉推進センター

共催：総社市教育委員会、高梁川流域グラウンドゴルフ愛好団体

参加者：340 名(山手ＧＧ協会、清音ＧＧ協会、総社阿曽ＧＧ協会、総社下倉ＧＧ協会、総社東ＧＧ協会、倉敷市ＧＧ協会、真備町ＧＧ協会、船穂ＧＧ協会)

③　岡山県立大学学長杯第 15 回グラウンド・ゴルフ大会

目的：学内開放の一環として、地域住民へスポーツに参加する機会を提供し、親睦を深め健康づくりを願い開催する。

日時：平成 20 年 11 月 1 日(土)

会場：岡山県立大学グラウンド(陸上競技場・サッカー場・野球場)

主催：岡山県立大学保健福祉推進センター

共催：総社市教育委員会、総社市グラウンドゴルフ協会

後援：山陽新聞総社支局

参加者：186 名(参加団体：球友会、清音同好会、総社悠遊会、昭和、きび路、タンチョウ、鬼ノ城 GG 同好会、和楽、ふたば会、山手 GG 同好会、総社東 GG 同好会)

（3）評価と来年度の課題

総社市および近郊の参加者加え、県内で最大規模の「第 16 回岡山県グラウンドゴルフ　フォアサム総社大会」を開催し、より広域的な大会へ発展させること

ができた。グラウンドゴルフ大会への参加者も年々増え、次第に定着してきたと考えられる。来年度は、運営面での効率化や新たな企画も構想しながら、健康スポーツ支援による地域貢献活動を充実させる必要がある。

２．２−６　一日保健福祉推進センター

（１）本年度の目標

保健福祉推進センターでは、センター業務の一環として、担当教員が県内各地に出向き、県立大学が有する保健福祉分野の知識・技術等を直接地域住民に幅広く提供して健康づくりに役立てていただくために「一日保健福祉推進センター」事業を実施している。今年度は、市町村との連携を十分に取ることによってニーズに対応した開催ができるように心掛け、県北の２地域において２回の一日保健福祉推進センターを開催した。

（２）実績

①第１回一日保健福祉推進センター

日　時：平成 21 年 3 月 10 日（火）
10 時 30 分ー12 時

場　所：美咲町　加美児童館

参加者：母子１３組３２名

主　催：岡山県立大学保健福祉推進センター、美咲町健康増進課、 ワンワンクラブ(母子クラブ)

内　容：ワークショップ「心ほかほか親子で歌あそび」

講師：岡﨑順子 岡山県立大学保健福祉学部教授

保育園入園前の乳幼児と母親を対象に、スキンシップの手遊びや動きながら歌う歌遊び､また大切に歌いたい歌を紹介し､親子で楽しむワークショップを行った。

②　第２回一日保健福祉推進センター

日　時：平成 21 年 3 月 17 日（火）18 時 30 分ー20 時 30 分

場　所：鏡野町　夢広場

参加者：町民・介護福祉士　４０名（予定）

主　催：岡山県立大学保健福祉推進センター、鏡野町社会福祉協議会、
社団法人岡山県介護福祉士会美作地区

内　容：講演１「小規模多機能施設の概要」
　　　講師：香川幸次郎 岡山県立大学保健福祉学部教授
　　講演２「高齢者の住まい　施設の体系と概要」
　　　講師：竹本与志人 岡山県立大学保健福祉学部准教授

（３）評価と来年度の課題

今年度は２回の「一日保健福祉推進センター」を実施した。１回目は子育てにかかわる内容のワークショップ、２回目は高齢者にかかわる内容の講演であったが、いずれも地域の要望に応えて計画し、参加者から好評をいただいた。

平成 14 年のセンター開設以来、本事業も毎年努力と成果を積み重ねてはいるが、当初目指していたフォーマルな形での共同開催事業が十分周知され、多くの要請を得ているとは未だ言い難い。市町村への広報と機動力を生かした活動が今後の課題である。

２．２－７　講師派遣

保健福祉推進センターでは、岡山県立大学保健福祉推進センター規程第２条に規定する業務に該当するもので、市町村等から教員の派遣依頼があったものについて、個別に認定を行い、講師等として内容に合った専門分野の教員を派遣している。平成２０年度におけるその状況は次のとおりである。

派遣日	内　容	派遣教員	依頼者
5 月 28 日	「子育て王国そうじゃ」まちづくり実行委員会	久保田恵講師	総社市
6 月 3 日	食育の研究についての指導	久保田恵講師	久米南町保育協議会
6 月 19 日	平成 20 年度岡山県栄養士会総社支部総会における研修会での講演	岸本妙子教授	（社）岡山県栄養士会総社支部
8 月 19 日	第４ブロック研究委員への助言及び指導	久保田恵講師	岡山市保育協議会第４ブロック
8 月 20 日	小田郡養護教諭が行う食育研究指導	永井成美准教授	小田郡小学校教育研究会養護部会
8 月 25 日	食育の研究についての指導	久保田恵講師	久米南町保育協議会
9 月 29 日	第４ブロック研究委員への助言及び指導	久保田恵講師	岡山市保育協議会第４ブロック
10 月 25 日	小田郡養護教諭が行う食育研究指導	永井成美准教授	小田郡小学校教育研究会養護部会
10 月 28 日	平成 20 年度高齢者支援センター職員研修会	竹本与志人准教授	倉敷市

11 月 4 日	３歳未満児の食育に関する研究発表について助言指導	久保田恵講師	岡山市保育協議会第４ブロック
11 月 5 日	食育の研究についての指導	久保田恵講師	久米南町保育協議会
12 月 12 日	食育推進リーダー研修会	久保田恵講師	倉敷保健所
1 月 15 日～3 月 31 日のうち 3 日	「わが家のイチオシ朝ごはん」リーフレット作成に係る指導	久保田恵講師	山手地区食育をすすめる会
2 月 4 日	「十代の性の健康」支援ネットワーク作り事業	岡﨑愉加准教授	（社）日本女医会子育て支援委員会
2 月 6 日	３歳未満児の食育に関する研究発表の報告及び助言指導	久保田恵講師	岡山市保育協議会第４ブロック
2 月 13 日	性に関する教育普及推進研修会	岡﨑愉加准教授	岡山県教育委員会
2 月 16 日	元気キッズについての指導	久保田恵講師	久米南町保育協議会

２．２−８　現状と今後の課題

本センターは平成 14 年 4 月に設置されて以来、地域に開かれ地域に貢献する本学の一翼を担い、保健福祉学部の持つ知識や技術を直接県民の方に、また専門職の人々を介して還元する活動を幅広く展開してきた。今年度も開催した「鬼ノ城シンポジウム」は、食の安全・安心という時代が要請する身近なテーマを取り上げ、県民の方々と食と健康の問題を共に考える機会を提供した。また、保健福祉分野の専門職を対象とした研究会等を開催し、専門的な立場から県民の健康福祉問題の解決策を探り、110 名を超える専門職の方々がその成果を日々の実践において活かしている。その他健康づくりの支援を始め、教員を講習会や研修会等に派遣し、本学の持てる知識や技術が地域に還元されており、保健福祉推進センターの活動も定着してきたと評価できる。

一方、本センター開設から７年を経過し、当初指向した専門職支援からより参加者等のニーズに対応した運営へと変化しつつある現状も見て取れる。　　　参加者の①実践的・臨床的ニーズに対しては、時期を得たさまざまな課題への取組がなされ、②研究的ニーズに対しては、研究の試行と研究成果の報告がなされるなど着々と成果を上げてきている。

今後はさらに質的な向上を課題とし、日々変化する健康福祉問題についての　県民の方々のニーズに対応し地域に貢献できるセンターを目指していきたい。

２．２－９　関連資料

栄養学研究会活動の詳細

①　第１回　専門的知識を高める

日　時　平成 20 年 6 月 21 日（土）13:30～16:00

場　所　保健福祉学部棟 6101　参加者 20 名

テーマ　「男の脳、女の脳の決定とストレスに関与する

ステロイドホルモン」

講　師　保健福祉学部栄養学科准教授　山本 登志子

内　容

ア　学科長あいさつ　学科長の木本眞順美教授より、

栄養学研究会が設立以来 6 年目を迎えたことや運営が安定していること、そしてその役割として、専門職の資質を高めるための研修だけでなく、学部生・院生と専門職が交流できるためとても良い教育の場となっているという 2 つの役割があることを話され、今後とも積極的な参加と支援をお願いしたいと結ばれた。

イ　講演の記録

（１）男の脳と女の脳

「話を聞かない男、地図が読めない女（ビーズ夫妻）主婦の友社」でベストセラーになった男脳と女脳の科学的にみた違いについてお話いただいた。男性は空間認識力に優れ、女性は言語能力に優れるといわれるが、その理由は遺伝子、環境の両方にある。遺伝的には、遺伝子そのもの（性染色体）や脳の大きさ・形態、筋肉量などが異なる。性ホルモンも種類は男女で同じだが分泌量とその時期が異なる。運動能力でも男は標的当てが得意で、女性は細かい運動スキルが高いといわれるが、古来よりヒトの社会が“狩猟採集社会”で男女の労働分担が行われ、自然淘汰の結果、それらの労働がうまく出来る人が生き残ったのだと考えられる。男性は狩りに出かけるので長距離ナビゲーションが必要であり、女性は家とその周辺が生活の場なので近距離ナビゲーションやコミュニケーション能力が高まったと考えられている。遺伝的にみた男の脳、女の脳の始まりや、脳の形態的な男女差などについてもお話いただいた。

（２）ストレスとステロイドホルモン（研究紹介）

ホルモンの定義として合成器官から血流によって標的となる部位に達して作用するとされてきたが、最近の研究から、脳にはコレステロールに始まる完全な神経ステロイド合成系が存在するということ、エストラジオールなどによるフィードバック制御が働く、ということが明らかになってきた。今後も脂質の中枢系

での生理学的意義、癌の悪性化に及ぼす影響と創薬に向けた基礎的研究を行いたいと結ばれた。

② 第２回 栄養教育（授業）スキルの向上をめざす

日 時 平成 20 年 9 月 6 日（土）13:00～16:30

場 所 保健福祉学部棟 6101 **参加者** 36 名

テーマ 「栄養教諭･学校栄養職員のための教材･教育方法論Ⅳ 子どもたちの瞳を輝かせる食育・栄養教材づくりの『４つの形式』～問題、お話、教具、活動形態～」

講 師 大分大学教育福祉科学部 住田 実教授

内 容 3 部構成で、①「A させたいなら B と言え」、②「教材・教育方法論」、③「人の心にやさしく響く 健康支援の一言」と言う流れで、子どもたちの瞳を輝かせるための様々な方法論を教授いただいた。グループワークや、楽しく興味深いエピソードが交った講義で、充実した内容の研修会であった。

ア 学科長あいさつ

栄養学研究においても「方法論」が大切であること、本学でも平成 19 年度より栄養教諭が取得できるようになりタイムリーな研修であること、専門職は生涯学習し続けることが大切であることなどを話された。

イ 講演の概要

（１）「A させたいなら B と言え」

（授業のプロ・岩下 修 氏に学ぶ「人を動かす言葉かけ」）から。

何か（A）を人にさせたい・してもらいたい時に、ストレートに「A してください」と言ってもなかなかしてくれない。「A」して欲しいときこそ「A しろ」という言葉をぐっと飲み込んで、してみたくなる「B･･･」という言葉を紹介していただいた。グループワークでは、「子どもが車に気をつけて安全にお友達の家に行くため（A）の声かけ（B）とは？」などについて考え発表した。「A させたいなら B と言え」の探求はけっして容易ではないが、「問題の所在」を日々意識しながら、専門職同士の交流によって実例を交換し合うことも有力な方法であると結ばれた。

（２）教材・教育方法論

テレビのクイズと授業をダイナミックに展開させる発問の違いについて話された。発問では、大多数の子どもの＜常識的・直感的な予想＞が見事に外れ、「何故そうなるのだろう？」という＜科学的な思考＞の芽生えにつなげる。「産道よりも大きな赤ちゃんが産まれるのはなぜか（生命誕生）」、「空気よりも重いフロンが上空のオゾンを破壊するのはなぜか（環境問題）」という発問もある。これらはテレビのクイズよりも対象を揺り動かし、その後の学習へと発展していくための重要な発問である。そして発問を構成する各々の選択肢間に論理的な緊張関係があることも重要である。

（３）人の心にやさしく響く　健康支援の一言

鈴木健二の名著「気配りのすすめ」の百貨店でのエピソード。百貨店でグラスを見ているお客様への声かけで、「いきなり大声で言う」場合と「そっと近づいて小声でやさしくささやく」場合では正反対の結果になる。この手法は一般の健康支援（栄養改善・生活指導）に役に立つ。“気配り”は相手の行動を変えることもできる。私たちは、心と心のふれあいの中で健康指導、健康支援の仕事をしているのである。

③　第 3･4 回　仕事に使える統計を学ぶ

日　時　平成 20 年 11 月 29 日（土）
　　　　午前：10:00～12:00
　　　　午後：13:00～16:00

場　所　保健福祉学部棟 6101

参加者　午前：47 名、午後：47 名

テーマ「専門職・研究職のための－明日から使える統計を学ぼう１・２－」

講 師　総合地球環境学研究所研究員　林　直樹先生（農学博士、統計士）

内　容

ア　学科長あいさつ

統計の受講者数が毎年多いことや、実践の場でも研究の場でも統計の必要性が高いことなどについて言及され、実り多い研修であることを祈ると結ばれた。

イ　講演の概要

「電車が動く“しくみ”でなく“乗り方”を覚えて目的地まで到着できるようになる」との講師の言葉通り、数式や難解な理論なしに、わかりやすく統計処理のハウ・ツーを教えていただいた。講師の著書「しらべる・まとめる・指導に生かす パソコン＆データ活用法（東山書房）」をテキストとして、午前中は、「データ解析・統計処理入門」、「2 変数のデータ解析」等を、午後は「データ解析（クロス集計編、平均の比較編）」、「調査票のつくり方」等の

内容の、1 日がかりの研修であった。付録のソフトを使用すると単純集計から統計処理までをエクセル画面上で簡単に行えること、データの整理やアンケート作成などについても大変わかりやすくお話しくださり、参加者からの質問にも丁寧にお答えいただいた。終了後には、「これから行う調査にすぐに役立てたい」、「統計は敷居が高いと感じていたがとりあえず使ってみたい」などの感想が多く寄せられた。

④　第 5 回　タイムリーで必要性の高いテーマを取り上げる・食育研修会

日　時　平成 21 年 1 月 31 日(土) 13:30～16:30

場　所　学部共通棟北 8104

参加者　75 名

テーマ「食育研修会：子どもの心に届ける食育」

内　容

ア　学科長あいさつ

今回の参加者数がこれまでの研修会で最大となったことに触れ、食育への関心が高いこと、また研究や相互交流の必要性等について話された。

イ　食育研修会

a 食育実践報告「体も心も元気！真庭の『食育』」

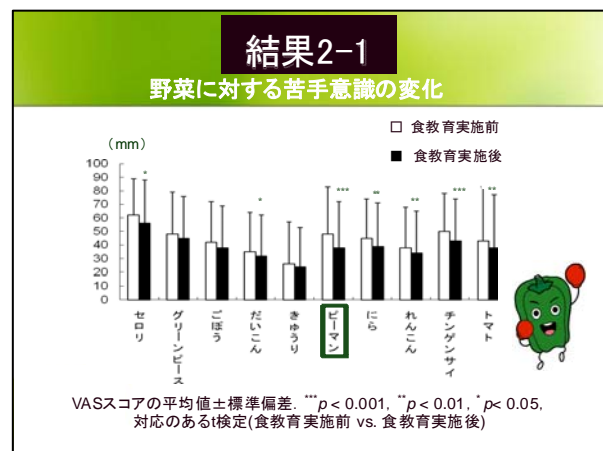
真庭市健康福祉部子育て健康推進課総括参事･管理栄養士　辻本美由喜氏

少ない子どもを大切に育てる時代になった。しかし、外食の増加、低い食料自給率、脂肪摂取量増加、野菜不足、朝食欠食等々、食に関する課題は多い。真庭市ではアイディア溢れる様々な食育の取り組みを行っている。食育推進体制の整備（IT、情報)、健診時の試食体験、食生活や健康に主体的な子どもを育てる、お父さんとのパイづくり教室、栄養委員などのボランティア団体の活性化、日本一の真庭の広報誌（内閣総理大臣賞受賞）での食育特集、夕涼み会でのピーマン寸劇、学校給食での地場産物活用、農業体験など、多くの組織・人材を巻き込んでの活動が写真とともに紹介された。「楽しく食べて元気な笑顔 あふれる真庭市づくり」のキャッチフレーズのように、食育の推進には夢や楽しいということが大事であると語られた。また、食育推進体制の整備までのプロセスと苦労、人をどう動かすか、朝「ご飯」に着目した取り組みの推進や横断幕にも込められた思い、学校での「弁当の日」を目指した取り組みなど､活用できそうなアイディアが多かった。幼児が行った「まにわ食育ちんどん」、

野菜のお雛様、会議室の七夕飾りなど、豊かなアイディアと献身的な仕事ぶりに会場から感嘆の声があがった。また、展示物による活動紹介もしていただいた（写真後方）。

b　食育研究報告「小学校での食育実践から投稿論文作成まで 」

本学栄養学科４年次生　池田雅子、栄養学科准教授　永井成美

食育をテーマにした大規模校での研究実践から論文作成までの過程とその内容について、説明とパワーポイント発表形式による紹介があった。食育実践後には、効果を評価し、報告書としてまとめたり、学会、論文などで公表して批評を受けることが、食育の質的アップと専門職全体の資質向上につながる。本発表では、研究例と論文化の視点についても話された。

c　食育に使える新製品

「ご存じですか？『お口の万歩計』」

栄養学科 永井准教授より、食育に使える新製品として、かむ回数を歩数計のように表示できる「かみかみセンサー」が紹介された。数種類のおやつのかむ回数を前で食べ比べる「実演」が行われた。

d　特別ゲストによる食育のお話「親子で楽しむ食のはぐくみ」

㈱食のはぐくみ研究所代表取締役　管理栄養士　元神戸女子大学教授　渡邊正雄先生

蟻の切り絵を 10 枚貼った「あり」が「とう」の絵を見せ、「ありがとうは魔法の言葉、できるだけたくさん声に出して『ありがとう』と言ってください」という言葉で渡邊先生のお話が始まった。コンビニおにぎり 1 個に使われている米粒の数（ごはん 100g は米 44 g ：2200 粒。お母さんお米 2 つ分の命をいただいている）のお話、命を戴いていることへ

の感謝の証のために、「食事のたびに 3 度美味しいを言おう」と提案された。3 度とは、ご飯を見たときに「美味しそう」、一口食べて「美味しい」、最後に「ああ美味しかった」の 3 回で、命をくれた食べ物が聴きたがっている言葉である。

美味しいと言える子どもに育てるために、まず親が美味しいと言う。なぜなら、日本人が、カップを〜杯、紙を〜枚、という外国にはない独特の数え方をし、「杯」は「はい」「ばい」「ぱい」と音まで違う。これは、親が普段何気なくそう数えているから子どもが耳にして覚えている。「習慣は 親のしたこと 子が真似る 衣食住から心遣いまで」ということである。

大学教員時代、「教育は、“聴いたこと忘れる”“見たこと覚える”“したこと理解する”」だね、と同僚の先生に教えてもらった。あるアメリカの栄養教育の本を読んでいたら同じ言葉が出てきて、これは、孔子が何千年も前に弟子に教えた言葉であると説明があり大変驚いた。食育に大切な言葉である。

箸という日本特有の文化を伝達するために、左利きの子のためにも左利きの箸遣いの絵を書くこと、お箸は食事以外の時にお膝の上に載せて、手の内側を見せて教えてあげると良いこと、1cm 角のスポンジをつかませて練習させてあげると良いこと、長い箸を使ったゲームで遊び感覚で学ばせること、などの方法を教えていただいた。日本では、手に持ってよい器と、持たない器を使い分けており、お椀の配置も決まっているので全てをお箸で食べることができる素晴らしい食文化がある。子どもにお皿並べを手伝わせて、知らない間にそこに来るべきものが来るようにしてあげて欲しい。

「成長ホルモン」という専門用語を使わずに生活リズム（睡眠）について教える「ホセ・ルイ・モチョーン 3 人の妖精のお話」を先生に読んでいただき（写真）、絵本を全員で制作した。

火も、鍋も、ボウルも使わずにできる「州浜だんごづくり」の実演と試食では、先生が用意してくださった「そら豆」の形をした州浜（写真）に歓声が上がった。

渡邊先生のお話は温かく、アイディアもすぐに食育に使えそうなものばかりであった。食育を行う者の心構えや伝えたい大切なことを教えていただいた。

２・３　メディアコミュニケーション 推進センター

２．３－１　活動の概要

今年度の本学年度計画における地域貢献および産学官連携の目標を達成するために、メディアコミュニケーション推進センターに課せられた活動は、１に県市町村などの公共団体に対する３件以上の制作支援活動。２にデジタルコンテンツにかかる人材育成講座の２回以上の開催。３に公共団体の事業に積極的にかかわってデジタルコンテンツの制作指導や技術向上に貢献する、などである。

１と３はその具体的活動の展開においては似かよったものであり、いわばグラフィックや映像などによるデザインの制作支援ということになる。２の人材育成のための講座をふくめ、上記３つの側面からメディアセンターの今年度の活動を概括すると、審査員としてデザインのレベル向上などに貢献した活動が３件、講演や講座によってデジタルコンテンツの制作指導や技術向上の支援、その結果として人事育成に資する活動となったものが５件、ほかに２件は第２５回岡山国民文化祭の実行委員会などの委員に就任することで公共団体のメディアコミュニケーション活動に貢献したものである。

具体的なモノづくりとなる制作支援活動では、グラフィックデザイン分野が７件、映像制作分野が２件。このうち公共団体の事業に関わり、公共団体のメディアコミュニケーション活動に貢献したものは合わせて７件にのぼった。

特筆されるのは、映像制作分野で岡山県安全安心まちづくり推進室の要請を受け、激増する県下の＜振り込め詐欺＞被害を未然防止するためのテレビCMを制作したことである。これは同室の啓発事業に深く関わる形で進められたもので、メディアセンターの地域貢献活動を象徴するにふさわしいものとなった。

また、今回のテレビCM制作では「学生のフレッシュな感性」を生かしたものにしたいという同室の意向もあって、造形デザイン学科の学生９人が制作に参加した。学生はテレビCMの根幹となる絵コンテ（構成台本）を担当しCM制作の原動力となった。

学生の教育的動員は昨年度から取り組んできたものだが、今回、社会人プロと同じステージで制作過程を共にしたことは、厳しい現実的対応が求められる映像作品の制作を学ぶ上で学生の大きな財産になったものと思われる。

このほかの制作支援活動では、岡山県が導入する消防防災ヘリコプターの機体塗装デザインの制作という特異な要請があった。これは、機体という立体をデザインするもので、メディアセンターとして初めて出会う立体デザインである。協議の結果、プロダクトデザインの奥野忠秀教授に依頼して進めることとした。メディアセンタースタッフ以外が担当するのは初めてのことだったが、こうした形は今後も発生するものと予想され柔軟な対応が求められる。

２．３－２　主な活動

（１）地域支援活動

①審査員・講演・講座

審査員、講演、講座の活動分野で今年度は＜出張講義＞というあたらしい活動が加わった。岡山県立鴨方高校から要請があっもので美術科生徒を対象にデザインの授業をしてほしいというもの。いわゆる＜出張講義＞である。これはメディアコミュニケーション推進センターの活動目標にはあげられていないが、＜高大連携＞の典型的な活動でもあり、メディアセンターとしては積極的に受け入れ、万難を排して講師を派遣した。

この分野でのそのほかの活動は例年とおりであったが、昨年度就任した第２５回国民文化祭岡山県実行委員会・企画委員会（委員嘉数彰彦教授）も活発に動き出し、９月には、企画委員会内の＜広報・おもてなし部会＞部会長に嘉数教授があらたに任命され、国民文化祭の広報活動にも参画することになった。

②グラフィック制作支援

グラフィック制作支援で特筆されるのは、岡山県消防保安課から県が導入することになった消防防災ヘリコプターの機体デザインを要請されたことである。メディアコミュニケーション推進センターのスタッフには立体デザインの専門家がおらず、センター長の判断でデザイン工学科プロダクトデザインの奥野忠秀教授に依頼し、制作することができた。このように、センターが受け入れた受託研究をスタッフ外で制作支援するのは今回が初めてとなった。

一方、産学官の共同事業としてセンターが平成１６年度から取り組んできた岡山後楽園製品のブランド化事業＜後楽園プロジェクト＞が再び動き出した。今年度は＜梅ジャム＞を新たに製品化し＜お庭そだち＞シリーズに加えてブランド化を図ろうというもの。＜梅ジャム＞は原材料を生かした素朴な手づくりとし、パッケージデザインを名園にふさわしく上品にまとめあげようと現在作業が進行中である。岡山後楽園の＜お庭そだち＞として＜第２６回全国都市緑化おかやまフェア＞が開幕する３月２０日売り出される予定になっている。

このほか、今年度はポスターなどの制作支援は少なく、シンボルマークや文字デザイン（ロゴタイプ）の支援要請が多かった。特に＜おかやま黒豆＞のシンボルマークとロゴタイプの制作支援では、公募作品の審査委員長というまとめ役から統一シンボルの制作まで対応し依頼者に応えていった。

③映像制作支援

映像制作支援ではメディアコミュニケーション推進センターで初めてともなる大掛かりな映像作品の制作に取り組んだ。社会的にも喫緊の問題となっている＜振り込め詐欺＞被害の防止を呼びかける映像作品の制作である。岡山県の安全安心まちづくり推進室が、昨年度の＜かぎ掛け運動＞啓発ポスターの制作支援をきっかけにメディアセンターに制作依頼してきたもの。

「学生のフレッシュな感性」を生かした作品にしたいという依頼者の要望から造形デザイン学科ＩＴコンテンツデザインコースの学生９人を動員し、学生の感性がもっともよく表現される＜テレビＣＭ＞に挑戦した。

制作体制は監督を嘉数彰彦教授、絵コンテ・構成・制作アシスを学生９人、カメラ・照明を学外のプロフェッショナルに外注した。４月に安全安心まちづくり推進室との打ち合わせを開始し、６月のテレビＣＭ９本の絵コンテの提示とプレゼンテーション、７月と８月の撮影、さらに編集・音入れと厳しいスケジュールの中で大奮闘し、最終的には９月中旬、６本のテレビＣＭ（ＤＶＤ・ＶＨＳ１５０本）を完成し納めることが出来た。

今回の取り組みでは、安全安心まちづくり推進室の物心両面での積極的な協力があったことが成功の大きな要因となった。また、メディアセンターにおいても外注をふくめた制作体制を打ち立てることで相当な制作能力を発揮できることが証明された。今後に生かしていくことができるものと思われる。

④プロデュース支援

平成１８年、岡山の映像文化の向上と岡山から全国への情報発信を盛んにしようと、デジタル映像作品を公募し優秀作品を表彰する＜デジタル岡山グランプリ＞がスタートした。岡山県立図書館を中心にして企業団体の参加を得て設立したものだが、その設立に尽力した嘉数彰彦教授が、実行委員会委員長として、１８年以降も＜グランプリ＞を年１回開催し、指揮・運営する活動をつづけている。こうした活動をプロデュース支援と称しており、今年度は応募点数こそ初年度に比べ少なかったものの、作品のレベルは相当に高くなり注目されるようになった。

（２）そのほかの活動

①産学官連携の活動

ア　金融機関のビジネス相談会

岡山県立大学と３つの金融機関（岡山信用金庫・中国銀行・トマト銀行）の間で７月２４日、包括協定が締結されたのにともない、早々に産学官連携によ

る地域貢献活動が現実のものとなった。メディアコミュニケーション推進センターでも、産学官連携推進センターの主導のもとでこの取り組みに協力することとなり、今年度は手始めとして、各金融機関が開催したビジネス相談会に、地域共同研究機構長の奥野忠秀教授とともに産学連携推進センターとメディアセンターの研究推進員が相談員として参加した。

ビジネス相談会では、金融機関の得意先である地域の中小企業を対象に、ベンチャービジネス、経営改革、商品開発、ＨＰデザインなどについて相談を受けた。メディアセンター研究推進員は特に、ＩＣＴビジネスの現状、あるいはＨＰによるビジネス展開などの分野で対応した。

イ　そのほかの産学官連携

一方、産学官連携においては、メディアセンターが独自に推進している岡山後楽園プロジェクト（後楽園産品のブランド化デザイン）などのほかにも産学官連携の司令塔である産学官連携推進センターと協働する取り組みを進めてきた。今年度は、産学官連携推進センターの事業のひとつである中小企業の＜新規商品開発＞などにデザイン分野で相談に乗ってきた。

また、岡山県の鉱工業生産の半分を占める水島工業地帯の企業を中心に産学官で組織された水島工業地帯産学官懇談会の第65回懇談会が本学で開催され、産学官の一翼を担うメディアセンターも参加、地域共同研究機構長の奥野忠秀教授がメディアセンターの活動事例などを紹介し、本学の産業振興に資する体制をアピールした。

ウ　相談と調査

相談業務で増加傾向にあるのが、地方産出食品などの商品開発にともなうデザイン化の要望である。ひとつは備中町で大量に生産されるギンナンの新たな加工食品としての開発とパッケージデザインの相談があった。これは産学官連携推進センターが受けてメディアセンターに相談があったもので、商品開発する当初からパッケージデザインを着想していこうというわけである。こうした商品化の立ち上げからデザインを発想していくのは、今後も必要なことかもしれない。

井原鉄道株式会社から開業１０周年記念に駅弁を開発し売り出すについて、そのパッケージデザインの相談が寄せられた。パッケージは井原鉄道の電車の色・形にすることが前提として決っていたため、新たにデザインを考案する余地はなかった。

そこで、センターとしては、電車の形をした駅弁パッケージの全国の具体例を調べ、紙か陶器かなどの素材やその値段、パッケージを制作する専門企業などを調査し報告書にして提出した。

また、産学官連携に関わらないメディア支援に関する要請相談があわせて６件あった。それぞれ対応したが、依頼者の支援要請の姿勢などに課題があり具体的制作支援には至らなかった。

②メディアセンターの研修活動

今年度は公共団体などが実施する研修会などに、メディアコミュニケーション推進センターとしてできるだけ参加していった。研修会はメディアセンターとして必要な知識や技術の向上を目的としたもので主なものは次ぎのとおりである。

ア　１００社訪問

研修活動の手始めに、まずは岡山産学官連携推進会議の共同事業のひとつ＜１００社訪問＞で、岡山県下企業でも最先端のＩＣＴを駆使した事業展開をしている岡山市の㈱コンテンツを訪ね、海外の著名博物館などからも高く評価評されているデジタルアーカイブ技術を現場で確認した。

イ　教育著作権セミナー

メディアセンターが制作支援しているグラフィックや映像の成果物は、いずれもが著作物であり、メディアセンターとして著作物を依頼主に提案提出するに際し、常に著作権の帰属に関して判断を求められる。

また、センターとして著作物を利用する機会も多く、著作物を扱う確かな知識が求められる。そうしたなか、独立行政法人＜メディア教育開発センター＞主催の「教育著作権セミナー」が香川大学で開催されたのに参加、著作権の帰属のかたちや著作物の自由利用、それに許諾のとり方などを学習した。

ウ　ネットビジネスセミナー

金融機関のビジネス相談会に参加して強く感じたのは、企業経営におけるインターネットビジネスへの期待感である。つまり、顧客獲得や売り上げ増につながるＨＰはどのようにつくればいいのか、という問いであり、大げさに言えば、デザインを専門とする学部を持つ県立大学にその問いが投げかけられているとさえ言える。

企業の現状を知るため岡山県中小企業団体中央会の＜経革広場＞が主催して開いたネットビジネスセミナーに参加した。大阪のネット集客の専門家中嶋茂夫氏の講義を３回にわたって受講、ビジネスにつながるＨＰのつくり方を学んだ。

③ＯＰＵフォーラム

「人間力」をテーマにし展開された２０年度のＯＰＵフォーラムにおいてメディアコミュニケーション推進センターでは、メディアセンターの活動概況の報告のほか、１９年度の重点的取り組みのひとつであった学生の教育的動員による制作支援活動の代表例２件を発表した。

（３）対価受け入れ状況

メディアコミュニケーション推進センターの社会貢献活動の対価については岡山県立大学の公立大学法人化後、出来る限り対価を受け入れるべく努力してきた。しかしながら、一方では、大学の社会貢献活動はボランティア的であるとの基本線も崩してはならない。そういう意味で今年度のすべての支援活動で対価を得るということにはならなかった。

新規に対価の受け入れができたのは、多大な経費のかかった＜振り込め詐欺＞被害防止のためのテレビＣＭをはじめ、４件であった。いずれも受託研究の形をとっているが、メディアセンターの場合はデザインデータなど成果物を依頼者に納めた後にはじめて対価を受ける仕組みになっていて需用費などの執行に際して、時間的な齟齬が生じている。

一方、再開した＜後楽園プロジェクト＞の＜梅ジャム＞のパッケージデザインでは売上高の１％を得る＜ロイヤリティ方式＞で受け入れることが決まった。これで＜後楽園プロジェクト＞での＜ロイヤリティ方式＞は定着したものとみえる。

２．３－３　今後の課題

メディアコミュニケーション推進センターは、デザイン学部の持てる知識と技術を地域社会に還元していこうと、平成１４年に設立された。以来、グラフィック・映像などの分野で、岡山県および県下市町村や学校など公共団体のメディアコミュニケーション活動（事業）を支援してきた。

これまでを振り返ってみると一時期、ポスターやチラシなど「いいものを手軽につくってもらえる」との期待から制作支援が集中したこともあった。このためスタッフ教員に多大な負担がかかる事態も起きた。しかし昨年度から今年度にかけて、地域の

公共団体からの支援要請はほぼ安定してきた。まとめてみると、委員・審査員・講演・講義など制作をともなわないものが９件、グラフィックの制作支援が７件、映像の制作支援が２件であり、依頼件数としては昨年度と大差はなく十分対応していける状況であった。

一方、制作支援に学生を指導・教育しながら参加させる教育的動員であるが、今年度は、＜振り込め詐欺＞被害防止の啓発ＣＭの制作で実現することができた。「学生のフレッシュな感性を生かす」という依頼者の要望もあって学生の参画は当然であったとはいうものの、今回のように社会人とともに制作を進めるなかで、学生の学ぶものは大きく教育的側面も十分であった。また、その結果である成果物も高い評価を得たことはお互いにとって幸せであった。学生を指導しながらの制作支援はスタッフ教員にとって負担が大きいが、今後ともこうした学生の能力を生かしていく支援活動が求められるのであろう。

さて、今後、メディアセンターではどのように活動を展開していくか。依頼件数も安定してきたなかで、もう一歩前に進んでいくためには、メディアセンターが独自に展開する活動が欠かせないであろう。そしてまた、メディアセンタースタッフ教員の多くがまんべんなく参加し活動を展開していくことだろうと思われる。

２．２－４　関連資料

（１）地域支援活動

①審査員・講演・講座

ア　第５５回ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト岡山県予選の審査員

日時　：　６月１４日

依頼　：　ＮＨＫ岡山放送局

内容　：　第４５回岡山県高等学校放送コンテスト決勝大会を兼ねた第５５回ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト岡山県予選の審査員をつとめるもの。

対応　：　山陽女子高校で行われたコンテストで嘉数彰彦教授が審査員として参加。７月２２日から東京で行われるＮＨＫ杯全国高校放送コンテストに出場する山陽女子高校や就実高校、それに明誠学院高校などの優秀校を選んだ。

山陽女子高校

ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト県予選表彰式

イ　出張講義

日時　：　７月４日

依頼　：　岡山県立鴨方高校

内容　：　鴨方高校美術科生徒を対象にしたグラフィックデザインに関する講義をする。

対応　：　指名のあった野宮謙吾講師が「グラフィックシンボルの役割」と題して７月４日、２年生美術科の生徒１５人を対象に講義した。

ウ　早島町シンボルマーク審査員

日時　：　８月７日

依頼　：　早島町記念事業実行委員会

内容　：　平成２１年に早島町の宇喜多堤が築堤４２０周年を迎えるに際し町が公募したシンボルマークの審査をする。

対応　：　要請のあった嘉数彰彦教授が審査員をつとめ、８月７日、ネット公募で集まった１６０点を審査。最優秀に選ばれた本人にデザインの補正を指示。同時に記念事業のキャラクター「ウッキー」も選定した。平成２１年４月から記念事業で利用される。

エ　＜おかやま黒まめ＞シンボルマーク審査委員長

日時　：　６月１６日

依頼　：　岡山県生産流通課

内容　：　＜おかやま黒まめ＞をＰＲするためシンボルマークを作成するに際し、全国から公募するシンボルマークの選考委員会の委員長に就任する。

対応　：　事前協議の後、７月３０日に山下明美教授と打ち合わせ、委員長就任を内諾。

「公募ガイド」７月号などで募集した結果、８００点が集まり、事前審査をした後、９月４日、本審査会がひらかれ、最優秀１点ほか優秀５点を決めた。

採用作品の補正、および＜おかやま黒まめ＞のロゴタイプについては別記。

審査会風景

審査委員長の山下明美教授

オ　中高生のための映像作品制作講習会

日時　：　８月２３日

依頼　：　岡山県立図書館

内容　：　＜デジタル岡山グランプリ＞に参加する中高校生のためにビデオ

映像作品の制作のしかたを教える。

対応　：　＜デジタル岡山グランプリ＞の実行委員長として嘉数彰彦教授が８月２３日､県立図書館にて映像の撮影から編集までを教授した。

岡山県立図書館

中高校生のための映像作品制作講習会

カ　映像ボランティア養成講座

日時　：　９月９日～９月１２日、１２月７日、１２月１４日

依頼　：　岡山県生涯学習センター

内容　：　岡山県生涯学習センターが主催して開いる映像ボランティアの養成講座で撮影、編集など指導する。

対応　：　嘉数彰彦教授が講師として上記６回の日程で、映像の撮影から編集までを指導、各自の作品を完成させた。

キ　生徒の商業研究発表会指導者研修会

日時　：　１２月３日

依頼　：　岡山県高等学校教育研究会商業部会

内容　：　生徒の研究発表を指導する立場から研究発表の効果的な企画の立てかたなどについて講演した。

対応　：　研修会は岡山東商業高校で行われ、嘉数彰彦教授が講演した。

ク　瀬戸内市景観審議会会長

日時　：　１月２１日

依頼　：　瀬戸内市

内容　：　瀬戸内市が新たに景観条例を施行（１２月２６日公布）することになり、条例で定められた景観審議会の会長に就任する。

対応　：　１月２１日第１回瀬戸内市景観審議会が開かれ、嘉数彰彦教授が会長に選任された。４月から大規模工作物等の開発の申請があった場合、景観審議会において条例に照らして審査する。

http://www.city.setouchi.lg.jp/news/index.html#215

ケ　発想法講座

日時　：　２１年３月１１日

依頼　：　岡山県生涯学習センター

内容　：　発想法講座で講師を務めた。

対応　：　嘉数彰彦教授

コ　第２５回国民文化祭岡山県実行委員会・企画委員会委員

日時　：　企画委員就任は１９年９月

依頼　：　岡山県国民文化祭準備室

内容　：　平成２２年岡山県で開催される第２５回国民文化祭において県が実施する事業の企画立案などに尽力する。

対応　：　昨年９月３日岡山県実行委員会・企画委員会委員に就任した嘉数彰彦教授がひきつづき委員を勤める。今年度は５月７日、１０月２０日、１１月１８日、１２月１８日、１月１６日、３月（予定）と企画委員会が開かれ、それぞれ出席して意見を述べた。また、１１月１８日には、企画委員会内の＜広報おもてなし部会＞の部会長に任命された。

②グラフィック制作支援

ア　デザイン学部学科案内パンフレットの制作

日時　：　４月～７月

内容　：　デザイン学部の造形デザイン学科とデザイン工学科についてコースごとに学びの内容をわかりやすくまとめた案内パンフレットを制作するもの。

対応　：　西田麻希子助教が２学科にわたる全体的なデザイン構成をし、画像・テキストなどの落とし込みは造形デザイン学科を西田助教がデザイン工学科を上田篤嗣助手が担当した。

完成した２学科のパンフレット表紙　　ビジュアルで分かりやすい

イ　＜おかやまフルーツ・ギャラリー＞のタイトルデザイン

日時　：　５月１５日～６月２０日

依頼　：　岡山県農政企画課

内容　：　岡山県が東京ミッドタウンに出店した＜おかやまフルーツ・ギャラリー＞のプレートの文字デザインとシンボルマークを制作する。

対応　：　シンボルマークを研究している野宮謙吾講師が担当。ショウケースに置かれたプレートにシンボルマークと文字をデザイン。デザインはプレートに加工された後、７月２６日から８月１７日まで東京ミッドタウンの＜おかやまフルーツ・ギャラリー＞で掲示された。

提案した原画

透明プレートに表現（左）

東京ミッドタウン内

ウ　＜晴れの国鬼の城シンポジウム＞のポスターデザインの制作

日時　：　５月～７月末

依頼　：　本学保健福祉推進センター

内容　：　10 月４日保健福祉推進センター主催で開かれる食の安全と安心をテーマとした＜第７回晴れの国鬼ノ城シンポジウム＞のポスターとチラシのデザインを制作する。

対応　：　山下明美教授が担当。ポスターなど事前に配布する必要から７月末には完成させ納めた。

鬼ノ城シンポジウムのポスター

エ　後楽園プロジェクト＜梅ジャム＞のパッケージデザインの制作

日時　：　５月１２日

依頼　：　岡山後楽園・有限会社ウカンファーマーズファクトリー（産官学連携）

内容　：　岡山後楽園の梅林の梅を使った＜梅ジャム＞をあらたに＜お庭そだち＞シリーズに加えることになり、＜梅ジャム＞のパッケージデザインを考案する。

後楽園プロジェクト再開

岡山後楽園の所長とスタッフ

対応　：　５月１２日
岡山後楽園から上記内容の提案を受け、パッケージデザインを担当することで検討に入る。
７月１１日
＜梅ジャム＞をつくるウカンファーマーズファクター（酒井孝夫社長）の生産量、売価、販売展開のしかたなど岡山後楽園と協議する。
８月６日
県立大学で第１回３者協議を開催、メディアセンター・後楽園プロジェクトの野宮謙吾講師、西田麻希子助教が参加。
＜お庭そだち＞シリーズのひとつとして新たに＜梅ジャム＞を

追加することで合意した。パッケージデザインを担当する後楽園プロジェクトがスタート。

８月２５日

県立大学で第２回３者協議。品質表示のスペース、瓶の蓋の色、制作日程などについて協議。

９月１１日

県立大学で第３回３者協議。＜お庭そだち＞のロゴは変えないこと、ジャムの中身が見えるデザインとすること、１００ｇ瓶詰めで売価を５００円までにおさえることなどのほか、ターゲットを女性中高年とするなど具体的打ち合わせを行う。

１０月２８日

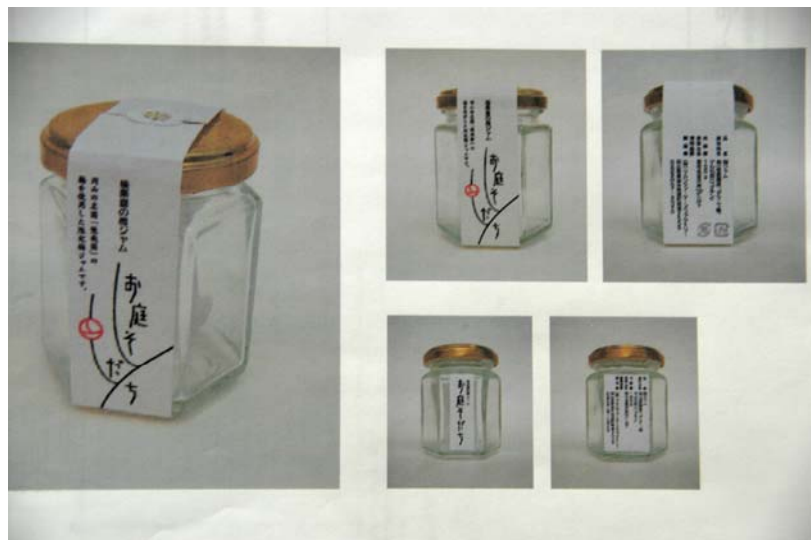
県立大学で第４回３者協議。瓶の型、大きさ、容量１００ｇなど決定。

１２月４日

県立大学で第５回３者協議。後楽園プロジェクトが　＜梅ジャム＞瓶詰めラベルデザイン案を２案プレゼンテーションする。

提案書

1月２７日

県立大学で第６回３者協議。＜梅ジャム＞瓶詰めラベルデザイン推奨案に決定する。２月中旬データ納品。３月初旬記者発表などの日程をお互い確認する。

プレゼンテーションした２案のうち推奨案

オ　＜おかやまの黒豆＞シンボルマーク補正とロゴ制作支援

日時　：　８月１日から１０月３１日

依頼　：　岡山県生産流通課

内容　：　岡山県内で生産される黒豆の２つのブランドをひとつに統一して、あらたに＜おかやま黒まめ＞として全国に発信したい。そのため統一のシンボルマークを公募し、集まった作品を審査委員長として審査するとともに採用された優秀作品のデザイン補正と＜おかやま黒まめ＞のロゴタイプを制作する。

対応　：　６月１６日

岡山県生産流通課から上記内容の依頼があり、協議した結果、山下明美教授が審査委員長と補正デザイン、ロゴタイプの制作を担当。

＜公募ガイド＞７月号などで公募開始。７月３０日山下教授との第１回打ち合わせをおこなった。

９月４日

審査会が開かれ、公募８００点のうち事前審査を通過した５０点を審査、最優秀１点ほか優秀５点を決めた。

その後、最優秀作品をデザイン補正し１０月１日ＰＤＦデータとともに完成デザインのＰＯＰを納めた。

完成したシンボルマーク

１０月４日

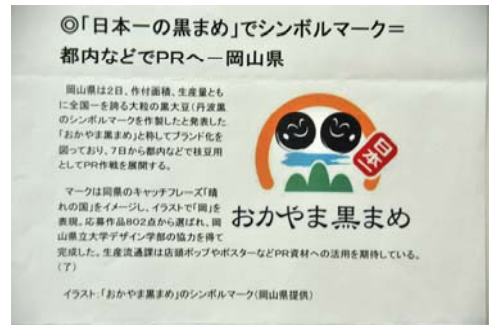
コンベックス岡山で行われた岡山県農林水産祭で＜おかやま黒まめ＞統一シンボルマークが披露された。

岡山県農林水産祭で披露された

◎「日本一の黒まめ」でシンボルマーク＝都内などでPRへ－岡山県

岡山県は2日、作付面積、生産量ともに全国一を誇る大粒の黒大豆（丹波黒のシンボルマークを作製したと発表した「おかやま黒まめ」と称してブランド化を図っており、7日から都内などで枝豆用としてPR作戦を展開する。

マークは同県のキャッチフレーズ「晴れの国」をイメージし、イラストで「岡」を表現。応募作品802点から選ばれ、岡山県立大学デザイン学部の協力を得て完成した。生産流通課は店頭ポップやポスターなどPR資材への活用を期待している。（了）

イラスト：「おかやま黒まめ」のシンボルマーク（岡山県提供）

時事通信が全国へネット配信

カ　岡山国民文化祭のロゴタイプの制作

日時　：　６月～８月

依頼　：　岡山県文化振興課国民文化祭準備室

内容　：　平成２２年に岡山県で行われる「第２５回国民文化祭・おかやま２０１０」の愛称「あっ晴れ！おかやま国文祭」のロゴタイプを考案制作するもの。

対応　：　野宮謙吾講師が担当。

キ　岡山県消防防災ヘリコプター機体デザイン

日時　：　９月８日

依頼　：　岡山県消防保安課

内容　：　岡山県が導入する消防防災ヘリコプターの機体を３色でデザインする。

対応　：　９月８日

消防保安課からメディアセンターに上記相談がある。

９月１１日

消防保安課から西条保幸班長ら職員２名来学、機体のデザイン、納期などについて具体的要請を聞く。

９月１７日

立体デザインということから嘉数彰彦センター長と相談し、プロダクトデザインの奥野忠秀教授に担当してもらうことにする。

１０月１０日

消防保安課西条班長、原田主任来学、嘉数センター長、奥野教授と面談協議、制作受託を決定。１０月１０日から１１月１０日の間、奥野教授が上田篤嗣助手とともにデザインの研究・制作。

１１月１３日

西条班長、原田主任来学、機体デザイン３種１０パターンにつきプレゼンテーションをし、直接納品。

２月６日

<第 13 回リサーチパーク研究発表展示会>の要旨集に「岡山県消防防災ヘリコプターにおけるＶＩデザインの研究」(奥野忠秀教授・上田篤嗣助手）を発表。機体の愛称と機体番号のロゴタイプの制作についてはヘリコプター導入の遅れにともない、３月末にずれこむことになった。

１０パターンのうち２つの機体デザイン

③映像制作支援

ア　振り込め詐欺防止啓発のテレビＣＭの制作

日時　：　４月８日～９月３０日

依頼　：　岡山県安全安心まちづくり推進室

内容　：　学生のフレッシュな感性をいかして、今問題になっている振り込め詐欺を防止するための啓発ＣＭをつくる。

対応　：　安全安心まちづくり推進室からの上記申し入れは昨年度あったもので、３月２６日に第１回検討会が県立図書館で開かれ、嘉数彰彦教授と造形デザイン学科の３年生４人が振り込め詐欺事件の実情などについてレクチャーを受けた。

岡山県立図書館で開かれた第１回検討会、振り込め詐欺の実情を把握する

４月１０日

安全安心まちづくり推進室着任の入江守室長と面談、事業として推進をすることを確認。

４月２４日

振り込め詐欺防止啓発ＣＭ制作の第２回検討会を県立大学で開催。室長以下５人が参加。ＣＭ制作費などのほか、日程について協議。６月までに学生９人が絵コンテを完成、８月初旬に撮影、８月末には編集し完成させる予定。

ＣＭ構成を検討する学生たち

６月２４日

第３回検討会、学生８人が参加、ＣＭ９本をプレゼンテーションする。

９本のうち６本のテレビＣＭを制作することとし、絵コンテの修正と完成、撮影の開始日、ナレーション入れ、編集などの日程をほぼ決定。

本学スタジオでの撮影

シーガルズの撮影

７月２４日

特別出演することが決まった＜岡山シーガルズ＞のバレーボールシーンを山陽ふれあい公園総合体育館で撮影。

８月１１日

１１日と１２日の２日間には、そのほかの５本を岡山県総合住宅展示場＜ハウジングスクエアー青江＞のモデルハウスを借用して撮影。

　指導監督に当たってきた嘉数教授が８月中旬から８月末までにビデオ編集し、音入れをして完成させる。

ハウジングスクエアー青江

モデル住宅玄関での撮影風景

９月１日

振り込め詐欺防止啓発テレビＣＭが完成、岡山県庁県政記者クラブで安全安心まちづくり推進室の入江室長と嘉数教授が記者発表。学生６人も同席して質問など受ける。

岡山県庁で行なわれた記者発表

記者発表に参加した学生スタッフ

結果　：　９月１日

ＮＨＫが学生の大学での制作過程を含めた振り込め詐欺防止啓発ＣＭ完成のニュースを放送。

９月１２日

岡山県のＨＰに振り込め詐欺防止啓発テレビＣＭがアップされた。

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=25206

９月３０日

元警察庁長官が理事長を勤めるＮＰＯ「ポリスチャンネル」から振り込め詐欺防止啓発テレビＣＭを同ＨＰのライブラリーに加えたいとの要請があり、９月末にアップされる。

http://www.police-ch.jp/whatpc/

１０月２７日

安全安心まちづくり推進室が来学相談。完成したテレビＣＭを来年度民放で放送する計画につき協力要請があった。承諾する。

読売・山陽・岡日などに掲載

ＮＨＫ岡山で放送の１シーン

１２月２０日

山陽放送が特別番組「ハマイエ教授の犯罪撲滅テレビ講座」で＜子供の声編１５秒＞と＜パンプキン編１５秒＞が放送される。

＜パンプキン編＞の手づくりパンプキン

＜子どもの声編＞の撮影風景

２月１８日

ＴＢＳが関口宏の「水曜ノンフィクション」振り込め詐欺特集で、メディアセンター制作の＜振り込め詐欺防止啓発テレビＣＭ＞をＴＢＳ系列で全国放送（２１：００～２２：００）

電話がかかってきたら…

●まずは冷静に！

知らない人からの電話や、事件・事故を伝える内容であっても、まずは落ち着いて。慌ててパニックになると犯罪者の思うつぼです！

●すぐに信用せず確認を！

公的機関の職員を名乗っていても、相手の言うことをうのみにしてはいけません。いったん電話を切って相手の所属先にかけ直すなど、必ず自分で確認してください。

●一人で判断しない！

返事を急がされていても、必ず家族や近所の人、警察や消費生活センターなどの相談窓口に相談しましょう。

被害を最小限に食い止めるには

●だまされたかも？と思ったら

「お金を振り込んだけれど何かおかしい」などと感じたら、すぐに警察や金融機関に連絡をして、振り込んだ口座の利用停止などをしてください。

「振り込め詐欺被害防止」CMができました！

岡山県立大学の学生が、詐欺被害防止を訴える6種類のCMを制作しました。県安全・安心まちづくり推進室のHPでご覧いただけるほか、DVDとして貸し出しを行っています。

孫世代の私たちの力で振り込め詐欺から大切な人を守ってあげたい

岡山県立大学 デザイン学部3年 森本久美さん

CMを作るために、振り込め詐欺の被害状況や手口などをリサーチ。友達の中には、実際にオレオレ詐欺の電話がかかってきたことがあるという人もいて、改めて詐欺犯罪の広がりを感じました。若い人たちも、ひとごとと考えずに、普段から連絡を取り合うなどして、家族や身近な人を詐欺の被害から守ってあげてほしいと思います。

「晴れの国おかやま」１２月号で紹介

イ　岡山市のイメージキャラクター投票を呼びかけるＣＭの制作

日時　：　１２月２６日

依頼　：　岡山市生涯学習課・成人式実行委員会

内容　：　岡山市が政令市に移行するに際し、若者が選ぶ市のイメージキャラクターをつくる計画で、成人式にイメージキャラクター３案からひとつを選ぶ投票がおこなわれたが、その投票を呼びかけるＣＭを制作した。

対応　：　嘉数彰彦センター長に直接相談があり、急遽、成人式実行委員会メンバーと本学造形デザイン学科の学生を動員した撮影チームをつくり、１２月２６日岡山ドームにおいて撮影。本学の造形デザイン学科２年の赤井友紀が投票を呼びかけるＣＭなど１５秒ＣＭを３種類制作して納めた。

結果　：　ＣＭは１月６日から１０日までに、成人式に投票を呼びかけるＣＭが、成人式後の１月１２日から１６日までは投票の結果選ばれた最優秀作を伝えるＣＭが、いずれも山陽新聞社前の＜さん太ビジョン＞で放映された。

さん太ビジョン

ＣＭに登場した赤井友紀さん

最優秀の＜桃タイヤ３兄弟＞

④プロデュース支援

第３回＜デジタル岡山グランプリ＞のプロデュース支援

日時　：　４月～１１月

依頼　：　映像コンテスト＜デジタル岡山グランプリ＞実行委員会

内容　：　岡山県立図書館を中心に結成された映像コンテスト＜デジタル岡山グランプリ＞の実行委員長として、グランプリの作品募集から公開審査までをプロデュース支援するもの。

対応　：　岡山県立図書館を核に民間企業、団体の参画を得て共催事業として展開しており、嘉数彰彦教授がスタート以来３年にわたって統括運営してきた。第３回は4月10日に第１回実行委員会を開催し、作品の募集を開始、１２月２１日にグランプリのほか８点の受賞作品を選び授賞式を行った。

授賞式（県立図書館ホール）

審査結果の発表

経過　：　４月１０日　第１回実行委員会
４月２５日　作品の募集開始
８月２３日　＜デジタル岡山グランプリ＞参加の中高校生のための映像作品制作講習会を開き嘉数教授が指導教授する。
１０月１０日　第２回実行委員会
１１月１３日～１４日＜デジタル岡山グランプリ＞事前審査会。応募１４８作品から３０作品を選考する。
１２月１７日　＜デジタル岡山グランプリ＞予備審査会。受賞作品を選考する。
１２月２１日　＜デジタル岡山グランプリ＞本審査会と授賞式。

表彰状を授与する嘉数教授

岡山県立図書館ＨＰ

（２）そのほかの活動

①産学官連携の活動

ア　岡山信金ビジネス相談会

日時　：　８月５日

対象　：　岡山印刷工業会、富士印刷株式会社

内容　：　ＩＴ化の進む印刷業界だが、受注の種類をはじめ生産から納品までの業態は従来の古い仕組みが抜け切れていない。そうした現状についての聞き取り調査。また、富士印刷が自社出版している印刷出版情報誌をビジネス活用する方法などの相談を受ける。

対応　：　産学連携推進センター佐野公一郎研究推進員、メディアコミュニケーション推進センター茢田實研究推進員が聞き取り相談にあたる。企業側は富士印刷藤原直樹社長、岡山印刷工業組合栗林靖彦事務局長の２人。

イ　トマト銀行ビジネス相談会

日時　：　８月７日

対象　：　岡山県内の中小企業１０社

内容　：　各企業がそれぞれめざしている商品開発やＨＰのビジネス展開についての相談。

対応　：　地域共同研究機構長の奥野忠秀教授と産学官連携推進センターの佐野公一郎研究推進員、メディアコミュニケーション推進センター茢田實研究推進員がそれぞれのテーマにあわせて相談をうける。

　ＨＰのビジネス展開では企業４社の HP デザインを見ながら、レイアウトにおける順序、強弱のつけ方、ビジュアル面では写真、あるいは動画の効果的な利用などのほか、従業員ブログの展開やユーザーの書き込み覧の設定などについてもアドバイスする。

３コーナーに分かれてビジネス相談

ウ　第６５回水島工業地帯産学官懇談会（水島ソシエ）

日時　：　８月２８日

対象　：　水島コンビナート関連企業１５社１６人、倉敷市と岡山県５人、岡山県立大学８人、あわせて２９人。

内容　：　岡山県立大学の地域共同研究機構とメディアセンターなど３センターの目指すものとその体制を紹介するとともに、メディアセンターの地域貢献活動の具体例などをアピールした。

対応　：　地域共同研究機構長奥野忠秀教授が説明し、意見交換が行われた。

奥野忠秀教授が講演

水島ソシエ懇談会（本学）

エ　商品開発相談

ａ　駅弁開発

井原鉄道三浦一男専務から８月中旬、井原鉄道開業１０周年を記念して「井原線で販売する駅弁を売り出したい」、ついてはパッケージデザインの考案について相談に乗ってほしいとの依頼があり訪問する。

聞くとデザインは井原鉄道の小型電車をそっくり生かすことで決まっており、すでにその模型が作られていた。このためパッケージデザインを改めて考案する余地はなく、このとおりのデザインを実際に実現するためにはどのくらい費用がかかるかなどについて実地調査し報告することにした。

電車型の駅弁の全国での事例、紙容器、陶器容器などの例、その売価、また、紙容器とした場合の容器製作と印刷の会社を探し出し書面にして報告した。

b　食品開発

岡山県備中町の株式会社緑研から、大量生産されるギンナンの新商品開発について相談があり、１１月２５日、産学官連携推進センターの主導のもとに、栄養学科教員らとともに緑研のギンナンやその生産状況を見学する。メ

ディアセンターは新商品開発にともなうパッケージデザインでの協力を意図したもの。

緑研のギンナン選別機を見学

ｃ　家具デザイン

倉敷市の守屋建具店から、不況で受注減に見舞われる中、業態を建具から家具へと転換したい、ついては家具のデザイン面での支援をしてほしいとの相談を受けた。検討の結果、業務体制など経営改革なども必要なことから当面、産学官連携推進センターで対応をすることとした。

ｄ　このほか相談

産学官連携推進センターとともに進めた金融機関のビジネス相談で、対象となった企業からＨＰデザインなどの事後相談が３社からあわせて４件あったが具体的制作支援には至らなかった。

②メディアセンターの活動

ア　100社訪問

日時　：　４月８日

主催　：　岡山商工会議所ほか

訪問　：　株式会社コンテンツ（岡山市下中野２－２７－２）

http://www.contents-jp.com/web/

内容　：　㈱コンテンツは独自開発の高精細デジタルカメラと画像処理技術を駆使して画像の超高精細デジタルデータ化技術を完成し、貴重な文化財などのデジタル保存事業を展開している。

最先端のＩＣＴを駆使したデジタルデータ化のオペレーション現場を見学し、超高精細による文化財などのデジタル保存の仕組みを学んだ。

コンテンツ㈱のオペレーション室　　　　再現された高精細の屏風

イ　教育著作権セミナー

日時　：　11 月 10 日

主催　：　メディア教育開発センター（香川大学共催）

内容　：　メディア教育開発センター教授尾崎史郎氏を講師に、特に教育現場における著作物と著作権の問題について詳しく講義を受けた。

会場は香川大学教育学部

教育著作権セミナー

ウ　ネットビジネスセミナー

日時　：　①８月２３日　　コンベックス岡山

②１０月１１日　サンピーチ岡山

③１１月２９日　岡山県中小企業会館

主催　：　岡山経革広場推進協議会

内容　：　インターネットコンサルタント中嶋茂夫氏を講師に、ＨＰのレイアウトの仕方やＳＥＯ（上位表示の工夫）やキーワードの使い方など集客力アップにつながるＨＰの展開のしかたを学ぶ。

ネットビジネスセミナー

③ＯＰＵフォーラム

ア　メディアコミュニケーション推進センター活動報告

担当　：　嘉数彰彦教授

内容　：　メディアセンター活動件数とその成果、および教育研究奨励寄付金、受託研究対価の受け入れ状況などパネル表示した。

メディアセンター展示コーナー

イ　かぎ掛け運動の啓発サインの考案とポスター制作支援

担当　：　桑野哲夫教授
学生（相川梨恵、藤田有紀子、森下奈実恵）

内容　：　岡山県が進めている「声掛け合って、かぎ掛け」県民運動をいっそう周知・展開するための啓発サインの制作とそのポスター制作支援活動を報告した。当初サインだけの依頼だったが、学生のプレゼンテーションによってポスター制作、さらに新聞へのカラー広告まで制作支援したことを示した。

新聞の取材を受ける学生たち

ウ　リブ２１外壁への巨大アートデザインの制作支援

担当　：　野宮謙吾講師
　　　　　学生（岡崎純子、寺本志穂、藤村友梨、藤本恵美子）

内容　：　天満屋ハピータウンリブ総社店のある＜リブ２１＞の外壁に巨大なグラフィックアートを制作した一連の活動を報告した。講師のディレクションのもとに、デザイン案の考案からプレゼンテーション、それに色校正など学生たち自主的に進めた制作過程や、完成したアートデザインが新聞・テレビなどに取り上げられたことも含めた。

除幕式で取材を受ける学生たち

（３）対価の受け入れ状況

①教育研究奨励寄付金

ア　後楽園のお弁当＜お庭そだち＞

後楽園四季彩（１９年４月～２０年３月全期分）　８，２９５円

イ　後楽園のお弁当＜お庭そだち＞

河本食品（１９年１０月～２０年３月分）　２９，８８９円
　　　　（２０年４月～９月分）　５７，５３７円

ウ　駅弁＜後楽園のお弁当＞

三好野本店（１９年１０月～２０年３月分）　２４３，７１１円

（２０年４月～９月分）　２２９，４５９円

②受託研究

ア　＜振り込め詐欺＞被害防止ＣＭ

岡山県安心安全まちづくり推進室　９８０，０００円

イ　＜おかやま黒まめ＞シンボルマーク補正とロゴタイプ

岡山県生産流通課　６５，７８２円

ウ　＜おかやまフルーツ・ギャラリー＞のマークとロゴタイプ

岡山県農政企画課　５０，０００円

エ　岡山県消防防災ヘリコプター機体デザイン

岡山県消防保安課　８４，０００円

３　附属図書館

３．１　概要

岡山県立大学附属図書館は延床面積１、２階計２，６２８㎡を有し、閲覧室の全座席数は１８２席、個人閲覧室３室、グループ閲覧室１室（１２名）を備える。また、ＡＶ（視聴覚）コーナーにはＡＶ教材による学習ができるシステム（８台）を設け、さらに、ＯＰＡＣ端末４台、ＣＤ－ＲＯＭ検索・インターネット検索ができる端末を９台、館内貸出のノートパソコン１８台、マイクロリーダー１台を設置している。

蔵書は図書・製本雑誌等で約２１．１万冊、ＤＶＤ・ビデオ等の視聴覚資料４，４５０本、継続購入雑誌が２８０種（内４２種は旭電気株式会社から寄贈）。これらはすべてコンピュータ管理されている。館の運営は図書館長、各学部の８学科から選出された委員及び事務局長で構成する図書館専門委員会が所掌し、図書館の運営、図書館資料の収集、その他図書館に関する重要事項について審議している。

なお、本学附属図書館は学部講義期間は平日９時～２１時３０分、土曜日は９時～１７時まで、また長期休業中は平日９時～１７時まで開館している。

３．２　地域貢献

（１）附属図書館の公開

本学は、開学当初から、図書館を地域住民に開放し、地域の教育文化の向上に役立てるため、本学の教育・研究機能に支障のない範囲で、公共図書館では提供し得ない専門図書等を県民に公開している。また、全開架方式で、学外者は自由に館内閲覧ができ、専用端末からＯＰＡＣによる蔵書検索や文献複写が可能である。図書の貸出しについては、間接貸出（公共図書館を通じて貸出が可能）を利用することができる。

平成１２年からは本学及び県立短期大学の卒業生・退職教職員にも貸出対象を広げ、その後、利用者の範囲を順次拡大してきている。利用状況を見ると、一般の利用者が約８割を占め、市内のみならず広く県内からの利用があり、本年１月末までの貸出冊数の累計は３４１冊である。

学外者の図書館利用数

学外者の内訳	人数（人）	比率（%）
他大学の学生	７３	6
他大学の研究者	２１	2
大学以外の学生	１２	1
大学以外の研究者	１０３	8
その他・一般	９８８	８３
計	１，１９７	１００

＊平成２１年１月現在

（２） 学外利用者への図書利用カード発行

図書資料の貸出しを希望する学外の有資格者の申し出に対し、図書利用カードを発行している。有効期限は１年で、最長３年まで更新可能で、現在、３９４枚の学外者用図書利用カードを発行している。登録者は看護・保健医療関係従事者が大半を占め、また、県内外から広く利用されていることが特徴である。

平成２０年度は、１月末で新たに１９枚の図書利用カードを発行している。

（３） 開館時間の延長

開学当初は１７時で閉館していたが、学生からの強い要望を受け平成９年度から講義期間中は２０時まで開館していた。さらに、平成１４年度の試行期間を経て翌１５年度から講義期間は平日２１時３０分、土曜日は１７時までの開館として現在に至っている。

夜間開館の延長及び土曜に開館により学外者の利用も増加し、とりわけ、看護・保健医療関係従事者の利用が多く、情報収集に大きく貢献している。

（４）データベース講習会

学外利用者の多くが看護・保健医療関係従事であることから、効率的な利用を促進するために文献探索、とりわけ医学中央雑誌・MEDLINE等のデータベース講習会を開催しており、学内の教員の要望も受けて２０名程度を限度に随時開いている。

３．３　岡山県立図書館情報ネットワークへの参加

（１）　岡山県図書館横断検索システムへの参加

従前、図書館所蔵資料の発信は本館のホームページで行っていたが、平成１７年１月の図書館情報システム更新にともない、「岡山県図書館横断検索システム」に参加して広く情報を発信している。

この岡山県図書館横断検索システムは、岡山県立図書館がセンター館となって、県内の公共図書館を中心に大学図書館も参加する館種を越えた総合利用ネットワークである。所蔵データ８２３万件を超える目録データベースであり、現在の参加館は県内の公共図書館２８館、私立図書館１館、大学図書館６館の合計３５館となっている。

利用者はインターネット上で利用したい資料を横断検索することにより、所蔵図書館を瞬時に把握でき、情報ネットワークを介して館種を超えた情報資源の共有化が実現している。特に大学図書館に対しては、専門的資料の所蔵という役割が強く期待されている。

（２）　岡山県図書館間相互貸借システムへの参加

本学では、前項のシステムと連動した「岡山県図書館間相互貸借システム」にも参加しており、同システムはオンライン上で現物貸借のやり取りができるＩＬＬ(図書館間相互貸借Inter-library-loan)の機能を有し、岡山県版のＮＡＣＳＩＳ－ＣＡＴ／ＩＬＬシステム（国立情報学研究所／目録データベース・図書館間相互貸借）とも言えよう。殊に、ＮＡＣＳＩＳに参加していない市町村図書館を網羅しているので、ローカルな情報収集まで可能である。

大学図書館としてこのシステムに参加し、蔵書データを提供しているのは、本学、岡山大学、岡山商科大学と岡山理科大学を含め計６大学である。

県立図書館を通じての県民への貸出冊数は、平成１６年度までは年間に数冊であったが、システム参加後は飛躍的に増加し、平成２０年度は１月末現在１００冊である。

（３）　図書館資料搬送実施施設指定館となる

前項の貸出冊数が急増した要因は、本学が「図書館資料搬送実施施設指定館」でもあり、岡山県立図書館からの搬送便が週２回届くシステムが整備されたことが大きい。送料は岡山県立図書館が負担することも、

利用者の大きなメリットとなっている。

また、本館は、岡山県立図書館から直接借り受けた図書を返却できる施設に指定されており、平成２１年１月末現在で返却された図書は６３４冊である。

（４） インターネット予約貸出受渡館指定館となる

本学学生、教職員及び県民が岡山県立図書館の図書をインターネット上で、予約貸出を依頼する際に、本学附属図書館を受取館・返却館に指定することも可能である。特に本館は２１時３０分まで開館していることもあり、近隣の学外者にも極めて利便性が大きいと思われる。

平成２１年１月末で本学を受取館、返却館として利用した冊数は受取７１冊、返送６２冊となっている。

（５）企画展の開催

学生にキャンパスが所在する総社の歴史や文化に対する関心と理解を高めてもらい、また、地域の人々に郷土への愛着を深めてもらうこと目的に、総社市教育委員会の後援を得て、図書館（１１月１１日～２９日）と総社市総合文化センター（１２月２日～７日）の２会場で企画展「総社が生んだ傑物　古川古松軒」を開催した。県立博物館所蔵の古川古松軒ゆかりの品や肖像画などの写真パネル４０点を展示したほか、本館所蔵の関連本も陳列して総社の先人の業績を紹介した。

また、１２月６日には「古松軒を語る会」を総社市立図書館で開催、定員を上回る約１００人の参加者が講師の話に熱心に耳を傾けた。

企画展の展示風景（図書館）

古軒松を語る会（総社市立図書館）

（６）図書館報の創刊

図書館の最新情報を学内外に発信する広報誌として、７月に図書館報（Ａ４版見開き４頁、２色刷）を創刊。名称を公募して「ＯｐｕＬ」とし、第２号では総社市長からの特別寄稿を掲載して、総社市役所や前項の企画展会場で来場者に配布するなど、総社市民にも図書館、県立大学の魅力ある情報を発信した。

図書館報
No.1

図書館報創刊号の表紙

OpuL
No.2

図書館報（ＯpuＬ）第２号の表紙

３．４　今後の課題

地域に開かれた大学づくりの一環として、図書館の一般開放を閲覧から貸出へと拡大し、平成２１年度から県内在住者・在職者を対象に、図書の貸出を実施することとしており、受入体制等諸条件を整備する必要がある。

４　語学センター

４．１　概要

岡山県立大学では国際化、高度情報化社会における「使える英語」を全学生に習得させせることを目指して、平成18年度より英語教育のカリキュラム改定を行った。その結果、全学部で１年次の基礎英語I, IIと英会話I, IIが必修となった。さらに、２，３，４年次生を対象とするクラスが開講されるので、希望者は４年間一貫して英語を学ぶことができるようになった。また学内LANにより英語学習システム「ALCネットアカデミー」を利用すれば、英語の種々の運用能力を高めて、TOEICなど各種語学試験の準備をすることが可能である。英語以外の外国語としてはドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を学ぶことができる。語学センターは各言語の運用能力の向上はいうまでもなく、語学学習を通じて海外の文化を学んだ高度教養人の育成、ひいては豊かな人間性の涵養を目指している。

また、語学センターは地域社会との繋がりを大切にしている。名作映画鑑賞会をはじめ、毎年秋に開催するスピーカーズ・コーナーや国際教養講座は学外の方々にも公開している。

語学教材としては、英語及び上記外国語のマルチメディア教材、各種英語検定試験用の問題集など多数そろえており、学内外の方々の利用に供している。

４．２　地域社会への発信

４．２－１　CALL 教室の充実

語学センターは現在、２つのＣＡＬＬ(Computer Assisted Language Laboratory)教室(8120 教室､8122 教室)を開設している。昨年度は、これまでＰＣが３３台しかなかった8122教室にあらたにＰＣ１２台を追加し、設備の充実をはかった。各ＣＡＬＬ教室に４５台ずつ､計９０台のＰＣが設置されたため、パソコンを利用する語学の授業が同時に２クラス開講可能となった。また、学生が自学自習のために ALC ネットアカデミーを利用しやすくなった。今後、ＣＡＬＬ教室の利用者を学外にまで広げるか否かを検討中である。

４．２－２　ホームページの公開

将来的にＣＡＬＬ教室を地域貢献に活用することも視野に入れ、語学センターでは日本語版と英語版のホームページを公開している。語学センターの活動、スタッフの紹介等の他に、語学センターの催しやお知らせ等の情報を随時、学内外に広く発信している。

４．２－３　TOEIC IP テスト

今年度は学内で 11 月 20 日、2 月 17 日に TOEIC IP テストを実施した。岡山県立大学で TOEIC IP テストを受験したいという学外からの問い合わせがある。幸い県立大語学センターはＣＡＬＬ教室が充実しているので、TOEIC IP テストの受験者を学外にまで広げるか否か検討中である。

４．３　地域貢献

４．３－１　名作映画鑑賞会

語学力の向上、異文化理解のために名作映画の観賞会を開催している。今年度は 4 月から 11 月の間に計８回行なった。この催しは学外者にも公開しており、学内外の鑑賞人数は延べ 15 名であった。

４．３－２　国際教養講座

語学センターは,学生の語学力向上と地域社会とのつながりを目指し、毎年秋国際教養講座を開催している。

（１）　スピーカーズ・コーナー

これは学生が一人５分の持ち時間で、外国語によるスピーチを行う場であり、今年度は１１名が参加した（プログラム参照)。そのうち韓国、フィリピン、カンボジアからの３名の留学生は、流暢な日本語で母国の様子を語った。ほかの学生たちも、それぞれ海外での体験や自分の関心事を英語でスピーチした。彼らの感想は、「目標を持って勉強すると意外に覚えられた」「英語や英語教育についての考えが深まり、学習意欲が向上した」などというものであった。聴衆からは、スピーカーたちの英語や日本語の能力を称える意見がある一方で、もう少し抑揚があった方が良かった、などの感想が寄せられた。

「スピーカーズ・コーナー」参加者

（２）　講演会

岡山県立大学語学センター国際教養講座

演題：外国語が使えますか？
ー　外国語学習 QandS　ー

11月1日（土）13:30～15:00
岡山県立大学 8122教室
講師：保健福祉学部 星野裕子 教授

外国語を学ぶ人は皆、いつか（できるだけ早く！）使えるようになりたい、と望み、でもなかなか使えるようにならない、と嘆きます（私もです！）。
どうしてでしょう？そしてどうしたらよいのでしょう？
ここでは講演者のささやかな学習経験を皆様と共有し、失敗した方法、多少なりとも成功した方法を話し合いたいと思います。
完璧な答え（Answer）はありませんが、ご提案（Suggestion）が出来たらと思っております。
ご参加の皆様も、ご自身の経験や悩みをどうぞ他の皆様と共有してください。

主催　岡山県立大学語学センター
〒719-1197　総社市窪木111
TEL＆FAX　0866-94-2005
E-mail:gogaku@ad.oka-pu.ac.jp
http://www.oka-pu.ac.jp/page/gogaku/index.html

なお、同日同教室にて10:30～12:00「スピーカーズ・コーナー」の部が開催されます。

今年度は「外国語が使えますか？－　外国語学習 QandS －」と題して、保健福祉学部の星野裕子教授が講演された。今年度本学に着任された星野教授のこれまでのご自身の英語との関わりの経験を、スライドを使いながらユーモアを交えつつ話された。ちなみに題名中の「Ｓ」とは Suggestion（提案）の意味で、講演の後半部では、参加されていた聴衆の方々に、英語とのそれぞれの関わりについて話していただき、それに星野教授がコメントするという形をとり、会場は親密なコミュニケーションの場となった。聴衆からは、大変わかりやすく勉強になった、楽しい講演会であった、ほかの方たちの経験や意見も聞けて良かった等々の感想が寄せられ、今回の講演も地域の方々の英語学習意欲の向上に資するものであった。

星野裕子教授による講演会

４．４　現状及び今後の課題

開学時に設置され、老朽化したLL教室の改装を平成16度から開始し、平成18年度、２つのCALL教室を開設した。今年度はCALL教室の設備を充実させるべく、ＡＬＣネットアカデミーのＶｉｓｔａ対応バージョン・アップを決定した。e ラーニングに対応できる設備を活かして、どのような地域貢献ができるかが、今後の検討課題である。

県大生は１年次の基礎英語Ｉでｅラーニングシステムであるアルク・ネットアカデミーの利用法を習得し、その後、中級英語や上級英語のクラスの受講、及びアルク・ネットアカデミーを使った自学自習の継続により、３年次後半でTOEICを受験することを目標としている。語学センターにおけるTOEIC IPテストの受験を地域の方々にも

開放できないかは、検討課題の一つである。

国際教養講座は語学センターの行事として年々定着してきている。学外からの要望も多いので，これは今後も継続していきたい。

今年度は保健福祉学部に、英語担当の星野裕子教授と杉村寛子准教授が着任し、学生達に熱意ある教育を行っている。スタッフが一丸となり、新たな気持ちで地域に開かれた語学センターとして、質の高い地域貢献を実現していきたい。

５　健康・スポーツ推進センター

５．１　概要
５．２　管理体制の実質化に向け大学規程への細則の追加を検討
５．３　施設・設備の充実
　５．３－１　安全管理上の設備の追加
　５．３－２　収納設備を増やし講師控え室の機能の回復を図る
　５．３－３　未利用倉庫の移転
５．４　大会・行事
　５．４－１　教職員親睦球技大会の実施
　５．４－２　地域貢献スポーツ大会
　５．４－３　学生スポーツ大会
５．５　公立大学法人岡山県立大学体育施設使用取扱要項の検討
５．６　今後の課題

５．１　概要

岡山県立大学健康・スポーツ推進センターは、スポーツを通じての学生・教職員の親睦と健康維持ならびに大学スポーツ施設の有効利用を目指して平成 20 年度にスタートした。

大学におけるスポーツ関連の授業や課外活動が安全かつ円滑に行える環境を確保し、また、スポーツを通じての学生・教職員の親睦と健康維持を目指し、さらに、大学のスポーツ施設の有効利用を可能な限り学外にも広げ、健康・スポーツの面からの地域貢献を目指す。

５．２　管理体制の実質化に向け大学規程への細則の追加を検討

岡山県立大学の運営規程におけるスポーツ関連施設の管理責任者は事務局長であるが、施設の状況に精通した教員による実質的な「スポーツ施設管理主任」を 2 名置くことを検討している。

１名：屋内スポーツ施設管理主任（体育館・プール）
１名：屋外スポーツ施設管理主任（グラウンド・野球場・サッカー場・テニスコート）

スポーツ施設管理主任の所掌事項

1.施設・用具の点検と要望の把握
2.施設・用具の補修補充に関する協議・実行・報告
3.施設・用具の安全使用と整理整頓等の啓発

以上が主な内容である。

５．３　施設・設備の充実

５．３－１　安全管理上の設備の追加

スポーツ施設の地域開放等をにらみ、体育館 1 階の筋力トレーニング場への外部からの侵入を防ぐため、体育館とプールとの隙間を金網で仕切り、内鍵式扉を 2 カ所設けて非常時の動線も確保した。さらにスポーツ用具倉庫も新設した。

新設の倉庫

遮断金網の西口扉

５．３－２　収納設備を増やし講師控え室の機能の回復を図る

５．３－１で述べた金網の間に設けたスポーツ用具倉庫に、講師控え室に保管されていた授業用運動具を移動して講師控え室の機能を回復させた。この部屋は学内での健康診断時に診察室として使用するため、道具の運び出しに大変な労力を費やしていた。

改善前

改善後

５．３－３　未利用倉庫の移転

大学敷地内の未利用倉庫２棟を野球場脇に移転し、野球部他の用具の収納に利用できるものとした。

５．４ 大会・行事

５．４－１　教職員親睦球技大会の実施（スポーツセンター幹事・職員担当）

昨年度のバレーボール大会に続き、本年度も８月６日（水）17：40〜19：20 野球場（参加 75 名）においてソフトボール大会を実施し試合後は交歓会も開き、スポーツを通じての教職員の健康増進と親睦を図った。

５．４－２　地域貢献スポーツ大会（犬飼委員企画）

岡山県グランドゴルフ大会（フォア・サム）大会４月19日（土）8；00〜17：00
グラウンド・サッカー場・野球場（参加1575名）

第７回鬼ノ城グランドゴルフ交歓大会　９月16日（火）8：00〜16：00
グラウンド・サッカー場・（参加340名）

第６回備中ブロックグランドゴルフ交歓大会 10月４日（土）8：30〜16：00
野球場（参加276名）

第15回岡山県立大学学長杯グランドゴルフ大会 11月１日（土）8：30〜14：00
グラウンド（参加186名）

５．４－３　学生スポーツ大会（学生主催）

第 1 回球技大会（バレーボール）5 月 25 日（日）10：00ー16：30
体育館（参加 136 名）
第 2 回球技大会（ドッジボール）7 月 31 日（水）10：00ー15：00
体育館（参加 120 名）
第 1 回学長杯争奪「秋の大運動会」11 月 24 日（祝）10：00ー16：30
体育館（参加 135 名）

５．５　公立大学法人岡山県立大学体育施設使用取扱要項の検討

大学のスポーツ施設の地域への開放に向け、使用規則・条件等を明文化し、使用許可に関する書類の様式等の検討を進めている。いずれにしても、授業・部活等学生の課外活動が優先となるが、現時点において既に体育館においてはスケジュール的に余裕がないことも事実であり、どの施設がどんな条件で開放できるかを施設ごとに把握・検討する必要がある。

使用料に関しては、様々な要因が絡むため十分な調査が必要と思われる。他大学での状況も踏まえて判断する必要がある。

５．６　今後の課題

岡山県立大学体育施設使用取扱要項の完成に向けての作業の中で、特に使用料に関しての論議を深める必要がある。また、プールのように子供達に人気があるが危険度の高い施設についての判断、ならびにグラウンド等の使用後の芝生のメンテナンスの問題など、クリアーしなければならない事柄は多い。

さらには、パソコンで本学のスポーツ施設の使用状況が外部からも検索確認できるシステムを持つことは、今後の施設開放にだけでなく日常的な学内での施設使用の面からも有効と思われるが、システム構築には予算が伴うので大学全体の予算配分のプライオリティーの中で考えて行かねばならない。以上が今後取り組まねばならない課題である。

このように、スポーツ施設の地域開放には様々な問題があるが、全体としては地域開放に前向きに取り組むこととしている。

６　高大連携

６．１　概要

本年度も昨年に引き続き、本学と岡山県教育委員会との間で締結した連携教育の実施に係る協定書に基づいて、県立高等学校生徒に対し大学レベルの教育を履修する機会を提供し、学習意欲や進路意識の高揚を図るとともに、個性の一層の伸長に資するため、高等学校の生徒を対象とした連携講座の開催や大学教員の高等学校への講師派遣を実施した。

また、高等学校と本学との意思疎通を図り、今後の高大連携・交流等について話し合うための懇談会等を開催し、各学部では特別選抜（推薦入試）合格者を対象に、入学前に大学での授業を体験する機会を設け、入学準備懇談会を開催した。

６．２　連携講座・出前講義の実施状況

高　校　名	担当学部	教　員　名		講　義　内　容　等	受講人数	学年	実施日
玉野光南高校	デザイン	教　授	嘉数　彰彦	コンテンツ市場で何が起こるか～Webと放送～	16	1	H20.4.22
玉野光南高校	情報工	准教授	忻　　欣	制御とロボティックス	40	1	H20.6.3
倉敷工業高校（※１）	デザイン	准教授	難波久美子	学部施設見学（※２）	6	2	H20.5.19
		講　師	島田　清徳	ワークショップ（※２）（シルクスクリーン）	2	2	H20.7.31, 8.1,8.4～6
		准教授 助　手	難波久美子 上田　　香	スライドレクチャー	40	1	H21.2.23
岡山操山高校	情報工	教　授	渡辺　富夫	理系の学問の学びについて	281	1	H20.7.16
鴨方高校	デザイン	講　師	野宮　謙吾	ビジュアルデザイン	15	3	H20.7.4
岡山工業高校（※１）	デザイン	教　授	大河内信雄	学生たちが挑む、新しい焼き物のデザイン	16	2	H20.7.19
		教　授	金丸　敏彦	生活を楽しむ生活雑貨			
		教　授 助　教	金丸　敏彦 作元　朋子	ワークショップ説明会			
		教　授 助　教	金丸　敏彦 作元　朋子	セラミックデザイン演習（※２）	10	2	H20.8.2･3･10
倉敷南高校	保健福祉	教　授	村上貴美子	社会福祉とは？	34	1・2	H20.9.2
	情報工	教　授	川畑　洋昭	ユビキタス社会の実現に向けて－情報工学が目指すもの－	31		

	デザイン	教　授	吉原　直彦	注意のスイッチ～造形デザインのダイアローグ	31		
笠岡高校	保健福祉	教　授	太湯　好子	看護学科のめざす看護教育	19	2	H20.10.7
		教　授	辻　　英明	食品の働き 栄養学科の紹介	11		
広島県立 広島皆実高校	デザイン	教　授	太田　民雄	建築を作るということはどういうことなのか	21	1	H20.10.24
矢掛高校	保健福祉	准教授	荻　あや子	学部学科分野理解のためのガイダンス	15	2	H20.11.13
玉野光南高校	情報工	教　授	稲井　　寛	学部紹介	45	2	H20.12.4

（注）表中※1は連携講座、※2は本学で実施したもの。

６．３　高大の意見交換

本学と岡山県高等学校長協会との懇談会及び本学と県内の高等学校進路指導担当教員との意見交換を以下のとおり実施した。

（１）本学と岡山県高等学校長協会との懇談会

①日　時：平成 20 年 7 月 25 日（金）１４：００～１６：００

②場　所：本学本部棟２階大会議室

③出席者：１６名

④内　容：各学部及び入試概要の説明、議題協議、意見交換等

＊配布資料：2008 大学案内、平成２１年度入学者選抜要項等

（２）本学と県内の高等学校進路指導担当教員との意見交換会

①日　時：平成 20 年 6 月 30 日（月）１３：３０～１６：００

②場　所：本学本部棟２階大会議室

③出席者：４９名

④内　容：各学部・学科の説明、平成２１年度入学者選抜の変更点、高等学校からの事前質問・要望事項に対する本学の回答

＊　配付資料：2008 大学案内、平成２１年度入学者選抜要項等

６．４　特別選抜合格者のための入学前教育

県立大学では、特別選抜（推薦入試）合格者を対象に、大学入学後の学業生活に円滑に移行するための入学準備懇談会を開催している。平成２０年度の実施状況は次のとおりである。

（１）保健福祉学部

①　看護学科

看護学科における入学前教育は３月に以下の３回に分けて行った。

ア 平成 20 年 3 月 2 日(土)

当日は、本学において日本看護研究学会中国・四国地方会第 21 回学術集会が開催された。テーマは「臨床における研究と基礎研究との融合」で、これから大学において看護基礎教育を受けようとする高校生にとって易しいものではないと考えたが、専門職として卒業後の活躍の場となる学術集会の雰囲気を感じる機会があってもよいのではないかと考えて企画した。当日は卒業予定の 4 年次生に高校生達の案内役を依頼し、先輩との交流の場にも活用できるように配慮した。予期したとおり、高校生には、学会の内容を理解することは難しいようであったが、これまでに経験したことのない学術的な雰囲気を味わうことができたと思われる。

イ 平成 20 年 3 月 17 日（月）

成人･精神看護学講座では 4 年次生の卒業研究発表会を国家試験終了後に行う。従来この機会に入学前教育を行って成果をあげているので今年度も高校生を参加させた。精神・成人看護学講座には 11 名の学生が所属して卒業研究を行い論文としてまとめた。四年次生は、パワーポイントでスライドを作成、発表し、ディスカッションの場としており、「腎移植を受けたレシピエントの心理過程とその看護」「一般病棟の看護師がよい看取りと感じた要因」「2 型糖尿病患者の入院・外来教育による血統コントロールに関する実態調査」「精神科病棟における患者一看護師関係の特性に関する研究」等が講座の特徴を反映している演題であった。高校生の反応は、先輩達の姿から 4 年後の自分を想像して不安に駆られたようでもあったが、異口同音に先輩達の姿勢がよい刺激になったとの感想を述べていた。

ウ 平成 20 年 3 月 25 日（火）

入学前教育の最終回は、地域・老年看護学講座の企画によるグループワークであった。それは高校生の居住する地域にはどのような住民ニーズと専門的な支援があるかということを事前に準備し、発表、意見交換するというものであった。高校生達が行った事前準備は、市町村役場で発行している広報誌から情報収集したもの、保健福祉プラザで活動している専門家にインタビューしたもの、新聞の地方版の切り抜きを基に考えたもの、特殊な活動（福祉船）を見学した等であり、情報収集の過程やグループワークをとおして自分達が居住する地域の問題や支援

システム等を発見でき視野が広がったようであった。

高校生は入学前教育でこのように3回集まったが、このプロセスにおいてある程度の人間関係が形成され、これらのグループは入学後クラスの活性化のために牽引力として機能していることがこれまで確認されている。

② 栄養学科

ア 概要

栄養学科に入学後、栄養学を学習するに当たり、高等学校で習得しておいてほしい科目は化学である。今日、理科離れが進み、化学をしっかり学習して入学する学生が少ない。しかも、推薦入学試験においては、本学は小論文及び面接のみで、受験者の学力、とりわけ、化学の理解度に関しては、全く知りえない。このような事情から、３年前より推薦入学者に対して、１コマ９０分の講義を４－５コマ入学前教育として実施してきた。これまでは、高等学校で学習する化学の全領域について、網羅的に講義を行ってきた。しかし、学生の入学前教育の充実を図るためには、講義を含めつつ、学生が自ら参加するスタイルが望ましいと考えて、今回から演習を１コマ実施することにした。今回は推薦入学者１１名に対して以下の実施要領に従って入学前教育を行った。

イ 実施要領

教育内容：高校で学習した「化学」に関する講義。参考書として「新・化学入門」（関藤祐司・三國均共著）駿台文庫を使用

第１回及び第２回

場所：保健福祉学部棟 6117 号室

日時：3 月 9 日（月）10:00～11:30（第１回)、13:00～14:30（第２回）

講義内容：物質の成り立ち（第１回）および演習（第２回）（担当教員：辻英明）

演習においては、上記の参考書の練習問題（15、47、65、77、88-89、115．130 ページ）の問題を一緒に解答する。ただし、この日（９日）までに学生は、自ら一度はこれらの練習問題を解いておく。

第３回　３月１０日（火）　午前 10 時～１１時３０分

講義内容：有機化合物の性質（担当教員：辻英明）

第４回　３月１３日(金)　午前 10 時～１１時３０分

講義内容：生命と物質（担当教員：高橋吉孝）

ウ　現状と今後の課題

上述のように、今回から演習を取り入れたことにより、これまでの講義のみの入学前教育と比べると、学習効果を大きく高めることができた。

しかし、入学前教育の目的は、学生が入学した後、速やかな栄養学の学習を可能にすることにある。そのためには、これまで実施してきた４－５コマの授業時間では少なすぎるので、今後、この授業時間数を増やす努力が求められる。なお、一般入学試験による学生は化学を含む学力試験を課しているが、概要で述べたように、理科離れが進んでいる今日、必ずしもこれらの入学生の化学の理解が十分であるとは言い難い。それ故、現在、入学前教育は推薦入学試験による入学生についてのみ実施しているが、一般入学試験による入学生についても入学前教育について配慮すべきものと思われる。今後この問題について検討する必要がある。

③　保健福祉学科

保健福祉学科では推薦入学合格者を対象に「福祉専門職に必要な豊かな人間性を養い、福祉を学ぶことの意味について理解すること」を目的とした入学前教育を行っている。今年度は 18 人の推薦入学予定者に対して 2 回の入学前教育を行う。

ア　日程と内容

【第 1 回目入学前教育】

日時：平成 21 年 2 月 14 日（土）　13：00～15：00
場所：保健福祉学部棟 3 階　6310 教室
内容：教員及び学生の自己紹介
「入学前教育の趣旨」　香川教授
特別講義「大学で何をどのように学ぶか」　村上学科長
学生発表「保健福祉学科で何を学びたいか」
発表のまとめ　京林准教授

教員及び学生の自己紹介後、香川教授より入学前教育の趣旨説明があったほか、特別講義「大学で何をどのように学ぶのか」では学科長より「高等学校までの学びと大学での学びの違い」についての説明や「大学で学ぶこと、岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科で学ぶことの意味」について講義が行われた。

講義後、学生 2 名から「社会的弱者について考えさせられた」「その人らしさを大切にする気持ちを新たにした」との感想が述べられた。特別講義の内容を踏まえ、「保健福祉学科で何を学びたいか」というテーマについて学生は 1 名 3 分程度の発表を行い、発表後、京林准教授より発表のまとめが行われた。

【第２回目入学前教育】

日時：平成 21 年 3 月 19 日(木)　13:00～15:00

場所：保健福祉学部棟 3 階　6310 教室

内容：学科長挨拶

教員及び学生の自己紹介

課題図書の感想発表

グループ討論

討論のまとめ

学生は事前に指定した課題図書（「私は三年間老人だった」パット・ムーア著、朝日出版社）について感想を発表し、それをもとに 3 グループに分かれてグループ討論を行う。

（２）情報工学部

企画目的

・ 高校卒業までの３ヶ月間の時間の使い方に示唆を与える。

・ 大学に入学するまでの心と体の健康維持と教養の深め方。

・ 身の回りの現象を支配している物理や数学から理工系の勉強に興味を持たせる。

参加生徒数　３学科合計４３名

［第１回］　１２月２５日（金）８１０５講義室

１３：１０～１４：００　講演　「高校のおわりから大学のはじまり」

スポーツシステム工学科　教授　山北次郎

１４：１０～１５：００　講演　「大学生への教養」

スポーツシステム工学科　教授　福本昌之

［第２回］　２月１９日（木）８１０５講義室

１３：１０～１４：００　講演　「ものづくり」

スポーツシステム工学科　教授　辻　博明

１４：１０～１５：００講演　「身のまわりの数学と物理」

情報システム工学科　准教授　大西謙吾

（３）デザイン学部

①　デザイン工学科

平成２０年度のデザイン工学科入学前教育は次のとおりである。

ア．日　時：平成２１年3月４日（水）８：５０－１７：３０

イ．　場　所：３４１２実習室

ウ．　出席者：１０名

エ．　内　容：ワークショップ形式による入学前教育

- 在校生（３年生）によるコースプレゼンテーション
- ワークショップ「ピクトグラムのデザイン（分析・評価・具体化・表現）」
- プレゼンテーションと講評（学科長・担当教員）
- レポート作成

オ．　指導教官：小野栄志教授、益岡 了講師、尾崎 洋講師、上田篤嗣助手

②　造形デザイン学科

ア　概要

デザイン学部造形デザイン学科では、平成２１年度特別選抜合格者に向けて「学生の入学前における学習歴の多様化に対応できるよう、デザインの基礎及びコミュニケーションの必要性を学ぶ」という基本に基づき、本年度も昨年に引き続きデザイン課題図書を使った入学前教育を実施している。また、本学における学習に対しての質問や希望等を自由に話し合う場を設けている。今年度は、課題図書（デザインとヴィジュアル・コミュニケーション／ブルーノ・ムナーリ著）を貸し与え、その本の読み取り方やそれを纏めるための考え方、また、人に自分の考えを伝えるための意味と方法を全員に教示する。

イ　今年度の活動内容

第１回入学前教育オリエンテーション

日時：平成 21 年 1 月 22 日（木）13:00ー14:30

場所：岡山県立大学デザイン学部棟 3 階（3305 教室）

出席者：教員５名，特別選抜合格者 12 名

内容：

○　課題図書の概要

本書は、ケンブリッジ，カーペンター視覚芸術センターでの講義をもとにつくられた。自然や社会に対して興味を持ち、その対象をしっかり観察し、実験に取り組むことによって、テクスチャー，フォルム，構造，モデュールを生み出す方法を開発し､その可能性を導きだすべきであると論じ､そのことにより，文化を超え人々と共有するデザインを生み出すことができるとしている。

○　課題

１．　何が述べられているか。（本書の概要）

２．　現代の造形デザインに必要とされていることは何か。

３．　本書に内容に触れて、自分自身にとって何が得られたか。

○　レポートの書き方

・レポートという形式

レポートは報告するべき相手が自分である場合を含めて、報告する相手がいることを前提とした文章の形式である。

・レポートを書く前に

課題（テーマ）を、できるだけ小さな問題点に分け、自分自身が追求しようと思う問題点を明らかにする。

・レポートを構想する

序論（取り上げる問題）・本論（調査の方法、内容、結果）・結論（自分自身の主張、今後の課題）の内容で分けて論じる。

問題提起の重要性　　　　証拠・事例の提出

主題要約　　　　　　　　叙述の書き方

推敲の仕方

・レポートの文章を書く場合の注意事項

誰に書くか　　　　　　　どのような順で述べるか

事実と意見を区別する　　要約をキーワードで示す

出典を示す

b　第 2 回入学前教育レポートについての講評及び懇談会（予定）
日時：平成 21 年 3 月 27 日（金）13:00〜15:00
場所：岡山県立大学デザイン学部棟 3 階（3305 教室）
出席者：造形デザイン学科教員，特別選抜合格者 12 名

・平成２１年３月１３日までに提出された課題レポートを複数の教員が読み、意見や指導等を文章にまとめ各学生に教示する。
・学生生活及び学習に対しての質問等に対してアドバイスを行う。

ウ　現状及び今後の課題

今年度の入学前教育講座の効果は未だ不明であるが、昨年提出されたレポートの内容からもデザインに対しての意識付けの一歩として十分の成果が得られていると思われる。さらに、入学前の学生の不安や期待を確認できる場となっている。

入学前教育講座を、さらに充実した内容にするために、これまでの課題図書やその他の課題について検討をしていく必要がある。

６．５　現状及び今後の課題

ここ数年、高大連携の意義や重要性に対する認識が高校、大学双方で高まっている。特に、高校側の連携への要望が高く、本学としても、その期待に十分応えていくことができるようさらに高大連携の取組みを充実させていくこととしている。また、昨年に引き続き今年度も、県外の高校においても連携講座・出前講義を行い、好評であった。今後も、県内だけでなく、県外の高校とも連携を深めるための連携事業を行っていきたい。

また、本学では、今後ますます多様化する高校側のニーズを的確にとらえ、その期待に応えるため、高校との情報交換を定期的に行っていくこととしているほか、本学からも積極的に情報発信を行い、地域に開かれた大学として、高校生及びその保護者に対し本学の特色や取組みを広く広報していくこととしている。

７　地域への発信活動

７．１　公開講座

７．１―１　概要

本学では毎年、一般県民を対象とした公開講座を開催している。本年度の公開講座では、そのテーマを「健康で、楽しく、長生き」とし、実技や体験を多く取り入れながら、福祉や健康について、8 月から 9 月の土曜日に全 6 回の講座を実施した。

７．１－２　日程等

テ ー マ：健康で、楽しく、長生き
担当学部：保健福祉学部
実施場所：保健福祉学部棟６３１６教室・６１０１教室、学部共通棟西リズムダンス室他
受講対象：県内居住者、あるいは通学・通勤している人
そ の 他：各コース 6 回の講義・実習のうち、4 回以上出席の方に修了証書を交

付した。

日程		講師等	テーマ等
8月23日 (土)	13:00～13:10	副理事長 森脇正巳	開講式
	13:20～16:10	栄養学科教授　岡田良雄 デザイン学部准教授　柴田奈美	俳句で心を弾ませませんか
8月30日 (土)	13:00～16:10	客員教授　高島征助	お茶と健康
9月6日 (土)	13:00～16:10	保健福祉学科教授　岡崎順子	歌う門には福来たる♪
9月13日 (土)	13:00～16:10	保健福祉学科講師　新山順子 保健福祉学科講師　坪井一伸	こころとからだ深呼吸！ リラクゼーションストレッチとダンス＆ゲーム
9月20日 (土)	13:00～16:10	廿日市市社会福祉協議会 大野事務所係長　酒井保 看護学科准教授　石村久美子	むすぶ手・つなぐ手 ―どんな町に暮らしたいですか
9月27日 (土)	13:00～16:10	看護学科教授　村上生美	ハンドマッサージを科学する
	16:10～16:20	保健福祉学部長　中嶋和夫	閉講式

７．１－３　実施状況

（１）参加者

・申込者数　　計　８２名

・修了証交付者数：　計　４１名

居住地	人数
総社市	７７
岡山市	２
倉敷市	２
その他	１
計	８２

（２）参加者からの意見・感想

・高齢者に身近なテーマで関心があった。

・テーマにひかれて応募しました。内容もよかったです。1回だけでも受講可、

その上無料というのでとても気楽に参加できました。
・聞くだけでなく実践できたので楽しかった。
・身近なテーマで今のニーズに合っていると思う。
・聞くだけでなく参加型もあり、楽しく取り組めた。
・講義だけだと興味がそがれるので体験や実習的な要素を取り入れてほしい。
・近くに大学があるのがうれしく、公開講座がありがたく思います。
・県大で一般公開講座、イベント他あればしっかり広報していただき、できるだけ参加したい。総社市にある県大として、県大らしい、オンリーワンのテーマで講座を開いてほしい

７．１－４　今後に向けて

今回の講座は、募集定員を上回る応募があり、地域住民が健康に対し特に深い関心を持っていることがうかがわれた。また、高齢化が進む大学周辺地域のニーズに合致した「健康で楽しく長生き」というテーマ設定も受講生が増えた要因であったと推測される。

講座終了後のアンケートでも、受講生から今後の公開講座について、地域に身近なテーマをとした講座を希望する声が多かった他、健康に関する講座を希望する受講生もいた。また、今回は、受講生に体を動かしてもらったり、実際に研究内容を体験してもらう講座を多く設定したが､受講生にはたいへん好評であった。

今後も高度な専門的知識を得たいという受講生の要望に応えつつ、実技・体験を積極的に取り入れるなど大学で行われる研究を地域住民に身近に感じてもらえる工夫をしていくことが必要である。

７．２　全学講義

全学講義は、学生・教職員の教養を高め、地域の文化の向上に寄与することを目的に、社会の第一線で活躍されている著名な講師を招聘して毎年実施している。

（１）日程およびプログラム

日時：平成２０年１１月１９日（水）１０：２０～１１：５０
会場：岡山県立大学講堂
講師：建築家　妹島和世氏
演題：「近作について－建築デザインにおける国際性と地域性」

（２）妹島和世氏のプロフィール

日本女子大学大学院修了。
伊東豊雄建築設計事務所を経て、妹島和世建築設計事務所設立。西沢立衛氏とSANAA 設立。現在、慶應義塾大学教授。2006 年には日本建築学会賞*、芸術選奨文部科学大臣賞美術部門を受賞。

(近作)
金沢２１世紀美術館*、鬼石多目的ホール、トレド美術館ガラスパビリオン*（アメリカ）、ツォルフェラインスクール*（ドイツ）、有元歯科医院、海の駅なおしま*、スタッドシアター*（オランダ）、ニューミュージアム*（アメリカ）等
現在、ＲＯＬＥＸラーニングセンター*（スイス）、ルーブル・ランス*（フランス）等のプロジェクトが進行中　　　(*印はSANAA)

（３）講演内容の要旨

「ニューミュージアム*」「大倉山の集合住宅」等の建築作品や、「ROLEX ラーニングセンター*」「豊田市生涯学習センター逢妻交流館」等、進行中プロジェクトのデザインを解説する中で、国際性と地域性についての内容も盛り込まれており、学生ばかりでなく建築の専門家を含めた一般の聴講の方々にとっても大変示唆の富む内容の講義であった。

（４）今後のあり方について

全学講義の開催については、さまざまな工夫をこらして行ってきたところであるが、参加者の偏り、参加者数の変動等の問題点の抜本的な解決までには至らなかった。

こうしたことから、本講義の目的である「広く学生に教養を高めること」、「地域文化の向上に寄与すること」にかなう講義はどうあるべきか、改めて検討する必要がある。

７．３　地域における大学間連携活動等

岡山県は、全国的にも充実した高等教育機関の集積地である。このため、県内１５の四年制大学が相互に連携・協力し、県内の高等教育全体の資質向上や地域社会への貢献等を目指す目的で、平成１８年４月に「大学コンソーシアム岡山」が発足し、さらに平成１９年度には「環太平洋大学」が加わり、１６大学となった。さらに、特別会員として５短期大学及び１高等専門学校が加わっている。

「大学コンソーシアム岡山」は、事業のひとつとして社会人教育事業「シティ・カレッジ」を県内各地で開講し、一方、山陽新聞社では、県内の大学の協力を得て、生涯学習講座「山陽新聞カレッジ」を開始した。なお、この２つの事業は、趣旨・目的がほぼ同様であることから、受講生にわかりやすくするため、平成１９年度から「吉備創生カレッジ講座」として統合され、本学も次の４講座を提供した。

吉備創生カレッジ開講状況

◇　親に育てられない子ども　～赤ちゃんポスト問題をめぐって～
担当教員：保健福祉学部　欅木章子講師
日 程 等：平成２０年５月１５日～６月５日（３日）
場　　所：吉備創生カレッジ　さん太キャンパス
講座内容：少子化かつ先進国である日本で、赤ちゃんポスト現象に象徴されるように親に育てられない子どもが存在する。このような子ども達の現状を知り、私たちができることを考える。

◇　ユネスコ世界遺産を学ぶ
担当教員：デザイン学部　中西勝彦准教授
日 程 等：平成２０年７月２日～９月１７日（６日）
場　　所：吉備創生カレッジ　さん太キャンパス
講座内容：ユネスコ世界遺産（２００７年）には、８５１件が登録されている。リストへの登録基準や登録までの流れを解説する。また、危機遺産の保全活動や観光化など登録後の課題を明らかにする。

◇　俳句で心、リフレッシュ
担当教員：デザイン学部　柴田奈美准教授
日 程 等：平成２０年７月２３日～８月１９日（３日）

場　　所：吉備創生カレッジ　さん太キャンパス
講座内容：俳句の歴史、近・現代の俳人の人生と作品を紹介する。実作も体験していただく、初心者向け俳句講座

◇　童謡・唱歌を歌う
担当教員：保健福祉学部　岡崎順子教授
日 程 等：平成２１年１月１３日～２月１０日（３日）
場　　所：吉備創生カレッジ　さん太キャンパス
講座内容：幼い頃から親しんできた童謡・唱歌には、美しい日本語の抑揚や響きがある。子どもたちに伝えたい童謡・唱歌の名曲の魅力を探り、実際に生き生きと丁寧に歌っていく。

７．４　アクティブキャンパス

７．４－１　概要

アクティブキャンパスは、従来の定置型のサテライトキャンパスに変えて、平成１９年度から移動型の情報発信基地として設けたものである。アクティブキャンパスでは、県内の団体・施設等からの要望に応え、本学として主体的に社会人に向けた公開講座や専門分野に関する研究会の開催等を行う。具体的には、①企業関係者等との交流や共同研究の相談などの産学官連携事業、②本学における最新の研究内容、デザイン作品等に関する情報の発信事業、③社会人を対象とした公開講座等の開催事業、④その他本学の地域貢献活動の推進に必要な事業について、社会活動委員会で事業計画を承認するとともに、必要な支援を行うものである。

７．４－２　開催状況

○岡山県立大学看護技術研究会　（保健福祉学部　教授　村上生美）
平成 20 年 4 月 12 日　　きらめきプラザ内ゆうあいセンター
○公開講座「歌の翼にのせてⅢ　①～⑨」　（保健福祉学部　教授　岡崎順子）
平成 20 年 4 月から 12 月に毎月 1 回　岡山国際交流センター
○保健師活動実践講座　（保健福祉学部　教授　二宮一枝）
平成 20 年 5 月、8 月、平成 21 年 2 月の計 3 回　ピュアリティまきび他
○子供のメンタルヘルスを考える会　（保健福祉学部　講師　坂野純子）
平成 20 年 5 月から 21 年 3 月までに 2 回　ピュアリティまきび
○高校生を対象としたフォト・ワークショップ〈PHOTO STADIUM〉（デザイン学部　准教授　北山由紀雄）
平成 20 年 8 月 10 日・11 日・12 日の 3 回　倉敷市芸文館

○小学生を対象としたフォト・ワークショップ〈写真タワーを作ろう〉（デザイン学部　准教授　北山由紀雄）

平成 20 年 10 月 26 日・11 月 3 日の２回　倉敷市芸文館

○地場産業とデザイン〈ハレの器〉　　（デザイン学部　教授　金丸敏彦）

平成 20 年 4 月 18 日～20 日、6 月 10 日～11 日の 5 日間　岡山駅前イルカ広場、東京池袋サンシャインシティ

○AXIS「第 3 回金の卵　学校選抜オールスターデザインショーケース」出展　（デザイン学部　教授　森下眞行）

平成 20 年 8 月 28 日～9 月 7 日の 11 日間　AXIS ギャラリー

○GREEN DAY2008　高梁市　高梁市役所周辺　共同研究エコプロダクツ展示（デザイン学部　教授　森下眞行）

平成 20 年 4 月 19 日　　高梁市市役所周辺とまちなか通り

○「広報そうじゃ」岡山県立大学ＰＲページの企画制作　（デザイン学部　教授　桑野哲夫）

平成 20 年 4 月～21 年 3 月（計 12 回）　総社市

○コミュニティ・ダンス事業「DANCE　ALIVE　２００８」（保健福祉学部　講師　新山順子）

発表会：平成 20 年 8 月 30 日　岡山市西川アイプラザ

○「コミュニティカフェ総社」事業（保健福祉学部　准教授　坂野純子）

平成 20 年 4 月～21 年 3 月（計 10 回）　総社市ふれあいセンター他

○岡山県子育てネットワーク研究集会　シンポジウム（保健福祉学部　准教授　中野菜穂子）

平成 20 年 9 月 28 日　岡山県青少年教育センター閑谷学校

○保健福祉推進センター事業によるリスクマネジメント研究会の開催（保健福祉学部　教授　横手芳恵）

平成 20 年 4 月～21 年 3 月(計 12 回)　岡山市出石コミュニティ

○移動栄養教室①（保健福祉学部　准教授　富岡加代子）

平成 20 年 4 月 24 日　みどり合同会計事務所

○移動栄養教室②（保健福祉学部　准教授　富岡加代子）

平成 20 年 5 月 4 日　岡山オークラホテル

○県庁アート回廊　テキスタイルアートの庭（デザイン学部　講師　島田清徳）

平成 20 年 6 月 17 日～29 日の 13 日間　岡山県庁

○保健福祉推進センター事業「保育ステップアップ講座」（保健福祉学部　講師　新山順子）

平成 20 年 8 月～12 月（計 4 回）　岡山国際交流センター

○総社市民文化祭〈レトロード〉(デザイン学部　教授　山下明美)

平成 20 年 9 月 27 日,28 日の 2 日間　総社商店街通り

○実践的でやさしい統計学講座（保健福祉学部　准教授　肥後すみ子）

平成 20 年 10 月～21 年 3 月(計 5 回)　岡山県ボランティア・NPO 活動支援センター

○商品力強化実践塾　―コンセプト・デザイン 商品開発で付加価値をつける―（地域共同研究機構　機構長　奥野忠秀）

平成 20 年 10 月 22 日、11 月 5 日、11 月 19 日の 3 回　ピュアリティまきび

○第 6 回岡山県民文化祭総合フェスティバル in 真庭　町並みアート回廊　（デザイン学部　講師　島田清徳）

平成 20 年 11 月 1 日、2 日の 2 日間　勝山町並み保存地区（真庭市）

○RSK 夢フェスタ 2008 環境キャンペーンゾーン(デザイン学部　教授　森下眞行）

平成 20 年 11 月 8 日、9 日の 2 日間　コンベックス岡山

○栄養士のためのスキルアップ講座（保健福祉学部　准教授　富岡加代子）

平成 20 年 10 月～21 年 3 月（計 11 回）　岡山ふれあいセンター

○父親の育児支援（保健福祉学部　准教授　中野菜穂子）

平成 20 年 1 月 31 日　岡山県総合福祉・ボランティア・NPO 会館

７．４－３　今後の課題

アクティブキャンパスは、昨年度から開始した取り組みであり、この制度を周知・定着させることが当面の課題である。今年度は、アクティブキャンパスの制度が導入された昨年度に比べ、件数も増加し、内容も充実してきた。また、特に社会人を対象とした公開講座等の事業が増えたことも特色である。公開講座では、専門家を対象に大学の高度な研究を紹介するものから、地域住民を対象とした身近な話題を取り上げるものまで幅広い内容で開催され、好評であった。このような地域の学習ニーズに応えるため、従来の枠にとらわれないアクティブキャンパスの特徴を利用し、引き続き地域へ様々な学習の場を提供していきたい。

今後は、アクティブキャンパス事業の本来の趣旨に立ち返り、本学の教員の活動を支援し、本学の情報・魅力を地域に発信することに重点をおいた事業を進めていきたいと考えている。また、企業関係者等との交流や技術相談など、産学連携につながるアクティブキャンパス事業がさらに増えることが期待される。

８　国際交流

８．１　概要

本学は中期目標として「国際化に対応する人材を育成するため、国際交流協定を締結している外国の大学との間で､学生や教員の相互派遣等による教育･研究交流を推進する」としている。その目標を達成するため平成２０年度も留学生の受け入れ、海外の学生の語学研修や教員の幅広い分野での教育交流・共同研究等を展開してきた。さらに韓国又松大学校と中国四川大学とのトライアングル協定締結､また中国延辺大学と新たな交流協定を結び､平成２１年３月現在海外６大学と交流協定が結ばれたことになる。本年度の本学の国際交流をふり返り、以下の項目について報告する。なお、学生の語学・文化研修内容については、教育年報２００８を参照されたい。

平成２０年度国際交流協定について：

１．岡山県立大学、韓国又松大学校及び中国四川大学のトライアングル交流協定
　　締結年月日：平成２０年４月２８日
　　協定の概要：３大学間の学術研究・学術情報・学生交流をすすめる。

２．岡山県立大学と中国延辺大学との国際交流協定
　　締結年月日：平成２０年９月１日
　　協定の概要：友好関係の構築、研究者・学生の交流を進める。

８．２　留学生の受入れ状況

本学では、アジア諸国を中心に留学生を受け入れており、特に平成２０年度は韓国又松大学校から転学生を受け入れた。平成１６～２０年度の５年間における受入れ実績は、次のような状況である。

学部生は、２０年度の場合、韓国（１名）とカンボジア（１名）の２か国から計２名、また、学部研究生は、韓国（１名）とフィリピン（１名）の２か国から計２名となっている。大学院は、中国（８名）、韓国（３名）、ベトナム（１名）の３か国から計１２名を受け入れている。

隣国や開発途上国からの留学生に本学は専門知識や技術を教えるが、同時に本学学生は留学生から異文化の新鮮なインパクトを受ける。この相互作用の故に、今後も積極的に留学生を受け入れていくことが必要である。

岡山県立大学外国人留学生の状況

年度	人数	学部・院別	所属学部・研究科別	国　籍
H16	１８ （５）	学部 ７（５）	・情報工学部　　２（２） ・デザイン学部　　５（３）	中国　　６（４） ヨルダン１（１）

		大学院 １１	・保健福祉学研究科　３ ・情報系工学研究科　３ ・デザイン学研究科　５	中国　９ 韓国　１ ブラジル　１
H17	２２ （８）	学部 １１（８）	・保健福祉学部　１（１） ・情報工学部　３（２） ・デザイン学部　７（５）	中国　９（７） 韓国　１（１） カンボジア１
		大学院 １１	・保健福祉学研究科　４ ・情報系工学研究科　３ ・デザイン学研究科　４	中国　８ 韓国　１ ブラジル　１ ヨルダン　１
H18	２０ （５）	学部 ９（５）	・保健福祉学部　２（２） ・情報工学部　４（２） ・デザイン学部　３（１）	中国　７（４） 韓国　１（１） カンボジア１
		大学院 １１	・保健福祉学研究科　３ ・情報系工学研究科　３ ・デザイン学研究科　５	中国　７ 韓国　２ ブラジル　１ ヨルダン　１
H19	２１ （７）	学部 １０（７）	・保健福祉学部　２（２） ・情報工学部　２ ・デザイン学部　６（５）	中国　８(６) カンボジア１ フィリピン１(１)
		大学院 １１	・保健福祉学研究科　３ ・情報系工学研究科　３ ・デザイン学研究科　５	中国　７ 韓国　３ ベトナム　１
H20	１６ （２）	学部 ４（２）	・保健福祉学部　３（２） ・情報工学部　１	韓国　２(１) カンボジア１ フィリピン１(１)
		大学院 １２	・保健福祉学研究科　４ ・情報系工学研究科　２ ・デザイン学研究科　６	中国　８ 韓国　３ ベトナム　１

※（　）内数字は内数で研究生の人数を表す。

８．３　国際共同研究の企画

本学教員は本年度も海外の研究者と共同研究を企画し、成果を上げている。本学教員の平成２０年度の国際共同研究の課題名は次のとおりである。なお、参考資料として、国際共同研究の概要を掲載した。

（１）課題名：日本と中国における看護系･福祉系専門職のコンピテンシー（実践力）の測定指標の開発とその関連要因に関する研究に関する研究

（２）課題名：高齢者のスピリチュアリテイに関する研究

（３）課題名：デルファイ法を用いた英国及び日本の二国間における看護研究の優先項目の検討

（４）課題名：植物における機能性を有するポリフェノール化合物の検索及び応用に関する研究

（５）課題名：調理における黒米のアントシアニンの挙動に関する研究

（６）課題名：発芽ブドウ種子の機能性に関する研究

（７）課題名：東アジア圏域の家族の扶養意識と高齢者介護の社会化に関する研究

（８）課題名：失語症者家族の介護負担感に関する日韓比較研究

（９）課題名：シングルマザーの就労支援に関する研究

（10）課題名：高齢者・神経障害者向け姿勢改善プログラムの共同開発

８．４　岡山県立大学と韓国又松大学校との合同研究セミナー

(1)概要

平成 17 年 1 月に、本学は韓国又松大学校と学術交流協定を締結し、続いて平成 19 年 5 月 8 日に中国四川大学と学術交流協定を締結した。これらの学術交流協定を受けて、平成 21 年 4 月 28 日には、これら 3 大学間でトライアングル学術交流協定を締結した。これらの学術交流協定に基づいて、学術交流を促進するために、平成 17 年 8 月に本学栄養学科は、本学において韓国又松大学校食品栄養学科と第 1 回合同研究セミナーを開催した。今回で、4 回目を数えるが、一昨年の第 3 回合同研究セミナーには中国四川大学方定志教授および中国南昌大学陳紅兵教授が参加し、本セミナーの国際化が大きく進展した。

第 4 回合同研究セミナーは、韓国又松大学校にて平成 21 年 9 月 21 日に開催された。セミナーでは口頭発表 3 題、ポスター発表 22 題が発表された。本学からは教員 10 名、学生 5 名が本セミナーに参加した。また、中国から四川大学方定志教授が参加した。又松大学校からは教員 10 名と学生 60 名が参加し、セミナーは大変盛況であった。また、セミナー終了後、懇親会を催し、親睦を深めることができた。第 5 回合同研究セミナーは本年 9 月中旬中国四川大学にて、生化学・分子生物学科が中心になって開催する予定である。次回からは、国際化を推進するために、発表形式は口頭発表形式のみにし、使用言語は英語で行う予定である。

⑵ プログラム

日時：平成20年月21日（日）10：00〜17：30

10：00〜14：00　Oral Presentation

14：30〜17：30 Poster Presentation

場所：韓国又松大学校

テーマ：Fourth Joint Conference on Nutrition between Okayama Prefectural University, Sichuan University and Woosong University

⑶ セミナーの内容

英語で3題は口頭発表された。まず、最初に、本学栄養学科の山本登志子准教授がProstaglandin F2・合成酵素に関する酵素学的及び免疫組織学的研究の成果について報告した。すなわち、平滑筋収縮、分娩開始、痛みの伝達などの機能を有するProstaglandin F2・の合成酵素をクローニングし、その分子的な性状を明らかにし、次いで、そのホルモンを分泌する細胞を、免疫学的組織染色法を用いて解明した成果を示した。次いで、四川大学方定志教授は高炭水化物食におけるトリアシルグリセロール及びＨＤＬ－コレステロールの挙動と遺伝要因の関連性について研究結果について報告した。すなわち、遺伝要因により高炭水化物食に対するＴＧ及びＨＤＬ－Ｃの反応は異なることを裏付ける根拠を示し、食事療法は遺伝要因を考慮して実施すべきであることを提唱した。最後に、又松大学校のKeehyuk Kim教授は小腸における2つの5個の逆並行型βシートとへリックスーターンーへリックス構造した脂肪酸結合タンパク質について、１７個の連続したアミン酸残基を除去し、セリンーグリシンに置換した組み換え型タンパク質を作製して、その構造的特徴及び脂肪酸との結合性の性質について発表した。

口頭発表においては、本学からは調理学関連３題、アレルギー関連３題、微生物学関連１題、免疫学関連１題、食品機能学関連２題及び臨床栄養学関連１題は発表された。中国四川大学からは脂質栄養学関連１題が発表され、韓国又松大学校からは微生物利用関連3題、食品加工学関連5題、食品衛生学及び臨床検査関連がそれぞれ 1 題発表された。又松大学校の学生が 40 名ほどポスター会場に参加し、活発な質疑応答が行われ、本学の教員及び学生との交流が深まった。

これまでの、研究セミナーのあり方を反省し、今後、基本的に発表形式を口頭発表だけにし、発表言語は英語で行い、発表は、研究分野ごとにまとめて行うように改善することが求められている。そこで、次回からは、英語による口頭発表形式に統一する予定である。

８・５　今後の展望・課題

本学の国際交流に関する中期目標においては国際交流協定においてそれを締結している大学、とりわけ東アジアの大学との間で学生や教員の教育交流、共同研究等を展開するとしている。本年度を振返ってみて、まず学生の教育交流に関連する事項ついて残念なことではあったが、中国、英国、韓国のおける本学学生の語学研修が中止になったことが挙げられる。その原因は色々なことが考えられるが、中国については四川大地震の影響で止むを得ない状況であった。来年度は安全性、復興の状況を見ての判断となるが、先方との緊密な連絡のもと再開に向けて調整していきたい。英国に関しては、以前から指摘されている高額な経費の問題（為替も影響している）が学生達にとって負担となっている事が一因として挙げられる。自身の学生生活を計画的に組む中で後援会からの助成を組み入れたりして学生自身が経費を捻出する努力も必要かも知れない。韓国又松大学校への語学研修中止に関しては、多くの参加者を占める保健福祉学科において夏期休暇中の実習の組み入れが本年度から開始され研修実施が時間的に困難となった事が挙げられているが、実施時期に関しては再開に向けてもっと智恵を出す努力が必要であろう。また韓国からの本学への日本語研修受け入れ時期（７月後半）に関しても夏期休暇の一ヶ月のずれをどう解決するか今後の検討課題である。一方、デザイン学部では毎年計画していた学生や教員の交流計画が中止となった。昨年の世界的経済不況による円高、ウォン安をまともに受け財政的困難により来日が中止されたが一刻も早い世界経済の回復により交流が再開されることを期待する。

次に教員の共同研究に関しては、３学部でそれぞれ温度差はあるものの、特に保健福祉学部では国際共同研究企画の報告にあるように３学科共に新たな連携も含め計画通り遂行され、研究の進展と共に更なる親交が深められた。また、昨年４月に締結された本学と四川大学、又松大学校とのトライアングル協定の実質的な活動として３学部からの新たな共同研究の提案が三宮学長から２大学に対してなされた。今後の進展が期待される。

来年度は、厳しい財政事情の中での海外の大学の学生・教員との教育・研究交流が引き続き行なわれる予定であるが、今年度にも増して実質的、効率的な活動をすることが重要である。

８．６　関連資料

（１）国際共同研究の概要

①課題名：日本と中国における看護系･福祉系専門職のコンピテンシー（実践力）の測定指標の開発とその関連要因に関する研究に関する研究

研究者：保健福祉学部保健福祉学科　坂野純子　筒井澄栄
保健福祉学部看護学科　二宮一枝　難波峰子（博士課程３年）
中国医科大学付属口腔病院　高　玉琴

実績:看護系学生の実習ストレスを測定する尺度(実習ストレス尺度:坂野ら、2008)の日本語版および中国語版を共同で開発した。今後、日中の比較研究を実施し、実習ストレスモデルの開発および職業意識との関連を明らかにする。

②課題名：高齢者のスピリチュアリテイに関する研究

研究者：保健福祉学部看護学科　太湯好子、高井研一、国光恵子(博士課程修了)
保健福祉学部保健福祉学科　中嶋和夫
韓国啓明大学　朴　千萬、朴慶敏
中国延辺大学　全　信子

実績:日本、韓国、中国の高齢者に共通するスピリチュアリテイに尺度の開発をし、QOL との関係を因果関係モデルから検証した。また、3 カ国の調査地域の高齢者や共同研究者とのインタビューを通して、日韓中の高齢者において示されたスピリチュアリテイの 6 因子の共通性が明らかになった。現在、成果を論文、及び The 12th east Asian Forum of Nursing Scholar で発表予定である。

③課題名:デルファイ法を用いた英国及び日本の二国間における看護研究の優先項目の検討

研究者：保健福祉学部看護学科　掛橋千賀子　荻あや子　杉村寛子　礒本暁子
英国リバプール・ジョンムアーズ大学　アービン・フィオナ
ジョーンズ・コリン
英国バンガー大学　ブラドベリージョンズ・カロライン

実績：日英両国における看護研究に関する優先項目を明確にするために、両国で看護職のエキスパートとして大学などの教育機関、及び病院、地域などの臨床で働く看護職を対象に、デルファイ法による調査を 2 年計画で実施している。

④課題名：植物における機能性を有するポリフェノール化合物の検索及び応用に関する研究

研究者：保健福祉学部栄養学科　辻　英明、高橋吉孝

中国四川大学生化学・分子生物学科　方　定志

韓国又松大学食品栄養学科　尹　基泓

実績：ポリフェノールは植物における二次代謝産物であるが、近年多くの機能が発見され、注目を集めている。我々は、既に、クロロゲン酸誘導体やカテキン類について興味ある機能性を明らかにしている。方教授とは中国四川省で栽培されているお茶におけるカテキン類の分析を行い、特に血糖値調節に有効な品種の検索を行っており、尹教授とは、紫落花生などの有効利用するために発酵食品の開発を行っている。

⑤課題名：調理における黒米のアントシアニンの挙動に関する研究

研究者：保健福祉学部栄養学科　比江森美樹

米国カリフォルニア大学デービス校食品科学技術学部　A.E.Mitchell

実績：デービス校への長期海外出張中に行った研究テーマである、調理操作がカリフォルニア産黒米の色素成分であるアントシアニンに及ぼす影響に関する研究成果を Journal of Agricultural and food chemistry に論文投稿し、掲載が決定した。

⑥課題名：発芽ブドウ種子の機能性に関する研究

研究者：保健福祉学部栄養学科　比江森美樹

米国カリフォルニア大学デービス校畜産学部　M.Kenji

実績：M.Kenji のコーディネートにより、SEEDLIFE TECH. Inc.と三者間で、発芽種子類のポリフェノールを主とした機能性について共同研究を行っている。特殊条件下にて発芽処理を施したブドウ種子抽出物に抗アレルギー効果を見出し、その成果を2009年3月に開催される日本農芸化学会にて発表予定である。

⑦課題名：東アジア圏域の家族の扶養意識と高齢者介護の社会化に関する研究

研究者：保健福祉学部看護学科　太湯好子、高井研一、實金栄

保健福祉学部保健福祉学科　中嶋和夫、桐野匡史

韓国啓明大学　朴　千萬

韓国群山大学　厳　基郁

中国東北師範大学　張　明

中国延辺大学　全　信子

実績：東アジアの3カ国（日本・韓国・中国）の大学生（1―4年生）とその親世代を対象に世代別の健康意識、家族の凝集性や親への扶養意識と介護の社会化の意識について調査を実施している（一部調査途中)。今後は、東アジアの3カ国に共通する介護の社会化の意識尺度の開発と3カ国の高齢者介護の社会化に関する課題を東アジアというグローバルな視点から比較検討を行う。

⑧課題名：失語症者家族の介護負担感に関する日韓比較研究

研究者：保健福祉学部保健福祉学科　中村　光

韓国又松大学校　韓　眞順

実績:在宅失語症者の家族における介護負担感に関して､その特性および関連要因、また対処について調査する質問票を共同で作成した。日韓両国で質問票を配布しており、今後、両国のデータを比較・検討する

⑨課題名：シングルマザーの就労支援に関する研究

研究者：保健福祉学部保健福祉学科　近藤（三上）理恵

フランス　パリ第5大学　アンヌ＝マリー・ギルマール

ドイツ　ハインリッヒ･ハイネ大学　島田信吾

ホルドグリューン・フェーベ

実績：フランスで、シングルマザーに対して就労支援を行っているＮＰＯと公的機関に対して､シングルマザーの就労支援の現状と課題に関するインタビュー調査を行った。また、ドイツの研究者とともに、ドイツのシングルマザーに対する就労支援に関する論文を共同執筆した。

⑩課題名：高齢者・神経障害者向け姿勢改善プログラムの共同開発

研究者：情報工学部ｽﾎﾟｰﾂｼｽﾃﾑ工学科　辻博明，野津滋，後藤清志

韓国又松大学ウエルビーイングセンター

実績：脊柱や股・足関節の不動化に起因する不良姿勢は高齢者等の転倒危険度を増大させる。そこで，本学で開発した姿勢改善プログラムに韓国独自の運動要素を取り入れ，姿勢改善プログラムの標準化とその効果の確認を行う。

（２）岡山県立大学と韓国又松大学校との合同研究セミナー

山本登志子准教授の講演

講演会場の全体風景

講演会場における聴衆側の風景

ポスター会場の風景

会場前の参加者の集合写真

① Oral Presentation: 10:00-12:00

O1 Enzymological and immunohistochemical characterization of prostagl-andin F_2 syn thase

Toshiko Yamamoto

[1]*Department of Nutritional Science, Faculty of Health and Welfare Science, Okayama Prefectural university, 111 Kuboki, Soja, Okayama 719-1197, Japan*

O2　Carbohydrate-induced hypertriglycerolemia: The results of interactions of diet with genetic factors

Ding Zhi Fang

Department of Biochemistry and Molecular Biology, West China Medical Center of Medical Sciences, Sichuan University, Chengdu 610041 P>R. China

O3　Intestinal fatty acid-binding protein: As a model protein to study folding and ligand binding mechanism of beta-sheet proteins

Keehyuk Kim

School of Food Biotechnology and Nutrition, Woosong University, Jayang-dong, Dong-ku, Daejeon, 300-718, Korea

② Poster Presentation　15:30-17:30

P1　Behavior of anthocyanins in California black rice (*Oriza sativa* L. japonica) during various cooking

Miki Hiemori [1], Eunmi Koh [2], Makiko Suzuki [1], Masumi Kimoto, Hiromi Yamashita [1], Tsuji Hideaki [1], Alyson E. Mitchell [2]

[1]*Department of Nutritional Science, Faculty of Health and Welfare Science, Okayama Prefectural university, 111 Kuboki, Soja, Okayama 719-1197, Japan*

[2]*Department of Food Science and Technology, University of California, Davis, Davis, CA 95616-8598, USA*

P2　Establishment of a Processing Method for Yuzu Marmalade　Using High Pressure Compared to the Heat-induced Method

Hiroko Kuwada[1, 2], Yuri Jibu[1], Ai Teramoto[3], Sachiko Makio[1, 4], Michiko Fuchigami[1]

[1]*Department of Nutritional Science, Okayama Prefectural university, Okayama Prefectural university, 111 Kuboki, Soja, Okayama 719-1197, Japan*

[2]*Department of Nutrition and Life Science, Fukuyama University, Fukuyama, 729-0292,Japan*

[3]*Department of Health and Nutrition, Kanto Gakuin University, Yokohama, 236-8503,Japan*

[4]*Chugoku Gakuen University, Okayama, 701-0151,Japan*

P3　Changes in Pectin and Histological Structure of Chinese Quince During Cooking

Yuri Jibu[1], Kayoko Ishii[2], Hiroko Kuwada[1, 2], Ai Teramoto[3], Sachiko Makio[1, 4], Michiko Fuchigami[1]

[1]*Department of Nutritional Science, Okayama Prefectural university, 111 Kuboki, Soja, Okayama*

719-1197, Japan

[2]Department of Nutrition and Life Science, Fukuyama University, Fukuyama,729-0292, Japan

[3]Department of Health and Nutrition, Kanto Gakuin University, Yokohama, 236-8503, Japan

[4]Chugoku Gakuen University, Okayama,701-0151,Japan

P4 Proteomic analysis identifies new proteins bound to serum IgE from patients with egg allergy

Makiko Suzuki[1,2], Hidehiko Fujii[3], Shinji Shinoda[3], Hideaki Tsuji[3], Miki Hiemori[3], Hiromi Yamashita[3], Kuniaki Saito[4],Mitsuru Seishima[2], and Masumi Kimoto [1]

[1]Department of Nutritional Science, Faculty of Health and Welfare Science, Okayama Prefectural university, 111 Kuboki, Soja, Okayama 719-1197, Japan

[2]Department of Informative Clinical Medicine and [3]Pediatrics, Gifu University Graduate School of Medicine, Yanagido1-1, Gifu 501-1194, Japan

[4] Department of Human Health Sciences[5], Graduate School of Medicine and Faculty of Medicine Kyoto University,53 Kawahara-cho Kyoto 606-8507, Japan

P5 Isolation and Characterization of Glucosidase Inhibitors in a White-Skinned Sweet Potato, Kibimidori

Akiko Ishikawa, Hiromi Yamashita, Miki Hiemori, Masumi Kimoto, Taeko Shigenobu-Kishimoto, Hideaki Tsuji

Department of Nutritional Science, Okayama Prefectural university, 111 Kuboki, Soja, Okayama 719-1197, Japan

P6 Inhibition of leukocyte-type 12-lipoxygenase by the polyphenols from *Psidium guajava*

Tomoko Hosokawa[1], Akiko Yoshioka[1], Hirokazu Kobayashi[1], Yuki Kawakami[1], Hideki Yoshida[2], Takahiko Hada[2], and Yoshitaka Takahashi[1]

[1]Department of Nutritional Science, Faculty of Health and Welfare Science, Okayama Prefectural university, 111 Kuboki, Soja, Okayama 719-1197, Japan

[2]Research Center, Bizen Chemical Co.Ltd. Tokutomi 363 Akaiwa,709-0716, Japan

P7 Investigation on the relationship of metabolic syndrome and fatty liver with waist circumference

Kayoko Tomioka[1], Yasuko Murakami[1], Takayo Kawakami[1], Makoto Hiramatsu[3], Tatsuya Itoshima[3] and Misako Okita[2]

[1]Department of Nutritional Science, Faculty of Health and Welfare Science, Okayama Prefectural university, 111 Kuboki, Soja, Okayama 719-1197, Japan

[2]Faculty of Human Life and Environment, Nara Women's University,Kitauoyahigashi-machi, Nara, 630-8506, Japan

[3]Okayama Saiseikai General Hospital, 1-17-18, Ifuku-cho, Okayama 700-8511, Japan

P8　Preparation and epitope mapping of a monoclonal antibody against a major wheat allergen, Tri a Bd 27K

Nobuko Komiyama[2], Miki Hiemori[1], Masumi Kimoto[1], Makiko Suzuki[1], Hiromi Yamashita[1], Kyoko Takahashi[3], and Hideaki Tsuji[1]

[1]Department of Nutritional Science, Faculty of Health and Welfare Science, Okayama Prefectural university, 111 Kuboki, Soja, Okayama 719-1197, Japan

[2]Department of Human Nutrition, Faculty of Contemporary Life Science, Chugoku Gakuen University, 83 Niwase, Okayama, Okayama 701-0197, Japan

[3] Department of Food Science and Nutrition, School of Human Environmental Sciences, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Hyogo 663-8558, Japan

P9　Tropomyosin, a major allergen in shrimp, is predominantly transported　through stomach epithelial cells

Ayumi Kunimoto[1], Makiko Suzuki[1], Miyuki Yokoro[1], Shinobu Doi[2], Chikao Yutani[2], Miki Hiemori[1], Hiromi Yamashita[1], Hideaki Tsuji[1], and Masumi Kimoto[1]

[1]Department of Nutritional Science, Faculty of Health and Welfare Science, Okayama Prefectural university, 111 Kuboki, Soja, Okayama 719-1197, Japan

[2]Department of Life Science, Faculty of Science, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Okayama 700-0005, Japan

P10　cDNA Cloning and Expression of a Mouse Anti-LTC$_4$ Monoclonal Antibody

Yuki Kawakami[1], Chiaki Yamashita[1], Yoshiko Kashiwase[1], Yuko Kurahashi[2],Mitsuaki Sugahara[3], Masashi Miyano[3], Shozo Yamamoto[3], and Yoshitaka Takahashi[1]

[1] Department of Nutritional Science, Faculty of Health and Welfare Science, Okayama Prefectural University, 111 Kuboki, Soja, Okayama 719-1197, Japan

[2] Department of Food Science and Nutrition, Faculty of Human Life and Science, Doshisha

Women's College of Liberal Arts, Teramachi Nishiiru, Imadegawa-dori, Kamigyo-ku, Kyoto 602-0893, Japan

[3] *Structural Biophysics Laboratory, RIKEN SPring-8 Center, Harima Institute, 1-1-1, Kouto, Sayo, Hyogo 679-5148, Japan*

P11 Characterization of attenuated mutants of Vibrio vulnificus

Koichiro Yammaoto[1], Jianbo Xiao1, Mai Yammaoto[1], Rie Segawa1, Kohei Hosohara[1], Miyuki Inoue[1,] Michiko Nakai[1], Kenji Yokota[2], Keiji Oguma[2]

[1]*Department of Nutritional Science, Faculty of Health and Welfare Science, Okayama Prefectural university, 111 Kuboki, Soja, Okayama 719-1197, Japan*

[2] *Department of Bacteriology, Okayama University Graduate School of Medicine*

９　行政等との協働

９．１　総社市との包括協定

９．１―１　概要

本学は、昨年 2 月 20 日、総社市との間で連携協力に関する包括的な協定を締結した。本年度は、これに基づき、総社市との交流を促進するため、総社市と連携した様々な活動・交流が行われた。本学として、協定の趣旨をふまえ、本学の地元である総社市からのサポートを受け、保有する知識や情報を地域に還元するなど、地域貢献を目指した。

９．１－２　連携活動

（１）「広報そうじゃ」

「広報そうじゃ」は、毎月総社市から発行され、総社市内の全ての世帯に配布される。今年度、総社市との包括協定に基づき「広報そうじゃ」の裏表紙 1 面が本学に提供された。このため、学生による編集委員会を立ち上げ、デザイン学部　桑野哲教授の下、毎月、県立大学から総社市民に向けた情報発信をした。今年度については、岡山県立大学を総社市民へ紹介するという趣旨で、各学科の特色や地域での活動の紹介を中心として、学長へのインタビューなどを掲載した。また、「広報そうじゃ」に掲載する記事や写真は、学生の編集委員によるものであった。

「広報そうじゃ」

（２）対談・交流

本学と総社市との交流をさらに促進し、連携協力を深めるため、市長と学長の対談や幹部同士の意見交換会を開催した。いずれの会でも活発な意見交換が行われ、総社市からのニーズの紹介や、本学の有するシー

ズの説明などが行われた。また、対談の中では、今後お互いにコミュニケーションを密にし、さらに交流を深めることが決められた。

（３）新入生むけガイドマップの作成

総社市以外に居住し、本学へ入学することになった新入生向けに、総社市の情報を掲載したガイドマップを作成した。このガイドマップは、総社市から情報提供を受け、デザイン学部　奥野忠秀教授の指導により、本学の学生が実際に総社市内を取材するなどして作成したものである。総社市内の観光名所の紹介から、市役所で行うことのできる手続、コインランドリーの場所まで網羅したガイドマップであり、来年度の入学生に配布する予定である。

（４）その他交流

総社市と連携・協働した研究活動も実施された。「3 世代間における子どもの運動（スポーツ）遊びの変容」（担当：情報工学部　越川茂樹准教授）、「これまでの小地域ケア会議の評価と今後あるべき姿の研究及び総社市における高齢者虐待の実態に関する研究」（保健福祉学部　筒井澄栄准教授）、「総社市の特産物を食材としてレシピ作成」（保健福祉学部　渕上倫子教授）について共同研究を行ったほか、「総社市常盤公園整備計画と住民参加プロセスのデザイン」（デザイン学部　熊澤貴之講師）などについて研究を受託した。

また、OPU フォーラムには、総社市からのパネル展示があった。本学も、市役所玄関西スペースに設置された県大コーナーにデザイン学部の作品などを展示した。さらに、このほか、総社市内の小学生向け

に県大探検ツアーや夏休み工作教室を行った。

９．１－３　現状及び今後の課題

本年度は、包括協定による交流が実質的に行われた初年度であるといえる。総社市と本学はこれまでも個別の接点は有していたものの、包括協定により、全体として計画的に、また、強力に交流や相互支援を深めることが可能となった。

今年度は、包括協定が締結して間もないということもあり、広報誌への大学情報の掲載や子ども向けのツアーの実施など総社市民に本学の実態を知ってもらうための取り組みに重点を置いて実施した。来年度以降は、総社市民にとって本学がより身近なものになるように、市民に向けた情報発信等の取り組みと併せて、大学の知識を地域に還元する活動を拡大していきたいと考えている。

９．２　各種委員の応嘱

本学における平成20年度の各種委員の応嘱の状況は､次のとおりである。

区　分	国・独立 行政法人	岡 山 県	県内 市町村	協議会･ 各種団体等	計
保健福祉学部	8	24	19	29	80
情報工学部	2	14	8	21	45
デザイン学部	1	18	15	15	49
合　　計	11	56	42	65	174

９．３　講師派遣

本学における平成 20 年度の講師派遣の状況は、次のとおりである。

区　分	国･独立 行政法人	岡山県	県内 市町村	協議会･各 種団体等	教育機関	計
保健福祉学部	1	7	14	75	11	108
情報工学部		9	3	6	7	25
デザイン学部		4	2	8	12	26
合　　計	1	20	19	89	30	159

９．４　非常勤医師、非常勤講師及び役員の派遣

本学における平成 20 年度の非常勤医師、非常勤講師及び役員の派遣の状況は、次のとおりである。

区　分	非常勤医師	非常勤講師	役　　員	計
保健福祉学部	4	16	2	22
情報工学部		27	2	29
デザイン学部		6	1	7
合　　計	4	49	5	58

９．５　関連資料

（１）保健福祉学部

①　各種委員（公表を制限されているものを除く）

氏名	従事先	従事内容	従事期間
香川幸次郎	岡山社会保険事務局	平成 20 年度市場化テスト事業評価委員	H20.6
香川幸次郎	岡山社会保険事務局	健康保険事業に関する懇談会参集者	H19.4.19-H20.9.30
田内雅規	(独)製品評価技術基盤機構	視覚障害者誘導用ブロック等の視認性に係る標準化推進ワーキンググループ委員	H20.5.1-H21.3.31
岡本和子	岡山県	児童虐待防止等専門サポートチーム	H20.4.1-H21.3.31
香川幸次郎	岡山県	岡山県介護保険制度推進委員会委員	H19.4.1-H21.3.31
岸本妙子	岡山県	岡山県食の安全・食育推進協議会委員	H19.6.13-H22.11.21
木本眞須美	岡山県	岡山県准看護師試験委員	H19.4.16-H21.3.31
木本眞須美	岡山県	岡山県工業技術センター外部評価委員	H20.5.1-H21.3.31
永井成美	岡山県	総合畜産センター外部評価委員会委員	H20.5.1-H23.3.31
中嶋和夫	岡山県	企業誘致アドバイザー	H19.7.1-H21.6.30
中嶋和夫	岡山県	岡山県立社会福祉施設移譲先法人選定委員会委員	H20.6.23-H21.5
中島佳伸	岡山県	企業誘致アドバイザー	H19.7.1-H21.6.30
中野菜穂子	岡山県	岡山県立成徳学校第三者委員	H20.2.1-H22.1.31
中野菜穂子	岡山県	岡山県社会福祉審議会委員	H20.4.1-H23.3.31
中村孝文	岡山県	地区福祉有償運送運営協議会会長	H20.4.17-H21.3.31
二宮一枝	岡山県	岡山県市町村合併推進審議会委員	H20.1.13-H22.1.12
二宮一枝	岡山県	岡山県倉敷保健所運営協議会委員	H20.7.7-H21.5.31
渕上倫子	岡山県	農業試験場外部評価委員会委員	H20.5.1-H22.3.31
渕上倫子	岡山県	健康おかやま 21 推進会議委員	H19.4.1-H21.3.31
太湯好子	岡山県	岡山県社会福祉審議会委員	H20.4.1-H23.3.31

村上生美	岡山県	岡山県公衆浴場入浴料金審議会委員	H18.12.1-H21.11.30
村上貴美子	岡山県	岡山県人権政策審議会委員	H20.3.17-H22.3.16
村上貴美子	岡山県	岡山県介護保険審査会委員	H19.4.1-H22.3.31
村上貴美子	岡山県	岡山県都市計画審議会委員	H20.1.16-H22.1.16
山下広美	岡山県	岡山県ごみゼロ社会推進会議委員	H20.3.19-H22.3.31
山下広美	岡山県	岡山県環境審議会委員	H18.9.1-H22.8.31
吉本孝司	岡山県	岡山県介護保険審査会委員	H19.4.1-H22.3.31
岡﨑順子	岡山市	岡山市まちづくり活動支援事業指定審査会委員	H18.4.13-H20.4.12
岡﨑順子	総社市	総社市人権教育推進協議会会員	H19.4.1-H21.3.31
岡本和子	総社市教育委員会	幼児教育等研究会委員	H20.8.1-H21.3.31
香川幸次郎	赤磐市	介護保険事業計画策定委員会委員	H20.6-H21.3
香川幸次郎	浅口市	浅口市高齢者・障害者虐待防止対策協議会委員	H20.7.1-H22.3.31
掛橋千賀子	総社市	総社市人権考課制度策定委員会委員	H20.4.1-H21.3.31
久保田恵	総社市	総社市次世代育成支援行動計画委員及びこども条例策定委員	H20.11-H22.3.31
近藤理恵	総社市	総社市次世代育成支援行動計画委員及びこども条例策定委員	H20.11-H22.3.31
坂野純子	総社市	総社市男女共同参画審議会委員	H19.8.10-H21.8.9
筒井澄栄	総社市	総社市地域ケア会議委員	H20.4.1-H21.3.31
中野菜穂子	総社市	総社市次世代育成支援行動計画委員及びこども条例策定委員	H20.11-H22.3.31
二宮一枝	総社市	総社市建築審査会委員	H19.3.16-H21.3.31
太湯好子	岡山市	岡山市総合政策審議会委員	H18.6-H20.6
太湯好子	総社市	介護保険運営協議会	H19.7.1-H21.6.30
村上生美	岡山市	岡山市総合政策審議会都市・交通部会委員	H18.7.1-H20.6.30
横手芳恵	岡山市	岡山市総合政策審議会都市・交通部会委員	H20.7.1-H22.6.30
吉川隆博	総社市	総社市障害程度区分認定審査会委員	H19.4.1-H21.3.31

吉川隆博	総社市	総社市障害者施策推進協議会委員	H19.3.2-H21.3.1
樂木章子	総社市	総社市教育委員会委員	H20.5.12-H24.5.11
井村圭壯	(福)岡山県共同募金会	評議員・配分委員	H19.8.1-H21.7.31
岡﨑愉加	(社)岡山県看護協会	岡山県看護協会学会委員会委員	H19.7.1-H21.6.30
岡本和子	(社)全国保育士養成協議会	全国保育士養成協議会理事	H19.6.29-H21.6.28
荻あや子	(社)岡山県看護協会	日本看護協会通常総会･全国職能別集会並びに代議員打ち合わせ会委員	H20.5.10-H20.5.22
香川幸次郎	全国健康保険協会岡山支部	全国健康保険協会岡山支部評議会評議員	H20.10.1-H22.9.30
香川幸次郎	(福)旭川荘	社会福祉法人旭川荘第三者委員	H19.6.12-
香川幸次郎	(社)岡山県介護福祉会	社団法人岡山県介護福祉士会理事	H20.1.8-H22.3.31
坂野純子	総社市社会福祉協議会	総社市地域自立支援協議会委員	H20.7.29-H21.2.28
高井研一	特定医療法人鴻人会	岡山中央病院卒後臨床研修管理委員会委員	H19.11.1-H21.3.31
竹本与志人	総社市社会福祉協議会	総社市地域福祉活動計画策定委員会委員	H20.8.1-H21.3.31
竹本与志人	総社市社会福祉協議会	評議員	H21.3.1-H23.2.28
谷口敏代	(財)社会福祉振興・試験センター	介護福祉士試験委員	H20.7.1-H22.6.30
辻英明	ウエスコ学術振興財団	ウエスコ学術振興財団評議員	H19.4.1-H21.3.31
中村光	岡山県言語聴覚士会	岡山県言語聴覚士会副会長	H19.3.3-H21.3.2
中村光	日本言語聴覚士協会	生涯学習部部員	H20.4.1-H21.9.13
中村光	日本高次脳機能障害学会	日本高次脳機能障害学会評議員	H19.1.1-H21.12.31
新山順子	岡山県現代舞踊連盟	岡山県現代舞踊連盟理事	H19.4.1-H22.3.31
二宮一枝	岡山県老人クラブ連合会	県老連体力測定委員会委員	H19.8.7-H21.3.31
二宮一枝	(社)岡山県看護協会	学会準備委員（日本看護教育学会委員）	H20.8.1-H21.9.30
藤井保人	川崎医療福祉大学	博士論文審査委員	H21.1.15-H21.2.3

渕上倫子	岡山県農業共同組合中央会	平成20年度岡山県農協職員資格認証試験委員	H20.7.1-H21.3.31
渕上倫子	総社吉備路商工会	平成20年度地域資源∞全国展開プロジェクト委員会委員	H20.6.23-H21.3.31
村上生美	(社)岡山県看護協会	認定看護管理者教育セカンドレベル教育委員会委員	H19.7.1-H21.6.30
村上生美	総社市社会福祉事業団	総社市社会福祉事業団第三者委員会委員	H20.2.5-H21.3.31
村上貴美子	岡山県運営適正化委員会	岡山県運営適正化委員会委員	H20.7.18-H22.7.17
村上貴美子	岡山市シルバー人材センター	岡山市シルバー人材センター理事	H20.3.19-H21.5.31
村社卓	ももぞの学園	評議会委員	H19.6.1-H21.5.31
吉川隆博	(社)日本精神科看護技術協会	(社)日本精神科看護技術協会理事	H19.6.1-H21.5.31
吉本孝司	総社市社会福祉協議会	総社市地域自立支援協議会委員	H19.3.12-H21.3.31

② 講師

氏名	従事先	従事内容	従事期間
石村久美子	愛媛大学医学部	公開セミナー	H20.11.6
荻あや子	矢掛高等学校	学部学科分野理解のためのガイダンス	H20.11.13
竹本与志人	大阪市立大学	講義「共分散構造分析の活用方法―調査から論文作成まで―」	H20.12.19
谷口敏代	新見公立短期大学	講義「介護実習指導のあり方」	H20.5.14
辻英明	笠岡高等学校	食品の働き　栄養学科の紹介	H20.10.7
筒井澄栄	国立保健医療科学院	平成20年度要介護認定調査員指導者研修会における講義	H20.10.16
冨岡加代子	倉敷市立大高小学校	学校保健委員会　講演「食育について」	H20.12.4
冨岡加代子	瀬戸内短期大学	瀬戸内短期大学地域教育研究センター公開講座	H20.12.6
永井成美	兵庫県立姫路聴覚特別支援学校	食育に関する研修会講義	H20.11.4
太湯好子	笠岡高等学校	看護学科のめざす看護教育	H20.10.7
村上貴美子	倉敷南高等学校	社会福祉とは？	H20.9.2

高井研一	(独)雇用･能力開発機構岡山	平成 20 年度訪問介護員養成研修１級課程の実施に伴う講師	H21.2.4,2.18,2.25
岡﨑愉加	岡山県教育委員会	性に関する教育普及推進研修会	H21.2.13
岸本妙子	岡山県井笠保健所	井笠保健所管内給食施設従事者研修会「食の安全・安心について」	H20.12.2
久保田恵	倉敷保健所	食育推進リーダー研修会	H20.12.12
永井成美	勝英保健所	平成 20 年度勝英地域食育推進研修会	H20.10.27
二宮一枝	岡山県	第１５回岡山県保健福祉学会における研究発表の座長	H20.1.26
二宮一枝	津山保健所	津山保健所管内保健師等地域保健活動従事者研修会	H20.7.18
吉本孝司	岡山県消防学校	救急隊員教育	H20.10.27
久保田恵	岡山市	岡山市保育協議会第４ブロック３歳未満児の食育に関する研究指導・討議検討	H20.8.19, 9.29, 11.4
久保田恵	岡山市	岡山市保育協議会　食育支援に関する研究の討議検討	H20.4.18
久保田恵	岡山市	岡山市保育協議会第４ブロック「食を通じて子どもの育ちを考えよう」	H20.5.23
近藤理恵	岡山市	講演「現代の児童福祉の現状と課題」	H20.4.8
竹本与志人	美作市	認知症予防相談事業研修会	H20.12.5
竹本与志人	倉敷市	平成20年度高齢者支援センター職員研修会	H20.10.28
山下広美	岡山市	岡山市北保健センター主催健康市民おかやま２１in 中山	H20.11.9
渡邉久美	井原市	井原市民病院　院内看護研修	H20.10.19-H21.3.31
京林由季子	美咲町	育児サポーター養成講座「子どもの発達と遊び」	H20.8.4
久保田恵	美咲町	育児サポーター育成講座「子どもの食事とおやつ」	H20.8.4
久保田恵	美咲町	美咲町藤原保育所保護者食育研修会	H20.11.7
高橋紀美子	美咲町	育児サポーター養成講座「幼児の安全と救急法について」	H20.8.18

永井成美	矢掛町	小田郡養護教諭が行う食育研究指導	H20.8.20, 10.25
中野菜穂子	美咲町	育児サポーター養成講座「育児サポーターとは？」	H20.7.30
京林由季子	東京都	平成20年度幼稚園・小学校・中学校特別支援教育コーディネータ研修	H20.6.30
青柳暁子	岡山県老人福祉施設協議会	岡山県老人施設職員研究発表会助言	H21.2.27
岡﨑順子	吉備創生カレッジ	吉備創生カレッジ講師「童謡・唱歌を歌う」	H21.1.13, 1.27, 2.10
岡﨑順子	岡山県高等学校音楽協議会	第４３回山陽学生音楽コンクール審査員	H20.8.26
岡﨑愉加	(社)岡山県看護協会倉敷支部	看護研究発表会講評	H20.11.27
岡本和子	総社市社会福祉協議会	平成20年度ジュニアボランティア養成講座	H20.8.20-11.8
荻あや子	(株)シーケーフーズ	高齢者施設のインストラクターレベルアップ指導	H20.11.7
荻あや子	(社)岡山県看護協会	看護研究Ⅱ研修	H20.9.25-26 H21.3.7
香川幸次郎	全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会	小規模多機能型居宅介護ケアマネジメントセミナー	H20.9.1, 11.3
香川幸次郎	倉敷スクールタイガー縫製	障害者向けカスタマイズ衣料における衣服の開発調査研究の実査	H20.9.6-H21.2.28
掛橋千賀子	(社)岡山県看護協会	ジェネラリスト看護研究会「看護研究Ⅰ」	H20.6.12
掛橋千賀子	(社)岡山県看護協会	平成20年度岡山県実習指導者講習会	H20.8.2
掛橋千賀子	(社)岡山県看護協会	ジェネラリスト教育研修会	H20.9.25-26, H21.3.7
掛橋千賀子	(社)岡山県看護協会	看護管理者教育（看護師長・主任）研修会	H20.9.18
岸本妙子	(社)岡山県栄養士会総社支部	岡山県栄養士会総社支部における研修会「食料自給率と食の安全」	H20.6.19
岸本妙子	(社)岡山県計量協会	講演「食の安全について」	H21.2.23

金　潔	大正大学社会福祉学会	第３２回大会シンポジウム　シンポジスト	H21.2.8
久保田恵	久米南町保育協議会	食育の研究についての指導	H20.6.3, 8.25, 11.5
久保田恵	岡山市保育協議会	保育研究報告会	H20.11.22
久保田恵	岡山県保育協議会	講演「保育園における乳幼児の食育への取り組み」	H20.7.11
久保田恵	(社)岡山県栄養士会	平成 20 年度食生活改善指導担当者研修会	H20.9.23
久保田恵	大学生協中国四国事業連合	講演「ミール利用者の利用状況を分析して」	H20.9.18
久保田恵	(株)シーケーフーズ	高齢者施設のインストラクターレベルアップ指導	H20.11.7
久保田恵	岡山県保育協議会	平成 20 年度岡山県保育研究大会における分科会助言	H21.1.29
久保田恵	久米苫田地区保育協議会	保育園における食育への取り組み	H21.1.10
久保田恵	山手地区食育をすすめる会	「わが家のイチオシ朝ごはん」リーフレット作成指導	H21.1.15-3.31
田内雅規	第一法規(株)	「高齢者・障害者のための福祉用具活用の実務」編集会議	H20.11.19
竹本与志人	岡山県社会福祉士会	相談援助技術の研修	H20.4.26
竹本与志人	岡山県社会福祉士会	岡山県社会福祉士会県北ブロック研修会	H20.11.15
竹本与志人	日本社会福祉士会	社会福祉士実習指導者講習会	H21.1.10-11
谷口敏代	日本介護福祉養成士養成施設協会	平成 20 年度介護教員講習会	H20.8.24-25
谷口敏代	(社)岡山県介護福祉士会	介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修	H20.11.1
谷口敏代	社会福祉法人王慈会	岡山県備中地区老人福祉施設協議会研修会	H20.11.26
谷口敏代	岡山県老人福祉施設協議会	岡山県老人福祉施設協議会	H21.2.27
冨岡加代子	(社)岡山県栄養士会	平成 20 年度食生活改善指導担当者研修会	H20.10.12-13
冨岡加代子	岡山ライオンズｸﾗﾌﾞ	例会における講演	H20.10.14
冨岡加代子	健康保険組合連合会岡連合会	講演「生活習慣病予防に役立つ食事」	H20.12.15

永井成美	岡山県市町村栄養士研究協議会	講演「効果的な、事業（栄養教育）と評価を行うために」	H20.4.23
永井成美	小教研倉敷支会健康教育部会	小教研倉敷支会健康教育部会研修会「児童の行動変容を目指した食育」	H20.8.29
永井成美	(社)兵庫県栄養士会	講演「こどもの肥満について」	H20.8.31
永井成美	社団法人岡山県栄養士会	平成20年度食生活改善指導担当者研修会	H20.10.12
永井成美	社団法人日本栄養士会	第26回公衆栄養活動研究会	H21.3.7
永井成美	岡山県給食協議会	講演「こころとからだのマネジメント」	H21.2.24
中村光	日本言語聴覚士協会	平成20年度第1回全国研修会	H20.7.27
中村光	大分県言語聴覚士会	第9回大分県言語聴覚士研修会講演	H20.9.28
中村光	三重県言語聴覚士会	第6回三重県言語聴覚士研修会	H21.2.1
新山順子	岡山県小教研体育部会	第４５回体育（表現・基本の運動領域）指導者講習会	H20.7.29-30
二宮一枝	岡山県老人クラブ連合会	岡山県老人福祉大学講演	H20.7.25-11.21
二宮一枝	(社)岡山県看護協会	平成20年度岡山県実習指導者講習会	H20.8.20
二宮一枝	真庭市月田ボランティアグループ	講演「健康づくりは、地域づくり」	H20.7.2
二宮一枝	(社)岡山県看護協会	ジェネラリスト教育(一般研修)研修会	H20.8.5
二宮一枝	津山保健所管内愛育委員連合会	いきいきチャイルドネット子育て支援研修会	H20.9.10, H21.1.19
二宮一枝	(社)岡山県看護協会	平成20年度第2回役員・委員長・支部長合同会議	H20.12.20
原野かおり	ユニチャーム(株)	ライフリー排泄ケアフォーラム	H20.11.5
太湯好子	(独)南岡山医療センター	講演「医療従事者の倫理」	H20.4.2
太湯好子	(社)岡山県看護協会	初任者教育研修会	H20.7.26
太湯好子	(社)岡山県看護協会	ジェネラリスト教育（専門能力向上・育成）研修会	H20.8.22-23
村上生美	(社)岡山県看護協会	平成20年度認定看護管理者教育ファーストレベル教育	H20.5.17

村上生美	(社)岡山県看護協会	平成20年度岡山県実習指導者講習会	H20.8.12
村社卓	岡山県社会福祉士会	講演「ソーシャルワーク理論の動向」	H20.8.23
森将晏	鳥取県立中央病院	講演「褥瘡対策」	H20.12.19
山下広美	おかやまバイオアクティブ研究会	講演「酢酸の代謝と生活習慣病予防」	H20.10.31
山下広美	岡山県薬事振興会	平成20年度岡山県薬事衛生大会	H20.12.7
山下広美	久米苫田地区保育協議会	講演「保育園における食育への取り組み」	H21.1.10
山下広美	岡山ヤクルト	講演「家族で考える生活習慣病」	H21.1.8
山下広美	岡山放送株式会社	脱メタボ料理コーナー収録	H20.9
山下広美	(財)ちゅうごく産業創造センター	講演「酢の機能性活用コンソーシアム」の活動	H21.2.10
山下広美	おかやま食料産業クラスター協議会	講演「酢の肥満抑制を介した生活習慣病の予防」	H21.2.16
山田隆子	(社)岡山県看護協会	教育・管理・総合看護学会座長	H20.9.30
横手芳恵	(社)岡山県看護協会	教育・管理・総合看護学会講評	H20.9.30
吉本孝司	岡山手をつなぐ育成会	平成20年度５０周年記念手をつなぐ育成会岡山県大会（井原大会）	H20.8.31
吉本孝司	新見市手をつなぐ育成会	平成20年度新見市手をつなぐ育成会講演会	H20.11.15
吉本孝司	岡山県障害スポーツ協会	障害者スポーツ指導員初級養成講習会	H21.1.24
欒木章子	吉備創生カレッジ	教育講座「親に育てられない子ども一赤ちゃんポスト問題をめぐって」	H20.5.15, 5.29, 6.5
渡邉久美	(社)岡山県看護協会	看護研究Ⅱ研修	H20.10.1-H21.3

③　非常勤医師、非常勤講師・役員

氏名	従事先	従事内容	従事期間
岡田良雄	新見中央病院	内科診療	H20.4.1-H21.3.31
藤井保人	日立造船健康保険組合	嘱託産業医	H20.4.1-H21.3.31
森将晏	高松赤十字病院	病理医	H20.4.1-8.31

森将晏	鳥取生協病院	病理医（生検材料・外科材料の診断等）	H20.4.1-H21.3.31
石村久美子	藍野学院短期大学	「地区活動論」	H20.9.19
岡﨑順子	ノートルダム精心女子大学	「音楽１」「音楽２」	H20.4.1-H21.3.31
岡本和子	中国学園大学	「保育原理Ⅰ」「保育原理Ⅱ」	H20.4.1-H21.3.31
香川幸次郎	吉備国際大学	「保健科学研究法」「理学療法学研究法」「理学療法学研究法」	H20.4.1-H21.3.31
坂野純子	東京大学	「社会福祉・社会保障論」	H20.4.1-H21.3.31
鈴木麻希子	岐阜大学	「病態情報解析医学」	H20.4.1-H21.3.31
中嶋和夫	同志社大学大学院	「社会福祉調査研究」	H20.4.1-H21.3.31
中村孝文	川崎医療福祉大学	「人間工学」	H20.4.1-9.30
新山順子	作陽学園	「保育内容（身体表現）」	H20.9
二宮一枝	玉野総合医療専門学校	「保健医療福祉行政論」	H21.2.6, 2.13
渕上倫子	福山大学	「調理学・調理学実習Ⅰ」	H20.4.1-H21.3.31
村社卓	倉敷看護専門学校	「社会福祉」	H20.4.8-6.24
村社卓	東洋大学	「社会福祉基礎特論Ⅳ」	H20.10.1-H21.3.31
森将晏	新見公立短期大学	「病理学Ａ」	H20.10.1-H21.3.31
山本登志子	徳島健祥会福祉専門学校	「解剖学」	H21.1.28-29,2.4-5
中村光	岡山旭東病院	リハビリテーション課 言語聴覚部門	H20.10.1-H21.3.31
渕上倫子	生活協同組合おかやまコープ	おかやまコープ理事	H19.4.1-H20.5.27 H20.5.29-H21.5.28
森将晏	おかやま信用金庫	理事の職務の執行を監査	H20.4.1-H21.3.31

（２）情報工学部

① 各種委員

氏名	従事先	従事内容	従事期間
天嵜聡介	(独)情報処理推進機構	「SECjournalR」論文査読委員	H20.9.1-H21.3.31
辻博明	岡山社会保険事務局	健康づくり事業推進協議会委員	H19.4.1-H21.3.31
犬飼義秀	(財)岡山県体育協会	体育協会委員（普及委員）	H19.6.14-H21.6.13
亀山嘉正	岡山県	岡山県大規模小売店舗立地審査会委員	H20.6.1-H22.5.31

亀山嘉正	岡山県	ミクロものづくり岡山ブランド戦略委員会委員	H20.4.1-
越川茂樹	(財)岡山県体育協会	体育協会委員（普及委員）	H19.6.14-H21.6.13
越川茂樹	(財)岡山県体育協会	第４３回岡山県スポーツ少年大会運営委員会委員	H20.5.28-H21.3.31
越川茂樹	(財)岡山県体育協会	平成20年度中国ブロック スポーツ少年団卓球交流大会運営委員	H20.7.1-8.31
後藤清志	(財)岡山県体育協会	競技力向上委員会委員	H19.6.14-H21.6.13
後藤清志	(財)岡山県体育協会	スポーツ医・科学委員会委員	H19.6.14-H21.6.13
後藤清志	岡山県	岡山県スポーツ振興審議会委員	H18.10.8-H20.10.7
後藤清志	(財)岡山県体育協会	理事長	H19.6.14-H21.6.13
平田敏彦	(財)岡山県体育協会	スポーツ医・科学委員会委員	H19.6.14-H21.6.13
山北次郎	岡山県	岡山情報ハイウエイ接続審査部会委員（部会長）	H13.4.1-
山北次郎	岡山県本人確認情報保護審査会	住民基本台帳ネットワークシステムに関する本人確認情報保護審査会委員	H16.8.29-H22.8.28
横田一正	岡山県立総社高校	学校評議員	H20.6.19-H21.6.19
尾崎公一	総社市	総社市環境審議会委員	H19.8.29-H21.3.31
亀山嘉正	総社市	総社市行財政問題懇談会委員	H20.8.27-H22.8.26
越川茂樹	総社市教育委員会	わくわくスポーツデー運営委員会委員	H20.7.31-H21.3.31
越川茂樹	総社市教育委員会	総社市体育施設指定管理選定審議会委員	H20.10.1-H24.3.31
辻博明	総社市	総社市男女共同参画審議会委員	H19.8.10-H21.8.9
山北次郎	玉野市	玉野市地域情報化推進懇話会委員	H20.6-H21.3.31
福本昌之	矢掛町教育委員会	矢掛町第三者評価委員会委員	H20.9.16-H21.3.31
福本昌之	矢掛町教育委員会	矢掛町第三者評価研究作業部会委員	H20.10.31-H21.3.31
稲井寛	(財)八雲環境科学振興財団	（財）八雲環境科学振興財団選考委員会委員	H19.4.1-H21.3.31
大久保賢祐	ＩＥＥＥ	広島支部理事	H20.4.1-12.31 H21.1.26-12.31
大西謙吾	ICORR	ICORR2009実行委員	H20.1.10-H21.3.31

加藤隆	(財)岡山県産業振興財団	岡山発！オンリーワン企業育成支援事業費補助金審査委員会委員	H20.4.15-H21.3.31
金川明弘	日本知能情報ファジィ学会	日本知能情報ファジィ学会中国・四国支部運営委員	H20.4.1-H21.3.31
亀山嘉正	ウエスコ学術振興財団	研究助成選考委員	H19.4.1-H21.3.31
越川茂樹	NPO 法人吉備スポーツ王国	ＮＰＯ法人吉備スポーツ王国スポーツ大会等事業の運営	H19.7.10-H20.6.30
後藤清志	岡山県体操協会	理事長	H18.4.1-H21.3.31
後藤清志	岡山県体操協会	第 63 回国民体育大会委員	H20.9.29-H20.10.1
後藤清志	(財)日本体操協会	第 12 回日・韓スポーツ交流事業「ジュニア選手競技力向上事業合宿」団長	H20.10.2-10.7 H20.12.8-12.13
神代充	ﾚｽｷｭｰﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ実行委員会	レスキューロボットコンテスト実行委員会委員	H20.11.27-H21.9.30
福田忠生	ﾚｽｷｭｰﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ実行委員会	レスキューロボットコンテスト実行委員会委員	H20.2.26-9.30 H20.12.1-H21.9.30
松井俊樹	ﾚｽｷｭｰﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ実行委員会	レスキューロボットコンテスト実行委員会委員	H20.12.18-H21.9.30
山内仁	ﾚｽｷｭｰﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ実行委員会	レスキューロボットコンテスト実行委員会副実行委員長	H20.11.25-H21.9.30
山北次郎	岡山中央総合情報公社	諮問委員会委員	H18.10-
山北次郎	(財)八雲環境科学振興財団	(財)八雲環境科学振興財団理事会委員	H19.4.1-H21.3.31
山北次郎	岡山県高度情報化推進協議会	岡山県高度情報化推進協議会副会長	H19.5-H21.5
山﨑大河	岡山県体操協会	第４２回ＮＨＫ杯兼北京オリンピック体操競技日本代表決定競技会大会競技役員	H20.5.4-6
若林秀昭	電子情報通信学会中国支部	電子情報通信学会中国支部 学生会顧問	-H21.3.31
渡辺富夫	(財)中山科学振興財団	評議員	H19.4.1-H21.3.31
渡辺富夫	NPO 法人横断型基幹科学技術研究団体連合	分野横断型科学技術アカデミック・ロードマップ委員	H20.10.8-H21.3.31

②　講師

氏名	従事先	従事内容	従事期間
稲井寛	玉野光南高等学校	学部紹介	H20.12.4
川畑洋昭	倉敷南高等学校	ユビキタス社会の実現に向けて－情報工学が目指すもの－	H20.9.2
忻　欣	玉野光南高等学校	制御とロボティックス	H20.6.3
渡辺富夫	岡山操山高等学校	理系の学問の学びについて	H20.7.16
渡辺富夫	倉敷天城高等学校	スーパーサイエンスハイスクール事業に係る講演会(教職員)	H20.7.22
渡辺富夫	慶応義塾大学大学院	ACE2008　での招待講演	H20.12.3
渡辺富夫	山形県立産業技術大学校庄内校	ヒューマンインタフェースの最新技術動向について	H21.2.27
犬飼義秀	岡山県障害者スポーツ協会	岡山県障害者スポーツ指導員初級養成講習会	H21.1.25
犬飼義秀	岡山県	総合地域スポーツクラブ啓発フォーラム　勝央町運動スポーツに関するフォーラム	H21.1.8
越川茂樹	(財)岡山県体育協会	スポーツリーダー養成講習会兼スポーツ少年団認定員養成岡山県講習会(津山市)	H20.11.8
越川茂樹	(財)岡山県体育協会	スポーツリーダー養成講習会兼スポーツ少年団認定員養成岡山県講習会(矢掛町)	H20.9.27-28
越川茂樹	(財)岡山県体育協会	スポーツリーダー養成講習会兼スポーツ少年団認定員養成岡山県講習会(倉敷市)	H20.9.13
越川茂樹	(財)岡山県体育協会	スポーツリーダー養成講習会兼スポーツ少年団認定員養成岡山県講習会(岡山市)	H20.8.31
越川茂樹	(財)岡山県体育協会	（財）日本体育協会公認スポーツ指導者養成講演会「上級指導員」養成講習会	H20.1.11
辻博明	岡山県男女共同参画推進センター	「おとなの土曜塾-明日の自分を楽しもう！」	H21.1.31
平田敏彦	岡山県	第８回岡山県障害者スポーツ大会の競技役員	H20.5.25
辻博明	岡山市保健所	栄養教室　講演と実技「健康増進のために運動をしましょう」	H20.7.17, 8.5, 9.16, 11.19

辻博明	岡山市保健所	講演及び簡単な実技「健康づくりと運動」	H20.12.17
辻博明	岡山市西大寺公民館	「三日坊主にならないための健康講座」家事を利用したｴｸｻｻｲｽﾞ	H20.11.28
荒井剛	岡山電業(株)	情報セキュリティリテラシーの向上について(金光学園中学区高等学校教職員)	H20.6.13
大西謙吾	(社)山陽技術振興会	「田口メソッド・品質工学入門セミナー」	H21.1.30-2.28
大西謙吾	(社)日本機会学会	中国四国地区特別講演会「ロボメカ技術の医療福祉分野への応用」	H21.2.7
越川茂樹	岡山県体操協会	第４２回ＮＨＫ杯兼北京オリンピック体操競技日本代表決定競技会大会競技役員	H20.5.5-6
末岡浩治	半導体ネットおかやま	「半導体ネットおかやま」主催人材育成講座	H20.11.28
渡辺富夫	ﾋｭｰﾏﾝｲﾝﾀﾌｪｰｽ学会共生システム専門研究会	第３回研究講談特別講演会	H20.11.14

③　非常勤講師・役員

氏名	従事先	従事内容	従事期間
天寄聡介	鳥取環境大学	「情報数学４」	H20.7.4-8.6
天寄聡介	鳥取環境大学	「ソフトウェア設計」	H20.11.19-H21.1.14
市川正美	岡山大学	「数値解析」	H20.10.1-H21.3.31
犬飼義秀	岡山理科大学	「生涯スポーツⅡ（スキー）」	H20.9.20-H21.3.31
犬飼義秀	倉敷芸術科学大学	「テーピング理論・実習」「保健体育実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」	H20.4.1-H21.3.31
大久保賢祐	岡山理科大学	「電気電子計測」	H20.4.1-9.19
國島丈生	岡山理科大学	「データベース」	H20.4.1-9.19
國島丈生	山陽学園大学	「情報システム論」	H20.9.21-H21.3.31
越川茂樹	吉備国際大学	「保健体育科教育法ⅠⅡⅢⅣ」	H20.4.1-H21.3.31
越川茂樹	順正短期大学	「保健体育科教育法」	H20.4.1-9.30
越川茂樹	吉備国際大学	「指導案の作成と授業の展開ⅠⅡⅢ」	H20.12.24

後藤清志	倉敷芸術科学大学	「スポーツ心理学」	H20.4.1-9.23
後藤清志	吉備国際大学	「スポーツ実習Ⅰ（体操）」	H20.4.1-9.30
後藤清志	吉備国際大学	「スポーツ実習Ⅱ(器械運動)」	H20.10.1-H21.3.31
後藤清志	吉備国際大学	「スポーツ心理学」	H20.4.1-H21.9.23
榊原勝己	岡山理科大学	「コンピュータネットワーク」	H20.9.20-H21.3.31
佐藤洋一郎	中国職業能力開発大学校	「生産画像工学」 「デジタル信号処理」	H20.4.9-10.1
高橋泰嗣	岡山大学	「確率・統計」	H20.4.1-9.30
辻博明	愛媛大学	「スポーツ医療」	H20.10.1-H21.2.28
福嶋丈浩	岡山大学	「力学」	H20.10.1-H21.3.31
福本昌之	松山東雲女子大学	「教育の制度」	H20.10.1-H21.3.31
福本昌之	川崎医療福祉大学	「道徳教育研究」	H20.4.1-9.30
柳原衛	旭川荘厚生専門学院	「解剖生理学」	H20.4.1-9.30
柳原衛	旭川荘厚生専門学院	「解剖生理学（特別補講）」	H21.1.16
柳原衛	倉敷私立短期大学	「身体科学論」	H20.10.1-H21.2.20
横川智教	川崎医療福祉大学	「情報処理工学概論」	H20.10.1-H21.3.31
渡辺富夫	岡山大学	「福祉機械工学」	H20.11.15-12.27
神代充	(株)工学基礎	経営会議、取締役会等へ参画、研究開発・技術面からの指南役として業務を担当	H20.4.1-H21.3.31
渡辺富夫	インタロボット(株)	技術指導、アドバイス	H20.4.1-H21.3.31

（３）デザイン学部

①　各種委員

氏名	従事先	従事内容	従事期間
山田孝延	国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所	中国地方整備局総合評価審査委員岡山県部会　部会委員	H18.9-H22.9.30
奥野忠秀	岡山県	企業誘致アドバイザー	H19.7.1-H21.6.30
嘉数彰彦	岡山県(国民文化祭岡山県実行委員会)	企画委員会企画委員	H19.9-H23.3
嘉数彰彦	岡山県立図書館	映像コンテスト「デジタル岡山グランプリ」実行委員会委員	H20.4.10-
嘉数彰彦	岡山県	企業誘致アドバイザー	H19.7.1-H21.6.30
久保田厚子	岡山県教育委員会	岡山県文化財保護審議会委員	H20.7.10-H22.7.9

久保田厚子	岡山県	岡山県新進美術家育成「I氏賞」推薦委員	H20.7.7-9.8
久保田厚子	岡山県立美術館	第55回日本伝統工芸展岡山展第1回実行委員	H20.8.19-H21.1.31
熊澤貴之	岡山県	備中地域広域観光振興協議会委員	H18.7-
熊澤貴之	岡山県	岡山県観光立県戦略推進協議会委員	H20.5.20-H22.5.19
桑野哲夫	岡山県	企業誘致アドバイザー	H19.7.1-H21.6.30
難波久美子	岡山県	岡山県事業認定審議会委員	H17.7.10-H23.7.9
難波久美子	岡山県	岡山県職業能力開発審議会委員	H19.7.1-H21.6.30
難波久美子	岡山県	岡山県農業振興地域整備促進協議会委員	H20.7.1-H21.3.31
難波久美子	岡山県教育委員会	目指せスペシャリスト運営指導委員会委員	H20.9.1-H21.3.31
難波久美子	岡山県	岡山県都市計画審議会委員	H20.1.16-H22.1.16
森下眞行	岡山県	おかやまUDアドバイザー会議委員	H19.4.1-H21.3.31
森下眞行	岡山県	企業誘致アドバイザー	H19.7.1-H21.6.30
山田孝延	岡山県	岡山県建築審査会委員	H19.4.1-H23.1.12
伊藤國彦	岡山市	岡山市環境保全審査委員会委員	H20.7.15-H22.7.14
伊藤國彦	岡山市	御津オオタカ保護対策検討専門委員会委員	H18.8.21-H20.8.20
嘉数彰彦	瀬戸内市	瀬戸内市景観審議会委員	H21.1-H23.1
久保厚子	総社市教育委員会	総社市生涯学習施設審議会委員	H20.7.1-H22.6.30
熊澤貴之	総社市	都市計画マスタープラン策定委員会委員	H19.6.1-H20.5.31
熊澤貴之	倉敷市	都市計画マスタープラン策定委員会委員	H20.4.1-H21.3.31
熊澤貴之	岡山市	岡山市屋外広告物審査会委員	H19.4.1-H21.3.31
熊澤貴之	倉敷市	倉敷市開発審査会委員	H20.4.1-H22.3.31
熊澤貴之	瀬戸内市	瀬戸内市景観審議会委員	H21.1-H23.1
齋藤美絵子	総社市	総社市放送番組審議会委員	H19.8.1-H21.7.31
山田孝延	総社市	総社市建築審査会委員	H19.10.1-H21.3.31
山田孝延	総社市	総社市都市計画審議会委員	H19.6.1-H21.5.31
山田孝延	総社市	総社市高梁川新架橋整備方針審議会委員	H20.4.18-10.31

山田孝延	瀬戸内市教育委員会	瀬戸内市立美術館及び牛窓町公民館図書室設計業務委託プロポーザル審査委員会委員	H20.5-7
山田孝延	真庭市	真庭市新本庁舎建設工事設計プロポーザル審査委員会委員	H20.4-6
森下眞行	多治見市	多治見市陶磁器意匠研究所運営審議会運営委員	H19.6.1-H21.5.31
北山由紀雄	(財)倉敷文化振興財団	倉敷文化ソサエティ21委員	H20.4.1-H21.3.31
久保田厚子	日本伝統工芸展中国支部展実行委員会	第５１回日本伝統工芸中国支部展実行委員会委員	H19.1.16-H20.5.25
久保田厚子	日本伝統工芸展中国支部展実行委員会	第５２回日本伝統工芸中国支部展実行委員会委員	H20.12.9-H21.6.1
久保田厚子	日本工芸会中国支部	日本工芸会中国支部幹事	H20.5.19-H22.3.31
熊澤貴之	(財)八雲環境科学振興財団	(財)八雲環境科学振興財団選考委員会委員	H19.4.1-H21.3.31
作元朋子	岡山県商工会連合会経営力支援課	「地域資源∞全国展開プロジェクト」ワ-キング委員会委員	H20.9.12-H21.2.28
難波久美子	(財)岡山県産業振興財団	岡山県産業振興財団評議員	H19.4.1-H21.3.31
野宮謙吾	ＮＰＯ法人吉備スポーツ王国	ＮＰＯ法人吉備スポーツ王国スポーツ大会等事業の社員	H19.7.10-H20.6.30
益岡了	日本デザイン学会	日本デザイン学会評議員	H20.1.1-H21.12.31
南川茂樹	日本デザイン学会	日本デザイン学会評議員	H20.1.1-H21.12.31
森下眞行	(財)岡山県環境保全事業団	一村一品事業選定委員会委員	H20.10.1-H21.3.31
八尾里絵子	(財)画像情報教育振興協会	協会委員	H20.4.1-H21.3.31
山田孝延	ウエスコ学術振興財団	研究助成選考委員	H19.4.1-H21.3.31
吉原直彦	日本デザイン学会	日本デザイン学会評議員	H20.1.1-H21.12.31

② 講師

氏名	従事先	従事内容	従事期間
上田香	倉敷工業高等学校	スライドレクチャー	H21.2.23
大河内信雄	岡山工業高等学校	学生たちが挑む、新しい焼き物のデザイン	H20.7.19

太田民雄	広島県立広島皆実高等学校	建築を作るとはどういうことなのか	H20.10.24
嘉数彰彦	玉野光南高等学校	コンテンツ市場で何が起こるか-Web と放送-	H20.4.22
金丸敏彦	岡山工業高等学校	セラミックデザイン演習・生活を楽しむ生活雑貨・ワークショップ説明会	H20.7.19, 8.2-3, 8.10
作元朋子	岡山工業高等学校	セラミックデザイン演習・ワークショップ説明会	H20.7.19, 8.2-3, 8.10
柴田奈美	朝日学園朝日塾中学高等学校	「ジュニア“夢”俳句大賞」(テレビせとうち主催) 選者	H20.5.30
島田清徳	倉敷工業高等学校	ワークショップ(シルクスクリーン)	H20.7.31, 8.1, 8.4-6
難波久美子	倉敷工業高等学校	学部施設見学・スライドレクチャー	H20.5.19, H21.2.23
野宮謙吾	鴨方高等学校	ビジュアルデザイン	H20.7.4
南川茂樹	玉川大学芸術学部	「ビジュアル・アーツ研究」	H20.7.10
吉原直彦	倉敷南高等学校	注意のスイッチ-造形デザインのダイアローグ	H20.9.2
柴田奈美	岡山県	第４３回岡山県文学選奨「俳句部門」審査会	H20.9.26, 10.22
関崎哲	岡山県立美術館	「ドライポイントで夢の生き物を描く」	H20.10.18
長谷川弘基	岡山県立美術館	サイン計画に関わる英語表示部の校正	H20.12-H21.1
ブルネリ・アンソニー	岡山県立美術館	サイン計画に関わる英語表示部の校正	H20.12-H21.1
関崎哲	倉敷市立美術館	「銅版画・石版画」実技講座(一般向け)	H20.4.6-9,21 H20.10.5-H21.3.29
関崎哲	総社市	第３４回消防写生大会	H20.9.6
北山由紀雄	岡山県天神山文化プラザ	平成 21 年度天プラ・セレクション推薦部門作家選考会議	H20.12.3
北山由紀雄	山陽新聞社	岡山県美術展覧会　写真部門審査員	H20.8.20
北山由紀雄	(社)岡山県文化連盟	瀬戸大橋開通 20 周年記念美術・文芸作品審査及び展示準備	H20.7.5, 7.19
木塚あゆみ	ＮＨＫ	ＮＨＫデジスタ内で紹介される作品の展示及び出演	H20.5.2, 5.12

柴田奈美	吉備創生カレッジ	文化講座「俳句で心、リフレッシュ」	H20.7.23, 8.5, 8.19
中西勝彦	吉備創生カレッジ	文化講座「ユネスコ世界遺産を学ぶ」	H20.7.2, 7.16, 8.6, 8.20, 9.3, 9.17
難波久美子	総社ロータリークラブ	イングリッシュスピーチコンテスト審査員	H20.11.8
山下明美	(財)石川県デザインセンター	平成20年度「地域グッドデザイン商品選定・普及事業」審査員	H20.12.11

③　非常勤講師・役員

氏名	従事先	従事内容	従事期間
伊藤國彦	四国福祉専門学校	「環境」	H20.4.1-9.30
伊藤國彦	近畿大学豊岡短期大学	面接授業「保育指導法：環境」	H20.4.1-H21.3.31
草間詰雄	広島市立大学	「染色造形演習」	H20.4.1-H21.3.31
柴田奈美	吉備国際大学	「保育内容(言葉)」「保育指導法(言葉)」	H20.4.1-H21.3.31
八尾里絵子	関西学院大学	「コンピュータ・アート」	H20.4.1-9.24
山下明美	金沢美術工芸大学	「視覚デザイン演習(二)」	H20.4.1-H21.3.31
嘉数彰彦	(株)イメージクラスター	ＩＴコンテンツ制作	H20.4.1-H21.3.31

１０　参考資料（講演会要旨）

参考資料1

OPUフォーラム2008　特別講演会　講演要旨

「ホスピタリティーマインド-おもてなしの心がビジネスを輝かす-」
講師　人事コンサルタント　中野　裕弓氏

ご紹介ありがとうございました。中野裕弓と申します。神奈川県の小田原市からやってまいりました。本日はこの晴れがましいお席にお招きいただきホスピタリティービジネスについてお話する機会を設けてくださったことを大変うれしく思っております。

ホスピタリティーマインドというとまず何を想像されるでしょうか。ホスピタリティーという言葉をよく聞くようになりました。語源はホスピタルだと言われてもいますが、おもてなしの心ということです。病院、ホテルまたお客様をおもてなしするような飲食業そういったところでホスピタリティーマインドが大変必要なんですが、今日は実はどんな職業をしている方でもこのおもてなしの心が大切でこれを抑えておくとあなた自身が活動しているときにより一層輝くというお話をさせていただきたいと思います。

私はイギリスに９年、アメリカに（世界銀行に）４年２カ月行っておりまして１３年間外から日本を見る機会に恵まれました。外から日本を見ていていろいろ考えることがあって、今一言でどう思っているかというと、「世界は日本に期待していると思います。」とお伝えしたいと思います。日本に期待しているというのはどうゆうことでしょうか。もちろん科学技術ですとか経済の発展のこととかお金のことだとかそれもあるんですが、実はいま世界に欠けている「人間力」を発信するとてもいい場所ではないかと思います。ホスピタリティーマインドをお話する前に「人間力」とは何かということをお話しましょう。私はこの聞きなれない「人間力」という漠然とした言葉に大変興味を持ちましていろいろとインタビューをしたり、あるいは自分なりに研究をしてまいりました。「人間力」が人間がこの地球で自分が一番楽しく周りの人といい人生を送るには必須の能力だと思っております。残念ながら学校で「人間力」のカリキュラムっていうのがないんです。だけど私が企業に出て、企業の方々のコンサルティングやカウンセリングをする時に、この人「人間力」があったらこんなに悩まなくてもいいのになぁ。この人もっと自分の夢を実現できるのになぁ。と思うことがあって、それが総称して「人間力」という感じがします。その人が人間らしく魅力を持つということなんです。「人間力」のある人は引力があります。人を引き付けております。その人がやろうかなぁと思ったことには必ず賛同者が集まる不思議な力を持っています。その人が一人いてくれると周りが明るくなる、元気になる、大変な局面であってもなんとかなる、どうにかしよう。そういったものを感じさせる力があると思います。「人間力」だれが一番もっているのかなぁ。と言われると私は「生まれたての赤ちゃん」と言いたいです。生まれたての赤ちゃんは人間力の塊です。だって引力がありますよね。子供たちのそばに行きたくなるし、毎日顔が見たくなるし、ほんとに子供たちのそばにいるだけで癒されて元気をもらえるんです。子供たちは何も私たちに諭したりしません。「もっと楽に生きていいよ。」なんて１歳の子供は言いません。だけどその子たちの生き方を見ていると、もっと違う生き方でいいんじゃないの。毎日を大切にしたらいいよね。って思わせてくれるような人間力の持ち主だと思います。

私は毎年夏に小田原で現役高校生を３０人、無料ご招待をして「人間力セミナー」をやっています。HPにでていますのでみなさんの周りに現役高校生がいましたら上手にお誘いください。親が押し付けると来ない場合が多いです。でも、そこで伝えたかった人間力とは何か。学校で教えられない人間力。トップスリーは

１番、幸せに生きることとは何か。です。Be　Happy 幸せということを私たちはもう一回知る必要があります。生まれたての赤ちゃんは幸せそのものです。そこからすごいエネルギーが出ています。幸せに生きるということは人間力で抑えておきたいポイントです。二つ目、人間関係、対人関係が大事。これもこの社会に生きる上で大切なことです。この辺りにホスピタリティーマインドも引っかかってくると思います。おもてなしの心、相手をあたかも自分のように扱って対応する力、もう一つはコミュニケーション能力もこの人間関係の中に入ってくると思います。私たちは以心伝心ではもう伝えられない時代になってしまいました。言葉を通して話さなければならない、だからコミュニケーション力もね。と思います。３つ目の人間力、これは経済的に自立するということなんです。「えっ。」って思われるかも知れません。でも今大学を出て、あるいは高校を出て、社会にそのまま行けなくなっちゃった子供たちが増えています。引き込もりだったり、ニートという名前までもらって、あるいは東京のあたりではネットカフェ難民といわれる若者が増えてきたり、フリーターが増えてきました。この人たちはこの経済的自立という部分が大変弱くて、お勉強はしたものの自分が行動することによって経済的対価を受けながら社会に還元するという、そういった道筋がちょっと弱いなぁ。と思います。「人間力」幸せに生きることと人間関係が大切でそして経済的に自立して社会人として育っていく、この３つを私はここ３年くらいずっと興味を持って研究しています。その３つがだんだん備わってくると次にいったのがホスピタリティーマインドでした。どうしてかというとホスピタリティーマインドは心に余裕がないと思いもつかないんです。皆さんが例えば買い物へ行きました。そこで店員さんに会いました。その人が単なる仕事だけをしている人だったらホスピタリティーマインドは要らないんです。
あなたがこれを買いたいです。と言ったら対価を払って買えばいいだけのことです。でもそこには何の面白さも生まれないんです。もしお店の店員さんがホスピタリティーマインドを持っていたとしたらどうなると思いますか。間違いなくカリスマ店員になります。どうやって？引力があるからです。そこにはおもてなしの心で相手の気持ちを思いやり、サービスを提供するというこの余裕があるんです。相手が何を欲しているのか。何を求めているのかを察知してそれを提供できる、この感覚ですね。これはマニュアルには書いてないんです。マニュアルにホスピタリティーマインドをどう書くでしょうか。お客様が入って来られたら笑顔で応対、丁寧な言葉使い、失礼のないように、いわゆるマニュアルです。これだったらそこそこのサービスは提供できるでしょう。だけどそこにキラッと光る何かを見せるのがホスピタリティーマインド。これは一言で言うと、何が必要かということと限定できます。それはイメージ力です。イメージ力がホスピタリティーマインドを作ります。イメージ力があったらこの人今どんなふうに思っているのかな。何が欲しいのかな。これはこの辺で止めといたほうがいいのかな。イメージ力が必要です。実はこのイメージ力は学校のいじめ対策にも使えるんですよ。イメージすることによって相手の気持ちを少しでも感じることができたら、相手が嫌がっていることをそれ以上しなくなります。イメージできなければどこで止めていいかわからないから、とことんやっつけたりしてそこで圧壁が生まれるんです。会社もそうです。こんな言い方で部下を罵倒したら部下はどんなふうに思うだろうか。このイメージ力が欠けていれば、言う度に誤解を招くマネージャーが出てきたり、プレゼンをする時に相手がどう理解していくかイメージできなければ、単なる自分の主張だけで終わってしまう、というわけです。イメージ力って侮れませんよ。だけどイメージ力って学校へ行かなくても体験できる、体得できる。それは人間関係の出会いの中でどんどんイメージを膨らませることができます。そうすると、このお客様は今これかな、ちょっと話しかけてみたらなんとなく今日はうっとうしいなって顔をされた。察知してじゃあ少し離れていましょう。一言「何かご質問があればおっしゃってください。」と言って３歩下がる。そこでお客様は気持ちよく自分のペースで買い物することができるんです。買った後で

よかったと思ってお店またはレストランを去ることができます。ホスピタリティーマインドって相手を思いやる力であり、さりげなさであり、思いやりなんです。こういうものが、全国にあらゆるところに広まっていったらどうでしょうね。すごく楽しくなるし楽になると思います。私たち実は人と会うとき、とても緊張しているんです。この話この人に聞いたら「今忙しいのよ。」って言われるんじゃないか、「そんなこと自分で考えなさい。」って拒絶されるんじゃないか、それとも「知りません。」と言われるんじゃないかと実は常に緊張して人間関係をやっている場合が多いんです。ちょっとお話が反れますがホスピタリティーマインドで私が体験した心地よい点をいくつかお話しましょう。

世界銀行時代、私は人事のマネージャー、その後人事のカウンセラーをしておりましたが、私たちプロフェッショナルは一年のうち何回か自分の専門性を磨くために社外の研修を受けるということが義務付けられていました。どの研修を受けたらいいかっていうのは、個々の主体性に任されます。世界銀行がお金をバックアップしてくれます。私はいろいろ探しました。いくつか行ってある所でこの研修の名前を知りました。私はこれだわ。って思いました。通常世界銀行のエコノミスト研修者たちは挙ってハーバードビジネススクールへ行きます。２週間ほどビジネススクールで最先端のビジネス方式を学んできます。私は人事ですから違うものが学びたかったんです。そこで紹介されたのがディズニー大学でした。そうです。ウォルトディズニーのところにある大学です。今は名前を変えてディズニーの教育機関といいますが、そこへ私は人事学とかリーダーシップを学びに行きました。社会人のための５日間のプログラムでした。そこに行っているときにホスピタリティーマインドってこんなものだわ。イメージをすればどんどん広がるの。そしてホスピタリティーマインドを持っている人たちに囲まれてると私が変わるという体験です。日本でも東京ディズニーランドは大変成功しています。アメリカではテーマパークの中でダントツのリピーター率です。日本は９０％リピーターで２度以上行かれるそうです。アメリカではダントツ７０％の人が何度も行くんです。そこには私たちが肌で感じる心地よいというホスピタリティーマインドが様々な分野で埋め込まれているんです。では、そこに５日間私が暮らして朝から授業を受けます。朝７時頃集まって、夕方４時ごろ終わるんですね。私が一緒に学んだのはアメリカ人の人事の担当者たち、病院の事務長さんだったりあるいは電気会社の人事担当者だったりいろんな現役の人たちが集まって勉強するんですが、４時になるとテーマパークの券をいただいて、その社員教育がきちんとできているか私たちがモニターしに行くんです。いろんな所へ行って、遊んでいるというよりは果たして人事教育がどう生かされているかという目で見に行って、そうするといくつもいくつもすばらしいことに気が付いたんですが、ひとつ不思議なことに気が付きました。３日目です。私はものすごく心がやさしくなっていっていつもよりも、そしてなんとテーマパークに何度も通ってるうちに少しコツがわかります。どこに行ったら何があるか。そこで来たばっかりの家族連れが地図を広げて「うーん。」と言っていると普通は通り過ぎていいわけですが、私は寄って行ってなんとうれしそうに「May I Help You?」って言ってるんです。何かお役に立ちますか？って。私言わなくていいんですよ。お客様だし、別にそこの従業員でもないんです。だけど自然に寄って行って「何か手助けしましょうか？」と言っている自分に気が付きました。ホテルに帰ってきました。ホテルで場所がわからなくて迷っている人がいたら、また寄って行ってるんです。「何かお探しですか？」私びっくりしました。おせっかいといえばおせっかいで、私は人が好きですから結構人に寄って行くのはやぶさかではないんですけれども、だれかが目で合図してちょっと困ってるなと思ったら通常は助けに行ってます。その誰か人がいる。助けられると思ったら、引き寄せられて行っているというこの原動力どこから来るんだろう。と思いました。何度か通って私は４回くらいそういう研修にどっぷり浸かっているうちにこのホスピタリティーマインドの影響力を感じたんです。それはディズニーで働いてらっしゃるキャストといわれる従業

員と呼びませんが、配役ですね。キャストの方たちがとてもオープンでいつも助ける気持ちを持ってお客様に接しているんです。どこ見てもホスピタリティーマインド。何かお手伝いしましょうか？私が関わることによってあなたの人生がもっと良くなるのでしたら喜んで。という姿勢がどこにでもあるんです。それでいて押しつけがましくない。そういうところにいるうちに私にもそれが電波するんですね。私もそういう気持ちになってるんです。いつの間にか３日もいるとディズニーのキャストの一人になっている感覚がするんです。ディズニーの授業にはそういう感覚になりなさい。なんて書いてないんです。これは副産物なんです。なんでこんなに心地いいんだろう。なんでこんなに人のことが自分のことのように感じられて寄って行けるんだろう。と思ったら、その空間にはとてもいい形のホスピタリティーマインドが漂っていて、人々が心をオープンにし、緊張を解き、人と人が会うことが苦じゃなくなっている雰囲気がありました。何か質問してもにこやかに答えてくれます。これは日本の企業でもお客様、顧客の方から質問があったら、知らないとは言わずに必ず「はい。」とお受けしなさい。という社員教育がありますよね。でもそれはマニュアルに書いてある。ところが、ディズニーではそこにイメージ力があるんですね。もっと何かをしたい。一期一会です。もしかしたらお会いしてもう二度とお会いすることがないかもしれないこの人に何か付加価値を提供できたら。何か大げさに聞こえますけど、そこまで思ってしまうようなそういう場所でした。

　私は実は世界銀行をやめて、まだ任期は続いていたんですけど、４年で辞めて帰ってくることにした理由の一つは、日本の国作りに参加したい。と思ったんですね。どうしてかと言いますと、向こうにいる間、聞こえてくるニュースは大変悲痛なものが多かったです。犯罪だとか自殺だとか過労死などそういうニュースが聞こえてくると、もったいない、日本は期待されているはずのいい国なのになんでだろう。と思ったら、日本の国作りに加担したいと思って帰ってきました。帰って来て私はこのディズニーのホスピタリティーマインドを取り入れたらどうなるんだろう。と思いました。みんなが、会う人会う人が自分のゲストのように、自分の友達のように、自分の仲間のように接したらどうだろうか。相手を傷つけたり人から物をくすねるとか、搾取するとかしないんじゃないかな。と思います。自分が相手と同じ人間でこのままだと相手にやられちゃうと緊張するから相手を殴ります。

これが世界で横行しているテロの根本だと思います。実はみんなが豊かな気持ちになればこの地球って平和になることができる要因はすべて揃っていると私は思います。それは、後でお話しする「世界がもし１００人の村だったら」の内容にも通ずることなんですが、ホスピタリティーマインドっていうのは実は世界平和なんですね。でもその第一歩は目の前の人を大切にするってことなんです。ですが、そこで終わってしまったら肝心なことを一つ忘れていませんか？ホスピタリティーマインドの一番の基本は自分のことをゲストのようにおもてなしをするという考え方です。自分を大切にしない人がどんなにきれいごとを言って、人のためにと言っても説得力がないんです。自分のことを反対に大切にしている人は、見ていて心地よい。自己犠牲がないからとってもすっきりします。自分をおもてなしする。「自分」と「おもてなし」という言葉は通常合わさらない言葉です。考えてみませんか？自分をあたかも大切なお客様のように対応し、待遇するとはどういうことなのか。一言で言うと「本音を潰さないで生きる。」ということでしょうか。私たち建前で生きすぎてません？しなければならない、なばならない、こうしないと笑われる、こうしないと人の道に外れる。そういう「しなければならない」とか、「ねばならない」の延長には楽しさはないんです。楽しく生きられないからストレスがたまってきて人に「ホスピタリティー？冗談じゃないわ。余裕ないもの。」何かにちょっと触れたらキッと逆ギレをする、ぶつかっただけで怒る。今、社会は大変緊張していると思います。それも元をただしていくと自分を大切におもてなしする心ができたなら、違うと思いませんか？自分を大切に、自分にふんだんに愛を注ぐ。私は二十年前からすっと講演を

していると初めて聞いた方が「知りませんでした。」とおっしゃるんですよ。人のために生きることだけを目的に生きてきたんです。自分を大切にすると言ったら他の人はどうなるんですか？目の前においしいケーキをいただきました。「でも私、ミャンマーの人のこと考えたら食べられません。」結構そういう人多くありませんか？そういう人、うーん、えらいなぁ。と思うけど、私はあんまりお友達にならなくてもいいなぁ。と思うんですね。辛そうですもの。自分が楽しくなくて人のためにやっている人のことってすぐわかります。なぜならばある言葉が聞こえてくるからです。何か人にやってあげてるというホスピタリティーマインドではなく義務感からやっている人の言葉には時々ぼやきが聞こえます。「私、土日も返上して病院へボランティアに行っているのに。」「私、この間あそこへ献金したのに。寄付したのに。時間さいて来てるのに。」挙句の果て子供たちに「育ててあげてるのに。」“のに”が出てきた場合は要チェックですよ。楽しんでない証拠です。同じ事も楽しんでやっている人はまず、“のに”が出ないんです。だいたい病院へボランティアに行っている行為が楽しいから、患者さんや病院の関係者に「いつもご苦労様です。」って言われなくても全然平気。楽しかったって帰れるんですけど、義務感から行っている人は「私たち毎週行ってるのに、あそこを通る看護師さんありがとうも言わないのよ。」なんてうちへ帰ってぼやいてる。そういう人には「行かないかないほうがいいですよ。」って言います。そういうふうに言われるとボランティアされるほうが迷惑です。と私は思います。ボランティアって怖いですよ。余裕がない人がボランティアをすると結構人に迷惑をかけまくります。ある人が、「私、子供に手が離れたからボランティア始めたんです。土日はお年寄りにお弁当運んでるんです。それなのにうちの家族ったら全然協力的ではないんです。夫なんて今日も行くのか？って言うんですよ。」って。私はイメージ力を使いました。この方の夫は何を考えているだろう？って。で、わかったんです。私がこの人の夫だったら「いい加減にしろ。」と言いたいって。家をないがしろにして、大義名分のためにボランティアに出ているんだったら、私は夫としておもしろくないですよ。だからわたしは夫の考えを簡単に要訳してみました。独りよがりかもしれませんが、私が一つアドバイスをするとしたらこれです。ボランティアを一回全部おやめになったら？って。そしたらその方びっくりしてました。「できません。これが私の生きる道」とか言ってましたよね。でもね、そこまで言うとわかってくるんです。カウンセラーですからね。それは、家がうまくいってない。ボランティアに逃げますからみんな。一応ボランティアに逃げてるうちは聞こえがいいんです。「博愛主義者ね。すばらしいわ、あの方。」って言われますけど、要はおうちが面白くない。おうちをおもしろく、楽しくする努力なく、人にホスピタリティーの片鱗を渡しているとしたら、これはちょっと歯車おかしいかなって思います。

ディズニーの話に戻します。ディズニーには人に何かをして喜んでもらおう。というような人事教育をされているんです。私はそれを体験した時に今日はその授業ではないのですごく短くお話しますと、ディズニーではマニュアルでハウツーを教えています。そうですよね。マニュアル、取扱説明書というのは日本では出なかった土壌だと思いますね。日本に江戸時代からマニュアルがあったか？というと日本では昔から、習うより慣れろ。とか、盗んで覚えろ。とかこれって日本人の特質で日本語を使う私たちは情報をキャッチするときに言葉だけじゃなくて音質とかスピードとかあるいは体験した感覚とか表情とかで、この人が本当に喜んでいるかどうかを察知する能力が大変高いんです。方や西洋人は言葉で言われたことをきっちり理解することに長けています。どういうことかと言いますと、弁護士さんが必要なのは西洋です。言った、言わないという文言を弁護士さんがいちいち書いて相手に伝えて間違いのないようにするという社会です。日本はあまり毎日のことに弁護士が関わることがありません。みなさん専属の弁護士さん持っておられる方どのくらいいらっしゃいます？たぶんよっぽどのことがない限りないでしょ。弁護士さんがいなくても普通に生活が送れるというのは私は日本の恵まれたおもてなしの心

の延長にあるとてもうれしいことじゃないかなと思います。波風立てなくても解決できるんです。そこにはあうんの呼吸がありますよね。私たちはいろんなものを察知しながら相手を読み取る能力が高いんです。東洋人、南米の人とか、アフリカの人は同じです。西洋人は文言、ロゴスありきですから、言葉にとても重きを置く。この感覚の違いはあります。でも日本人って察知する能力がとても高い。お客様がこうすると喜んでくださる。今の顔はちょっとしかめっ面、この辺で話題を切り換えよう。すごく上手なはずだったんですよ。そしてこのあうんの呼吸と１０のところを１０言わなくてもちゃんと回っていましたよね。私はこの奥ゆかしい文化を大変誇りに思っています。海外に出ていた時に日本人のわびさびとか、行間を読むとかこの辺の文化に生まれ育ったことに私はとてもうれしく思います。ただし、西洋では通じません。ゆえに、西洋ではカセット切り替えます。西洋の方式でお話しないと伝わらない。つまり、思ったら言わないと伝わらないんです。思ったら言う。日本の文化では以心伝心という、思ったら言わなくても繋がってたんです。反対にしゃべりすぎる人のことはよくないと言われ、沈黙は金という言葉もあります。奥ゆかしさは静かにしているなぁというのがありましたが、いえいえ、西洋では１０言うところを１５言ってますから。私たちも１５までは言わないにしても１０はきっちり言う、以心伝心という四文字熟語は以心発信伝心といった人間力のコミュニケーション能力がここで生かされるんです。発信しないでいてなんであの人誤解するの？発信しないでいてなんでわかってもらえないの？というのは時代遅れです。発信しましょう。マニュアル、それは言葉できっちり物事を理解する上ではすばらしいツールです。これが日本にも入ってくるようになりました。操作マニュアルだとか､すべて今マニュアルですよね。取扱説明書。ディズニーのマニュアルが普通とちょっと違っているので少しお話しましょう。それはマニュアルをきっちり教えた後に一言加えるんです。日本はせっかく感覚で感じ取れるものもマニュアルに頼るようになって、これさえやっていれば間違いありませんよね。というようなぎすぎすした人間関係になった時に、この一言がこっちに伝わらなかったがために、おかしなことになりました。この一言とは何か。ディズニーが、マニュアルをすべて教えた新人の社員あるいは次にこの仕事を引き継ぐ人に全部教え終わった後にこう言っていました。「あなたが今日まで学んできたマニュアルは明日からのあなたの仕事の５０％の部分です。」と言ってしまったのです。思いません？後の５０％は何？って。それはその人の今までの経験、今まで培ってきた個性、それから感性、イメージ力、独自性それが５０％なんです。つまり、どこ切っても同じ金太郎あめ的な部分に５０、その上に個性が５０というわけです。だからそこでは常にお客様をおもてなしする時にはこの５０％の部分をどう生かそう、どういうふうに使おう。私がここに就職する前、以前は花屋さんだったとしたら、その時の体験はここに生かせないだろうか？子育てやっていた時の経験は今の仕事に生かせないだろうか？常に常に考える習いせいになるように考えてあるんです。素敵だと思いません？そういう所でお客様をおもてなしすることって、いきいきしてます。だって自分のオリジナリティーが生かせるから。自分らしさが出せるから。人間は十派一絡げで、みんな同じと言われただけでやる気がなくなるんです。出る杭は打たれるから出ないように生きなさい。と言われた時にモチベーション、動機は落ちるんです。そして無難にすませればいいなぁと思う人が育っちゃうんです。でも、あなたの個性を生かしていいのよ。あなたらしく生きて。って言われたら、これ聞いただけでわくわくします。10 歳ほど若かったらディズニーで働きたかったってずっと言い続けてました。そしたら 10 年若くなくてもいいじゃないって言われました。確かにそれはそうだわ。でも、昔東京の外資系銀行で働いていた時代、いろんな人を採用するときに東京ディズニーランドで働いていた経験があるという人を結構採用しましたね。ホスピタリティーマインドはちゃんと伝承されているんです。人が必要としているものが察知して提供する。人を心地よくすることが自分の楽しみである。というようにイコールで結ばれているん

です。お給料は関係ないんです。別に金一封出ないです。親切にした人がたまたまどこかの大会社の社長さんでお礼に何かがくるって、そんなものないんです。だけど、工夫をこらしておもてなしの心で接することっておもしろいですよねぇ。わくわくします。毎日が新鮮になります。そういう思いやりを持った人たちが、町をつくり、あるいは県をつくり、国をつくりってなったときにすごいって思いませんか？ホスピタリティーマインドがきちっとカリキュラムに組み込まれているような学校の環境があったら、学級崩壊だとか、あるいはいじめだとか、無責任で生きるなんてことがなくなってくるんじゃないかと思います。ホスピタリティーマインドを活性化させて、何かわたしにできないかしら。わたしも。とやっているうちに私は楽しいという感覚が必ず手に取るとるようにわかるということがわかりました。義務感などという言葉は無用です。楽しいんですよ。わくわくする。そして昨日よりも今日、今日よりも明日と常に向上することが、実は若さへの鍵だってことがわかってきます。「もう、こんなものよ。人生は。」っていったとたんに 20 歳老けます。

余談ですけど、うちの夫婦会話がないって言う人から、どうやったら会話が増えますか？って質問あるんですね。で、「会話したいですか？」って言ったら「いいえ。」（笑）わたしったらまるで家政婦みたいです。って言う人がいました。「お弁当作って、子供を送り出して、掃除、洗濯、帰ってきたら夕食を作るという、会話がない。子供たちはそっぽ向いてるし、夫との会話なんかしたことない。」で、私ご主人になったつもりでイメージしたんです。奥さまに話したいかなぁと思ったら、話したくないだろうなぁ。たぶん。なぜかというと、きっと決まりきった返答しか返ってこないからです。人間って、意外性というものがなくなるとつまらなくなるんですよ。変化がないと飽きるんです。でしょ。ディズニーランドがなんでこんなに繁盛しているか、別の切り口からよんでみるとこうです。ディズニーランドは決して完成されていないからです。完成されちゃったら一回行ったら飽きるんです。だけど、完成されてないから、時代に応じてどんどん変化していってます。アトラクションは切り替わったり、やり方を変えたり、お店ができたり、商品が変わったり、人は動いている物に関しては引力を感じ興味を持ちます。だけど、目を閉じてしばらくしても同じ光景だったら引力も感じなければ魅力も感じません。だから「会話がないわ。」と言う方、ぜひ意外性をお試しになるといいですよ。どうするかっていうと、朝ご主人が出かけます。その時に「いってらっしゃい。今日お食事は？」「いらない。」という会話です。こういうのを会話と言わず、家庭内事務連絡といいます。ドキッとした方おられますか？家庭内事務連絡だけで 10 年やれるんです。で、「いってらっしゃい。」それでふつうは終わっちゃうんです。ぜんぜんおもしろくないですよね。ここに人間力を入れておもてなしの心というか相手を大切にする心を入れるとその入口は「意外性」です。どうしましょう。いつも「はい。」って答えているなら違う答え方しましょう。そうしたらご主人が「えっ。」って言いますよ。それで私たちが思いついたのは「今日お食事は？」「いらない。」「うわぁ、残念。」って言ったんです。しかも残念な気持ちをこめて「うわぁ、残念。今日はあなたの好きなカニなのに。」と、そうしたらご主人はいつもと違う返答だから顔を見るんですね。何かあったの？って感じでね。そこからご夫婦が変わっていったんです。意外性、いつもハンコで押したような返答しか返ってこないところから、何かスパークしてエネルギーが生まれるんです。それは何かいつもと違うことをして相手を楽しませる。これもサプライズの精神、ホスピタリティーマインドのひとつかなぁ。と思います。相手を心地よくさせる、面白くさせる、楽しくさせる、今日もあなたに会えてよかったなぁ。と思わせる。これはホスピタリティーマインドです。でも、もう一度繰り返して言いますと、これをやるためには、まずは自分におもてなしをして自分を大事にすることが大事だということです。

アメリカにいるときに、新聞に人生相談が載っていました。そこにはある５０歳を迎えた女性からの投稿がありました。「５０歳を迎えました。残りの人生の折り返し地点だとしたら残りの人生どういうことを思い

ながら生活すればいいのでしょうか？」という質問でした。その答えが奮ってたんですよ。Use Your Chinaと書いてありました。チャイナというのは中国という意味もありますが、陶器という意味です。アメリカの家ではとびっきりいい食器のセットが置いてあって、それはおもてなしのときだけ使うんです。日常用というのとお客様用が分かれているんです。その質問に答えた人は「そのおもてなし用の食器をご自分用に使いなさい。」と答えていたんです。これは短いセンテンスですけどかなり細かい示唆がありますよね。だって、お客様におもてなしする食器を自分に使うんですよ。発想の転換です。あらもったいない。っていう、そういうもんじゃなくて、自分をあたかもお客様のように大切におもてなしをしましょう。素敵だなぁと思いました。大切なものを自分に投資する。大切なものを自分に使う。自分のことをあたかも特別な人のように扱う。これをやっていると次が出てくるんですよ。

　私は実験をしたんですね。自分のことを人に大切にしてもらうのをやめてまず、自分がホスピタリティーマインドを使うことに切り替えました。自分のことをとてもとても大切にしていたら、奇跡のようなことが起こったんです。どこへ行っても私は大切にされる。という事実に気づいたんです。ひとつはアメリカ時代歯医者さんへ行っていたんですね。アメリカでは一人に対して一人の歯医者さんでは済まないんです。歯医者さんがネットワークを組んでいて専門性がみんな別です。例えば歯肉の方、矯正の方、虫歯の方、もしくは歯根の方というようにそれぞれがネットワークを組んでいるのですが、私は自分を大切にしよう。と切り替えてお客様用の食器を自分用に使うがごとくに大切に大切にしていったら、私は歯医者さんへ行くとどこの歯医者さんでも特別扱いされたんです。ちょっと不思議でした。たまたまそのうちの一軒の歯医者さんがワシントンＤＣにありましたから、当時クリントン大統領の時代でしたから、クリントンさんの娘のチェルシーちゃんが行ってた歯医者さんだったんですね。私がもしチェルシーちゃんだったらＶＩＰ待遇だろうなと思うような待遇を私も受けたんです。私が入っていくと「お待ちしておりました。ミス中野。」と特別室に通されて、待たずに治療を受けられたり、時には二人分の治療をしていただいたりすごく親切なんです。狐につままれたようでした。私は秘書のアンというアメリカ人に「私どこの歯医者さんへ行っても丁重に扱われるの。まるでプリンセスみたい。」と言ったら彼女は「ふんっ。」と笑って「お金を払えばみんなそうよ。」って。超現実的でしょう。「でも、違うと思うのよ。」って言いました。今ならそう言えます。自分を大切にしている人は一種の違う雰囲気があるんですね。この人は大切にさせていただきたいという雰囲気が口でいうことなく周りに蔓延するんだと思います。自分を大切にしている人のところへ行くとその人の前でぞんざいな言葉はかけられないなぁ。と思います。

　その反対に、むかしむかし私がアメリカへ行く前のこと、東京で頑張り屋さんのキャリアウーマンだったころ、おもてなしの心なんてとても余裕がない。自己主張するので精いっぱい。人が馬鹿にしないかって目を光らせてる。っていう時代があったんですが、そういう時って常に自分を人と比べて、自分を卑下する心があって、「どうせ私なんか。」って言葉をよく使ってたんです。「どうせ私なんかって。」そう言う人の表情ってどうせ私なんか。って顔なんですよ。「私なんかが行ってもいいんですか？」って言う人は、「私なんか。」なんですよ。でもそれに気が付かないから、日本語の言葉って言霊もありますよね。いつの間にか習いせいで、「私なんか。」って言ってたら「中野さんなんか。」って扱われていて、まさにこれが昨今の本屋さんでも出てます「鏡の法則」という本がありますよね。鏡なんです。自分を大切にしなければ、人はあなたを大切にしなくてもいい。と思わせてしまうんです。でも、一度でいいから自分を大切にしておもてなしをして、まるで大切な人のように対応しているうちに、さっき申しましたが、楽しいんですよ。苦痛がないんです。それどころか､楽しくて楽しくてしょうがないんです。そうしたら、いつの間にか周りもつられるんです。それ以来、私はどこへ行ってもおもてなしの心でおもてなしを受けられるプリンセスになった。と思うんです

よ。そこまで言うか。って思った人いますよね。どうも私のそういう考え方っていうのは今の日本に斬新だ。と言っていただくことが多いんですね。だいたい人のために生きるのが美徳だと教わってきた私たちに、「人はほっといてもいいから、自分を大切に。なんか、言っていいの？」なんて言われちゃうんです。「いいと思いますよ。」ってまずやってみませんか？ホスピタリティーが心地よいもので人間同士が住むとき、あるいは一緒に働くとき、または一緒に学ぶとき、その時に大変心地よい緩衝材になるとしたら、それを使える使い手になりませんか？自分にホスピタリティーを。だと思います。

そこまでいった私は次の研究が始まりました。それは、ツキを呼ぶ。幸運体質になる。っていう研究を始めたんですね。いけました。そういう心持ちでいって、気が付いたら、ツキを呼び込む体質、幸運を呼び込む体質になっていたんです。今、「幸運」という言葉でインターネットで探したり、本屋さんで本を探したらいっぱいでてますよ。みんな幸せになりたいんです。私は世界銀行で１３７カ国の１万人の人と一緒に仕事をしました。２年目から人事カウンセラーということで、１５００人のクライアント、つまり職員９０カ国の人たちのカウンセリングをしてきました。みんな育った環境も言葉も信条も価値観も違うんですが、あることに気が付きました。みんなひとつのことは共通だ。ということです。何かって言いますと、幸せになりたい。という願望です。私は不幸せになりたい。って豪語している人って結構嘘っぽい。って思います。もう諦めてそれでも言わないとやってられないような人だと思います。でも、腹を割って「ほんとに？どうなの？」って話していると「幸せになりたいですよ。でもね。わたしなんかどうせ。」っておっしゃるんですよね。幸せになりたいのはみんな一緒だったんです。当時、ニューヨークの地下鉄が爆破されたことがありました。9月11日のあのテロの前にもアメリカではたくさんテロがありました。テロリストたちを人々は指をさして非難しますが、でも私はマイクを持って彼らにインタビューしに行ったとしたら「幸せになりたいですか？」と聞くと「幸せになりたい。」と答えるんです。幸せになりたい。という意識はみんな同じなのに何が違うかと言うと何を持って幸せかどうかというツールは違うんです。テロリストたちは悪の根源である例えば、アメリカの大富豪とか政治家を倒すと幸せになれる。と思っているのでしょう。アフリカのある所の親は「子供の学校の校庭から地雷が全部撤去されたら私は幸せ。」と言うでしょう。インドの小さな村に住む人は「明日の小麦粉が買えたら幸せ。」と言うかもしれません。つまり、幸せになりたい。というのは全員同じだったんです。ただ、その手段が全員違ったんです。そう考えると、人間ってわかりやすいな。って思ったんですね。

地球全体の人を理解しようと思ったら難しいようで、そう難しいものではありません。今、６４億人と言われているんですね。今日、皆さんのお手元に「世界がもし 100 人の村だったら」という私が訳した部分の原本のコピーを配っていただきました。この 100 人の村、その後、池田佳代子さんって翻訳家の方が新しい数字に直してマガジンハウスからベストセラーが出ました。それによっていろんな番組もできました。いまだに教科書に使われたり、試験問題の教材に使われたり、とても大切なメッセージだったんですが、この「100 人の村」のお話ご存じだった方どのくらいおられますか？かなりの方が知っておられますね。ぜひ、私のオリジナルのバージョンを今日お持ち帰りになって、眺めてみてください。これについてちょっとお話をさせていただきたいと思います。これって裏と表でちょっと違います。表は現在の人口統計比率を全部盛り込んで 100 人に縮小したら、その 100 人はどんなふうに見えるかということが書いてあります。人数の分布があります。これでいろんなものが読み解けます。なぜ、アメリカがテロの標的にされたかというと、100 人中 6 人が全体の富の 6 割以上を保有して、その 6 人がみんなアメリカ合衆国国籍を持っていた。と書いてあります。そうしたら、貧乏だとか辛いという人たちが「あそこが搾取している。そこはアメリカだ。」となったらボンといきたくなっちゃったのが、なんとなくイメー

ジ湧きませんか？そして、ここは大学という環境でお話をさせていただいていますが、このメッセージを読むと大学の教育を受けているのは 100 人中たった一人。コンピューターを持っている人もたった一人だけなんです。それは世界の数字をここに集めてみると、このメッセージをまず前半を読んだ時にポイントは一番下の 3 つだなぁ。と思いました。これって人間力？とも言える部分です。このように縮小された全体図を見るとどういうことが大切かというと、次の 3 つが大切なんです。

まず 1 つ目、相手をあるがままに受け入れることです。相手を変えようとしないで、相手を尊重してあるがままを受け入れようとする広い心。2 つ目、自分ともし違っていたら、なんで違うんだろうと歩み寄る姿勢、近寄る姿勢。ここにはイメージ力とかコミュニケーション能力が入ってきます。3 つ目、そういう事実を知る教育。つまり、言い換えると、世界はいろんな人が構成しているんですよ。多様性があるから実は世界は面白いんですよ。とわかるような教育が必要なんです。私は教育現場が、何かを押しつけるとか、正しいこととそうじゃないことを区別する、裁くのではなくて、いろんなものが多様性があって、その人たちが先ほど学長がおっしゃった、コラボレーションです。一緒につながりあって、科学反応を起こしてより良いものを生み出す。ということがわかる教育が必要なんです。この 3 つが必要だということがこのメッセージには書いてありました。私は大変共感しました。このメッセージが私のパソコンに入ったのが 2001 年の 3 月 7 日です。私は 1998 年から日本で活躍していますから、帰って来て 2 年位経った時、この発信元は世界銀行の友人でした。友人がみんなに回すメールとして書いてあったのはこうだったんです。「今日、ついてないなぁ。と感じたあなたも、このメッセージを読んだら世界が違って見えるかも。」って書いてあったんです。ちょっとそそられました。「へぇ。今日私ついてないの。何？」って思って読んだら、こういう分布図だったんです。わくわくしました。私は長い間金融機関でお勤めしていながら、あまり数字には明るくないので 100 という単位はとてもわかりやすかったですね。これは元々、アメリカの社会学者のドネラ・メロウズさんという方が 1000 人の村のレポートというのをお書きになって、1000 人がだんだんネット上でぐるぐる回っているうちに誰かが 100 人に小さくしてくれたんです。おもしろいですよね。誰だか分らない。でも、このメッセージが皆さんのお手元に届いてお役に立てられるとしたら、功労者は誰かとしたらその大学の先生の 1000 人の学術賞を 100 人の村に変更してくださったセンスのいい方かなって思います。私はこれを見た瞬間に手のひらに地球儀が乗った。と実感しました。と、思った時に世界と自分との距離がぎゅーっと縮まりました。世の中によく聞く、地球は一つという理論、あるいはガイア理論と言いますけど、地球のここで起こっていることがこっちのほうへ無関心ではなくて、すべてつながっている。という考え方です。それを教えてくれているのが温暖化の現象ですよね。うちだけはたくさんオゾンを破壊してもいい、というところもあればこっちで嘆く人がいる。太平洋のある島はもうすぐ沈むと言われている。これは「あの島に親戚がいないから、私平気。」とは言ってられないんです。つまり地球がものすごく小さくなってきている、つまり日本人は島国だから。とか言ってられないんですよ。鎖国は解かなきゃ。そういうときに 100 人の村ってわかりやすいと思いました。それでわくわくしながら後半を読みました。今度はこんな切り口から世界を見てみましょう。今度は 100 人の村ではなくその当時は世界の人口が 60 億と言われていました。今は 64 億ですが。もしも今日目覚めたとき健康だなぁ。と感じた人は今週生き延びることができないであろう 100 万人の人たちより恵まれている。それはお病気で、あるいは地雷を踏んで、交通事故に巻き込まれて、命を卒業される人より今日元気で「あーいい感じ」って言ったらそれだけ幸せよ。あるいはここに来るときに銃を向けられたとか捕まったとか拷問にあったとかそんなことなくて行きたいところに行けるといったら 5 億人の人より条件的に恵まれている。それから、たとえば冷蔵庫に食糧があり、みなさん Yes ですよね。着る服があり、

頭の上には屋根があります。帰ったら寝るところがある。そうしたら世界の人々を全部64億人並べて経済的な豊かさという視点から見たときになんと 75%の人たちよりもみんな日本人は豊かなほうの 25%に入っていると思いませんか。そして今度は貨幣経済です。銀行にお金があって、お財布にお金があって小銭があったら、上位８％の中に入るって、ますます日本は入るわ。と思ったんですよ。すごい。そしてここら辺がアメリカらしいな。と思ったのは、あなたの両親が健在でまだ二人が一緒なら。アメリカではご両親健在でもまだ二人が一緒というのはめずらしいらしいので。まだ、ご両親一緒ということでこれ全部私当てはまっているんです。すごい幸せです。でもここで、日本人のある特質があるんですね。恵まれてるってことをあまり良しとしない風情、風潮があります。恵まれてるのが申し訳ないという気持ちがあるんですね。ですから、私実はこの詩の下のほうに横文字にしましたが、お金に執着することなく喜んで働きましょう。から始まる、あたかもここが地上の天国であるかのように生きていきましょう。このたった5行の詩なんですが、これって大きく意訳してあります。原本ではすべて命令口調でございました。働きなさい。愛しなさい。歌いなさい。踊りなさい。上からものを言うような口調で書いてあったんです。私はここにちょっと疑問を感じました。はたして、人に命令されて従うというのはいかがなものでしょうか。これからは、自主的に活動する人たちが活躍する世の中なのに、これが正しいことだからこの通りしなさい。と押しつけたらどんなものかと思ったので､私は独断ですべてをLet’sに変えました。お誘い文にしたんです。後から新聞社の方とかいろんな方が来て私に情報をくださったんですが、私が訳して発信したことが日本に大きなうねりになったのですが、はじめての訳者じゃなかったんです。6か月前に海外にいる日本人がこれと同じ文を訳してネットで配信したんだそうです。ところが、広がらなかったんですね。で、「どこが違うか分析しました。」と北海道新聞の方がおっしゃったんですね。｢これは中野さんの意訳が違います。」と言われたんですね。その方はすべてを忠実に命令口調にしたんです。最後にこれだけのデータをもらって、あーしろ。こーしろ。と言われたら、私たちの心はどうなると思います？なんかちっちゃくなりません？それで急に買い物できないわ。とか残しちゃだめだわ。ってお母さんが「ピーマン残しちゃダメでしょ。ミャンマーの子のこと考えなさい。｣ってなるんですよ。私たちってどんどん締めていってしまうんですよ。でも、そんなことをするために私はこれを訳してるんじゃないから。私はこうならないためにも､私は結構お買い物好きなんですけど､｢買い物なんかしないで地震の災害者へ寄付しなさい。｣とか言われると､どんどん小さくなってしますんですよ。経済活動も小さくなっていきます。楽しみも減っていきます。そうしたら、幸せじゃなくなるんです。幸せじゃなくなったら、人は幸せを振り撒けない。だから全部こんなのでどうでしょうか？いかがなものでしょうか？私はこう思います｡というようなLet’sにしたのが実は原因だったんです。ちょっと余談になりますが､このLet’sの出し方がこれからの情報の出し方の大きな違いです。

ビジネスの世界におられる方がたくさんおられますけど、これからもし大切な情報を流したいと思ったなら、上から下への流し方だと、特に若い方からは受け入れられなくなってくるでしょう。それはルールが変わったからです。20世紀と21世紀は。20世紀はわかった人がわからない人に教えるトップダウンでした。21世紀は変わりました。知っている人が分かち合う時代で、分かち合いというのは上下がないんです。分かち合いは横に広がる。上から諭したりするときはトップダウンです｡分かち合うと喜びまで電波しますから、その気になる人をたくさん排出することができます。でも「何も言うな。これでいいんだ。」と言う経営者の人がいまだにいます。｢すみません、社長。これはどうしてここに来るんでしょうか？｣｢そんなこと聞かなくていい。｣私は若い頃、会社でそういう質問したら「そんなのまで知らなくていい。ただコピーすればいい。」と言われたことがあるんですね。ああいう教育を受けてきた私たちはどうなるかというと、コピーさえして

いれば無難だ。という人間になっちゃったんです。自分からこのコピー、どうなんですか。という疑問も持たなくなっちゃった。でも時代は変わりました。自分が考えて動く人たちの時代になった時に「言われたからそうします。」という時代ではない。分かち合う。情報は広げる。そしてそういう情報や体験を持っている人と横に繋がる社会が来たと思っています。横に繋がるとおもしろいですよ。誰と繋がったかによって科学反応が変わってくるんです。私は嫌な人とは付き合わなくなってきましたね。仕事以外は。会社の場合はそれが言えません。「私、上司が嫌いだからやめます。」と言っていたらいくつ仕事変わっても間に合わない。仕事の場ではプロフェッショナルである。ということが大切です。好き嫌いを言うよりもプロである。ということが先行します。でもプライベートでは一緒にいてエネルギーが湧く友達と一緒にいよう。と決めたんです。そしたら否定的なことばっかり言っている人、人を裁く態度ですぐ非難する人、それから悲観的なこと、例えば「温暖化でしょう。とか殺人でしょう。」そういう人とはいい距離を保ってあまりお付き合いをしなくなりました。「そんなことしていていいんですか？現実を見なくては。」と言われました。私、辛い現実を見ていても元気が出ない。と思うんですよ。だけど、さっきも言いました、自分をおもてなしして自分を大切にしたら、究極の局面にいても逃げなくなります。考えます。工夫します。自分ひとりでできなかったらコラボレーションしている仲間に連絡をとって「来て。助けて。アドバイスちょうだい。」と、逃げなくなります。だから自分を大切に。一言で言ったらそういうことになりますね。

私は人間を見るときの基本、カウンセラーとしての基本は二つあります。ひとつは「人間は性善説である。」ということ。人間はみんな実はすばらしい愛と調和の光であると言えます。宗教とかではなくて。でも環境があまり芳しくないと、この光の周りにカバーがかかって光が外には見えず、その人がとる行動が調和を欠く行動としてしまうんです。相手をひっぱったり、叩いたり、殴ったり。でも、連続殺人犯の心の中は真っ黒か、というと私はそうじゃない。と思います。光輝く生まれたての赤ちゃんと同じ存在にもかかわらず、経験や体験によってどんどん曇ってきているのかなって。

もう一つの信条は WinWin なんです。一人勝ちの時代は終わっちゃいました。今から私は一番になる。って人は時代遅れです。競争は大切。でも人を倒す競争ではなく、競争は昨日の自分と競争する競争、これは向上心です。だけど、横並びであの人より抜きんでたい。この人は潰してあげる。と言っているから今いろんなところで歪ができているんです。競争は昨日の自分としましょう。「えーっ、一番目指しちゃいけないんですか？」って高校生に言われました。親から相当言われているんですよね。学校でも先生から。「でも 1 番じゃ疲れるでしょ。」って言ったら「はい。」「2 番のこと嫌いでしょ。」「嫌いです。」「あの子が試験のとき風邪ひいて休んでくれたらうれしいと思うでしょ。」「思います。」1 番なんてちっちゃな席を争うから苦しいんですよ。反対に私は「一流を目指せ。」と切り替えました。一流です。一流は席 50 も 100 もありますよ。ここにいらっしゃる方が私は一流。と思ったら全員一流の席に座れるんです。この一流と言う席には、自分に対する誇り。それから前向きさ。そして自分を大切にする要素が含まれているだろう。と思います。「私、一流になりたいんですけど。」と言ってくる人がいました。「へぇ、あなたが一流だとしたらどんな人とお友達になりたい？イメージしてみて。」と言ったら、「一流だと思います。」「でしょ。だからまず、あなたが一流になることよ。」って言ったんです。一流の人が、「仕事に対して生き方に対して凛としたものを持って社会道徳なんていうのは当然のこと。一人勝ちじゃないの。みんなと一緒に自分の特性を生かして生き切りたい。」と言う人が、「どうでもいいです。」なんて言う人とお茶飲むと思います？繋がらないんですよ。生き方って不思議なもので、同じ周波数の人しか繋がれない。これを日本のことわざで「類は友を呼ぶ。」と言いますよね。類じゃなかったら引き合わないんです。だったら「素敵な友達がほしい。」という人だったら、その素敵なと

いう条件を自分にかぶせて、そういう自分になればいいと思います。私も素敵な友達が欲しかった。だから素敵な友達の条件を書き出しました。一番の条件は「自分のことを大切に思っている人。」こういう人と出かけると楽なんですよね。反対に「どうせ、私なんか。一流なんて興味ない。」と言っている人と出かけると大変なんです。「こういうグループでお出かけしますけど、ご一緒しませんか？」って言ったら「えっ、私なんか行ってもいいんですか？」って。私なんかっておっしゃったので、「あっ、やめます。」って言ったんですよ。その人はただ、謙遜しただけだったんですよ。私なんかって、自分はうれしいのに謙遜したんですよ。私はでも、謙遜でさえもここではマイナスだと思います。「私なんか、私なんか…」と言っている間に言霊に取り囲まれますから。あなたが出るところになったら「いいえ、私なんか。」って言ってます。これから地球を良くしようと私は思ってるんです。その時に腕まくりして「行きますよ。」って言っているときに「私なんか。」って言ってる人がいたらお荷物だと思います。でしょ。だから「ありがとう。」と素直に言える人と繋がりたいと思います。それにはどんなお誘いが来ても「やってみたい。行くわ。」という自分でありたい。「えー、私なんか。」私は昔そういう人間だったし、謙虚さが大事って言われてたから履き違えてました。褒められると大抵、ワイパーという行為をしてました。ワイパーというのは、「中野さん、今日のスカーフお似合いね。」「いえいえ、安物。」って言ってましたね。「中野さん、いつもやさしいのね。」「とんでもない、うちじゃ、ひどいの。」とかね。何でかと言うと、そう言わないと許してもらえない風潮が日本にはあったからなんですよ。「そうなの。」って言ったら「まっ。」って。例えばお世辞で「中野さん、そのイヤリングとっても素敵ね。」「わぁ、うれしい。」なんて言おうものなら「やだ。この人、お世辞に乗ってる。」これは日本の文化の中に受け継がれちゃった一部ですよ。ほんとはそういうものじゃない。と思います。だけど、いつの間にか形骸化してしまって、このワイパー。このワイパーで幸せに暮らせるのを自分で止めている人がすごく多いんですね。自分のことを見れない。自分のことを自尊心、大切にする気持ちが出ない。という人は、まずはホスピタリティを自分から、戻って戻って。と思います。反対にそれさえ押えとけば、後は棚ぼた式です。濡れ手に粟です。神風が吹きます。あっ。と気が付いたらツキがまとわりつく人生。そうするとある方が聞きます。「でも、私ばっかりツイちゃっていいんでしょうか？」出そうな質問でしょ。「いいんです。いいんです。」って言います。あなたが徹底的にツイて幸運体質になれば、あなたから溢れたものはこの総社市に、岡山県に広がるでしょ。あなたが半分に切って「結構です。結構です。」って言ってたらどこにそれは回るの。幸せなら絶頂の幸せを体験しましょう。私、小さい頃木登り名人だったんです。一番上にいるときは「気を付けろ。」とか「天狗になっちゃいけないよ。」とか。私も親から聞きました。「有頂天になっていると足元すくわれるぞ。」と。だから有頂天になる自分が怖くて「いえいえ、とんでもありません。試験に受かったのはまぐれです。」とか言ってたの。でもこれって、冷静に考えてみると結構、損してますよ。私は全部いただきます。褒められたら全部「ありがとう。」です。だって自分が気付いてなくても、誰かが見つけてくれたらそれは「ありがとう。」だし、明らかに歯の浮くようなお世辞を言われても「ありがとう。」ですよ。これってね。ちょっと、面白い楽しみがあるんです。お世辞を言ってきている人が「うれしい。ありがとう。」と言った瞬間、うろたえる顔。これを見るのは結構、面白い。愉快ですよ。それでね。「えっ。私、今何か言いましたか？」って顔するんですよ。つまり、日本の中にはいつの間にか作られてしまった習慣があって、それが、いつの間にか刷り込みになって、それがいつの間にかあなたの生き方を狭めていって、人におもてなしをする余裕まで無くなっている。ということです。今日、みなさん、お帰りになるときに３センチくらい背が高くなっているような気がすると思います。だって、自分をおもてなししてるんですもの。みなさん。大切なＶＩＰがお帰りですよ。「そんなこと言っていいんですか？そんなこと言ったら私、天狗になっちゃうんじゃないです

か？」「なりましょうよ。」って。人と比べない限り、有頂天はＯＫです。人と比べるからおかしいんです。それがうぬぼれと自画自賛の違いなんです。うぬぼれというのは人と比べて自慢したり、威圧したり、卑下したりすることがうぬぼれです。自画自賛というのは人を巻き込まないんですよ。自分だけ見ていて、私ＶＩＰ、私素敵って思ってるだけで人に迷惑かけない。それどころか自分のことを大切にしていると、人にどう思われても今晩よく眠りにつけます。変な言い方ですが、私自身、自画自賛の手は抜かないです。これだけたくさんの方にお話を聞いていただくとき自画自賛の手を抜いてしまってら、私がすごいと思われたいがために、講演のあちこちに「私ってすごいでしょ。」っていうサブリミナル効果を入れだしますから。講演される方の講演に興味を持って聞かれるといいですよ。時々サブリミナルがきます。そうすると、講演が終わってお帰りになるときに「あの先生はすごい。比べて私は何をしていたんだろう。いままで目をつむってきてしまった。なんて不甲斐ない。」ってお帰りになる方は、講演者からすると、こちらにサブリミナルが入っているんじゃないかな。って思います。「なんだ、私にもできるってことがわかった。」っていうときには、自画自賛が足りている人。だから今日、私は終わる前から絶賛していますよ。頭の中で。「よかった。」とか言って。「すごい。」って言われます。私は新しい発言をしますと、そのうち慣れてくると、こっちに来ると戻れないんですよ。苦労を背負って、「私は何のために？」とか言ってたのが「えっ。」って言われますよ。

　私は岡山で二か月に一回考え方の講習をしていますが、大阪や東京でもやってるんですね。そこでいらっしゃった方に「これでいいんですか？」って言われるんですが「私、これで 20 年ほどやってますけど、大丈夫だと思います。」少なくても私は幸せ。なぜならば、明日も生きる。とは誰も保障されてないんですよ。ここが基本です。私はホスピスカウンセラーでもありますので、アメリカで末期と宣告された方のお話を聞くボランティアをしていたことがありました。あの方たちは宣告されてますから、いつかは逝くだろう。と割と距離が近い。でも私たちはおいしいもの食べていてそこから大きな地震が起きるかも知れない。だったら、幸せになることに手を抜けないと思いませんか？神様が「トントン、時間切れです。」って言った時に「すみません。もうちょっと待ってください。まだ楽しんでない。」っていう交渉ができるかどうかは私はまだ試してないのでわかりません。この時に「はい。いいですよ。私は十分楽しみました。」という人生を送りたいなら、何かに気づいたら今日行動したい。と思います。それから、どれが正しい、どれが間違っているという生き方はありません。今日はホスピタリティーマインドをお話していますけど、ホスピタリティーマインドなんていうのは余裕がある人がすればいい。なんて言うならそれもあり。なんです。決められた生き方じゃなくて自分なりの生き方をトライする。そしてひとりひとりの自分なりの人生哲学を歩んで生きているならすごいなって思います。ホスピタリティーマインドは公務員にも必要だと思いました。

　私は最後は国際公務員という身分でしたけれども、大きなお仕事をしていたり、公務員のお仕事ですと、どうも権利とか既得権なんかに敏感になりすぎるんですが、やはり人とかかわる仕事はすべてホスピタリティーマインドが必要と思います。それが銀行の窓口であったり、あるいはＮＰＯ法人であっても、どこにいてもお役所でも、あるいはお商売をしていても、ホスピタリティーマインドを振りかけて仕事をした時、あなたは変わります。そしてあなたに指名が来るようになります。「あなたから買いたい。」「あなたにお願いしたい。」「この方に予約したい。」こうなってきたときに人間力がついているという証拠です。誰でもいい、という顔の見えないサービスから、心をこめてあなたがおもてなしをするということによって、お客様にあなたに引力が付いてくる。関わるクライアントさんが私を見てくれる。例えば看護師さんなら患者さんが喜んでくれる。顔の見える仕事をすること。これはとても大切なことだと思います。顔が見えるビジネスですから、逃げられませんよ。責任はきっちり取らなければなりません。ですが、最近、高校生、大学生を見てい

ると､｢自由が欲しい｡｣という人がやたら多いんです。親ががっちがちに固めるからでしょう｡｢自由にさせてほしい。自由、自由｡｣という割にはずーっと不完全燃焼の若者が増えてきました。なぜならば、自由と言って、翼を広げてここで飛んでいるからです。自由には責任という羽が広がらなければ遠くへ飛んで行けない。これを私たち大人は行動をもって教えてあげなければいけない。これを持って子供たちに体験させてあげたいなと思います。責任を取りさえすれば、どんな人生も有りだと思います。責任を取らないからおかしくなってきます。私は覚悟しました。私の人生、いつ終りになるかわからないから､今日の自分に責任を取ろう。その代り人に流されるのではなく自由に発想しよう。とやったら、少なくてもどこでも飛んで行けるんじゃないか？という気がしています。こういうことを言い続けることがとても大切だな。と思えるのは、今の若者がちょっと疲れてきているからです。そして、大人になりたくない｡という若者が増えてきているんです。責任を取りたくない。という子供が増えてきているんです。昨今、大学院へ行きたい。という子供が増えてきているんです。お父様やお母様から相談を受けると「ちょっと、待ってください。応援してください。ただし、お金は出さない。と言ってください｡」って。昨今､大学を出ても就職がピンとこない｡2 年稼ごうか？っていう人もいるんです。だけど、そうじゃなくて志を持って学び、それを社会の役に立つ経済的自立、そしてまわりにそれを広めていこうという子供たちが増えてきたら日本は世界に対していいサンプルを見せることができます。大変だと言われていても、とりあえず頭の上には屋根があり、食べるものがある。という人が大多数です。そういう人が、世界の環境を良くすることに立ち上がらないと、他の国は待っています。食べるものも食べないで。他の国は待っています。お金しか信じるものがなくなったら。他の国は待っています。力のある人しかいい思いができない国だったならば。日本はいろんな意味でリベラルでいろんな考えができるし、実行に移すことも工夫ができます。一人でできなければコラボレーションすればいいんです。一流の人と繋がりましょうよ。そうしたら、日本は動かせる。とつくづく思います。

参考資料2

第７回晴れの国鬼ノ城シンポジウム
「食卓を守るー食の安全と安心ー」要旨

■挨拶　　　学長　三宮 信夫

本日はようこそ岡山県立大学にお越し戴きました。心より歓迎申し上げます。また新山陽子先生、広田大介先生､佐藤 久子先生にはお忙しいところお越しくださり感謝しております。

本学は人間尊重と福祉の理念を掲げて平成五年に開学いたしました。そして法人化をきっかけに、さらに地域に開かれた大学として益々の地域貢献活動に努めているところです。

地域貢献は、今日のシンポジウムを担当している保健福祉推進センターが担っています。保健福祉推進センターでは、本日のシンポジウムのほかに、保健福祉分野の第一線で活躍しておられる専門家の方のレベルアップのため、あるいは地域の保健福祉の増進のために８つの研究会を設けて活動しているほか、講演や実技指導、１日保健福祉センターなどの事業も行っています。

さて、本日のシンポジウムのテーマは「食卓を守るー食の安全と安心ー」です。現在、非常に問題となっておりますテーマを皆さんと一緒に考えていきたいと思います。我が国の食糧自給率はカロリーベースで４０％と、大きく輸入に依存しています。国としては最も基本的な施策であるべき食糧のことを長年、半分以上を外国に頼ってきたということが今更ながら間違っていたのではないかと思える部分もあります。最近問題となっている毒入り餃子やうなぎの産地偽装、事故米の食用米としての流通など、食の安全に対する信頼を根本から揺るがす事件がありますが、根本的な問題は食の安全供給（自給率など)もあるだろう。今回のシンポジウムではいろいろな観点から食の安全・安心について切り込んでいきたいと思います。

私たちは１日に３度食事をしているわけですが、他の国に安全や安心を任せきりにしているのではないでしょうか。特に気をつけなくても消費者は充分に大丈夫なもの、美味しくいただける、という考えがあったがそれを捨てなければならない。消費者が食の安全に対し、自らが正しい知識をもって正しい判断をすることが必要ではないでしょうか。そして消費者ではどうしようもない問題に関しては改革の声を上げることが必要ではないでしょうか。どうか皆様が知識と理解を深めていただき本日は安心してお帰りいただければ幸いです。皆さんにとりまして良い時間になりますことを祈念いたしまして私の開会のご挨拶とさせていただきます。

■基調講演１　　　　　　座長　栄養学科教授　辻　英明
「食品安全と消費者のリスク知覚」
講師　京都大学農学研究科 教授　新山 陽子氏

□先進国で食品事件が続発する状態とその背景について

日本で９０年代半ばから起こっている大きな事件をあげると、O-157、雪印の黄色ブドウ球菌事件、BSE、表示偽装、薬物混入による食中毒などたくさんあります。現在は大量消費、大量流通の時代なので、事件が

起こると非常に広がりが大きく程度も大きくなるのです。いろいろな問題が起こっていますが、日常的に大事なのは食品の安全性確保ということになります。そして安全性の確保ができない食品を市場に出さないということが大切になります。しかし、そういうしくみをつくっていても不適切なものが出回ることがありますので、回収というしくみをつくっておくことが必要です。間違いが起こることがあるので、撤去回収ということが必要になります。頻繁に表示偽装が報道されていますが、イコール（＝）食品安全が脅かされているといえるかどうか、このことについて考えてみたいと思います。たとえば食品の表示偽装の問題ですが、原産地（どこでとれたか)、材料（牛肉か豚肉か)、賞味期限の偽装がありましたが、これは食品の安全には直接に関係しません。もちろんあってはならないことですが、岡山でとれてもほかの場所で取れても、牛肉であっても豚肉であっても健康に悪影響が及ぶわけではないのです。食品表示においては、直接安全性にかかわるものばかりではないということを頭に入れておいてほしいと思います。ただしアレルギー物質の表示、これは表示ミスがあり間違って食すと場合によっては命に危険があるので大変です。このように、危険の度合いにおいて事前に区分けをしておくことが必要となります。

食品の安全確保はどのように行われているのでしょうか。アメリカでも 90 年代にO-１５７による大規模食中毒が起こり、炭素菌入りの手紙でバイオテロへの危険がいわれました。ヨーロッパではＢＳＥ、ダイオキシン入りの餌などが問題になりました。微生物制御による問題や化学物質汚染がこれまでになく広域化してきています。ＢＳＥも制御に長時間を要しました。これまでにない状況に対して対応も変化が必要になってきています。バイオハザードの考え方です。

かつては食品に含まれる危害因子をゼロにできると考えて対策がとられていましたが、大規模な食品事故の経験から危害因子は完全に排除できないと認識されるようになりました。たとえば、微生物は人間や家畜の体表や口腔、腸内に、また、環境中に常在しています。予測できない危害因子として突然変異や変異型プリオンの問題があります。そしてヒューマンエラー（人間が犯すミス）の問題もあります。

ところで、危害を及ぼすかどうかは程度によります（量と作用の関係)。多くの因子で危害と利益はメダルの裏表の関係にあります。農薬も適度に使えば収益があがるのですが、使いすぎると健康に危害を及ぼします。危害因子は「ある」、か「なし」、ではなく健康に与える悪影響がどの程度であるかが問題であり、将来の発生可能性に備えることが大切であると考えられるようになりました。

新しい食品の安全性確保とは。ひとつは国が行うこととしてリスクアナリシスがあります。これは科学的データにもとづいてリスクアナリシス（リスク管理）をする方法です。生産流通現場ではＨＡＣＣＰなど特定危害因子の集中的な管理などが行われています。ＥＵではＨＡＣＣＰ、農場ではＧＡＰなどが義務化されていますが、日本はそうではなく進んでいるとはいえない状況です。

Ｒｉｓｋ（リスク）とは、食品中に危害因子が存在することによって、健康への悪影響が発生する「確率」と「重篤度」（Ｃｏｄｅｘ定義）をいいます。これは重要なので覚えておいて欲しいと思います。

危害因子（hazard）とは：健康に悪影響を引き起こす可能性を持った食物のなかの生物的、化学的、物理的、物理的な作用を引き起こす物、食物の状態をいいます。しかし危害因子はゼロにはできません。ではどこを目指すかというのがリスク管理という考え方になります。リスク管理では社会的に許容できるレベルまで落とすというのがﾎﾟｲﾝﾄです。何もしない状態だったらリスクはどれくらいあるのか、許容できるレベルとは？そうして考えて、どれくらいというレベルを決めます。国際的には Codex 委員会で提唱され、日本では１０年遅れて導入されました。

・リスクアセスメントとリスクマネジメント、そしてリスクコミュニケーション

リスクアセスメントは自然科学者が行い、リスクが

どれくらいあるかということを判定します。日本では食品安全委員会が担当しています。リスクマネジメントは厚生労働省、農林水産省が担当し、政策規制の立案と実行をおこないます。マネジメントとアセスメントの間のやりとりが「リスクコミュニケーション」です。

消費者は非常に農薬や食品添加物に過敏です。実際に食中毒がどういう影響で起こっているのか、食品由来の悪影響は全て食中毒などが多く、化学物質が原因で食中毒が起こる確率はほとんどない状況です。自然毒（キノコ・ふぐのキモなど）で死亡する人が多いのです（死亡者多い)。一方、細菌性の原因での死亡者、O-157の死亡者が４人を越えているのは大きな問題です。消費者が考えていることと実際に起こっている事件が違っているのです。

農産物中の残留農薬検査５３万件のうち農薬検出は２６７６件で､率は非常に低いものです｡汚染には｢意図する汚染」と「意図しない汚染」があります。意図する汚染については使用時点で使用方法を制御することによりリスクを許容限度に制御することが可能です。しかし意図しない汚染については細菌の増加などがありますが、それぞれのフードチェーンのレベルで予防しなくてはならないものです。

１日摂取許容量（ADI）とは、人間が生涯食べ続けても摂取による傷害が起こらない量をいいます。微生物学的アセスメントは、農場からフォークまでの各段階で評価する必要があるものです。

たとえば、どの農家から出荷された原材料がどの種類の製品に使われているのかがわからなければ正しい食品の回収はできません。これはトレーサビリティという考え方で行われるようになってきています。

安全が確保されているにもかかわらず、人間では認知でバイヤスがかかります。消費者の感じ方が安心といわれるものなのです。私たちがいう安全と消費者の感じ方がズレることがあります。

リスクコミュニケーションが重要といいました。情報を共有するということです。情報を持っている行政から民へ、正しい認識を説得する、そのためには選び抜かれた情報を提供するということを行ってきました。しかし説得が無理だということがわかってきました。選択した情報ではなく全ての情報を公開することや、それらの情報を共有し一方的な説得ではなく双方向に対話などを行うことが重要と考えられるようになってきています。

では、実際にどのようにズレが生じるかということですが、消費者が感じるリスクの度合いは高く、食品企業の担当者が感じるリスクの度合いは低いという調査結果があります。BSE、農薬、ダイオキシン、抗生物質などにズレがあります。これらは消費者のほうがリスクの感じ方が高いのです。タバコは逆に食品企業の担当者のほうが高いが消費者は低いという結果です。人間が物事を認識する時にコンピュータのように頭のなかで情報処理しています。その時のプロセスに制約があるとズレがあるのです。専門家の分析は事実に近く、健康への影響を客観的に分析しているわけです。消費者は直感的なものであり、両者の認識は簡単には一致しません。

ひとつには情報の与えられ方があります。自分のポジションによってちがいます。例えば今１万円を持っていると、それを基準に行動します。次にその１万円を失うか、さらに１万円を得るかで１万円の感じ方が随分違うのです。失われる時のほうがショックを大きく感じるといいます。リスクを回避する時には確実なものを選ぶのですが、リスクを被るかもというのは確実さではなく可能性にかける面があります（ギャンブルと似ています)。恐ろしさと未知性については、リスクを大きく感じるといわれます。制御ができない、世界規模、破滅的、受動的、結果が死に至る、科学的に解明されていない、などが恐ろしい・未知性というイメージになります。

BSE 発生のときに、人間がクロイツフェルトヤコブにかかる確率は非常に低いということを政府がいいました。タバコより低い、自動車事故より低いと言ったときに消費者からブーイングがあったことがあります。これは消費者の認知とずれているためです。BSE は、確率は低いがもし感染すると若い人は数ヶ月で死んで

しまうと報道されました。さらに受動性があり肉がプリオンで汚染されていると避けることができないし、科学的に解明されていない、という点で非常に消費者には恐ろしいと感じられるためでした。一方、タバコは自分が吸わなければ大丈夫、自動車事故も乗らなければ避けられるし気をつけて運転することができるので、そんなに恐ろしく感じられないわけです。しかしBSEは違うというのです。

食品のリスク認知の特徴についてお話します。日本、韓国、ベトナム、アメリカで調べてみました。その結果を、食品のリスクの知覚に与える要因について整理してみました。自然由来であればリスクを低く感じる、科学的なものであれば高く感じるのですが、天然由来の自然毒はリスクを低く感じるが死亡者は実は結構いるのです。重篤な症状が現れる、病気の原因となるという場合もリスクを高く感じます。重篤度が高いと消費者はリスクを高く感じるわけですが、確率を認識していないわけです。確率は低いけれども重い症状があるものをリスクが高いと感じ、食中毒などは、確率は高いのにリスクは低いと感じてしまうわけです。

報道情報を受けるとリスクを高く感じてしまいますし、政府などに対する信頼が高いとリスクを低く感じます。日本は政府への信頼が低く、韓国とアメリカは信頼が高かったので、その違いも出ました。また人によっても認知に差があるということもわかっています。３つのグループがあることがわかっています。残留農薬はどのパターンの人でもリスクを高く感じています。どの国のどのパターンの人でも科学的なものに対してはリスクを高く感じているのが特徴的でした。

私たちが感じるところと、消費者の考え方にはギャップがあります。ほとんど事故が起こらないにもかかわらずリスクを高く感じていると、それを起こらないようにしてほしいと政府に対策を求めることになります。充分に対策がとられているのに、そこに不必要な対策（とお金）を投じてしまうことになり、そして必要性の高い細菌性の食中毒に対する対策ができなくなってしまうのです。しかし、わかっていてもそれは修正しにくいものです。

話が変わり、食品を買う時の情報ですが、食品を買うときに消費者から詳しい状況を知りたいという要求が出たとします。食品に農薬の使用履歴を書いて欲しいといわれたりしますが、実際に消費者は何時間もかけて買い物しているわけではないのです。食品購買時の情報過多は消費者の選択を妨げてしまうのです。食品に対する表示は消費者の行動のしくみに適合した情報の与え方を吟味しなければ、消費者もそのことをわかって行動しなければ、無駄なお金をかけて無駄な情報を要求することになってしまいます。

私たちの実験では、６つくらいの情報数でもっとも安定しており、それ以上に情報が多いと選択が混乱してしまうということがわかっています。私たちの脳が一度に処理できる情報は７±２くらいといわれていますが、それにあっているのではないでしょうか。

（最後に話のアウトラインをまとめて終了）

■基調講演２　　　座長　栄養学科　教授　渕上倫子

「食の安全と農産ブランドの管理」

生活協同組合コープこうべ商品開発室フードプラン統括　　広田 大介

生協というと１月２月３月にわたりご迷惑をおかけした餃子問題を惹き起こしている当事者です。この問題は奥が深く弱点をつかれたということや、中国と日本の力関係などにも関与しているのではないかと考えています。食品業界としては、教訓をもとにどのような手を打つかについて検討準備に入っているところです。早急に事態を立て直すかということに着手をしています。

食の世界の基本は、農産、水産、畜産であると思います。兵庫県では生協は１２０万人の組合員さんにご利用いただいています。いろいろなスーパーも自社ブランドをお持ちで包材にいろいろな情報を示されるようになった。生協には「農薬を使わずに作れないか」という問合せもありますが、農薬はかなりの歴史とリスクアナリシスによって、思っていただいている以上に安全であるとお話しています。環境中への化学物質放出を少なくする、ということについては、環境保全の立場からよくわかる理屈かとは思っています。生鮮ブランドは有機栽培の場合など約１割値段が高いのですが、これは仕方がないのです。このにんじんは誰がどこで作っているの、という問合せが多くなってきたのが昨今の状況です。子どもたちに安心できるものを食べさせたいというお母さんたちの熱意から産直運動が始まったのかなと考えています。

組合員さんの意識や食の移り変わりなどの変化についてお話しましょう。小さいころ家族揃って夕食をとったかという質問に対して、年輩者は家族揃って食べていたが、若い世代ではばらばらで食べている人がふえて、家族の様子に変化がみられます。調理技術は母親から教わるのがトップだったが、今は書籍がトップであります。身につけたきっかけも、１人暮らしや結婚などの人生のエポックでもないかぎり覚える機会は少ないということが明らかになっています。毎日調理することに苦痛を感じるのは５０％、後片付けに負担を感じるのは６０％います。しかし安全なものへのこだわりはあります。イギリスでは食事の準備時間が経年的に短くなり、２０１０年には８分という予測が出ているくらいです。圧倒的に加工食品や冷蔵・冷凍の進化や普及が影響しています。食事の楽しみが家族でなく個々に分解されてきました。

日本では構造的な問題として、廃棄の問題があります。食品の廃棄は５０％を超えゆがんだ状況になっています。都市人口は右肩上がりであるが、世帯内の人数は下がってきて３人を切っている。神戸市の灘区では、２人である。こういうデータは商品製作に影響を及ぼします。メークインを５００ｇ以上の袋で売っても売れなくなるのです。大袋で売ると芽が出て生ゴミになってしまうので、２〜３個売りまたはばら売りという売り場づくりにならざるを得ない状況となっています。暮らしていく生活者に求められるスキルが変化しています。素材を調理するスキル、素材を使いまわしするスキル、素材別に適切に保存するスキル、子ども、オトナ、家族別に作り分けスキル、旬をかぎとる、おすそわけをする、いろいろなスキルが失われていっています。

生活者の心理として、10%以上の価格差は理解していただけないのです。食品安全や清浄な食品への関心が高いが日本では売れないのです。簡便な食生活はどうしても必要。安全な食べものに関心があり割り増し価格を払う意思はある、都市の生活スタイルのため農業の現場に対してなじみが薄い、ペットへの関心が招く集約的農業への反感、過度な肥満に対する心配（肉より野菜)、などが生活者への心理です。

人口爆発、中国やインドでの人口増が著しくなっており、世界人口は 67 億人、2040 年までには 100 億人を越えると言われているうえ、耕作可能地はどんどん減少しています。農薬使用量は世界的に増えています。肥料も同じである。耕作適地でないところに農薬と肥料をどんどん投入しているのではないかと思われます。日本では農業を担う人は高齢化し、耕作地の放棄などが起こっています。75 歳以上が人口の１０％以上となったと報道していますが、農業で生計をたてている家庭において 65 歳以上人口は６０％ともいわれています。

食糧自給率について。新規の耕作地が増えないかぎり、５０や６０％にはならないし、380 万ヘクタールを倍にしたところで自給率は８０％にしかならないのです。農家収入は低いので若い人が働きたがらないという現状があります。あと 40 年、50 年と海外の方々に作っていただけるだけの日本の経済力が維持できるのかという心配もあります。米を食べないから自給率が減っているというだけでなく、肉や油を多く食べるようになったことも自給率低下に影響しているのです。但馬牛のすき焼きを食べても飼料が海外依存している

限り国内産にはカウントされず自給率は上がらないのです。自給率にはカロリーベース、金額ベース、穀物ベースがあり、それぞれ意味が違います。

北海道富良野のじゃがいも畑の写真。これは自然の状態ではありません。なぜかといいますとひとつの畑を同じ植生で広がっている自然はあり得ないのです。有機質の堆肥を大量に投入して換金できるじゃがいもを育てているのです。病害虫も制御しますから、まさに農業は非自然であるのです。

ビニールハウスのしょうが畑の写真。4 ミリメッシュの高価なハウスの中で育てなければ無農薬ではしょうがを育てることはできません。

6 月 22 日に雹が降ったことがあります（写真)。雹は帯状に降らしていくので、ぼろぼろになった畑とそうでない畑に道ひとつで分かれます。年に一度しかできないたまねぎ単作の畑が 1 度の雹でぼろぼろになってしまうのです。

国際適用規範 Codex があります。ルールを監督している委員会があり、食品衛生の一般原則（世界の品質規範）が集合しています。国際的にはこのルールで作られたものであれば輸出入できるという規範です。代表的な国際標準規範（ISO９００１,ISO14001、SA8000、HACCP）にはいろいろありますが、農業にも国際優良規範を持ち込もうとしています。

マネジメントシステムでは、１．リスク危害の特定をし（委員会の皆さんが例を出す)、２．管理目標を設定し（どこまでいつまでにリスクを減らすのかを決定する)、３．リスクを管理し、４．その管理が有効に機能していることを確認する、という APDS サイクルで行っています。

また、GAP というのがあります。Good agriculture practice の略です。EU のグローバル GAP を紹介しましょう。小売のグループで使い、HACCP を原則とします。グローバル GAP のメンバーに日本では生協などが入っています。供給者リストは９万軒の生産農家さんと契約しています。いろんな基準がありますが、全農場基準（お茶も果物も牛も・・・）をまず達成する、そして細かな作物別の基準があります。２３６項目でひとつの作物の合格が生まれるのである。認証がとれないとヨーロッパには輸出できないのです。青森県の片山りんご園さんが EU の GAP をとられた第 1 号でした。

生産現場の写真をみていただきましょう。不適合事例の一例です。この写真のどこが不適合でしょうか。カッターナイフは絶対禁止だがテーブルの上にありますね。折れ刃の一部が食品に混入すれば大変なことになります。不適合事例の 2 番目、たまねぎ畑の中にタバコの吸殻がある。これは絶対禁止です。タールがしみこむのはむろんですが、そういう観念で仕事をしている姿勢も問題です。整理整頓ができていない農薬倉庫の写真。にんじんにとまったハエの写真。蛾の卵がごぼうについていて組合員の冷蔵庫の中で孵ったという事例もあります。木の棒が突き刺さったじゃがいも、なめくじが人参の袋の中に入っていた事例もあります。ねじ、コバエの混入、サトイモの箱なかにナイフ（ナタ）が混じっていたというものです。定位置管理ができていないのです。ナタをいれていたバケツとサトイモを入れていたバケツが近く，たまたまイモのほうにナタが入ってしまったのです。以上は消費者に届くまでに私どものところで見つけたものも多くあります。HACCP や GAP などで管理のレベルを上げていかないといけないのが現実です。

排水処理も大事です。大雨がハウスの中に入ってきたら作物が菌に感染してしまいます。ハウスの中ではスリッパ、農薬を少なくするために防虫灯をつける、1 匹 500 円の蜂を使って交配しホルモン剤を使わないようにする、など農家では大変な努力をしておられます。

従来は入口管理と出口管理の２つで管理するのが基本でしたが、これでは事故はなくなりませんでした。事故は真ん中のプロセスで起こるのです。点検･是正、実行、評価をきちんとしなくてはなりません。まず、危害分析でリスクを特定しリスクを抽出します。原料受入から出庫まで危害を抽出します。軽重をつけるための重篤度の評価をします。ヤバイから軽微なものまで「作業頻度×重篤度＝評点」をつけて評価します。

次に、誰がいつまでに何をどのようにするかという計画を作ります。次に内部監査から代表者検証をしていただくということになります。

昔、友禅の職人が師匠の娘を嫁にもらおうとあいさつにいったところ、この師匠は「言葉はいらねぇ、お前の仕事を見せろ」と言われた、という江戸の小話があります。挙証（Accountability）ができる名人芸はないものか、イメージ写真や簡単な説明では組合員さんは満足できない状況です。電話で即座に対応できる能力が求められています。作り手との連帯、志の Mktg を考えたいと思います。すなわち、「他者への配慮」、商売は他者への贈り物、世界への想像力×こころざしです。

私の造語ですが、「匠」の見える化（＝一例：HACCP CCP）であり、

「絶えざる精進」(＝マネジメントシステムの継続的改善）を心掛けていきたいと思います。

私はこれまでも、これからも、農家の方の努力、私たちの考え方を伝えていきたいと思います。

■パネルディスカッション

司会　岡山県立大学教授　岸本 妙子

パネリスト　京都大学教授　新山 陽子

コープこうべ商品開発室　広田 大介

岡山県消費生活問題研究協議会会長　佐藤 久子

●質疑応答

１．新山陽子先生への質問とその答え

・日本はアメリカや韓国と比べて消費者の国への信頼度が低いのはなぜか

韓国が BSE の騒ぎのあと少し国への信頼が揺らいだのではないかと思う。調査は BSE 問題より前に行われたものであった。（日本は BSE などの問題のあとでの調査であった）

・消費者と専門家の知覚のズレ。消費者はメディアの報道に対して過剰反応しているのか？

実際そのとおりだと思う。社会心理学では情報に対する人間の反応に関する報告がたくさんあるが、情報量が増えるだけで不安が起こるということもわかっている。情報過多を抑えないといけないといいながら、それができない、解決が難しいと考えています。

２．広田大介先生への質問とその答え

・虫にも対処しているということで驚いた。虫がはいっているほうが安全なのでは？

HACCP 的に申しますと、虫や髪の毛は健康被害がないと判断される。Safety quality
から見ると商品として適さない。

・他者への配慮とは？

海外や遠くにいらっしゃる生産者、遠いところで見えない苦労をされている方々への想像力を発揮して買い支えていただきたいという思いがある。

・「品数のスキル」に関する意見。同じものを食べるほうが家庭らしくて良いのではないか？

昔は品数は少なくお父さんが一品多かった。大根のどの部位がどの料理に適しているかということも考えながら料理した。何でも沢山作るという意味ではなく、そういった意味で述べたものである。

３．佐藤久子氏からのコメント・質問

１０月２日(木)に、テレビで景気が悪いこと、生活の中で削るものはという話が出てきたときに「外食」がトップ、絶対に削れないものは「教育費」という回答例が報道されていました。これは良い傾向かもしれません。朝昼夕３食作る人が増えるのではないでしょうか。食品を買っている消費者としての願いなどを最初にお話させていただきたいと思います。安全な食品への欲求というのは消費者としては当然あります。テレビで歩けなくなった牛の映像を見てから、安ければよいという消費者の意識はどんどん変わってきたのではないかと思います。事故米の販売など、考えられないようなことが次々に起きています。販売する側に問題があるのはもちろんですが、私達消費者に問題はないでしょうか。スーパーでにんにくを買っていらっしゃる方がいらっしゃいましたが、５つで１００円、１つで３００円という選択があり、３００円のものを買っていらっしゃいました。曲がったきゅうりとまっすぐなきゅうりがありますが、時間を料理にかけるのが嫌いな方はまっすぐなものを箱から出して選んでおられます。一番奥の牛乳を出してくる人、天然なのにうなぎにアブラがのりすぎていませんかなどという苦情、消費者自身にも行動に問題はないでしょうか。消費者の行動が生産者の生活を維持するのです。高品質は手間ひまがかかっております。しかし、それを見越して高価格をつけられるということもなきにしもあらず、ですので、そのあたりもよく考えなくてはならないのではと思います。私たちは「賢い消費者」を目指しています。単に知識があるという事をさすのではなく、確かな知識に基づいて冷静に行動するということを賢いという意味に使っています。

続けて新山先生にひとつお伺いしたいのですが、直近の例で事故米の事件がありましたが食品衛生法が定める基準値の２倍の有機リン系の農薬が検出されたとき「基準を超えてはいるが、この米を一生食べ続けても健康には影響がない」と京都の衛生の主管課がいいました。では基準値というのは一体何なのでしょうか。基準値を２倍も超えれば健康になんらかの影響が然るべきではないかと感じるのです。このことについて新山先生にアドバイスをいただきたいと思います。

新山：いろいろ重要な点をご指摘いただきありがとうございます。スライドの中で１日許容摂取量 ADI について説明しましたが、ADI を定める時に安全係数をかけていますが１００をかけるのが普通です。人々の個人的な属性の違いには幅がありますので、より安全なように１００倍かけているので、基準値の２倍であればまず大丈夫です。しかし、説明が非常に足りない、ということ、コミュニケーションの仕方が不十分だということを感じます。このようなことを予備知識として持っていてあなたたちで理解しなさいというのは無理です。詳しく正しくきちんと説明してもらうことが必要ではないかと思います。

岸本：説明責任ということですね。先ほどの佐藤先生のお話で価格の話（にんにくの価格が１５倍）も出ました。広田先生が有機栽培は１０％高いとおっしゃっていましたが、ブランド化などによる影響なのでしょうか。必要以上に高い価格がついているということもあるかもしれません。広田先生からコメントいただけましたらと思います。

広田：商いの立場ですから第三者的に物が言えないのですが、組合員さんから「生協は高い」という声を頂戴します。フードプランは特に高いと言われます。「低価格」へのチャレンジというのも仕事のミッションでした。いたずらに生産者を買い叩くことは長続きしないので、価格差をつけることになりました。生鮮ブランドのシェアは１２%を占めています。高ければよいのかという話ではなく、説明の行き届いていないことが組合員さんの理解

を妨げている、サポートできていないかもしれない、という反省はあります。６００坪のスーパーでの滞留時間は僅か１５分です。この中でいかに情報を効率よく伝えるかということを考えていきたい。

新山：価格は食品安全性の面からも気になっています。価格の話だけをすることも最近あります。私は付加価値がついた商品が安全で、そうでないものは安全でないというのは望ましいことではないと考えています。そういう状況では、生活者のなかでも「弱者」は安全なものを買えないということになってしまいます。それはいいことではありません。また、私は今の食品の価格は適正なものばかりとはいえないと思っています。いい例が牛乳と卵です。大手スーパーで、集客のために買い叩きすぎている面があります。生産者から見ると1リットル２２０円～２３０円で売らないとやっていけないのです。安すぎると、手間を省きます。コストを下げるということはどこかで安全性を切り捨てていることになります。日々の生活は大変だ切り詰めなくてはいけないという人がいらっしゃいますが、同じ大学の名誉教授の先生が「食べられるもので捨てている家庭ごみ」は１１兆円分になる、と推定されています。これを聞いて本当にびっくりしました。生産量と同じだけの価値を私たちは捨てているのです。そちらを節約できれば、今よりも2倍の価格を払うことができます。そうすれば農家の方たちはもっと生産しやすくなるわけです。農家の方が生産を続けられる価格で私たちが買わなくてはいけない、そしてそれは捨てる量をへらせば実現は可能かもしれないというわけです。

佐藤：（安いほうが良いのだが、安全性はあるほうがいい、たくさん棄てているという消費者の行動をどう思いますか、という問いかけに対して）

消費者は、新鮮で安全なものを求めているわけですが、生産者の方の思いとはギャップがあります。消費者は興味すら持っていない人が多いと思います。興味を持つ、知ることが消費行動を変えるんだよということを私たちは言ってきました。しかし生産現場と消費現場が乖離してきています。現在では乖離して生産技術が向上しているので旬の感覚もなくなってきています。出荷前の形すら知らない人が増えています。木になるのか畑でできているのか、葉ものなのか根菜なのかも知らないのです。私たちは生産者の人との交流を行っていかなければギャップは埋まらないと考えています。BSE の問題でトレーサビリティが始まったときに、生産者は管理、トレーサ、機械の使用、いろいろなことを考えているとお金がかかる、消費者はこれ以上私達生産者に何をしろというのだといわれたことがあります。広田先生がおっしゃった生鮮ブランドの構築は興味深いと感じました。生産者と消費者の相互理解を進めていくことが必要だと思います。

岸本：今の佐藤さんのお話のなかで、食べものに関心がない、お金を食べものに使うということにどのくらい意味を持つかということは世界でも大分意見が違うのではないかと思います。非常に若い人は１０%高くても困るとか、見分けるしくみとかに関してもいろいろご意見があるかもしれません。時間がおしてはいますが、私の意見を言いたい、という人はいらっしゃるでしょうか？会場のほうから何か意見はありますか？授業のなかで「携帯電話の料金は払うが食品の高いものにお金を払うのはちょっと」という学生の声を聞いたことがありますが･･･。家庭ごみの中に私たちが手つかずの食品がものすごくたくさん出てきた、という調査、でも高いものは買いたくない、ということについて。

会場から（男性）：新山先生の価格の話について。価格は誰が決めているのでしょうか？安心・安全な食べものを安い価格で生産者が納得して値段をつけているとは思えない。スーパーやマーケットがこうしなさいという

ので仕方なくということが起きているということがあるのではないでしょうか。安いもの、ひいては外国に頼りすぎた結果が今の状況だと思います。加工業者も悪いけど消費者も悪い、と北海道の業者がぽろっと言った言葉が気になっています。そのへんの考えをお聴かせいただければと思います。

新山：価格は誰が決めているのか、ということは品目によって違います。スーパーマーケットの店舗ではスーパーが決めていると思いますが、生産者の手取りがどのように決めているかはわかりません。卵や牛乳はスーパーがこれくらいにしてくださいといえば、そうしなければならない。牛肉に関していえば、枝肉の段階で一度値段を決める、ここでは生産者と卸売り業者がお互いに話し合って値段を決めるので、小売の一方的な要求では決まらないしくみになっています。私たちも品目別にきちんと調べて価格についても研究したいと考えています。価格の適正さ、について。あまり安く売られていると不安になるという消費者の行動も生まれてきており、安全なものにはそれなりに手間がかかっているこんなに安いはずはないおかしい、と言う意識が育ってきていることを消費者がわかるようになってきています。

広田：日本の食生活で食中毒発生数は相当高いが、売られているもので口に入れて被害がただちに起こるという確率は非常に近い。日本は世界のなかでも安全レベルがとても高く基本的な安全は確保されています。ごはんに生卵をかけて食べる民族は日本だけです。どのスーパーでも農産物は入り口にありますが、どうしてかご存知ですか？農産物の新鮮な色をスーパーの入り口に置くことによって、スーパーの格を示しているのです。しかし、鮮度を判断して、素材を調理する、というのは現在の人にはわずらわしいことになってきています。ですから、加工食品や調理ずみの食品にまっすぐに行ってしまう人が多いのです。お魚屋さんの収入源は半分は刺身で、あとは焼き魚です。丸ごとの魚は展示品のようなものです。肉屋さんはお肉でなくパックを売っているのです。食生活と売り場はリンクしています。振り返ってみて自分の食卓の変化が売り場に映されているのです。でも価格で評価されないお店はブランドだと胸をはっても生き残れないのが流通の現場の原則です。生産者の皆さんは産地の苦労をわかってほしい、そのメディアの発信地としての店舗、という風に考えていきたいと思っています。

岸本：食品の安全も考えつつ買い支える、などいろいろなことを学ばせていただきました。皆様が食の安全・安心を確かなものにするための行動を起こしていただくためのご参考になればと思います。

■閉会あいさつ

保健福祉推進センター長　保健福祉学部教授　香川幸次郎

　食の安全と安心に関する新しい見方を教えていただいたと思っております。明日の食卓を守るうえで多くの示唆を得られましたことと思います。時機を得たテーマで毎年開催しておりますので、来年度も多くの方の参加をお願いいたします。以上をもちまして閉会の挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

編集後記

今年度で第 4 巻となる岡山県立大学の「社会貢献年報 2008」を出版することができました。執筆された先生方および各組織の担当者には、厚くお礼申し上げます。

本学は平成 19 年 4 月より地方独立行政法人制度を導入し、丸 2 年が経過しました。その間に、各教員さらには各組織において時代の変化と社会のニーズを受け止め、それを教育・研究活動に具体的に反映させた上で，その成果を地域貢献に生かす体制が出来上がりました。

本学の地域貢献活動の特色としては、地域共同研究機構の存在が挙げられます。その内部には産学官連携推進センター、保健福祉推進センターおよびメディアコミュニケーション推進センターがありますが、各センターは学外に向けた窓口となり、教員のシーズと社会のニーズのマッチングに尽力しています。この体制は、共同研究や委託研究の増加という成果に繋がっています。さらに、産学官連携推進センターにおける特筆すべき取り組みとして、「領域・研究プロジェクト」が挙げられます。本プロジェクトでは、学部を越えた横断的な研究活動を地域社会の方々と一体となって推進する体制を整え、本学の研究シーズを社会に PR するとともに、成果を社会に還元することを目的にしております。次年度は、本プロジェクトのさらなる拡大・発展が期待できます。他にも、アクティブキャンパスやアクティブ・ラボといった本学発信型の積極的な社会貢献も行われています。

また、本学の研究成果を広く社会に発信する企画として、「OPU フォーラム 2008」を平成 20 年 5 月 29 日（開学記念日）に開催しました。OPU フォーラムは今回で 4 回目となり、ようやく市民権を得たように思います．今回も盛況であり、社会貢献にますます力を入れる本学の姿勢を広く PR できたのではないかと思います。

上に述べた活動の他に、附属図書館、語学センター、高大連携や国際交流活動の拡大も目指しています。また、昨年 2 月 20 日に包括協定を結んだ総社市と進めている社会貢献・教育・研究活動も双方にとって有益な成果が出始めています。

地域に貢献する大学として、社会貢献活動をますます強化していきたいと考えます。今後とも本学の社会貢献活動にご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

社会貢献年報部会
奥野　忠秀